
マリオ&ルイージRPG4

ペーパークラフトマリオ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

マリオ&ルイージRPG4

【Nコード】

N2520I

【作者名】

ペーパークラフトマリオ

【あらすじ】

時の国が襲われ、時間の流れが滅茶苦茶になってしまった世界を戻すため、マリオとルイージ、ワリオとワルイージ達がそれぞれ別の世界で大冒険します

ブローグ

さて今日は・・・時間のお話をしましょう

時間は一定の速度で動いており、世界中を見守っています

時の国の時の宮殿には12個のオーブがあり、これによって全ての時間のバランスは保たれています

12個のオーブは7人の時の精によって守られてきました

しかし・・・

ガシャアアアン

突然何者かが宮殿を襲って来ました

???「これでもくらえ!!!」

時の精達「あああああ」

襲って来た奴は時の精達を攻撃し、12個のオーブが散ってしまった

???「これでよし!本部に報告だ」

???は本部に報告しに行った

12個のオーブが散ってしまった事で全ての時間のバランスが崩れてしまった!!

このまま時が経ってしまえば時間は消滅し、全ての物の動きは止まってしまう・・・

一方こちらはキノコワールド

ルイージ「いい天気だ・・・ん？」

気持ちよく外に出たルイージ

そこで彼は信じられない光景を目にしたのだった！！
プロローグ終わり

第1話 新たなる危機

ここは影の国

ビビアンが元気そうに歩いていた

ビビアン「キャアアア」

突然悲鳴を上げるビビアン、何と！あろう事が箱が空中で停止していた

ためしに叩いたり触ったりしたが、何の変化も無かった

ビビアン「何で止まっているのかしら？」

ビビアンは理由が分からないまま、城に帰って行った

一方こちらはキノコワールド

キノピオ「あああああ！！！」

後ろ向きに階段を上っている人を見てビックリするキノピオ

正確には後ろ向きに歩いているのではなく、時間が逆走しているのである

そしてこちらはマリオの家

この大事件の事を知らず、のんびりくつろぐマリオ

マリオ「今日もいい天気だ・・・、ダークスペーシアとの戦いはいろいろあったけど」

ルイージ「兄さん！！！」

ルイージが慌てて走って帰って来た

マリオ「ルイージ！？」

ルイージ「兄さんちょっと来て！」

ルイージはマリオの手を引っ張って強引に外に連れ出した

ルイージ「兄さんあれ！！」

マリオ「これは・・・」

彼らの目の前にはものすごく速く移動するキノピオと遅く移動するキノピオの姿があった

速い方はピーチ城まで1秒で行けるのに対し、遅い方は1ミリ移動するだけでも10分掛かると極端である

マリオ「まるで時間の動きがバラバラだな」

ルイージ「兄さん！この事をピーチ城に伝えに行こう！」

マリオ「誰がやったのかは知らないが、放っておけばそいつらの思い通りになる」

マリオ達はこの事件の事を知らせに行った

次の日、キノコワールドと陰の国で会議が行われた

キノじい「昨日からああいう状態が続いておる」

キノッポー「極端に速い人と遅い人、それに空中で停止しているものまでいます」

会議をしている最中に誰かが入って来た

ピーチ姫「あなたは？」

リック「始めまして僕リックです、時の国からやって来たんです！とにかく今は話が先決です」

時の国からやって来たリック、どんな話があるというのか！？

第1話終わり

第1話 新たなる危機（後書き）

キャラ紹介

『マリオ』

キノコワールド及び、宇宙の危機をも救った超英雄
Mマークの入った赤い帽子がトレードマーク
エターナルスターパワーを使うと更にパワーアップす

る

第2話 登場！ワリオブラザーズ

ピーチ城にやって来たリイック

リイック「皆さん時間のバラバラで何が何だかわからないみたいですね」

マリオ「何か知っているのか!？」

リイック「はい、つい最近の事何です」

リイックは事件の内容を語り始めた

リイック「僕の住む国、時の国には時の宮殿があり、そこには12個のオーブが祭られていたんです」

マリオ達「12個のオーブ？」

リイック「その12個のオーブで時間のバランスが保たれているのです。そしてそのオーブはタイマーオーブとも呼ばれています
しかし突然奴らがやって来て時の精様達を襲い、12個のオーブを各地に散らしたんです」

ピーチ姫「つまり・・・そのオーブが散ってしまったせいで時間の動きがバラバラになっちゃたのね」

リイック「はい」

ルイージ「一体誰がこんな事を」

ギユツと拳を握り締めるルイージ

そして影の国でも会議が行われていた

ガシャアアアン

会議中に何者かが窓を破って入って来た

ロズー「何者ですか!？」

キツとした表情で問い詰めるロズー

軍団員「どおおおお」

軍団員はロズーの問に答えず攻撃して来た

ロズー「…………ふん」

バキイイ…………

軍団員を返り討ちにするロズー

軍団員を退け、会議する影族

マジヨリン「さっきの奴、何者だったんじゃ？」

そしてキノコワールドのピーチ城でも会議が続いていた

ピーチ「このままじゃ、時の国を襲った人たちの思い通りになるわ」

マリオ「そうはさせない！俺たちが絶対に倒してやる！！行くぞル
イージー！！」

ルイージ「ま、待つてよー」

マリオとルイージとリィックはピーチ城を出た

マリオ「リィック、タイマーオーブがどこに落ちたか分かるか？」

リィック「分かります！、それとこの世界に6つ、そして別の世界
に6つ落ちて来たんです」

タイマーオーブは2つの世界に6つずつ落ちて来たらしい

リィック「ここから一番近いところにあるのは差サファイアビーチ
のタイマーオーブですね」

マリオ「よっしゃ！サファイアビーチ目指して出発！！」

ルイージ&リィック「オオー！！」

ワリオ&ワルイージ「ちょっと待ったー！！」

マリオ達が出発しようとした途端、ワリオとワルイージが現れた

ワリオ「話は聞いたぜ。そのタイマーオーブはかなり貴重らしいな。
そいつを売れば大儲けだ」

リィック「なんて事を！！タイマーオーブを売るなんて」

タイマーオーブと売ろうとするワリオ達を怒鳴るリィック

マリオ「どうしても言うなら俺たちが相手だ」

タイマーオーブは譲らないとワリオ達に勝負を挑むマリオ達。マリ
オブラザーズVSワリオブラザーズの戦いが始まろうとしている

第2話終わり

第2話 登場！ワリオブラザーズ（後書き）

キャラ紹介

『ルイージ』

とても地味なマリオの弟
ジャンプ力では兄より勝るが、戦闘力はいまいちである
Lマークの入った帽子がトレードマークである

第3話 対決！マリオブラザーズVSワリオブラザーズ

マリオ&ルイージVSワリオ&ワルイージの戦闘が始まった

ワルイージ「ワルイージドロップ！」

ワルイージドロップで先制攻撃を仕掛けるワルイージ

ルイージ「ハンド・シールド！」

バシィィィ

ハンド・シールドでワルイージの攻撃を防御するルイージ

ワリオ「もらった！」

マリオ「ドカーンキック！」

ドゴオオオオ

ワリオ「ぐはあああ」

背後からルイージを攻撃しようとしたワリオだが、マリオに阻まれてしまう

一方こちらは敵のアジト

1人の男が時の国の襲撃に成功した事を報告した

クレス「スィープさんこちらにいらしたのですか。時の国の襲撃に成功しました」

スィープ「それは良かったですね」

にこやかな表情で答えるスィープ

スィープ「それと何者かがタイマーオーブを集めようとしているらしいのです」

クレス「ではその者達を抹消して来ます」

クレスはマリオ達を消そうと出かけて行った

一方マリオとルイージはワリオとワルイージと戦闘を繰り返していた

マリオ「遊びはここまでだ」

そう言うマリオは例の力を使った

ワリオ「こりゃ勝てねーっ！！！」

ワルイージ「逃げろー！！」

マリオ「くら・・・」

攻撃しようした途端、クレスが現れた

クレス「オーブを集めるなど愚かな事はやめろ」

ルイーダ「お前だな！時の国を襲ったのは」

クレス「オーブを全部集められるとボスが困るんだよ」

そう言うときクレスは巨大なエネルギーを投げつけた

エネルギーに包まれるマリオン達

当たった所にはマリオン達の姿は無かった

クレス「意外とあっけなかったな」

クレスはアジトに戻っていった

ここは影の国

ビビアンは楽しそうにお花を眺めていた

ワリオ&ワルイーダ「うあああああ」

ドドン

突然上からワリオとワルイーダが吹っ飛んでビビアンの上に落ちた

ワリオ「いつつ……」

ビビアン「早くのいてよ」

とっさにビビアンから降りるワリオとワルイーダ

ワリオ「どうやらあいつの攻撃でここに飛ばされたようだな」

クレスの攻撃で影の国に飛ばされたワリオとワルイージ、ではマリオとルイージはどこに！？

第3話終わり

第3話 対決！マリオブラザーズVSワリオブラザーズ（後書き）

キャラ紹介

『ワリオ』

力自慢の金の亡者

Wマークの入った黄色い帽子がトレードマーク
にんにくが大好物である

第4話 マリオ&ルイーダ、ワリオ&ワルイーダ冒険の始まり

クレスの攻撃で影の国に吹っ飛ばされたワリオ達

ワリオ「おいビビアン！こころもしかして」

ビビアン「影の国だけど？」

ワルイーダ「やっぱり」

ワリオ「ビビアン！今すぐ俺たちを元の世界に戻してくれないか？」

ビビアン「任せて！」

「……ちょっと待って……！！！」

ビビアンがワリオ達をキノコワールドに送ろうとした途端、誰かが来た

「……」向こうに行く前に協力してほしいの……！！」

ワルイーダ「何に協力するんだ？」

「……」タイマーオーブ集めです」

ワリオ「お前はマリオ達と一緒にいた奴の仲間か！？」

「……」はい、私の名はミント、お願いします！どうかタイマーオーブを集めてください！」

ビビアン「仕方ないわね、キノコワールドに行くのは後回しでタイマーオーブを探しに行きましょう」

ワルイージ「しゃーなーな。ここから一番近くにあるのは!？」

ミント「エシエント遺跡にあります」

ワリオ「よっしゃー!!!いくぜー!!!」

勢いよく走っていくワリオ

一方こちらはキノコワールドのマリオの家

マリオ「う・・・うう・・・」

リイック「マリオさん!よかった気がついたんですね!」

ルイージ「あいつ今度会ったらぶっ飛ばしてやる」

クレスに闘争心を燃やすルイージ

そしてここは敵のアジト

クレス「スリープさん、奴等の分担に成功しました」

スリープ「お手柄ですクレスさん、・・・様もそろそろ戻られます」

数分後、組織のボスらしき人物が入って来た

???「時の国の襲撃は褒めてやろう。だが12個のオーブが再び集まれば時の流れは元に戻る、オーブを1つでも取って来い！」

クレス「では早急に！」

???の命令でタイマーオーブを探しに行ったクレス

そしてここはキノコワールド

マリオ達がサファイアビーチ目指して進んでいた

少し進むとドリルクリボーが現れた

ドリルクリボー「どりゃっ!!」

ルイージ「それ」

バコオオオオオオン

頭のドリルで攻撃しようとしたドリルクリボーだが、ルイージのハンマー攻撃で返り討ちにされてしまう

少し進むと青い砂浜に到着した

マリオ「えーと・・・ここは」

ガイドブックを見て調べるマリオ

マリオ「あ!ここはブルーサンドだ」

リック「だったらサファイアビーチはもう少し先です！」

ルイージ「よし！このブルーサンドを進んでいこう！」

マリオ達はサファイアビーチを目指し、ブルーサンドを進んで行った
第4話終わり

第4話 マリオ&ルイージ、ワリオ&ワルイージ冒険の始まり（後書き）

キャラ紹介

『ワルイージ』

長い手足が特徴の悪役ヒーロー

ずる賢いだけでなく、戦闘力もある

トレードマークは「マークの入った紫の帽子」

第5話 進めブルーサンド！目指せ！サファイアビーチ

サファイアビーチ目指してブルーサンドを進んでいくマリオ達

少し進むとウニボーが現れた

マリオ「ルイージ」

ルイージ「なに兄さん？」

マリオ「お前球になってくれ」

ルイージ「じよ、冗談じゃないよ！！何で僕が、ジャンケンで決めよう」

マリオとルイージはどっちが球になるかジャンケンで決めた

マリオ&ルイージ「ジャンケンホイ！」

ルイージ「やったー！！」

ジャンケンに勝利したルイージはウニボーめがけてマリオを思いつきりぶつけた！！

ドカアアアアン

一撃でウニボーを倒したマリオ達

リリック「マリオさん大丈夫？」

マリオ「ルイージ！お前少しは手加減しろ！！」

ウニボーに思いっきりぶつけられたマリオの頭には血が出ていた

マリオ「今度やる時はお前が球になってもらうぞ」

ウニボーを倒し、先へ進むマリオ達

少し進むと砂場から触手がいきなり出てきた

シュルルル・・・

リイック「わああ！？」

ルイージ「リイック！この」

触手を振り払い、リイックを救出するルイージ

砂場からクラーゲが現れた

ルイージ「サンダーハンド！！！」

ババババババ・・・

サンダーハンドで攻撃するルイージだが、クラーゲはその電撃を吸収してしまう

ルイージ「何！？」

クラージ「返してあげる」

そう言うクラージは吸収した電撃を放射した

ルイージ「おわっ!？」

紙一重で電撃を避けるルイージ

マリオ「それなら、でああああ」

バコオオオオン

渾身のハンマーの一振りでクラージを倒したマリオ

少し進んでいくと波の音が聞こえた

ザアアアア・・・

マリオ「波の音だ!」

ルイージ「という事はサファイアビーチはもうすぐなんだね!」

マリオとルイージはサファイアビーチ目指してブルーサンドを二気に走っていった

第5話終わり

第5話 進めブルーサンド！目指せ！サファイアビーチ（後書き）

キャラ紹介

『リック』

時の国の住民で、ミントの弟
タイマーオーブを集めるため
マリオ達と共に行動する

第6話 蒼き海サファイアビーチ

サファイアビーチ目指して一気に走り出したマリオ達

数分後、サファイアビーチに辿り着いたマリオ達

マリオ「ここがサファイアビーチか」

リック「透き通ったような色の海ですね」

ルイーダ「この海のどこかにタイマーオーブの1つがあるんだ」

マリオ達はタイマーオーブを探しに海の中へ潜って行った

海の中を泳ぐマリオ達

少し進むと魚雷プクが襲って来た

ドオオオオン

マリオ「わああああ」

魚雷プクの捨て身の攻撃でダメージを受けるマリオ

ルイーダ「兄さん！」

マリオ「大丈夫だ・・・」

魚雷プクの攻撃に耐え、何とか進むマリオ達

一方こちらはカゲの国

ワリオ達もエシャント遺跡目指して進んでいた

少し進むとカゲクリボーが現れた

ワルイージ「ザーコ！」

バキン

キック1発でカゲクリボーを倒すワルイージ

ワリオ「つぎに倒されたいのはどいつだ!？」

次々と敵を倒しながら進むワリオ達

一方こちらは敵のアジト

ボスがスリープの部屋に来た

スリープ「・・・様、何か御用ですか？」

???「クレスはどうしてる？」

スリープ「現在タイマーオーブの搜索に行ってます」

???「そうか、では私も仕事に入るか」

その頃ワリオ達はサファイアビーチを泳いでいた

数分後、マリオ達の前にクレスが現れた！

マリオ「貴様は！」

ルイージ「この前はよくもやってくれたな！！」

クレス「オーブを集めるなど馬鹿げた考えは止めてもらおうか？」

リィック「それはできない！！！」

マリオ「勝手によその国を襲ったくせに」

クレス「どうしても逆らうのだな？」

マリオ&ルイージ&リィック「どうしても！！！」

クレス「ならお前たちを排除するのみ！！」

なんと！クレスはカブトムシのような怪人態に変身した

ルイージ「変身した！？」

マリオ「怯むな！いくぞ！」

始まるクレスとの戦闘、マリオ達はクレスを退け先に進む事ができるのか！？

第6話終わり

第6話 蒼き海サファイアビーチ（後書き）

キャラ紹介

『クレス』

デスタイムスの刺客

普段はちよつと怖そうな男性の姿をしております
変身するとカブト虫のような怪人になる

第7話 クレスをやっつける！！

マリオ達とクレスの戦闘が始まった

クレス「ム〜〜〜」

マリオ達に向かって突進するクレス

ドカアアアン

ルイージ「うああああ」

強力な角でルイージを空高く打ち上げるクレス

ルイージ「グリーンサンダー！！！」

ババババババ・・・

しかしルイージも負けておらず空中でグリーンサンダーを放つ

クレス「ぐううう・・・」

グリーンサンダーがクレスにヒット！！

マリオ「スピンドリル！！！」

すかさず空中からスピンドリルで攻撃するマリオ

クレス「ぐあああああ」

スピンドリルを受け、大ダメージのクレス

クレス「何という・・・報告せねば・・・」

そう言うときレスはアジトに戻って行った

マリオ「危ないところだったな」

リック「タイマーオーブはすぐそこですよ!」

クレスを退けたマリオ達は先へ泳いでいった

しばらく泳いでいくと何かが光っていた

ルイーダ「ん?何か光ってるぞ」

リック「ありました!タイマーオーブです」

タイマーオーブを見て喜ぶリック

ルイーダ「早速ゲットだ」

タイマーオーブをゲットしようと近づくルイーダ

あと1歩というその時・・・

ゴゴゴゴゴゴゴゴ・・・

マリオ「何だ!」

突然地響きが鳴り、逃げ出す魚達

ウミリュウ「誰じゃ！？わしの眠りを妨げるのは？」

ウミリュウの手にはタイマーオーブがあった

リック「僕達その球を取りに来ただけなんです」

ウミリュウ「黙れ！全員海の外に放り出してやる！！！」

寝不足で機嫌の悪いウミリュウはマリオ達を追い出そうと襲い掛かって来た

マリオ「仕方ない！やるぞルイージ」

ルイージ「はい……」

マリオ達はタイマーオーブを手に入れるため、ウミリュウに戦いを挑んだ

第7話終わり

第8話 VSウミリュウ！海中の戦い！！

マリオ達とウミリュウの戦いが始まった

ウミリュウ「ラアアアア」

凄まじい火炎放射で攻撃するウミリュウ

マリオ&ルイージ「ブラザートルネイド！！！！」

ギョルルルルル……

ブラザートルネイドで火炎放射を軌道をずらすマリオとルイージ

ブン ドカアアアン

ルイージ「兄さん！！」

尻尾でマリオを強く叩きつけるウミリュウ

一方こちらは影の国

最初のタイマーオーブがあるエシエント遺跡を目指すワリオ達

少し進むと影パタパタが現れた

ワリオ「おりやつ」

ワリオは影ノコノコを殴って気絶させる

ワリオ「そーーーーーれ!!!」

気絶した影ノコノコを前方にいる敵に向けて投げるワリオ

その頃マリオ達はウミリュウと戦ってた

マリオ「ルイージ!必殺技でいくぞ!!」

ルイージ「OK!!」

マリオは体をボールのように丸めた

ルイージ「インパクトショット!!!」

ボールのようなマリオを巨大なゴルフクラブで打つルイージ

ウミリュウ「グウウウウウ」

インパクトショットを受け、大ダメージのウミリュウ

マリオ「とどめだ!ファイアボール乱れ打ち!!!」

ボボボボボボボボ...

ウミリュウ「グオオオオオオオオ...」

ズーーーー.....ン

マリオのファイアボール乱れ打ちによってついにウミリュウは倒れた

ウミリュウのタイマーオーブを取るリイック

リイック「マリオさん！タイマーオーブゲットです」

ルイーダ「やったね！！」

リイック「ルイーダさん！喜ぶのはまだ早いです！オーブはまだ1個残っているんですから」

マリオ「そろそろ地上に戻ろうか」

ウミリュウを倒し、タイマーオーブを手に入れたマリオ達は地上目指して泳ぎ始めた

そしてワリオ達もエシエント遺跡目指して進んでた

敵を倒しながら進むワリオ達

数十分後、古い遺跡の前についたワリオ達

ワルイーダ「ここがエシエント遺跡か・・・」

ミント「タイマーオーブはこの中のどこかにあるはずですよ」

ビビアン「遺跡の中の財宝取ったら女王様に言いつけるわよ！」

1つめのタイマーオーブを手に入れたマリオ達、そしてワリオ達も影の国で最初のタイマーオーブがあるエシエント遺跡に入ろうとしていた

第9話 突入！エシエント遺跡

エシエント遺跡の中に入っていたワリオ達

入るといきなりイワノコが襲って来た

ワリオ「ブルタツクル！！！」

ドガアアアアン

ブルタツクルでイワノコを粉碎したワリオ

少し進むと大きな扉があり、5台の火のついてないたまつがあった

ワリオ&ワルイージ「せーの……ん~~~~」

力いっぱい引つ張るワリオとワルイージだが、扉はビクともしない

ビビアン「無駄よ、この扉には暗証コードみたいなものがあるの、たまつを正しい順番に火を灯さないと開かないわ」

扉の開け方を教えるビビアン

ワルイージ「早速開けてくれ！！」

ビビアン「いいわよ、でもその前に……」

ワリオ「何をするんだ！？」

ワリオ達を目隠しさせ、ロープで縛るビビアン

ビビアン「開け方は絶対に秘密なの」

ポ…………

正しい順番にたいまつを火を灯すビビアン

5台目のたいまつに火を灯すと扉が開いた

ギイイイ…………

扉の中に入るとビビアンはワリオ達のロープを解き、目隠しを取った

ビビアン「ごめんなさい、でも絶対に知られてはいけなかったの」

扉の中に入り、遺跡の中を更に進むワリオ達

一方こちらは敵のアジト

クレスがスィープに報告しに来た

クレス「奴らがオーブを1つ手に入れました」

スィープ「慌てる事はありませんよ、オーブはまだ11個、それに万一の時にはあの人達がいる」

クレス「それもそうだな、ところで…………様はどちらへ？」

スィープ「仕事で外出中です」

その頃ワリオ達は遺跡の中を進んでた

少し進むと今度は3匹のイワノコが現れた

ギョルルルル ドガツドガツドガツ

ワリオ「うおおおっ!？」

ワルイージ「ああああっ」

いきなり先制攻撃されダメージを受けるワリオ達

ワルイージ「やってくれたな!ワルイージボム!」

ドオオオオオオオン

お返しと言わんばかりにワルイージボムで攻撃するワルイージ

ミント「オーブの場所が確実に近くなっています」

ワリオ達がオーブに近づいている事を言うミント

一方こちらはキノコ王国

1人の男性がキノコ城を目指して歩いているのであった
第9話終わり

第10話 ダウス総理登場

キノコ城目指して歩く1人の男性

そしてこちらはキノコ城の会議室

時間の乱れを何とかするための会議が今日も行われていた

キノじい「このままでは100歳越えの老人より赤ん坊の方が先に寿命が尽きてしまう事もなりかねません!!」

キノピオ「僕達には時間を操るなんてできないし」

キノポン「本当にどうしたらいいのか・・・」

悩むキノピオ達

数分後、男が会議室に入った

???「遅くなって申し訳ありません」

キノじい「来てくれましたか！ダウス総理」

ダウスが席に着くと会議の続きが行われた

数十分後、会議が終わり、みんな席を立った

ダウス「では私も何か分かったら知らせます」

キノじい「うむ！頼みましたぞ」

その頃ワリオ達はエシェント遺跡を進んでた

ワリオ達は石像の出す問題に答えていた

石像「タイマーオーブは全部で何個？」

ワルイージ「12個！！」

石像「せ・・・正解・・・ではマリオ&ルイージRPG3でクッパが食べたキノコは？」

ミント「バキュームキノコ！！」

石像「見事・・・では奥へ進むがいい」

石像の試練を突破したワリオ達は遺跡のさらに奥へ進んだ

進むとイワノコが襲って来た

ワリオ「ワルイージ！必殺技で行くぞ！！」

ワルイージ「OK！」

ワリオ&ワルイージ「ヒールコウラアタック！！！！」

イワノコ数匹「ギャアアア・・・」

必殺のヒールコウラアタックで数匹のイワノコを一気に倒すワリオ達

遺跡の中を進むワリオ達

少し進んでいくと大岩が転がって来た

ゴゴゴゴゴゴゴ・・・・

ビビアン「カゲがくれ」

シュウウン　ゴゴゴゴゴ・・・・ドオオオオオン

カゲがくれで大岩を回避したワリオ達

ワリオ「危なかったぜ」

ワルイージ「ありがとよビビアン」

ビビアン「ねえあそこ・・・・」

ビビアンは指を指した方角の向こうに僅かだが光が漏れていた

ミント「あれはタイマーオーブの輝きよ!」

ワリオ「ついに来たか!」

タイマーオーブがある部屋までかなり近づいたワリオ達

そして彼らはオーブのある部屋目指して一気に走り出したのだった
第10話終わり

第11話 手に入れるタイマーオーブ！立ちほだかるユージ

ここは敵のアジト

組織のボスらしき人物が帰って来た

スীব「……様お帰りなさい」

???「うむ、奴等の動きは？」

スীব「ワリオ達の方がオーブに近づいています」

クレス「俺が行ってこよう」

ユージ「やめな！お前じゃアウトだぜ？」

クレス「何を……」

ユージに馬鹿にされ怒るクレス

???「頼んだぞユージ」

ユージ「では……」

???の命令でワリオ達の所へ向かったユージ

その頃ワリオ達はエシエント遺跡の中を進んでた

ビビアン「カゲぬけパンチ!!」

ワリオ「ブルタツクル!!」

ワルイージ「ワルイージボンバー!!」

必殺技で敵を次々と倒しながら進むワリオ達

一方マリオ達は休憩していた

マリオ「これでオーブは1つ手に入った」

ルイージ「次のオーブはどこにあるの？」

リィック「ビッグツリーですね」

マリオ「もう一休みしてから出発しよ」

もう一休みしてからビッグツリーを目指す事にしたマリオ達

そしてワリオ達はオーブのある部屋に辿り着いた

ワリオ「あれがタイマーオーブか！」

ワルイージ「やったぜ!!」

走ってタイマーオーブに近づくワルイージ

ドオオオオオオオン

突然爆発し、吹っ飛ぶワルイージ

ワリオ「ワルイージ!!」

ビビアン「誰!？」

振り向くとそこにはユージがいた

ユージ「ふっふっふっふ」

ミント「あいつの私達の国を襲った組織の仲間よ」

ユージ「計画を邪魔するものは排除しろとボスの命令なんでね」

ワルイージ「よくもやってくれたな!」

ユージ「全員まとめて死ね————!!」

オオオオオオオオ……

カマイタチのような怪人に変身したユージ

ワリオ「こいつをぶっ倒してオーブをゲットだ!」

ワルイージ「こいつには制裁を加えてやる」

いよいよ始まるユージとの戦闘!果たしてワリオ達はユージを退け、
タイマーオーブをゲットできるのか!?

第11話終わり

第11話 手に入れるタイマーオーブ！立ちはだかるユージ（後書き）

キャラ紹介

『ミント』

時の国の住民で、リックの姉
時の国に再び平和を取り戻すため
ワリオ達と一緒に冒険する

第12話 奮闘！タイマーオーブを手に入れる

ユージとのバトルになったワリオ達

ビビアン「魔法の炎！！！」

ユージ「ムン！！」

シュバアアア

鎌のような手を振って炎を真つ二つに斬ったユージ

ワリオ「ワリオパンチ乱れ打ち！！！」

ドガガガガガガ

ユージ「オオオオオオッ！？」

ワリオの連続攻撃に圧されるユージ

ユージ「よくもやってくれたな！であああああ！！！！！」

ワリオの攻撃を受けて怒りが頂点に達したユージは両手を振りまくり鋭い刃のかまいたちを起こしていた

ワルイージ「くそ・・・これじゃ近づけねえ」

ビビアン「カゲがくれ！！」

影の中に入ってユージに近くビビアン

影の中から手を出したユージの足を掴んだ

ユージ「何？」

ビビアン「今よー!!」

ワリオ「ブルタツクル!!!」

ワルイージ「ワルイージスクリーー!!!」

ビビアン「カゲぬけパンチ!!!」

バアアアアアアン

ワリオ達の攻撃がユージにクリーンヒット!!

ユージ「おの．．．れ．．．」

ワリオ達の攻撃を受けフラつくユージ

ユージ「この次は必ず」

そう言うときユージはその場を去っていった

ワルイージ「オーブをゲットだぜ!!」

ワリオ「やったな!さっそくこれを質屋に．．．」

凄い殺気を感じ、顔が真っ青になるワリオ

振り向くとビビアンが怒りの表情で両手から炎を出していた

ワリオ「じょ……冗談ですよ……」

なにはともあれ1つ目のタイマーオーブを手に入れたワリオ達

ミント「さ、残りのオーブも手に入れましょ」

これで手に入ったオーブはマリオ達のを足して2つ、しかしまだオーブは10個ある

一方こちらはキノコワールド

マリオ「さてそろそろ行くか」

リック「よし！ビッグツリー目指して……」

マリオ&ルイージ&ワルイージ「レッツゴー!!」

マリオ達はキノコワールドの2つめのタイマーオーブを探しにビッグツリー目指して歩き出した

第12話終わり

第12話 奮闘！タイマーオーブを手に入れる（後書き）

キャラ紹介

『ユージ』

デスタイムスの刺客

普段はほっそりとした男性の姿をしており
変身するとカマイタチのような怪人になる

第13話 到着ハッピーダイレク

2つめのオーブを手に入れるため動き出したマリオ達

少し進むとチュルルーが現れた

いきなりマリオにしがみついてチュチューしてきた

マリオ「気色わりいんだよ!!!」

チュューー……

リリック「気をつけて!こいつの攻撃は相手の体力を吸収するよ」

ルイーダ「もう遅いよ……、スイングハンマー!!!」

ブンブンブン バコオン

スイングハンマーでチュルルーを倒すルイーダ

一方こちらは敵のアジト

クレス「ユーダはまだ戻ってないのか」

ユーダに会いに行こうとしたクレスだったが、ユーダはまだお出かけ中だ

スリープ「あの程度であの人達に動いてもらってもありません」

「???」あの者達など三聖土の前では赤子同然だからな」

「???」が言う三聖土とは何者なのか?とてつもなく強い3人である事は間違いなさそうだ

一方こちらは影の国の城の中

ルリナ「フフンフン」

自分の部屋で楽しそうに編み物をするルリナ

そこへ軍団員が10人入って来た

ルリナ「誰?」

キツとした表情で振り向くルリナ

軍団員「オーブを渡してもらおうか!」

ルリナ「あなた達ね!こんな事したのは」

軍団員「かかれー!ー!ー!」

軍団員10人「オオオオオオオ」

ルリナ「魔法の炎!」

ゴオオオオオ

ルリナに攻撃しようとした軍団員達だったが、魔法の炎1発でKO

されてしまう

軍団員達「退却……」

ルリナの圧倒的な強さに泣いて逃げ出す軍団員達

その頃キノコワールドではマリオ達がビッグツリー目指して進んでた
数分後ハラッパードイレクに着いたマリオ達

リック「この先にある森を抜けたらビッグツリーがあります」

ルイーダ「森というと……迷いの森だね」

マリオ達は迷いの森目指して進んだ

少し進むといきなり3体のチュルルルが襲って来た

サッ

マリオ&ルイーダ「ブラザードラゴンスクリー……!!」

チュルルルの攻撃をかわし、ブラザーアタックで敵を倒すマリオと
ルイーダ

マリオ達は敵を次々と倒しながら迷い森目指して進むのだった
第13話終わり

第14話 進め！ハラッパードイレク

パードイレクを進むマリオ達

少し進むとエコクリボーが現れた

マリオ「ファイアボール！！！」

ボボボボボボ・・・

エコクリボー「ギャアアアア」

ファイアボールの連発でエコクリボーを倒すマリオ

エコクリボーを倒し先へ進むマリオ達

シュルル

リイック「わっ！？」

ルイージ「リイック！」

突然地面から触手が出て来てリイックを捕まえる

ルイージ「この！グリーンサンダー！！！」

グリーンサンダーで触手を攻撃するルイージ

リイック「ああああああ」

しかしリックも一緒に痺れてしまう

ユル……

触手が緩み、何とか逃れたリック

リック「ルイーダさん！もうちょっと丁寧に助けてくださいよ！」

ルイーダ「はい……」

リックに怒られ反省するルイーダ

そしてこちらはビッグツリー

ユーダ「オーブを渡してもらおうよ」

長老「渡すわけにはいかん」

リス「長老を離せ！！」

ユーダ「五月蠅い」

ユーダに向かっていったリスだったが、一撃でのされてしまう

オウム「ここはわしらに任せてお前は助けを呼んでくるんだ」

リス「……………」

リスはコクンと頷き走って助けを求めに行った

その頃マリオ達はハラッパードイレクを進んでた

マリオ「ファイアボール!!」

ルイーダ「グリーンサンダー!!」

ゴオオオオ ドカアアアアン

敵を次々と倒しながら進むマリオとルイーダ

少し進むと今度はしびれパッくんが現れた

しびれパッくん「ギャウウウ」

パッくん

ルイーダ「から・・・だが・・・」

しびれパッくんの攻撃を受け、身体が痺れてしまったルイーダ

しびれパッくん「ガルルルル・・・」

ビュッ サッ

マリオ「スクリューハンマー!!!」

ギョルルルル・・・ドカアアアアン

しびれパツクンの攻撃を避け、スクリューハンマーで仕留めたマリオ

数十秒後、身体の痺れが消えたルイージ

ルイージ「ふう・・・助かった」

マリオ達は迷いの森目指してハラッパードイレクを更に進むのだった
第14話終わり

第15話 自然の大迷路！迷いの森

迷いの森目指してハラッパードイレクを進むマリオ達

少し進むと大きな森が見えて来た

マリオ「やったぞー！！迷いの森だー！！」

ついに迷いの森に辿り着いたマリオ達

リック「ビッグツリーはこの森を抜けた先にあります」

マリオ達はビッグツリー目指して迷いの森に入っていた

一方こちらはマリオ達から少し離れた迷いの森のある場所

リスが走りながら助けを求めている

マリオ達は迷いの森を進んでいた

少し進むとグリーンチョロボンが襲って来た

チュウウウウウ・・・

ルイージのHPを吸収し、体力を回復させるグリーンチョロボン

ルイージ「やったな！ルイージタイフーン！！！」

お返しと言わんばかりにルイージタイフーンでグリーンチョロボン

を倒すルイージ

グリーンチョロボンを倒し、先へ進むマリオ達

ビッグツリーではユージがオーブを渡せと脅迫していた

ユージ「いい加減オーブを渡してくださいよ。あんただってまだ死にたくないでしょ？」

長老「ふん！お前のような邪な者に渡すくらいなら死んだ方がマシだ！――！」

その頃マリオ達は森の中で迷っていた

マリオ「あれ？ここはさっき通ったところだぞ」

引き下がり、別のルートを探すマリオ達

一瞬だが1本の木が怪しく笑った

ルイージ「ん？」

気配を感じ、ふりむいたルイージだが、そこにはただの普通の木が並んでるだけだった

ルイージ「気のせいか……」

マリオ「……ん？」

マリオは怪しい木の気配を感じ、振り向いた

マリオ「木が笑った！こつちだ！！」

迷いの森には正しいルートには目印があるのだ

正しいルートを進んでいくマリオ達

マリオ「うわっ！？」

何かにつまづき転ぶマリオ

ルイージ「兄さん」

マリオ「いてててて・・・」

リィック「見て！あそこにリスが倒れているわ」

マリオ「おいどうした？しっかりしろ！」

リス「ビ・・・ビッグツリー・・・に」

その後リスは意識を失った

ルイージ「兄さんもしかして奴らがまた」

マリオ「グズグズしてられない！急ぐぞ」

マリオ達はリスを抱えながら迷いの森の中を一気に走っていった
第15話終わり

第16話 迷いの森突破！ビッグツリー到着

リスを抱えて森の中を走るマリオ達

ルイーダ「あいつらこんな可愛い小動物にまで危害をくわえるなんて」

マリオ「絶対許せん！1人残らずぶっ飛ばしてやる！！」

怒りをあらわにして走るマリオ達

ビッグツリーではユーダが動物達にオーブを渡せと脅迫していた

フェレット「嫌だ……絶対に……」

ユーダ「デス・ピアー！！！！」

ババババババ……

無数の斬撃で動物達を攻撃するユーダ

長老「みんな……耐えるのじゃ……、リスが助けを連れてくれるまで」

一方こちらは敵のアジト

スニーク「……………」

いつまでも帰って来ないユーダにイライラするスニーク

スリーブ「遅い！ユージさんは何をやっているのです!？」

クレス「俺が迎えに行つて来ます」

クレスはユージを迎えに行つた

その頃マリオ達は迷いの森を進んでた

少し近づくと消える花があつた

ルイージ「今度はあの花の向こうだよ」

正しい道順に森の中を進むマリオ達

リイック「……………うわっ」

突然花が燃えてびつくりするリイック

不思議な事に燃えているのは花だけで他の周囲の草木は一切燃えてない

マリオ「この火、熱くないぞ」

燃える花の火は手の中に入れても熱ささえ感じないのである

ルイージ「他の所も調べよう」

マリオ達は他に燃える花がないか調べていた

しかし他の花はただの普通の花だった

数分後、マリオ達は燃える花の所に戻った

マリオ「あっちが正解だな」

燃える花の向こうへ進むマリオ達

数分後、マリオ達はずいに森を抜ける事ができた

ルイージ「やったー！ついに出了た」

軍団員A「誰だ！？貴様ら」

マリオ達の前に組織の軍団員2人が現れた

軍団員B「怪しい奴、やってしまえ！！」

マリオ達に襲い掛かる2人の軍団員

マリオ「スピンファイア！！！」

バシイイイ・・・

軍団員2人「ギャアアアア」

マリオのスピンファイア1発に倒されてしまう2人の軍団員

軍団員を退け、進むマリオ達

しばらく進むとマリオ達はビッグツリーについに到着したのだった
第16話終わり

第17話 巨大樹木ビッグツリー

ついにビッグツリーに到着したマリオ達

ルイージ「で……でかすぎる……」

あまりのでかさに唖然とするルイージ

リイック「行きましょう」

マリオ達は動物達を救うためビッグツリーの中に入って行った
中に入るといきなりどうぶつ達が警戒の眼差しをさしてきた

リス「みんな……大丈夫だよ」

マリオの懐からリスが出てきた

クマ「お前無事だったんだな」

リス「この人たちがここまで運んでくれたんです」

マリオ「どうしたんだ？ 傷だらけだぞ」

ウサギ「あいつがやって来てオーブを渡せと長老を脅しているんです」

ルイージ「タイマーオーブだよきつと」

ウサギ「タイマーオーブ？」

マリオ達はタイマーオーブの事を離れた

リリック「実は数日前に僕の住んでる時の国が襲われたんです
散ってしまった12個のオーブを全部集めないと時間が消滅してしま
うんです」

マリオ「長老を脅している奴もその組織の1人だ」

ルイージ「約束する！絶対に僕達がそいつをここから追い出して見
せる」

マリオ達はユージをここから追い出すと約束し、ビッグツリーの中
を進みだした

少し進むとパイダースとガサゴソが現れた

マリオ「ファイアーボール！！！」

ルイージ「グリーンサンダー！！！」

ゴオオオ ドオオオオオン

必殺技でパイダースとガサゴソを倒すマリオ達

進むと今度はいきなりガサゴソが襲って来た

ガサゴソ「くらえ！」

マリオ「ふん」

バシィィィ

マリオを攻撃しようとしたガサゴソだが、カウンターで返り討ちにされてしまう

一方こちらはビッグツリーの一番禺

ユージが長老をいためつけていた

ユージ「あなたも中々しぶといですね」

長老「お前さんがいい気になるのも今の内じゃ」

そしてマリオ達はビッグツリーの中を進んでた

少し進むとしびれパッくんが襲った

ルイージ「うわっ!?!」

紙一重でしびれパッくんの攻撃を避けたルイージ

ルイージ「危なかった・・・、兄さん!!」

マリオ「オウ!!」

マリオ&ルイージ「ミラクルコウラピンポン!」

パコン パコン

甲羅をピンポン玉にしてしびれパックンを攻撃するルイージ

ミラクルコウラピンポンでしびれパックンを倒し、先へ進むマリオ達

マリオ達は長老を救いだせるのか！？

第17話終わり

第18話 ビッグツリーを進め

ビッグツリーの中を進むマリオ達

少し進むとリフトがあつた

マリオ「それ」

リフトに乗ったマリオだが、リフトは1ミリも動かなかつた

マリオ「ルイージお前も来い！」

ルイージも乗ったが、それでもリフトは微動だにしなかつた

マリオ&ルイージ「このボロリフト……！」

ピョン シャー……

マリオとルイージがジャンプした途端、リフトが動き出した

しかし着地すると再び止まってしまった

リイック「マリオさん！ルイージさん！2人同時に連続ジャンプしてください」

マリオ達はリイックの言うとおり連続でジャンプしてリフトを動かす

数十秒後、向こうの足場に着いたマリオ達はリフトから降りた

少し進むととても小さな通路があった

マリオ「ルイージ、俺を叩いてくれ」

ルイージ「アイアイ」

ルイージはマリオをハンマーで叩いて小さくする

小さくなったマリオが隙間から入り込んだ

少し進むとガサゴソが4匹現れた

マリオは逃げながらも進んでいく

少し進むとスイッチがあった

ポコン　ゴゴゴゴゴゴゴゴ・・・

スイッチを叩くとビッグツリー全体が大きく揺れ始めた

数分後揺れが収まり、マリオはルイージに元の大きさに戻してもらった

ルイージ「兄さんさっき階段が現れたんだよ」

マリオ「オーブは多分この先だな」

マリオ達は階段を降りた先にオーブがある事を期待し、降りていく

階段を降り、一直線に進むマリオ達

敵を倒しながら奥へと進んでいく

数分後、マリオ達は奥の部屋に着いた

入るとそこにはユージと長老の姿があった

長老「おおお・・・助けが来たか・・・」

マリオ「誰だ！お前は！？」

ユージ「俺の名はユージ、オーブがここにあるって噂を聞いたんだが、この爺さんがしぶとくてね」

ルイーダ「オーブは渡すもんか！」

ユージに宣戦布告をするマリオとルイーダ

それを聞いたユージはかまいたちのような怪人態に変身した

ユージ「どっちから血祭りにしようか・・・」

マリオ「いくぞー!!」

ルイーダ「リック、オオー!!」

ついに始まるマリオ達とユージの戦い、果たしてマリオ達はユージを倒し、長老を救えるか!?

第18話終わり

第19話 燃える甲羅で長老を救え

ここは影の国

影の園児達が楽しそうに遊んでいた

影の園児A「ねえ！きれいな玉が落ちてるよ」

影の園児B「持って帰ってみんなに自慢しよ」

影の園児達は玉を持って建物の中に入っていた

数十分後、工作を始める園児達

ロクサーヌ「いいですか？ハサミを使う時は十分気をつけてください」

子供達にハサミの使い方を教える担任のロクサーヌ

影の園児達「はい」

その頃マリオ達はビッグツリーの中でユージと戦ってた

ユージ「そらららら」

両手のカマを交互に連続で振るユージ

しかしマリオ達はユージの攻撃を次々と避けていく

ユージ「こしやくな！」

ヒュッ　ゴオオオオオオ

両手を思いっきり振り落とし、巨大なかまいたちを作るユージ

マリオ&ルイージ「あああああ」

ユージの攻撃を受け、吹っ飛ぶマリオとルイージ

マリオ&ルイージ「ミラクルコウラピンポン！！」

カキーン

ユージ「ふん」

甲羅を打ったルイージだが、ユージに避けられてしまう

ルイージ「兄さん！」

マリオ「任せろ！ファイアボール！！！」

マリオはファイアボールで甲羅を火の甲羅にし、そして……

マリオ「くらえーーーー！！！」

バーーーーーン

マリオは燃える甲羅をユージ目掛けて打った

ユージ「！！！！ギャアアアアア」

燃える甲羅が直撃し、大ダメージのユージ

リック「やったー」

ユージに勝利し、喜ぶマリオ達、しかしユージが再び起き上がった

ルイーダ「まだやる気か？」

再度戦闘に入ろうとした途端、クレスが現れた

マリオ「あいつがこの前の」

ユージ「クレス！」

クレス「ユージどこで道草をくった？スイーブさんがお怒りだ」

クレスはユージを連れてアジトへ戻っていった

長老がマリオ達の所に来た

長老「このビッグツリーを救ってくれてありがとう、これはお礼じや」

長老が差し出したのはタイマーオーブだった

リック「マリオ」

マリオはコクンと頷き、タイマーオーブを受け取った

タイムーオーブを受け取ったマリオ達はビッグツリーを跡にした

そして影の国ではワリオ達が次のオーブのある場所をミントに聞いてた

第19話終わり

第20話 クレス再出撃

ここは敵のアジト

クレスがユージを連れて戻って来た

クレス「スィーブさん、只今戻りました」

スィーブ「ユージさん・・・、どこで道草を食ってたんですか!？」

ユージに凄い怒りのオーラを放つスィーブ

ユージ「あ・・・いや・・・その・・・」

本気で怒っているスィーブを見てガタガタ震えるユージ

スィーブ「クレスさんはオーブを手に入れて来てください」

クレス「わかりました」

スィーブの命令でオーブを探しに行ったクレス

一方ここは影の国

次のタイマーオーブを探しにワリオ達が動き出した

ワリオ「次のオーブはどこにあるんだ？」

ミント「あっちにオーブの反応があるわ」

ワリオ達はミントが指した方向に進んでいった

オーブのある場所を目指して進むワリオ達

少し進むとブラックブロスが現れた

ブロックブロス「フー……」

口から電撃を吐いて攻撃するブラックブロス

ワリオ「よっ」

ワルイージ「はっ」

ワリオとワルイージはブラックブロスの攻撃を避ける

ビビアン「カゲぬけパンチ!!」

バコオオオン

カゲぬけパンチでブラックブロスを倒すビビアン

そしてここは影の保育園

園児達が光る玉でドッジボールをしていた

影の園児A「えいつ」

影の園児B「わあっ」

そしてここはワリオ達から少し離れた所

タイマーオーブを奪いに影の国に来たクレス

クレス「タイマーオーブ・・・必ず見つけてやる」

タイマーオーブを探しに行ったクレス

そしてワリオ達はタイマーオーブ目指して進んでた

少し進むとクレスと遭遇した

ワリオ「あいつは!!」

クレス「お前たちはこの前の!まさかこんな所にいたとは・・・」

ワルイージ「てめえこの前はよくもやってくれたな・・・」

クレスに怒りを向けるワルイージ

ビビアン「この前オーブを奪おうとしたあいつの仲間ね」

クレス「まあいい、お前たちにオーブのありかを吐いてもらうまでだ」

ミント「皆さん気をつけてください」

ワリオ「いくぜ!!」

ワルイージ&ビビアン「オオー!!」

こうしてワリオ&ワルイージ&ビビアンVSクレスの戦闘が始まった
第20話終わり

第21話 力VS力

ワリオ達とクレスの戦闘が始まった

クレス「ハアアアアア」

カブト虫のような怪人態に変身したクレス

クレス「パワー一点集中!!」

ワリオ「おおおお!!」

クレス「ぬうううう」

力と力の押し合いをするワリオとクレス

ドオオオン

同時に吹っ飛ぶワリオとクレス

その隙にワルイージとビビアンが空中から攻撃して来た

ワルイージ「ワルイージボム!!」

ビビアン「魔法の炎!!」

ヒュンヒュン ボウ ドカンドカンドカン・・・

炎と爆弾で攻撃するワルイージとビビアン

クレス「くそつたれ・・・」

しかしクレスはワルイージ達の攻撃に耐えた

クレス「烈風斬！！！」

シュゴオオオオ

ワリオ&ワルイージ&ビビアン「ああああ」

烈風斬でダメージを受けるワリオ達

そしてここは影の保育園

園児が光る玉の奪い合いをしていた

影の園児A「かしてー」

影の園児B「やーだ」

貸してもらえず泣き出しそうになる影の園児A

そこへロクサーヌが来た

ロクサーヌ「ミウちゃんどうしたの？」

ミウ「レインくんが貸してくれないの」

ロクサーヌ「レインくん、ちゃんと貸してあげなきゃだめじゃない」

レインを叱るロクサーヌ

レイン「あゝゝん」

怒られて泣き出すレイン

そこへブラックロードが来た

ブラックロード「どうしたんだ？」

ロクサーヌ「ブラックロードさん、実は・・・」

事情を話すロクサーヌ

ブラックロード「なるほど、レインくん見てごらん、
3・・・2・・・
・1・・・ハイ！」

レインに手品を見せるブラックロード

それを見ていた他の園児達も駆けつけた

影の園児達「もっと見せてー」

ブラックロードは次の手品を園児達に見せる

その頃ワリオ達はクレスとの戦闘を繰り広げていた

ビビアン「カゲぬけパンチ!!!」

ドゴオオオオン

クレス「ぐあああああ」

カゲぬけパンチで吹っ飛ばすクレス

このまま一気にクレスをKOだ！！

第21話終わり

第22話 狙われた保育園

クレスとの戦闘を繰り広げるワリオ達

ワリオ「ブルタツクル!!!」

ドゴオオオオン

クレス「ぐああああ」

ワリオのブルタツクルを受けフラつくクレス

クレス「くそおおお・・・」

そう言うときクレスは撤退した

ワリオ「お前などこのワリオ様の敵ではない」

クレスを退け先を進むワリオ達

一方こちらは敵のアジト

ボスの前に新たな幹部が来た

ヴィアーデ「・・・様、あの者達が探しているオーブの行方が分かりました、私に任せてください」

???「しっかり頼むぞヴィアーデ」

タイマーオーブを探しに行ったヴィアーデ

その頃ワリオ達はタイマーオーブを探しに歩いていた

数十分後、ワリオ達は保育園の前に着いた

ビビアン「ここって、保育園じゃない」

ミント「オーブはあそこにあるわ」

タイマーオーブは保育園にあったらしい

そして建物の中では園児達がタイマーオーブで遊んでいた

ワリオ達の前に影園長が来た

影園長「どうしたのかね？ビビアンくん」

ビビアン「このくらいの光る玉見ませんでした？」

影園長「それでしたら中で子供達が遊んでいるよ」

オーブの場所を教えてもらったワリオ達は中に入って行った

影の園児達「あっ！ビビアンのおねえちゃんだ」

ミウ「一緒に遊ぼう」

ビビアン「ミウちゃん、光る玉を持ってない？」

ミウ「あるよ、ほら」

タイマーオーブを見せるミウ

ビビアン「ミウちゃん、その玉お姉ちゃん達に出来ない？」

ミウ「やー、これあたい達が見つけたんだもん」

ビビアン「そんな事言わずにお願い」

必死になってミウに悲願するビビアン

ミウ「じゃあこの前無くした人形を探してくれる？そしたら上げてもいいよ」

ビビアンはミウに人形の特徴を聞いた

ワリオ「その人形を探せばいいんだな」

ワルイージ「んじゃさっそ……」

ドオオオオン

探しに行こうとした途端、何者かが保育園を襲った

ヴィアーデ「フフフフ……」

ヒュッ パシ

ミウ「ああ」

ミウからタイマーオーブを奪い取るヴィアーデ

ヴィアーデ「これがタイマーオーブ」

ロクサーヌ「何者ですか!？」

ヴィアーデ「私の名前はヴィアーデ、この玉を奪いに来たのよ」

ビビアン「ロクサーヌ先生!そいつに渡しちゃだめえええ!!!」

ロクサーヌ「ここは私が引き受けます」

ワリオ「ワルイージ、俺たちはガキどもを安全な場所に」

ビビアンは人形を探しに、ワリオとワルイージは園児達を安全な場所に移動させる

ロクサーヌ「子供達を脅かす者はこの私が許しません!」

ビビアンが人形を探す間、ロクサーヌはヴィアーデを足止めしようとしていた

第22話終わり

第22話 狙われた保育園（後書き）

キャラ紹介

『ヴァーデー』

デスタイムスの刺客

普段は目つきの悪そうな女性の姿をしていて
変身すると蜻蛉のような怪人になる

第23話 急げビビアン！人形を探し出せ

ミウの人形を探しに行ったビビアン

ビビアン「確かこの辺で無くしたって、言ってたわ」

ビビアンはミウの無くした人形を探し始めた

一方影の幼稚園ではロクサーヌがヴィアーデを足止め、ワリオとワルイージが園児達を逃がしていた

ワルイージ「こっちだ、落ち着いて行くんだ」

園児達を安全な場所へ誘導するワリオ達

数分後、全ての園児を逃がしたワリオ達

ワリオ「これで全部だ」

ワルイージ「俺はビビアンと一緒に人形を探す、ワリオはその先生と一緒にあいつを足止めだ」

ワリオ「分かった」

ワルイージは人形を探しに行った、ワリオはロクサーヌと一緒にヴィアーデの足止めに入った

ワリオ「どああっ」

ドコオオン

ヴィアーデ「くっ」

素早い攻撃でヴィアーデからタイマーオーブを奪い取るワリオ

ヴィアーデ「ムカツク人達ね」

タイマーオーブを取られ、頭に來たヴィアーデは蜻蛉のような怪人態に変身した

ヴィアーデ「ぬあああああ!!!!」

ゴオオオオオオオ・・・

高速で羽根を飛ばたかせて凄まじい風圧で攻撃するヴィアーデ

ワリオ「おおおお・・・」

ロクサーヌ「ぬうつ・・・」

吹き飛ばされまいと踏ん張るワリオとロクサーヌ

その頃ビビアンは人形を探していた

ビビアン「どこにあるの？」

ビビアンの所にワルイージが來た

ワルイージ「俺も一緒に探すぜ、あいつはワリオが足止めしている、

とにかく急ごう」

ビビアン「うん」

ビビアンとワルイージは急いで人形を探した

人形を探すビビアンとワルイージ

ワルイージ「あったぞ！」

人形を見つけたワルイージ、しかし・・・

ビビアン「・・・違う、これじゃないわ」

どうやら違う人形だったらしい

そして保育園ではワリオとロクサーヌがヴィアーデとの壮絶なドツグファイトを繰り広げていた

ヴィアーデ「大人しくそいつをよこしなさい！」

ロクサーヌ「ハアアアア」

ギイイイイ

影の鎖でヴィアーデを止めるロクサーヌ

ドオオオオン

突然攻撃で飛んで、ダメージを受けるワリオ達

クレス「手柄を横取りしようたってそうはいかんぞ」

ワリオ「まさかあいつまで来るとは」

ヴィアーデだけじゃなく、クレスまで現れて大ピンチのワリオ達

その頃フルイージはビビアンと一緒に人形を探していた

第23話終わり

第24話 走れ！ビビアン急げ！ワルイージ

ビビアンと一緒に人形を探すワルイージ

ワルイージ「あつたぞ！今度はどうだ？」

人形をビビアンに見せるワルイージ

ビビアン「・・・今度は間違いないわ」

ワルイージ「急ごう」

人形を見つけたワルイージ達は保育園へ走った

その頃保育園ではワリオとロクサーヌがクレスとヴィアーデと戦っていた

ヴィアーデ「ムウウウ」

クレス「ハアアアア」

ビュッ ドオオオン

ワリオ&ロクサーヌ「ああああ」

クレスとヴィアーデの連携攻撃に苦戦のワリオ達

ヴィアーデ「いい加減諦めなさい、貴方達2人で何ができるというのです？」

ワリオ「もうじき俺様の仲間が戻ってくるさ」

クレス「それまでに立っていられるかな？」

戦闘を繰り広げるワリオ達、そこへミウが来た

ミウ「せんせー」

ロクサーヌ「来ちゃだめ!!」

ヴィアーデ「クレス」

クレスは素早く移動し、ミウを捕まえた

ミウ「は、離して」

ヴィアーデ「大人しくオーブを渡しなさい、さもなければ・・・」

右手をミウの前に近づけて技を放とうとするヴィアーデ

ミウ「たすけてー」

泣いて助けを求めるミウ

ロクサーヌ「卑怯者・・・!!」

クレス「どうするんだ？オーブを渡すか？こいつの命を選ぶか」

ワリオ「人質を見殺しにはできない・・・しかしあいつらにオーブ

を渡すわけには」

どうすればいいのか頭を悩ますワリオ

ヴィアーデ「3分だけやるわ、それまでによく考える事ね」

ヴィアーデ達はワリオ達がどっちを選ぶか、3分だけ待つ事にした

そしてワルイージとビビアンは保育園目指して走ってた

ワルイージ「いそげー……」

全速力で走るワルイージとビビアン

一方幼稚園ではミウに人質に取られてワリオ達がうかつに動けず
いた

クレス「あと2分」

ヴィアーデ「どちらにしてもボスやあの方達にはかかりませんよ」

ミウを人質に取ってオーブを渡すのを待つヴィアーデ達

その頃ワルイージとビビアンは走っていた

果たして間に合うのか!?

第24話終わり

第25話 反撃開始

ワリオ達の所へ急ぐワルイージとビビアン

ビビアン「ワリオ・・・あと少し頑張つて・・・」

その頃保育園ではクレス達がミウを人質に取ってオーブを渡すのを覗つてた

ヴィアーデ「どちらかを決められなかったら、あんたとこの子を殺して、オーブも頂くわ」

ワリオ「下劣な・・・・・・・・！！！」

卑怯なヴィアーデ達に怒り爆発寸前のワリオ

クレス「あと1分だ」

タイムリミットまで残り1分を切った

1秒ずつ時が過ぎていき、どうすればいいのか分からないワリオ達

そしてビビアンとワルイージは保育園目指して走つてた

そして3分が経過した・・・

ヴィアーデ「時間切れよ」

ロクサーヌ「く・・・」

クレス「ではのぞみどおり一緒に消してやろう」

• • • • •

クレスとヴィアーデが攻撃しようとしたその時……

ビビアン「魔法の炎!!!」

ボオオオオオ

クレス＆ヴィアーデ「あちちちちちち」

あまりの熱さにミウを離してしまつヴィアーデ

ワルイージ「アイアンドロップ……！」

ドゴオオオン

アイアンドロップをくらすワルイージ

ミウ「せんせー」

泣いてロクサーヌのもとへ走るニウ

ロクサーヌ「もう大丈夫よ」

「ビビアン、ミウちゃん、あとはお姉ちゃんに任せて」

ロクサー又はミウを連れて保育園から離れた

数十秒後、ワリオ達はヴィアーデ達の方を向いた

ワリオ「これで思いっきり暴れられるぜ、おらあああああ！！！！」

人質がいなくなり、今までのうつぷんを晴らすように容赦なく攻撃するワリオ

クレス「小癪な！！！！」

ビビアン「クロスファイア！！！！」

手を組んで×の字型の炎をクレスにぶつけるビビアン

ワルイージ「ワルイージボム！！！！」

ボボボボボボ・・・

ワルイージボムでさらに迎撃するワルイージ

ワリオ&ワルイージ&ビビアン「はあああああ」

ドオオオオオン

トリプルアタックでクレス達を壁まで吹っ飛ばすワリオ達

ヴィアーデ「このおお・・・」

怒りが頂点に達し、風の刃を連続でだすヴィアーデ

ビビアン「カゲがくれ!!」

シュウウウン

しかしワリオ達はビビアンのカゲがくれでこれを全て避けてしまう

頑張れワリオ達! クレス達をぶッ飛ばすのだ!!

第25話終わり

第26話 恐怖！ソルビアあらわる

人質に救出し、反撃をするワリオ達

ヴィアーデ「でやああああ！！！」

ワルイージ「ぐはあっ」

背後に回り、ワルイージに攻撃するヴィアーデ

ビビアン「魔法の炎！！」

クレス「ムン！！」

力でビビアンの魔法の炎を相殺させるクレス

ワリオ「メガトンドロップ」

ドオオオオオオン

クレス「ギャアアアアア」

上空から重量級のヒップドロップをクレスにくらわすワリオ

ヴィアーデ「クレス！！ちいいい！！」

怒ったヴィアーデは両手からエネルギーの鞭を出して攻撃して来た

パシパシッ

ヴィアーデ「何!？」

ビビアン「……………」

エネルギーの鞭を掴み、キツとした表情でヴィアーデを睨むビビアン

ビビアン「インパクトフレーム!!!!」

ゴオオオオオオオオ……………

至近距離から大技を出すビビアン

ヴィアーデ「ギャアアアア」

見事クレスとヴィアーデを負かしたワリオ達

クレス「おの……れ……」

ミント「まだやるっていうの?」

????「何をしているのですか!？」

ワリオ達の前に組織の人物らしき女性が現れた

クレス「ゾルビアさん」

ゾルビア「今日の所はこの辺にしてあげましょう」

ゾルビアはクレスとヴィアーデを連れて基地に戻って行った

その後ワリオ達はきょとんと座り込み、恐怖を抑えきれずにいた

ワリオ&ワルイージ&ビビアン「・・・・・・・・・・・・・・・・」

ガタガタガタ・・・・・・・・

ゾルビアを見てガタガタ震えるワリオ達

ワリオ「なんなんだ・・・・・・・・あいつは？」

ビビアン「何だか分からないけど・・・・・・・・あいつはすごくヤバイ感じだわ・・・・・・・・」

ワルイージ「今までの奴らとは桁違いのパワーだ・・・・・・・・」

数分後、ワリオ達は人形とタイマーオーブを交換した

ワリオ「タイマーオーブゲットだ！」

マリオ達のと合わせて4つのタイマーオーブを取り戻した

その頃キノコワールドではマリオ達がティータイムをしているのだ
った

第26話終わり

第27話 死のソンビクリボー

ここは敵のアジト

ゾルビアがクレスとヴィアーデを連れて戻って来た

スィーブ「お帰りゾルビアさん」

丁寧にゾルビアに挨拶するスィーブ、そこへユージも来た

ユージ「ゾルビアさん！？貴女ほどの方が何故わざわざ？」

ゾルビア「あなた達の様子を見てきただけよ。そろそろ私も行かなくちゃ」

そう言ってゾルビアはある部屋に向かって行った

ここはボスの部屋

ボスの後ろには大幹部らしき人物が2人いた

数分後、そこへゾルビアも入って来た

「???」揃ったか三聖士」

ゾルビアは三聖士の1人だったのだ

ここはキノコワールド

ティータイムを終えたマリオ達が出発の準備をしていた

ルイージ「次のタイマーオーブはどこにあるの？」

リィック「アンデッドキャッスルにあります」

次のオーブはアンデッドキャッスルにあるらしい

マリオ「アンデッドキャッスル目指して出発だ！！」

ルイージ&リィック「おおー！！！」

マリオ達はアンデッドキャッスル目指して出発した

少し進むとホネノコが現れた

マリオ「ファイアボール！！」

ボシユウウウウ・・・

ホネノコ「ギャアアアア」

ファイアボールでホネノコを灰にするマリオ

ホネノコを倒し、先へ進むマリオ達

今度はゾンビクリボーが現れた

リィック「ゾンビクリボー……………。クリボーがゾンビ化したものだよ」

ゾンビクリボー「ハアアア……」

とてつもなく臭い息を吐くゾンビクリボー

マリオ「ぐうう……」

ゾンビクリボーの臭い息で毒に侵されてしまったマリオ

マリオ「この……でああああ……!!」

バキイイイ

毒に耐えながら何とかゾンビクリボーを倒したマリオ

ルイーダ「兄さん大丈夫？」

マリオ「俺とした事が油断したぜ」

ゾンビクリボーを倒し、先に進むマリオ達

そして今度はホネブロスも現れた

第27話終わり

第27話 死のソンビクリボー（後書き）

キャラ紹介

『ゾルビア』

デスタイムスの三聖士の1人で紅一点
ルリナを負かすほどの実力の持ち主である

第28話 再会！ホネピオ

アンデッドキャッスル目指し、進むマリオ達

そこへホネブロスが現れた

ホネブロス「カカカカカカ」

ブン

ルイージ「でいつ!!」

カアアアアアン

ホネブロス「ボゲッ！」

ルイージに骨を投げたホネブロスだが、ハンマーで打ち返されてしまっ

マリオ「スピンファイア!!!」

ボボボボボボ・・・

炎を纏ったスピンアタックでホネブロスを倒したマリオ

敵を次々と倒しながら進むマリオ達

今度はゾンビクリボー2体とメットゾンビが

マリオ&ルイージ「コウラアタック!!!」

カンコンカンコンカン

スペシャル技でまずはメットゾンビを倒したマリオとルイージ

ゾンビクリボーA&B「フー………」

マリオとルイージにそれぞれ攻撃するゾンビクリボー達

マリオ「やつ」

ルイージ「はー」

マリオとルイージはゾンビクリボーの攻撃をかわし、反撃に出る

ドカアアアン バアアアアン

ゾンビクリボー達を倒したマリオ達

進むと今度は白骨に倒れているキノピオの死体があった

マリオ「可哀想に……」

哀れみの目でみつめるマリオ、突然キノピオの死体が動き出した

リック「わああああ」

倒れている死体が動いてビックリするリック

ホネピオ「ああー、よく寝た」

寝ていたのはホネピオだったのだ

ホネピオ「お久しぶりでやんす」

マリオ「もしかしてお前、ホネピオか？」

ホネピオ「はい」

マリオ&ルイーダ「……………」

ホネピオ「あれ？どうしたんですか？」

マリオ&ルイーダ「紛らわしい所で寝るなー！！！！」

顔をでかくしてホネピオに怒鳴るマリオとルイーダ

ルイーダ「実は僕達アンデッドキャッスル目指してるの」

マリオ「ホネピオ、そのアンデッドキャッスルがどこにあるか知らないか？」

ホネピオ「知っています、でもあそこだけはやめといた方が……」

アンデッドキャッスルの場所を知っているホネピオ、しかしあそこには危険なおいがプンプンしているのだった

第28話終わり

第29話 アンデッドキャッスルの過去

マリオ達にアンデッドキャッスルに行くのは危険だと言うホネピオ

マリオ「どういう事だ!」

マリオが質問するとホネピオは語り始めた

ホネピオ「アンデッドキャッスルは元々優雅な貴族が住むお城でした。しかしある日魔物に襲われ、住んでた人たちは皆殺されました」

アンデッドキャッスルの過去を話すホネピオ

ホネピオ「それ以来そこには幽霊やゾンビ等がすみつくようになった」

リック「そしてアンデッドキャッスルになったんだね」

ホネピオ「はい……」

ルイーシ「……………」

ビュン ガシ

マリオ「ルイーシ!!」

ルイーシ「嫌だー!ー!ー!あんなところに行くくらいなら世界がどうなったって構わない!ー!」

必死で逃げようとするルイージの服を掴むマリオ

ホネピオ「ここに来るまでの間、ゾンビクリボーとか倒しませんでした？」

マリオ「倒したけど、それが何か？」

ホネピオ「あのゾンビや幽霊はアンデッドキャッスルにいる魔物に操られているのです

敵の数は圧倒的に多いけど、そいつさえ倒せば全滅します」

マリオ達にアンデッドキャッスルにいるボスを倒せば死霊軍団が全滅できるというアドバイスをするホネピオ

ルイージ「ついでにこんな球ありませんでした？」

ホネピオにタイマーオーブを見せるルイージ

ホネピオ「ありました！色は違うけど、それと同じ球があります」

ルイージ「よ……よし！さ……早速……しゅ……しゅ……出発だー！」

勇気を振り絞ってアンデッドキャッスルに行く決心をしたルイージ

マリオ「それでこそ俺の弟だ」

数分後、マリオ達はホネピオと分かれ、アンデッドキャッスル目指して再び歩き出した

一方こちらはアンデッドキャッスルの中

ゾンビや幽霊たちのボスがピアノを弾いてた

トウトウトウルルル・・・♪

???「まあいい、代わりなどいくらでもいるからな」

???の後ろには大量の死体が置いてあった

その頃マリオ達はアンデッドキャッスル目指して進んでいた

進んでいくとゾンビクリボーとカロンが襲い掛かった

マリオ「スピンファイアー!!」

ルイージ「グリーンファイアー!!」

ゴオオオオオオ

ゾンビクリボー＆カロン「ギイイイイ・・・」

強力な火炎攻撃でゾンビクリボー達を倒すマリオ

ゾンビクリボー達を倒し、先へ急ぐマリオ達

進むと今度は高い壁があり、Mの書いたブロックとLの書いたブロックが1つずつあった

ゴン

Mのブロックを叩いたが、何も無かった

マリオ「今度はルイージがLのブロックを叩いて見ろ」

ルイージもLのブロックを叩くが、全く変化は無し

リイック「それなら2人で同時に叩いたら？」

マリオとルイージはリイックに言われた通りそれぞれMとLのブロックを同時に叩いた

すると段差が1つ上った

ルイージ「このブロックが僕らが同時に叩けば動くんだ」

ブロックの動かし方が分かったマリオとルイージは連続で同時に叩いた

ゴンゴンゴンゴン……

10回連続同時に叩き、崖を登りきった

崖を登りきったマリオ達はアンデッドキャッスル目指してさらに進むのだった

第29話終わり

第30話 ビックリ！消えた壁

アンデッドキャッスル目指して進むマリオ達

少し進むとホネブロスが現れた

ホネブロス「これでもくらえ!!」

ブン

マリオに骨を投げつけるホネブロス

マリオ「でい!!」

カアアアアアン

ホネブロス「ぐえっ」

しかしマリオはハンマーで骨をホネブロスに打ち返す

マリオ「ルイージ!!」

ルイージ「ええーい!!」

バコオオオオオオン

ハンマーでホネブロスを倒すルイージ

ホネブロスを倒し、先へ進むマリオ達

進んでいくと巨大な青い壁があった

潜ろうにも地面は鋼鉄だった

リィック「どうするんですか？あの向こうにタイマーオーブがあるのに」

何とかして壁の向こうへ行く方法を考えるマリオ達

一方こちらは影の国

のんびり歩くワリオ達

少し進むと！マークのついた青いブロックがあった

ワリオ「何だ？これは？」

面白半分に青いブロックを叩くワリオ

するとマリオ達の前にあった青い壁が消えた

マリオ「何で青い壁が消えたんだ？」

リィージ「何だか分からないけどチャンスだよ兄さん」

マリオ達は青い壁が消えた原因は分からなかったが、おかげで通れる事ができた

そしてこちらは影の国

ワルイージ「オーブの場所は分かっているのに……!!」

ビビアン「これを何とかできないかしら？」

ワリオ達の目の前には巨大な赤い壁があった

その頃マリオ達はアンデッドキャッスル目指して進んでた

ルイージ「グリーンタイフーン!!」

マリオ「ビッグファイアボール!!」

必殺技で次々と敵をながら進むマリオ達

数分後、マリオ達はアンデッドキャッスルに着いた

城の前にいたゾンビクリボーが襲った

マリオ&ルイージ「大砲アタック!!!」

ブラザーアクションでゾンビクリボーを倒すマリオ達

マリオ「よし入るぞ」

ルイージ&リイック「うん」

ギイイイイ……

ついに城の中に入ったマリオ達、果たしてタイマーオーブをゲット

できるのか！？
第30話終わり

第31話 ホラー&ミステリー！アンデッドキャッスル

ついにアンデッドキャッスルの中に入ったマリオ達

マリオ「このどこかにオーブがあるんだな」

マリオ達は覚悟を決めてオーブを探し出した

一方こちらは城のとある部屋

1匹のゾンビクリボーが報告して来た

ゾンビクリボー「リバイル様！侵入者です！！」

リバイル「では叩き出してこい」

ゾンビクリボー「はい」

死体を操っていたのはリバイルらしい

そしてマリオ達はアンデッドキャッスルを進んでた

少し進むとドアがあった

ガチャガチャ・・・

マリオ「鍵がかかてる」

ルイージ「仕方ない、鍵を探しにいこ」

マリオ達は鍵を探すため、別の部屋に向かった

少し進むとカロンとホネブロスが現れた

マリオ「そりゃ！」

バキ

先制攻撃でいきなりホネブロスを倒すマリオ

カロン「だああああ」

ブン

ルイージ「えいっ！」

カアアアアアアアン

ルイージもカウンターでダメージを与え、反撃してカロンを倒す

カロンとホネブロスを倒し、先へ進むマリオ達

少し進むとドアがあり、マリオ達は入っていった

入るところには沢山の本があった

マリオ「ここは書斎だったみたいだな」

リイック「ん？」

ふと下を見ると鍵が落ちていた

リイック「マリオさん！ルイージさん！鍵が落ちてました」

マリオ「よしっ」

鍵を手に入れたマリオ達は鍵が掛かってるドアの所に戻った

カチャカチャ・・・

開けようとするマリオ達だが、鍵が合わなかった

マリオ「これは違う部屋の鍵みたいだ」

マリオ達は行ける範囲で城の中を探し始めた

数分後、鍵のかかった別のドアを見つけたマリオ達

マリオはさっき手に入れた鍵を使ってドアを開けた

開けるとそこは食堂だった

リイック「ここは食堂ですね」

食堂に入ったマリオ達

いきなりキノピオのゾンビがアップした

マリオ&ルイージ&リイック「!!!!!!」

ゾンビキノピオのアップに汗を流してたじたじするマリオ達

このゾンビキノピオは何者なのか!?

第31話 終わり

第32話 新技！イエローファイアー・クラッシュ炸裂

マリオ達の前に現れたゾンビキノピオ

ゾンビキノピオ「始めまして、私ここに住んでた者です」

ゾンビキノピオは昔アンデッドキャッスルに住んでたらしい

ルイーダ「キミは僕達の味方なんだね」

ゾンビキノピオ「はい、それをお願いします」

マリオ「なんだ？」

ゾンビキノピオ「リバイルを倒してください」

マリオ&ルイーダ「リバイル？」

ゾンビキノピオ「私達は死んでからずっと静かに暮らしてました、ある日リバイルがやって来て死体を操り始めたのです！奴はクリボーやノコノコの死体を配下に使っています」

リリック「ひどい……」

ゾンビキノピオ「リバイルさえ倒せばまた静かに暮らせます」

マリオ「わかった、絶対に倒してやる」

ゾンビキノピオ「ではこれが城の鍵です」

ゾンビキノピオから鍵をもらったマリオ達は部屋から出て行った

一方こちらは城の一番奥の部屋

リバイル「ふー……」

ソファーにくつろぎながらワインを飲むリバイル

その頃マリオ達は鍵の掛かっているドアの前まで来ていた

カチャカチャ……

鍵を使い、ドアを開けるマリオ達

開けると3匹のゾンビクリボーと2匹のホネブロスがいた

ホネブロス「侵入者だ！追い出せ！！」

マリオ達に襲い掛かるゾンビクリボーとホネブロス達

マリオ&ルイージ「イエローファイアー・クラッシュュ！！！」

ボボボボボ……

炎を纏ったマリオとルイージが合体して大回転して無数の黄色い炎弾が放たれる

イエローファイアー・クラッシュュでゾンビクリボー達を一掃したマリオ達

ゾンビクリボー達を倒し、先に進むマリオ達

進むと今度はドアが3つあったが、真ん中のドアだけ鍵が2重に掛けられている

ルイーダ「多分真ん中のドアの向こうにリバイルって奴がいるんだよ」

リック「どっちから行く？」

マリオ「左」

ルイーダ「右」

同時に喋るマリオとルイーダ

ルイーダ「右だよ兄さん！」

マリオ「兄の命令に逆らう気か！？左だ」

兄弟ゲンカするマリオとルイーダ

ルイーダ「よし、ジャンケンで決めよう」

マリオ&ルイーダ「最初はグー、ジャンケンホイー！」

ルイーダ「やったあー！」

マリオ「くそ……」

ジャンケンで右のドアを選んだマリオ達

入ると大量の頭蓋骨があつた

リック「うえ．．．．．」

マリオ「まるで地獄を絵に描いたようだな」

マリオ達は無事2つの鍵を手に入れられるのだろうか？
第32話終わり

第33話 毒の血地獄の脅威

アンデッドキャッスルを進むマリオ達

頭蓋骨が大量にある部屋をしのび足で進むマリオ達

突然1体の頭蓋骨が襲い掛かった

ルイーダ「ひえええええええ」

余りの恐怖に悲鳴を上げるルイーダ

マリオ「えやー!!」

パンチで頭蓋骨を攻撃するマリオ

マリオ「気をつけろ、カロンやブロスの骨も混ざっているぞ」

骸骨の中にカロン達の骨も混ざっているらしい

数秒後、大量の頭蓋骨の中から100本近くの骨が襲い掛かった

マリオ「ファイアボール乱れ打ち!!!!!!」

ルイーダ「グリーンタイフーン!!!!!!」

必殺技で骨を攻撃しまくるマリオ達

骨を一掃すると今度はレイホーが忍び寄って来た

レイホー「ヨヨヨヨヨ」

ブン

マリオ「おわっ！？この」

レイホーの攻撃をかわし、反撃するマリオ

敵を倒し、部屋の中を進むマリオ達

進むと鍵があつた

マリオ「鍵をゲットだ」

1つめの鍵をゲットしたマリオ達

ルイージ「今度は左の部屋に入ろう」

マリオ達は戻って今度は左の部屋に入った

入ると部屋中が血だらけだ

そこへ1粒の石ころが転がって来た

ジュワ・・・

マリオ&ルイージ「いいつ！？」

血の上に転がって来た石ころがみるみる溶けて無くなった

マリオ「ただの血じゃないみたいだな」

この血は触れた者を腐食させる毒の血なのである

マリオ「みんな！血に触れるな」

マリオ達は血に触れないよう、慎重に進んでいく

進むと血の中からゾンビクリボーが飛び掛った

マリオ「ファイアボール！！」

ファイアボールでゾンビクリボーを倒すマリオ

飛び散った血も避けて進んでいくマリオ達

一方こちらはアンデッドキャッスルのある部屋

リバイル「邪魔なネズミがここに近づいているな」

そろそろマリオ達が近づくを感じたりバイルは寛ぐのをやめ、戦闘の準備に取り掛かる

その頃マリオ達は2つ目の鍵を手に入れてた

マリオ「これで鍵が2つ揃った」

鍵を2つ手に入れたマリオ達は鍵が掛かっている真ん中のドアの前に来た

マリオ達は2つの鍵を使い、ドアを開けた
第3話終わり

第34話 マリオ怒りの鉄拳

2つの鍵を使い、ドアを開けるマリオ達

入るところにはリバイルがいた

ルイージ「お前がリバイルか!？」

リバイル「いかにも私の名はリバイル」

紳士的な振る舞いで自己紹介するリバイル

マリオ「今すぐゾンビどもを操るのをやめてそいつを渡せ!」

リバイル「いいだろう、だがゾンビを解放はできないな」

タイマーオーブを渡してゾンビを操るのをやめるマリオに対し、リバイルはオーブを渡せてもゾンビの解放を拒否する

リバイル「死体の数だけ駒を増やせる、そしてどこかで戦争でも起されば駒は大幅に増える!ヒャーハッハッハッハ!」

マリオ「!!!!!!うああああああ」

ドゴオオオオオオン

リバイルの言葉を聞いたマリオはキレて思いっきり殴り飛ばす

リバイル「やってくれるじゃないか」

マリオ「ルイージ！！絶対にこいつをぶち倒すぞ！！！」

ルイージ「うん！！！」

マリオ達とリバイルの戦闘が始まった

リバイル「そら」

怪しい光を3体の死体に浴びせるリバイル

怪しい光を受けた3体の死体は動き出し、マリオとルイージに襲い掛かった

ガッ バキ

ルイージ「兄さん、ゾンビは僕が引き受ける！兄さんはアイツを」

マリオ「わかった！雑魚はお前に任せた」

ゾンビの相手をルイージに任し、マリオはリバイルを潰しにかかる

マリオ「むああ」

リバイル「ふううん」

バウン ドカカカカ ドコオオオン

激しい攻防戦をするマリオとリバイル

リバイル「デス・チョップ」

マリオ「はっ！」

ビョンドム

デス・チョップをジャンプでかわし、カウンターをくらわすマリオ

一方ルイージは3体のゾンビと戦闘していた

ルイージ「グリーンフレアブレード!!!」

ザンツ

ゾンビA「カアアア……」

グリーンフレアブレードでゾンビAを倒したルイージ

ゾンビBとCの攻撃もハンマーで返り討ちにする

ルイージ「ドリルジャーンプ!!!」

体を縮ませ大ジャンプし、ドリルのように高速回転して急降下する
ルイージ

ドガガガガガガ……

ドリルジャンプでゾンビCも倒し、残りはBのみ

一方マリオはリバイルとの戦闘中だ

リバイル「カオス・スラッシュ!!!」

マリオ「ハリケーン・ファイア!!!」

ドオオオオオオオオ

カオス・スラッシュとハリケーン・ファイアがぶつかりあい相殺

行き詰るリバイルとの戦闘、勝利するのはどちらなのか!?

第34話終わり

第35話 劣勢！恐怖のゾンビ軍団

マリオ達とリバイルの戦闘は続く

リバイル「リビング・ブレス」

口からとてつもなく臭い息を吐くりバイル

マリオ「ふが……………」

余りの臭さに両手で鼻を摘むマリオ

リバイル「隙あり！」

シュツ バウン

すかさず近づいて強烈なパンチをマリオにくらわすリバイル

そしてルイージはゾンビ達との戦闘をしていた

ルイージ「えいりゃー！！」

ドコオオオオン

ゾンビB「アガ……………」

ハンマーでゾンビBを倒したルイージ

ゾンビを3体とも倒したルイージはマリオの援護にかけつける

マリオはリバイルとの戦闘中だ

ゾンビを片付けたルイーダが援護に入った

マリオ「ルイーダ、ゾンビどもは倒したようだな」

ルイーダ「今度はこいつを倒そう」

リバイル「この私を倒すだと？」

ニヤリと不気味に言うリバイル

リバイル「2度とその口が聞けないよう、究極の悪夢のを見せてやる」

マリオ「なにを！？」

リバイル「ぬうん」

リバイルの体から凄惨な光が放たれ、アンデッドキャッスル全体を照らした

すると城中のゾンビや白骨死体がマリオ達の所に集まった

マリオ「なんて数だ」

ルイーダ「でもあいつさえ倒せばOKだよ」

マリオ「流石に多いな、俺も手伝うぜ」

マリオとルイージは2人力を合わせてゾンビ達を倒し始めた

マリオ「ハリケーンファイアー!!!」

ルイージ「グリーンフレアブレード!!!」

マリオ&ルイージ「イエロー・ファイアー・クラッシュ!!!」

ドオオオオオン ボボボボボ シュバババババ

ゾンビ数十体「ギャアアアア」

白骨死体数十体「ガアアアア」

必殺技で次々とゾンビと白骨死体を倒していくマリオとルイージ

しかし相手の数が多すぎてキリがない

ルイージ「キリがないよ兄さん」

マリオ「しまった」

一瞬油断したマリオにゾンビどもが襲い掛かり、ルイージも白骨死体に埋め尽くされてしまう

それを見てニツと笑うリバイル

リバイル「こいつらを死体にしてそこに置け」

マリオ達を死体にして置くように命じるリバイル

パアアアアア………

リバイル「ん!？」

ドオオオオオオン

突然七色の光が漏れ、ゾンビと白骨死体を吹っ飛ばした

リバイル「なんだと!？」

マリオ「遊びは終わりだ………リバイル!!!!」

振り向くとそこにはエターナルスターパワーを発動させたマリオの姿があつた

第35話終わり

第36話 リバイルの最期……ゾンビ帝国の終る日

リバイルとの戦闘は続く

ついにエターナルスターパワーを発動させたマリオ

一方こちらは影の国

赤の壁が邪魔でいまだに進むことができないワリオ達

そしてマリオ達はリバイルとの戦闘中だ

マリオ「エターナルスターフラッシュ!!!!」

パアアアア……

ゾンビ&白骨死体「ゲゲエエエ」

リバイル「うげっ!?!」

ルイーダ「これが最後の警告だ、今すぐゾンビを操るのをやめるんだ!!!」

リバイル「誰がすかあああ!?!?!」

必死の形相でマリオに攻撃するリバイル

ガシッ ドオオオオオン

マリオはリバイルの攻撃をことごとく受け止め、強烈なカウンターをくらわす

リバイル「なぜ……」

マリオ「エターナルスターショット」

ドン

エターナルスターショットで大ダメージを受けるリバイル

リバイル「畜生……！！！！」

全ての攻撃が効かず、冷静さを失うリバイル

エターナルスターパワーを発動させたマリオにとってリバイルなど赤子同然である

マリオ「終らせるぞ」

リバイル「……………」

ゾクツとして振り向きリバイル

マリオ「エターナルスタービッグバン！！！！」

バアアアアアア

リバイル「ぐああああああ……………」

エターナルスタービッグバンでついにリバイルは倒された

リバイルが消えたと同時に全てのゾンビや白骨死体の動きが止まった

ルイージ「これでこの城のみんなも静かに眠れるね」

マリオ「そうだな」

リバイルを倒したマリオ達はタイマーオーブを手に入れた

マリオ「これで3つだな」

ワリオ達のと合わせて5つのタイマーオーブを手に入れたマリオ達

タイマーオーブを手に入れたマリオ達は城を出た

出ると赤いブロックがあった

マリオ「あれ？このブロック」

リイック「さっきまでは無かったのに」

ルイージ「とにかく叩いてみよう」

ブロックを叩くルイージだが、何の変化も無かった

マリオ「何も起こらないぞ？」

そしてこちらは影の国

ワルイージ「何で突然壁が消えたんだ!？」

ミント「分からないけどこれでオーブのある場所に近づけるわ」

赤の壁が消え大喜びするワリオ達はタイマーオーブをある場所目指して走っていった

第36話終わり

第37話 組織の影再び

赤の壁が消え、大喜びで走るワリオ達

ビビアン「次のタイマーオーブはブラッド・ファクトリーにあるんだったわね」

ミント「はい」

タイマーオーブはブラッド・ファクトリーにあるらしい

一方こちらは敵のアジト

???「オーブの場所が分かったぞ、影の国のブラッド・ファクトリーだ」

スィープ「分かりました」

ボスからオーブの場所を聞いたスィープはクレス達の所に行った

数分後、クレス達の所に来たスィープ

スィープ「タイマーオーブは影の国のブラッド・ファクトリーにあります」

クレス「俺がいこう」

ユージ「いえ私が」

ヴィアーデ「私が」

クレス&ユージ&ヴィアーデ「なにを〜〜！！！！？」

いきり立ってケンカするクレス達

スィーブ「おやめなさい！！！！」

ドオオオオオン

雷でクレス達を吹き飛ばすスィーブ

スィーブ「くじ引きで当たりを引いた人が行きなさい」

ケンカをやめ、3人同時にくじを引くクレス達

ユージ「やったあ！！」

ヴィアーデ「チツ……」

ユージは喜んで影の国に行った

こちらは影の国

ブラッド・ファクトリー目指して進むワリオ達

少し進むとロボノコが現れた

ビビアン「任せて、魔法の炎！！！！」

バウウウウン

魔法の炎で攻撃するビビアンだが、ロボノコには効果がない

ビビアン「炎が効かない!？」

ワリオ「だったらパワーだ!!ブル・タツクル!!！」

ドオオオオオオン

ブル・タツクルで攻撃するワリオだが、ロボノコは高い防御力と耐炎性を誇ってた

ミント「どうするのよ!？」

ワリオ「どうしようにも俺様のパワーも通用しないんだぜ？」

じりじりと追い詰められ、ピンチに立たされるワリオ達

ワルイージ「ええい!ワルイージ・スパークル!!！」

ジジジジジジ……

窮地に立たされワルイージ・スパークルを放つワルイージ

ロボノコ「ピ……ガ……ピガ……ガ……」

ワルイージ・スパークルを受けたロボノコは狂いだしてそのまま倒れた

ビビアン「もしかして電氣にだけは弱いんじゃない？」

ロボノコは炎にも打撃にも強いが、電氣には凄く弱いのである
ワルイージ「またあのポンコツが出たら俺様が痺れさせてやる」

ロボノコを倒したワリオ達はさらに先に進むのだった

第37話終わり

第38話 チームワークで突き進め

ロボノコを倒し、ブラッド・ファクトリー目指して進むワリオ達
進むと今度はクリボーグが現れた

ワルイージ「またこいつで痺れさせてやる！ワルイージ・スパーク
ル！！！」

バアアアアン

ワルイージ・スパークルをクリボーグにくらわすワルイージ

しかしクリボーグは全く無傷だった

ワルイージ「こいつ機械の癖に」

ビビアン「魔法の炎！！」

ポオオオオオオオ

クリボーグ「ビ……ビ……」

魔法の炎でクリボーグを倒したビビアン

ビビアン「ロボットクリボーはアタイに任せて」

クリボーグを倒すと今度はアイアム・ロボが襲って来た

ワルイージ「ワルイージ・スパークル!!」

ビビアン「魔法の炎!!」

ドガアアアアン

同時攻撃をするワルイージとビビアン

電撃と炎を同時にくらってもアイアム・ロボは平気だった

ワリオ「俺様に任せろ!!」

ドゴオオオオオン

力任せの体当たりでアイアム・ロボを破壊するワリオ

ワリオ「あんなロボ、いくらでもぶっ壊してやる」

メカノコをワルイージに、クリボーグをビビアン、アイアム・ロボをワリオに任せて進むワリオ達

進むと今度はメカノコとクリボーグが現れた

ワルイージ「ワルイージ・スパークル!!」

ビビアン「ファイア・スラッシュ!!」

攻撃をするワルイージとビビアン

見事なチームワークで進んでいくワリオ達

その様子を上空からユージが見ていた

ユージ「あいつらより先に行っておくか」

ユージはワリオ達より先に急いでブラッド・ファクトリー目指して進んでいった

数分後、ブラッド・ファクトリーに着いたユージ

ユージ「ここがブラッド・ファクトリーか」

ブラッド・ファクトリーの中を進むユージ

進んでいくとポイズンダクトがあつた

ユージ「この先だな」

息を止めてポイズンダクトを進むユージ

ユージ「……………！！！」

息が苦しくなり、ユージは走ってポイズンダクトから出た

ユージ「ゼエ…………ゼエ…………こりゃあいつらが持ってくるまで待つしかねーか」

ユージは隠れてワリオ達がポイズンダクトからタイマーオーブを持つてくるのを待つことにした

その頃ワリオ達はブラッド・ファクトリー目指して進んでいた

数分後、ブラッド・ファクトリーに着いたワリオ達

ビビアン「ここがブラッド・ファクトリーね」

ミント「ここどこかにタイマーオーブがあるはずですよ」

ワリオ「絶対に見つけるぞ！」

ワルイージ&ビビアン「オオーー！！！」

ワリオ達はタイマーオーブを探しにブラッド・ファクトリーに入っていった

第38話終わり

第39話 大工場ブラッド・ファクトリー

ブラッド・ファクトリーに着いたワリオ達

ワリオ「さつさとオーブを見つけてこようぜ」

ワリオ達はタイマーオーブを探しにブラッド・ファクトリーの中に入っていた

少し進むとプレス機が置いてあった

ワリオ達はタイミングを見計らって潰されないよう素早く進む

ワルイージ「いいいー！ー！？」

僅かに遅れてしまったワルイージの指がプレスされた

ワルイージ「っー……」

晴れ上がった指を治すワルイージ

何とか指も治り再び進むワリオ達

進むと今度はマホマホが襲って来た

マホマホ「シンニユウシャハイジヨ」

ワリオ「でええい！！」

バキン

パンチでマホマホを破壊するワリオ

一方こちらは影の国の研究所

ドペルが何やら新しい発明をしていた

ドペル「できたー!!」

ルリナ「何ができたの？」

そこヘルリナがやって来た

ドペル「これはどんなに長い時間息を止めていても平気、その名もエア・エコー！毒ガスの中だって、宇宙空間だって、これがあればどんな所にも進める」

ルリナ「つまり小型酸素装置みたいなものね」

ドペル「そ・・・そうじゃ……」

一方ワリオ達はブラッド・ファクトリーの中を進んでた

少し進むとポイズンパンジーさんが現れた

ビビアン「魔法の炎!!!」

ゴオオオオオオ

ポイズンパンジーさん「ひiiiiiiii!？」

魔法の炎でポイズンパンジーさんを倒すビビアン

ポイズンパンジーさんを倒し、先に進むワリオ達

進んでいくとポイズンダクトがあつた

ミント「この先にオーブがあるわ」

ワルイージ「よし行こう」

ワリオ達は息を止めてポイズンダクトの中を進んだ

息を止め、ポイズンダクトの中を進むワリオ達

ワリオ達「……………!!!!」

数分たち、急に息苦しくなったワリオ達は走ってポイズンダクトの中から出た

ビビアン「な……なんなのよ?あれ」

ワルイージ「こんなのとても無理だ」

ミント「でもオーブはあのダクトの一番奥にあるし……」

ビビアン「一旦戻って方法を考えましょ」

ワリオ「そうだな……」

ワリオ達はポイズンダクトの中を進む方法を考えにブラッド・ファクトリーから離れていった

第39話終わり

第39話 大工場ブラッド・ファクトリー（後書き）

キャラ紹介

『ドペル』

影族の科学者で、薬や機械の開発が得意
エア・エコーなどを開発し、ワリオ達をサポート
たまに失敗してしまう事もある

第40話 ドペルの大発明

ポイズンダクトの奥にあるタイマーオーブを取る方法を考えにブラッド・ファクトリーから離れたワリオ達

ワリオ「よりによってあんな所とは」

ワルイージ「酸素装置でもなきゃ無理だぜ」

ビビアン「……あつ!!」

突然ビビアンが何かを思いついた

ミント「どうしたんですか？ビビアンさん」

ビビアン「ドペルの研究所に行きましょう！もしかしたらポイズンダクトの中を進める発明品を作ってくれるかも」

ワリオ「よし！ドペルの研究所に行くぞ」

ワリオ達はドペルの研究所向かって走っていった

一方こちらは敵のアジト

スィープが書類を書き上げていく中、コンコンとドアを叩く音がした
スィープ「どうぞ」

ギルジン「俺だ」

スィーブ「これは三聖士のギルジンさん」

入って来たのは三聖士の1人ギルジンだ

ギルジン「あいつらが何か新しいアイテムを使ってオーブを手に入るつもりだ」

スィーブ「分かりました、直ちにクレスさんに奪ってくるよう言うておきます」

ギルジンが部屋から出るとスィーブはクレスに影の国に向かうよう命じた

その頃ワリオ達はドペルの研究所目指して進んでた

数十分後、ドペルの研究所に着いたワリオ達

ワルイージ「ドペルの研究所か」

研究所に入っていくワリオ達

そこにはルリナとドペルの姿があった

ビビアン「ルリナ！何でこんな所に」

ルリナ「久しぶりにドペルの発明品を見に来たのよ」

ワリオ「……ああ！！お前確か武道会の決勝でマリオと戦ってたな」

ワリオとワルイージがルリナと会うのは武道会以来である

ミント「ビビアンさんとルリナさんって、そっくりですね」

ドペル「で、何の用ですか？」

ワルイージ「そうだった！ポイズンダクトにあるタイマーオーブを取りに行きたいんだ？」

ルリナ&ドペル「タイマーオーブ」

ミントはタイマーオーブを集める理由を説明した

ミント「私達の時の国がある組織に襲われ12個のオーブが散ってしまったんです、オーブは2つの世界にそれぞれ6つずつ散らばったのです」

ルリナ「この前あたしを襲ったのもその組織の仲間だったんだ」

ドペル「その組織の名前はなんて言うんですか？」

ミント「分からないわ、組織の名前もボスの正体も知らないの」

ドペル「そうですね、でも何となく事情は分かりました、これを使ってくださいエア・エコーです、これさえあればポイズンダクトの中でも平気です」

ビビアン「ありがとうドペル」

ワリオ「こいつはありがとう」

ドペルからエア・エコーを受け取るワリオ達

ドペル「では頑張ってください」

エア・エコーを受け取ったワリオ達は研究所を出ていった

ヒュウウウウ ドオオオオン

研究所から出た途端、攻撃が飛んで来たのだった
第40話終わり

第40話 ドペルの大発明（後書き）

キャラ紹介

『ギルジン』

デスタイムスの三聖士の1人

冷静沈着で、必要以上に痛めつけるのをあまり好まない

戦闘力はかなり高く、エターナルスターのマリオより

も遙かに上である

第41話 奪われたエア・エコー

ドペルからエア・エコーをもらい、研究所を出たワリオ達

しかしその途端攻撃が飛んで来た

振り向くとそこにはクレスがいた

ワルイージ「またお前か!？」

クレス「悪いが、そいつを2つほどもらっぞ」

ビビアン「誰があげるもんですか!ベー」

クレスにあっかんべーをするビビアン

クレス「ならば力づくで奪うまでだ!!!」

挑発されて怒ったクレスはカブトムシのような怪人態に変身した

ルリナ「あたしがやるわ」

クレス「けっ、小娘1人に何が」

ワリオ「早く逃げて降参した方がいいと思うぞ」

ルリナに挑もうとするクレスだが、ワリオは逃げた方がいいと、クレスに言う

クレス「らあああああらららら！！！！」

全力で攻撃するクレス

しかしルリナはクレスの必死の連打攻撃を次々と避けてしまう

一瞬の隙を突き、そして……

ルリナ「カゲぬけパンチ！！！」

ドゴオオオオオン

強烈なパンチをクレスに叩き込むルリナ

クレス「ぐお……お……お……」

あまりの痛さに苦悶の表情を浮かべるクレス

その頃ビアン達はブラッド・ファクトリー目指して進んでた

ワリオ「あそこにルリナがいて助かったぜ」

ワルイージ「あんな奴ルリナの敵じゃないな」

一方こちらはキノコワールド

マリオ達が小休止していた

ルイージ「次のタイマーオーブはどこにあるの？」

リック「オーブを見つけに行く前にある場所に行きましょう」

マリオ「行くって？どこに？」

その影の国の研究所ではルリナがクレスと戦ってた

一方的にやられ、戦闘不能寸前のクレス

ルリナ「大人しく引き下がるなら、命だけは見逃してあげるわ」

ゾルビア「全くなさない、この程度の奴にてこずるとは」

ルリナ「誰なの？」

クレス「ゾルビアさん……」

戦いの最中に三聖士の1人であるゾルビアが現れた

ゾルビア「クレスさんはあそこに残っている1つだけでも奪って来なさい」

ルリナ「まちな……きゃあああ」

エア・エコーを奪おうとするクレスを止めようとしたルリナだが、ゾルビアに阻まれてしまう

ゾルビア「そうはさせません」

ルリナ「ファイア・ウィップー!!」

ゾルビア「むっ!？」

ルリナ「だあああああああ!?!?!?!」

ファイア・ウィップごとゾルビアを高く投げるルリナ

ゾルビア「ふっ……、はあああああ」

だがゾルビアは余裕の笑いを見せ、空中から無数のエネルギー弾で攻撃する

ドドドドドドドド……

クレス「やったぞ!！」

ルリナ「しまった」

ゾルビア「私の役目はここまでするね、また戦えるといいわね、今度は遊びじゃなしに」

あれだけの強さにも関わらず、ゾルビアは本気を出していなかった

クレスは重傷を負いながらもエア・エコーをユージに届けた

その頃ワリオ達はブラッド・ファクトリーの中を進んでいた

少し進み、ワリオ達はポイズンダクトの前に着いたのだった

第41話終わり

第42話 猛毒モクモク！ポイズンダクト

ブラッド・ファクトリーのポイズンダクトの前に着いたワリオ達

ワリオ「早速」

ワリオ達はエア・エコーをつけてポイズンダクトの中に入っていった
ポイズンダクトの中を進むワリオ達

エア・エコーのおかげでどんなに長い時間息を止めても平気である
少し進むとドクラゴンが襲って来た

ブン

猛毒が染みた尻尾で攻撃するドクラゴン

ビビアン「カゲがくれ」

ワリオ&ワルイージ「はっ」

ビビアンはカゲがくれで回避し、ワリオとワルイージもジャンプで
避ける

ワリオ「今度はこっちの番だ！ダブルパワースタンプ！」

ドゴオオオオオン

強力な両手のパンチをドクラゴンに叩き込むワリオ

ダブルパワースタンプでドクラゴンを倒し、先に進むワリオ達

進むとクネクネした細い通路があり、下には緑色の液体があつた

ミント「……………」

液体の中に鉄くずを入れるミント、鉄くずは一瞬の内に溶けて無くなった

ミント「あそこに落ちたら一巻の終わりね」

一方こちらはポイズンダクトの入り口前

ユージがワリオ達がタイマーオーブを持って来るのを待っていた

するとそこへ重傷を負ったクレスが来た

ユージ「クレス！？どうしたんだその怪我は！？」

クレス「話は……あとだ……これをつければ……ポイズン……ダクトの……中でも……自由に進むことができる」

クレスはユージにエア・エコーを渡すとアジトに戻っていった

ユージはクレスから受け取ったエア・エコーをつけてポイズンダクトの中に入っていった

その頃ワリオ達はポイズンダクトの中を進んでた

液体に触れないよう、慎重に進むワリオ達

少し進むと奥で何かが光っていた

ワルイージ「あれはまさか!？」

その光の方へ走っていくワリオ達

数分後、ワリオ達はタイマーオーブを発見した

ワルイージ「タイマーオーブ発見」

マリオ達のと合わせて6つめのタイマーオーブを手に入れたワリオ達

ワリオ「とつとと出ようぜ」

タイマーオーブを手に入れたワリオ達は引き返した

進んでいくとユージと遭遇してしまった

ユージ「そいつにこっちに渡してもらおうか？」

ビビアン「あんたは!」

ユージ「クレスがこいつをくれたおかげで入れたよ、もっとも彼は
相当な重傷だけどね」

ワルイージ「まさか……」

ビビアン「それはまず無いわ、ルリナがあいつに負けるはずはない、だとすればもつと強い別の誰かが来て援護したと考えられるわ」

ワリオ「もしかして、この前保育園に現れたあいつか!？」

ビビアン「ありうるわ……………」

ユージ「ここでお前たちを始末してくれる」

そう言っているとユージはカマイタチのような怪人態に変身したのだった
第42話終わり

第43話 ユージ脅威の巨大竜巻

カマイタチのような怪人態に変身したユージ

ユージ「さつさとオーブを渡せ！」

ワリオ「てめえにはやんねえよ！」

オーブを渡すまいとワリオ達も戦闘体勢に入る

カマイタチ「切り裂いてやる！！」

鎌のような両手を振り回して攻撃するユージ

ササササ

ワリオ達はユージの攻撃を下がりながら避けていく

ワリオ「ブル・タックル！！」

ドゴオオオオン

ユージ「ぐううう……！！」

両手をクロスしてワリオのブル・タックルを何とか防いだユージ

ワルイージ「ワルイージ・ボム」

ビビアン「魔法の炎！」

ピタタタタ　ドカアアアアン

ユージの身体にワルイージが爆弾をくっつけ、ビビアンが炎で爆発させる

ユージ「ぐああああ!!」

至近距離の爆発を受けて大ダメージのユージ

一方こちらは敵のアジト

ボスがスリーブの部屋に入ってきた

???「クレスの様子はどうか?」

スリーブ「手当てを受けて、現在睡眠中です」

???「そうか、もう少ししたら私も仕事に行かねばならん」

その頃ワリオ達はポイズンダクトでユージとの戦闘中だった

ユージ「これでもくらえ!!」

カカシのようなポーズを取り、大回転し始めたユージ

数十秒後、ユージは巨大な竜巻になって襲い掛かった

ゴオオオオオオ……………

ワリオ&ワルイージ「うおおおおお!？」

ビビアン「きゃああああ」

巨大竜巻に巻き込まれてしまふワリオ達

ワリオ「3人同時攻撃で脱出するぞ」

ワルイージ&ビビアン「うん」

ワリオ「どおおお!!」

ワルイージ「でええええい!!」

ビビアン「やああああ!!」

ユージ「何!？」

同時攻撃で何とか脱出したワリオ達

ワリオ「いてて、ダメージを受けすぎたかな」

ユージ「しぶとい奴らだ」

行き詰るユージとの戦闘!戦いは次回へと続く
第43話終わり

第44話 再会

ワリオ達とユージの戦闘は続く

ユージ「小賢しいねずみが……！」

両手のカマを激しく振って攻撃するユージ

ビビアン「フレイム・チェーン」

左手から炎の鎖を出して攻撃するビビアン

ユージ「何だ!？」

ビビアン「く……くうう……」

フレイム・チェーンでユージの両手を封じ、力いっぱい引っ張るビビアン

ユージ「この……くそ……」

ビビアン「今よ……！」

ワリオ&ワルイージ「必殺!フルサンダーアタック……！」

ワルイージの電撃を帯びたワリオがユージに体当たりする

ドオオオオオオオオオオ

ユージ「ぐあああああ」

フルサンダーアタックで大ダメージを受けたユージ

ユージ「今度は必ず………」

ユージは捨て台詞を残して去って行った

一方こちらはキノコワールド

リイック「そろそろ行きますよ」

マリオ「タイマーオーブを探しにか？」

リイック「違います、僕に捕まってください」

マリオとルイージはリイックに捕まった

リイック「行きますよ！ええい」

リイックの体から眩しい光が放ち、マリオ達はある空間に着いた

そして影の国ではワリオ達がタイマーオーブを手に入れた

ビビアン「危ないところだったわ」

マリオ達のと合わせてこれで半分のタイマーオーブが集まった

ミント「早速行きますよ、皆さん私に捕まってください」

ワリオ達はミントにすっかり捕まった

すると眩しい光と共にワリオ達はある空間に着いた

ワリオ「いてて、ここは……、ああ!？」

マリオ「ワリオ!？お前何でこんな所に!？」

ワリオ「そういうお前こそ」

空間で再会したマリオブラザーズとワリオブラザーズ

リリック「お姉ちゃん!」

ミント「リリック!」

何と!リリックとミントは姉弟だったのだ

それを見て驚きの表情を隠しきれないマリオ達

ビビアン「それよりここはどこなの?」

ミント「ここは時の空間、ここを進めば私達の国、時の国に着きます」

マリオ「時の国か……よし行こう!」

ワリオ「あそこに行けば何か情報が得られるかもな」

マリオ達は時の国目指して出発した

果たして時の国とはどんな所なのだろうか！？
第44話終わり

第45話 時の国へ

時の国目指して出発したマリオ達

ビビアン「久しぶりねマリオ」

マリオ「ホントだな、それよりお前たちもタイマーオーブを集めてたんだな」

ワリオ「へへ、もう3つも集まったぜ」

ルイージ「僕達も3つ集めたよ」

リィック「凄いです！これで半分集まりました」

6つのオーブを見て喜ぶリィック

一方こちらは敵のアジト

スィーブがボスの前に立っていた

スィーブ「……様、団員達に襲撃命令を出しています、今度こそ息の根を止めてくれるでしょう」

????「行け、スィーブ」

スィーブ「え!？」

????「お前も行くのだ!」

スィープ「私ですか!？」

???「奴らは既に6つのオーブを集めている、行き先はおそらく時の国だ!行つて奴らを根絶やしにしてこい」

スィープ「わかりました!」

???の命令でスィープも時の国に向かう事にした

その頃マリオ達は時の空間を進んでた

少し進むと光が見えて来た

ミント「あの光の向こうが時の国です」

マリオ達は一斉に光の中に飛び込んだ

ヒュウウウウ……ドサ

マリオ「いてて……、ここが時の国か」

ついに時の国に着いたマリオ達

そこには塔がいくつもあり、天辺には3つの針が動いてた

ミント「全ての時間がここで監視されているの」

説明をしている最中に誰かが来た

リミータ「ミントくーん！！！！」

ミント「リミータさん！！！」

リミータ「奴らが来たぞ！！！」

軍団員数百人「おらおらおらー！！！！！」

正面から数百人の軍団員が襲い掛かって来た

マリオ「みんな！いくぞ！！！」

ルイーダ「グリーンサンダー！！！！！」

ビビアン「メロメロキッス！！！」

ワリオ「ブル・タツクル！！！」

ワルイーダ「ワルイーダ・ボム！！！」

マリオ「アイス・ハリケーン！！！！！！！」

ビシャアアアン ホワアアア ドゴオオオン ドオオオオン ビュ
オオオ

一斉攻撃をするマリオ達

軍団員数百人「ひひひひひ！！！！！」

マリオ達の強さを前に逃げ出す軍団員達

ワルイージ「あっけなかったな」

リミータ「驚きましたよ！あれだけの軍勢を退けるとは」

リック「リミータさん、マリオさん達を長老を合せてくれます？」

リミータ「もちろんです、こちらへどうぞ」

助けてもらったお礼にリミータは長老の所へ案内するのだった
第45話終わり

第46話 凶悪犯罪集団！その名はデスタイムス！！

リミータに長老の所へ案内されたマリオ達

リミータ「ここが長老の家です」

早速長老の家に入るマリオ達

長老「お客さんとは久しぶりじゃ」

ミント「紹介します、彼らがタイマーオーブを集めているマリオさん達です」

リック「もう6つも集めたんだよ！」

長老「この間、あいつらが襲った時はどうなるかと心配したわい、礼を言う」

マリオ達に感謝する長老

長老「さっそく時限の塔に行くぞ」

マリオ達を時限の塔に案内する長老

長老「早速タイマーオーブをその台座に置いてくれ」

タイマーオーブを台座に置くマリオ達

するとタイマーオーブが神々しく輝きだす

時間の流れが元に戻ったが、まだ完全ではないようだ

長老「時間の流れを完全に戻すには残り6つのタイマーオーブが必要じゃ」

マリオ「それより長老！」

長老「なんじゃ？」

マリオ「俺たち、ここに来るまでにここを襲った組織の連中と戦いました。あいつらは一体何者なんだ！？」

長老はマリオの質問に答え始めた

長老「奴等はデスタイムス！！！」

マリオ達「デスタイムス？」

ついに判明した組織の名前

長老「奴らは自分達の都合のいいように歴史を変えようとする犯罪集団」

ルイージ「なんて勝手な奴らなんだ！」

マリオ「絶対許さねエ！」

デスタイムスに怒りをむけるマリオとルイージ

長老「ボスは多くの部下を率い、さらに三聖士と呼ばれる3人の超強力幹部がいる」

ワルイージ「もう会ったぜ。その中の1人だと思う女に」

ワリオ「いくらお前がエターナルスターパワーを使っても簡単には倒せないと思うぜ」

ルイージ「兄さんは無敵なんだ！！絶対に負けない！！」

喧嘩するワリオとルイージ

一方こちらは時の国の街中

スィープの所に軍団員の1人がヨタヨタと歩いて近づいた

軍団員「もうしわけ……ありません……」

スィープ「あなた達は下がりなさい！私が直接行くわ」

スィープは冷たい視線でマリオ達の所へと近づいていった

その頃マリオ達は長老の家でお茶を飲んでた

マリオ「三聖士が来ても俺がエターナルスターパワーで成敗してやる」

カッコよく決め台詞を言うマリオ

ビビアン「頼もしいわ、三聖士はアタイじゃとても太刀打ちできない

い
」

ルイージ「僕やワリオ達じゃ無理だけど、兄さんやルリナとかなら
対抗できそうだね」

スィーブが近づいているとも知らずにマリオ達のはのんびりとお茶を
飲むのだった

第46話終わり

第47話 スーパー襲撃

長老の家でくつろぐマリオ達

長老「組織の名前は分かっておるが、ボスの正体はまだわからん」

ワルイージ「そうか、だがボスがどんな奴だろうとオレがひねってやるよ」

ルイージ「お前には無理だと思う」

ヒュウウウウ…… ドカアアアン

突然エネルギー弾が長老の家を直撃し、破壊した

すぐさま家を出るマリオ達、目の前にはスーパーがいた

ビビアン「誰なの!？」

スーパー「私はスーパー、デスタイムスの指令長官を任されているものです」

ビビアン「デスタイムスの指令長官……」

マリオ達の前に現れ、自ら戦線に立つスーパー

マリオ「気をつけろ、今までの奴とは格が違うみたいだ」

ワリオ「どきな、ブル・タックル!!!」

いきなりブル・タックルをお見舞いするワリオ

ドン

しかしスィーブはワリオのブル・タックルを受け止めてしまう

ワルイージ「ゲッ!? ワリオのブル・タックルを受け止めたアアア
!?!」

ワリオの攻撃が受け止められ、驚くワルイージ

ビビアン「魔法の炎!!」

魔法の炎で攻撃するビビアン

スィーブ「何をするのですか? 火傷するではありませんか」

ビビアン程度の攻撃ではスィーブにはほとんどダメージを与えられない

ワリオ「ビビアンでもダメか……」

マリオ「みんな下がってろ、こいつは俺が食い止める」

と言い、エターナルスターパワーを発動させるマリオ

バシュ ドカ ベシ バコ

激しい攻防戦をするマリオとスィーブ

ビビアン「何て奴なの!？」

ルイーダ「エターナルスターの兄さんと互角に渡り合うなんて」

変身してもいないのにエターナルスターのマリオと互角に戦うスイーブ

スイーブ「リゴル・シャイバー!！」

エネルギーの光線を蜘蛛の糸のように攻撃するスイーブ

マリオ「エターナルスターフラッシュユ!！」

ドカアアアアン

エターナルスターフラッシュユでリゴル・シャイバーを掻き消すマリオ

その頃ルイーダ達は時の国の住民達を安全な場所に避難させてた

ミント「こっちは終わったわ」

ワリオ「俺たちの方も終わったぜ」

住民達を安全な場所に避難し終えたルイーダ達

そしてマリオはスイーブとの激しい戦闘を繰り広げていた

スイーブ「ライティング・スラッシュユ!！」

マリオ「エターナルスターショット!!!」

ドオオオオオオオン

エターナルスターショットとライトニング・スラッシュがぶつかり
合い相殺

果たしてマリオはスイープに打ち勝つ事ができるのだろうか!?
第47話終わり

第48話 ダウスの演説

マリオとスィープの戦闘は続く

スィープ「核酸弾……！」

シュバアアアア……

エネルギーを核酸させ、雨のように降らして攻撃するスィープ

マリオ「エターナルスターシールド……！」

ババババババ

エターナルスターシールドでスィープの核酸弾を防御するマリオ

煙が巻き上がり、互いの姿が見えなくなる

スィープ「………！？」

煙が晴れてきたが、マリオの姿は見当たらなかった

スィープ「ど、どこだ……！」

辺りをキョロキョロしてマリオを探すスィープ

マリオ「ここだ……！！エターナルスターショット……！」

ドゴオオオオオン

エターナルスターショットくらい、フラつくスリーブ

スリーブ「中々やりますね……いずれ貴方達は近い未来、我々デスタイムスの本当の恐ろしさを知ることになるでしょう、私は療養に行かねばなりませんね」

スリーブはそのまま去って行った

一方こちらはキノコワールド

時の流れが少し元に戻った事で、ちょっとだけ安心する住民達

そこへダウスが歩いて来た

ダウス「ちょっと道を開けてくれますか？」

キノピオ「あつ、はい」

ダウスに道を譲ってあげるキノピオ

数分後、マイクの付いた台の上に上がり、演説を始めたダウス

ダウス「えー、みなさん。先程無茶苦茶だった時間の流れが少し元に戻りました。これはマリオ達がタイマーオーブを時の国に戻したからと私は確信しています」

ピーチ姫「マリオ達頑張ってるのね」

ダウス「しかしまだ時の流れは完全に元に戻っておりません、マリ

オ達が全てのオーブを時の国に戻す日が来るのを私は祈ってます」

パチパチパチ……

ダウスの言葉に拍手するキノピオ達

そしてこちらは時の国

マリオ達が出発の準備を終えてた

ビビアン「マリオ、頑張ってたね」

マリオ「ビビアンもあんまり無理すんなよ」

ワリオ「どんな奴だろうと俺様のパワフルパワーでぶっ飛ばしてやるぜ！」

ミント「リックも危なくなったら逃げるのよ」

リック「僕だって頑張るよ」

数分後、長老がやって来た

長老「では準備はいいか？」

マリオ達がコクンと頷くと長老は不思議な力を使い始めた

マリオとルイージとリックはキノコワールドに、ワリオとワルイージとビビアンとミントは影の国へワープした

ワリオ「さっそく出発だ！……といたいが」

ワリオ達の前には巨大な黄色い壁があった

一方こちらはキノコワールド

マリオ「んじゃ7個目のタイマーオーブを探しに行くか」

長老の力で元の世界に戻ったワリオ達、残り6つのタイマーオーブを探しに出発するのだった

第48話終わり

第49話 落ちたマリオ達

残り6つのタイマーオーブを探しに出発したマリオ達

マリオ「タイマーオーブの場所は何？」

リィック「アチサム山の頂上に反応があります」

マリオ「アチサム山目指して出発だー！」

ルィージ&リィック「オオーー！！」

アチサム山目指して出発したマリオ達

一方こちらはデスタイムスのアジト

スィーブが救急箱で自分を手当てしていた

スィーブ「あれが永遠なる星の力……」

エターナルスター技で受けたダメージを回復させるスィーブ

そこへヴィアーデが来た

ヴィアーデ「スィーブさん、その怪我は？」

スィーブ「なんでもありません」

ヴィアーデ「それよりボスは？」

スリープ「……様なら仕事に出かけて、もうそろそろ戻る頃です。それよりヴィアーデさんは急いでアチサム山に向かってください！」

スリープの命令でアチサム山へと向かったヴィアーデ

その頃マリオ達はアチサム山目指して歩いてた

少し進むと突然上からファイアブロスとアイスブロスが降りて挟み撃ちになった

ファイアブロス「くらえマリオ！ファイアボール！！」

アイスブロス「アイスボール！！」

口からアイスボールとファイアボールを吐き出すブロス達

ルイージ「兄さん！」

マリオがルイージの上に乗っかり、回転し始めた

クルルルルル…… バシ

ファイアブロス「ギャア」

アイスブロス「ゲツ」

アイスボールをファイアブロスにファイアボールをアイスブロスへと弾いたマリオ達

マリオ「今だ!!」

マリオ&ルイージ「ブラザーハンマートルネイド!!!」

ファイアブロス&アイスブロス「ギャアアアア」

ブラザーハンマートルネイドでブロス達を倒したマリオ達

ブロス達を倒し、先に進むマリオ達

進むと長い崖があり、4つの竜巻が上下に回転していた

マリオ達は竜巻の動きを見てタイミングを見計らう

マリオ&ルイージ「それ!!」

回転し、さらに竜巻の勢いで先に進むマリオ達

しかし4つめの竜巻のタイミングがズレてしまい、落っこちるマリオ達

落ちるとそこにいたのはブロス達の群れだった

ボムブロス「これでもくらえ!!」

マリオにむかって爆弾を投げるボムブロス

マリオ「この!!」

マリオはハンマーで爆弾を打ち返す

カキン ドカアアアン

ボムブロス「……………」

自分が投げた爆弾でダメージを受けて気絶するボムブロス

マリオ「どうやらブロスの巣窟に落ちてしまったぜ」

回転ジャンプ移動に失敗し、ブロスの巣窟に落ちてしまったマリオ達。果たして脱出の術はあるのだろうか？

第49話終わり

第50話　ブросの巣窟を脱出せよ！

ブросの巣窟に落ちたマリオ達

マリオ「どこかに地上への道があるはずだ、探そう」

マリオ達は地上へ出る道を探しに巣窟の中を歩いた

少し進むとソードブロスと遭遇した

ソードブロス「ハッハッ！」

5本の短剣を投げるソードブロス

カキンカキン

しかしマリオとルイージはハンマーで短剣を叩き落す

ルイージ「ルイージサイクロン！！！」

シュゴオオオオオ

ソードブロス「ギャアアア」

ルイージサイクロンでソードブロスを倒すルイージ

ソードブロスを倒し、先へ進むマリオ達

一方こちらはデスタイムスのアジト

ボスが部屋に戻って来た

「???」奴等の動きは？」

スィーブ「どうやら巢窟に落ちてしまったようです。オーブはヴィアーデさんが探しに行ってます」

「???」少しは時間が稼げるかもな」

そしてこちらはデスタイムスのアジトのある部屋

ユージとギルジンがチェスをしていた

タン

ユージ「ゲッ!!」

かなりヤバイ所に駒を置かれ、汗ダクダクのユージ

ユージ「ギルジンさん、ちょっと待ってください?」

ギルジン「ノー」

待ってくれるように要求するユージだが、ギルジンは手を横に振ってノーと言う

チェスをするギルジンとユージ、そこへゾルビアが入って来た

ギルジン「ゾルビアか…」

後ろを向いているのに気配でゾルビアと分かったギルジン

ゾルビア「ギルジンの方が圧倒的に優勢ね、それと私がこの前戦つたあの影族の女の子はユージさんごときが手に負える相手ではありません」

ルリナの事をユージに教えるゾルビア

その頃マリオ達はブロスの巣窟を進んでた

襲い来るブロス達を次々と倒し、先へ進むマリオ達

少し進むと地上への光が見えてきた

ルイーダ「やった！出口だ」

勢いよく出口へ走っていくマリオ達

あと1歩というその時……

ドオオオオオオオオオオオオ

突然ばかでかいブロスが立ちはだかった

ドンブロス「お前たちだな、わしらの住処で暴れている2人組みは」

マリオ「なんてでかさだ」

リック「普通のブロスの20倍はありそうですね」

ドンブロスの圧倒的な大きさに見上げるマリオ達

ドンブロス「お前たち！ここからは帰さんからな！」

拳を落として攻撃するドンブロス

サッ ドオオオオオオオン

マリオとルイージはドンブロスの攻撃を避ける

マリオ「ルイージ！何とかこいつを倒そう」

マリオ達は地上へでるためにドンブロスに戦いを挑んだのだった

第50話終わり

第51話 ドンブロス撃沈！炎と氷のWアタック！！

地上へ出るため、ドンブロスに戦いを挑んだマリオ達

ルイーダ「ルイーダトルネイドキーーーーック！！！」

ギョルルルルル ドガアアアン

ルイーダトルネイドキックでドンブロスを攻撃するルイーダ

ドンブロス「何だそのキックは？」

しかしドンブロスは全く平然としており、ルイーダの足を掴む

マリオ「ルイーダ！！！」

ドンブロス「それ」

ドンブロスは飛び込んできたマリオにルイーダを投げつけこんでぶつける

一方こちらはアチサム山の近く

ヴィアーダがアチサム山目指して歩いてた

ヴィアーダ「スイーブさんの話ではあの山にタイマーオーブが」

アチサム山目指して進むヴィアーダ

その頃マリオ達はブロスの巣窟でドンブロスとの戦闘を繰り広げていた

ドンブロス「フン！」

ハンマーを地面に叩きこんで地割れを起こすドンブロス

ピョン

ドンブロスの地割れ攻撃を何とか避けるマリオ達

マリオ&ルイーダ「イエローファイアークラッシュ！！！」

イエローファイアークラッシュでドンブロスを攻撃するマリオとルイーダ

ドンブロス「ぐわああああ」

イエローファイアークラッシュで大ダメージを受けるドンブロス

マリオ「とどめだ！！ファイアボール！！！」

ルイーダ「アイスボール！！！」

ファイアボールとアイスボールの同時攻撃で止めを刺すマリオとルイーダ

ドンブロス「グハ……………」

ドンブロスを倒したマリオとルイーダ

一方ヴィアーデはアチサム山に到着していた

アチサム山を登り始めたヴィアーデ

そしてマリオ達はドンブロスを倒して地上に出た

ルイージ「やれやれだね」

マリオ「今度こそ決めるぞ」

マリオ達は今度こそ崖の向こうに行こうと、回転移動した

竜巻の動きを見てタイミングを見計らうマリオ達

マリオ「今だ!!」

回転移動したマリオとルイージ

今度はバッチリ崖の向こうに渡る事が出来た

リイック「アチサム山はこの先です」

崖を越えたマリオ達はアチサム山目指して進んだ

少し進むとファイアクリボーが現れた

マリオ「ファイアボール!!」

ボボボボボボボ

ファイアボールでファイアクリボーを攻撃するマリオ

ファイアクリボー「ありがとよ」

ファイアクリボーはやられないどころか、さらに勢いを増してきた

ルイージ「火がだめなら氷だ！アイスボール！！」

パキーン

アイスボールでファイアクリボーを倒すルイージ

ファイアクリボーは火には強いが、氷には弱いのである

アチサム山目指して進むマリオ達、だがヴィアーデは既にアチサム山を登り始めてる。

急げマリオ達よ！ヴィアーデがタイマーオーブをデスタイムスアジトに持ち帰ってしまうその前に

第51話終わり

第52話 走れマリオ！アチサム山目指して

崖を越えてアチサム山を目指すマリオ達

少し進むとバブルが3匹現れた

マリオ「えい！」

ルイージ「やああ」

ドカン バコン

ハンマーでバブルを1匹倒したマリオとルイージ

バブル2匹「ブー——」

口から火の玉を出して攻撃するバブル

ピョン

ルイージ「うわあああ」

マリオは避けたが、ルイージはタイミングがズレてダメージを受けてしまう

マリオ「大丈夫か！？」

ルイージ「何のこれしき」

反撃して2匹目のバブルも倒したマリオ達

そして最後の1匹も倒した

バブル達を撃退し、先に進むマリオ達

一方こちらはアチサム山の高度40メートル辺り

ヴィアーデが頂上目指して進んでた

ヴィアーデ「なんて寒いのかしら」

アチサム山の下の方は寒いらしい

少し進むと軍団員達と遭遇した

軍団員「ヴィアーデさん！ご覧の通り、あいつらを撃退する準備はしてます」

ヴィアーデ「気が利くじゃない、私はタイマーオーブを探してくるから、お願いね」

マリオ達の撃退を軍団員に任し、ヴィアーデは頂上を目指して進んだ

その頃マリオ達はアチサム山目指して進んでた

敵を倒しながら進んでいくマリオ達

少し進むと今度はアイスパイダーが現れた

アイスパイダー「プップ」

口から氷の玉を出して攻撃するアイスパイダー

ガッ ボコ

しかしマリオ達はハンマーで氷の玉を割ってしまう

マリオ&ルイージ「ファイアボール!!!」

ボボボボボボボ

ファイアボールで反撃してアイスパイダーを倒すマリオ達

アイスパイダーを倒して先に進むマリオ達

進むと自分達の3倍ほどの高さがある壁があった

マリオ「……………」

壁を登る方法を考えるマリオ

数分後、マリオが何かを思いついた

マリオ「ルイージちょっと」

ルイージ「何なの？兄さん」

マリオ「ゴニョゴニョ」

マリオ達は早速思いついた作戦を実行した

マリオはルイージを持ち上げてジャンプした

しかし半分の高さしか届いてない

マリオ「ルイージ……！」

ルイージ「それ」

何と！ルイージが空中でマリオの手を掴んでジャンプした

2段ジャンプで壁を越えたマリオ達

壁を越えて進むマリオ達、数分後ついにアチサム山についた

軍団員「不審な奴」

アチサム山に着いたマリオ達だが、早速デスタイムスの軍団員に見つかってしまうのだった

第52話終わり

第53話 アチサム山大混戦

アチサム山に着いたマリオ達

しかしいきなりデスタイムスの軍団員に見つかってしまった

ルイージ「ドロップアタック!!」

ドロップアタックで軍団員を倒すルイージ

軍団員を倒し、マリオ達はアチサム山に登り始めた

一方こちらはマリオ達がいる位置から150メートル高い場所

ヴィアーデが汗を流しながら進んでた

ヴィアーデ「寒いと思ったら今度は熱くなってきた」

ヴィアーデがいる位置はマリオ達とは正反対に熱い所らしい

一方マリオ達はアチサム山の下の方を進んでた

マリオ「寒いなこっちは」

ボツ……………

ファイアボールで体を温めるマリオ達

体が温まったマリオ達は勢いよく走り出した

少し進むと軍団員10人と遭遇した

軍団員A「撃て!!」

一斉にバズーカで攻撃する軍団員A〜E

そして軍団員F〜Jは光線で攻撃する

ピヨンピヨン

マリオ達は軍団員の攻撃をジャンプでかわしながら進んでく

マリオ「スーパートルネイド!!!」

大回転して軍団員A〜Eを吹き飛ばすマリオ

ルイージ「グリーンサンダー!!!」

ドオオオオオオン

ルイージもグリーンサンダーで軍団員F〜Jを倒す

軍団員達を倒し、先に進むマリオ達

少し進むと氷のリフトがあった

マリオ「これはひょっとして」

クッパの体内で冒険していた時の事を思い出すマリオ

マリオ「ルイージ！お前も乗るんだ」

氷のリフトに乗ったマリオとルイージ

氷のリフトを操作して進むマリオ達

横から飛んでくる砲弾も避けながら進んでいく

リフトに乗って進むマリオ達

少し進んでいくとだんだん熱くなって来た

ルイージ「何だかだんだん熱くなってない？」

マリオ「そういえば……ん？」

ふと下を見るマリオ、リフトが熱さで溶け始めている

マリオ「まずい！早くどっかに降りろ！！」

ルイージ「そんな事言っただって、あそこに降りよう」

マリオはルイージが指を指した方向へリフトを動かした

着いたと同時にリフトは溶けて無くなった

マリオ「セーフ……」

何とか間に合い、冷や汗をかくマリオ達

ルイージ「今度はマグマがいつぱいだよ」

さっきまでの極寒とは違い、灼熱の所まで登ったマリオ達

マリオ達は頂上目指してさらに進むのだった

第53話終わり

第54話 始動！大魔王クッパ

頂上目指してアチサム山に登るマリオ達

進んでいくとファイアブロスとバブルが現れた

ファイアブロス「ブツブツ」

バブル「フーーーー」

いきなり先制攻撃を仕掛けるファイアブロスとバブル

しかしマリオとルイージはファイアブロス達の攻撃を避けて反撃する

マリオ&ルイージ「アイスボール！ー！」

パキキキキキ……

アイスボールでファイアブロスとバブルを倒したマリオ達

敵を倒し、先に進むマリオ達

進むとボロイ足場がいくつもあつた

マリオ「今にも崩れそうだな、ルイージここは素早く渡るぞ」

ピョン ピシ

ジャンプして足場に乗るマリオ達、すると足場にヒビが入り始める

マリオ達は足場が壊れる前に素早くジャンプで移動する

数分後、何とかボロイ足場を超えていったマリオ達

一方こちらはアチサム山高度300メートル辺り

ヴィアーデが寒さのあまり腕を組みながら震えて歩いてた

ヴィアーデ「なんでこの山は気温の差が激しいの？」

ゴオオオオオオ

吹雪に襲われながらも頂上目指すヴィアーデ

一方こちらはクツパ城

クツパ「暇だな……」

あまりにも平凡な日々に戻屈しのぎのクツパ

そこへ1匹のカメックがやって来た

カメック「クツパ様!!」

クツパ「どうした？」

カメック「ある組織がタイマーオーブを散らばして歴史を支配しようという噂が」

デスタイムスの事をクッパに言うカメック

クッパ「どこの誰か知らぬが、歴史を支配するのはワガハイだ！！」

怒りをあらわにして炎を吐くクッパ

カメック「タイマーオーブの1つはアチサム山の頂上にあるらしいです」

クッパ「今すぐワガハイの飛行艇を用意しろ！アチサム山に向かう」

クッパの命令で飛行艇を用意するカメック

数分後、クッパは愛用の飛行艇でアチサム山目指して出発した

その頃マリオ達はアチサム山を進んでた

マリオ「アイスボール！！！」

アイスボールで敵を倒すマリオ

リィック「ルイージさん！うしろ」

ルイージ「ハッ」

背後を狙われてたルイージだが、リィックの呼びかけでジャンプして避ける

数十秒後、マリオ達は敵を倒してさらに進む

頂上を目指すマリオ達とヴィアーデ、そしてクッパも加わりますます大混乱に！！果たしてタイマーオーブは無事ゲットできるのか！？

第54話終わり

第55話 大魔王クッパ到着

アチサム山に登るマリオ達

マリオ「アイスボール乱れ打ち!!!」

パキキキキキ

ファイアブロス「ギャアアア」

バブル「ギュウウウウ」

アイスボールでファイアブロスとバブルを倒すマリオ

ファイアブロス達を倒し、先に進むマリオ達

少し進むと大きな壁があり、下の隙間はネズミが通れるほどの大きさしかなかった

マリオ「ルイージ、久しぶりにアレやつてくれ」

ルイージ「い…行きますよ……えい!」

緊張しながらマリオを叩くルイージ、するとマリオの体が小さくなった

マリオ「ちょっと行って来る」

ルイージ「気をつけて兄さん」

マリオは小さくなった体を活かして壁の隙間を通って行く

数分後、壁を渡りきると赤いスイッチがあつた

マリオ「どりゃ」

ガン

ハンマーでスイッチを叩くと壁が押し戻されていった

ルイージはマリオの所へ走っていった

マリオはルイージに元の大きさに戻してもらった

スイッチを壁を押し戻し、頂上を目指して進むマリオ達

少し進むとだんだん寒くなつて来た

リイック「まただんだん寒くなつてない？」

あまりの寒さにブルブル震えるリイック

一方こちらはキノコワールドの上空

クッパが飛行艇でアチサム山目指して進んでた

クッパ「デスタイムズだが、デスレーベルだからねえが、ワガハイが時を支配してやる」

時の支配者になる一心でアチサム山を目指すクツパ

そしてこちらはアチサム山高度450メートル辺り

大量の汗をかきながら頂上を目指すヴィアーデ

ヴィアーデ「あと少し……………」

灼熱の中を進みながら頂上を目指していた

数十分後、頂上に着いたヴィアーデ

ヴィアーデ「見つけた!!」

タイマーオーブを見つけ、走っていくヴィアーデ

数秒後、タイマーオーブを手に入れたヴィアーデ

ヴィアーデ「やったぞ…………何の音だ？」

喜ぶヴィアーデだが、何かが近づいてくる音だしていた

振り向くとそこにはクツパの姿があった

数秒後、アチサム山の頂上に到着したクツパ

クツパ「ここがアチサム山か、お前が持つてるそれがタイマーオーブだな」

ヴィアーデ「何だ貴様は!?!あのヒゲの仲間か!?!」

怒りの形相でクツパに質問するヴィアーデ

クツパ「ふん！ワガハイはお前の持つタイマーオーブを頂きにきただけだ、さっさと渡して貰おうか」

それに対し、クツパはヴィアーデにオーブを渡せと要求する

ヴィアーデ「ならば消えるがいい！！！」

そう言うヴィアーデは蜻蛉のような怪人態に変身した

クツパ「大魔王クツパ様の恐ろしさを思い知るがいい！！！」

今まさに始まろうとするクツパVSヴィアーデの戦い！しかしマリ
才達はまだアチサム山の高度325メートル辺りにいたのだった
第55話終わり

第56話 山頂の戦い！クッパVSヴィアーデ

アチサム山の頂上で対峙するクッパとヴィアーデ

ヴィアーデ「覚悟はよろしいかしら？はああああ！！！！」

羽根を高速で羽ばたかせ、刃のような突風で攻撃するヴィアーデ

クッパ「ぬぬぬぬぬ」

クッパはヴィアーデの攻撃を受けながらも耐え切る

クッパ「今度はこつちからいくぞ、うおおおおお！！！！」

口から凄まじい火炎放射を吐き出すクッパ

ヴィアーデ「くっ」

フオオオオオオ……ゴオオオオオ

ヴィアーデも風で押し戻そうとするが、クッパの火炎放射の方が勝っており、くらってしまっ

クッパ「ワガハイの強さ、思い知ったか！」

ヴィアーデ「あんななんかボスやギルジンさんがその気になればいつでも消せるわ」

と捨て台詞を吐きながらも次の攻撃に備えて力をため始める

その頃マリオ達はアチサム山の高度400メートル辺りを進んでた
マリオ「どこまであるんだ？この山は」

リィック「もう少しで頂上です」

そして頂上ではクッパVSヴィアーデの戦いが続いていた

クッパ「クッパドロップバスター！！！！」

ズガン ドゴン バコン

高くジャンプし、ヴィアーデを激しく地面に連続で叩きつけるクッパ

クッパの攻撃を受け続け、立つヴィアーデだが、彼女はもう立って
いられるのが精一杯だ

ヴィアーデ「強い……仕方ないここは引こう」

そう言うヴィアーデはデスタイムスのアジトに戻っていった

ヴィアーデがその場を去るとクッパは場に残ったタイマーオーブを
ゲットした

クッパ「ついにタイマーオーブを手に入れたぞ！！」

タイマーオーブを抱えて喜ぶクッパ

数分後、マリオ達が到着した

マリオ「クッパ？何でこんな所に！？」

クッパ「マリオか、これを見る！！」

リイック「あれは！？」

クッパの手にはタイマーオーブがあった

クッパ「さつき変な女と戦ったんだ、当然返り討ちにしたけどな」

ルイージ「多分、デスタイムスの1人だよ」

クッパ「このタイマーオーブでワガハイは時の支配者となるのだ！
！！」

マリオ「なんだと！？」

クッパの言葉を聞き、驚きを隠しきれないマリオ

ルイージ「どうする兄さん？」

マリオ「決まっている！クッパからタイマーオーブを奪い返す」

リイック「クッパとデスタイムス…どっちが時の支配者になっても
最悪です」

マリオ達はクッパが持っているタイマーオーブをゲットするため、
戦う事を選ぶ

マリオ「いくぞ!!」

ルイーザ「うん!!」

クッパ「今日こそワガハイの勝利だ!!」

闘志を向き合うマリオ達とクッパ、果たして勝つのはどっちだ!?
第56話終わり

第57話 宿命の対決！

ここはデスタイムスのアジト

ボロボロのヴィアーデが帰って来た

ギルジン「オーブは手に入ったのか？」

ヴィアーデ「失敗よ、帰ろうとした途端、背中に刺の生えたでかい亀にでくわしたのよ」

???「そいつはクツパ城のクツパだな、デノロス！！」

ボスに呼ばれ、前を立つ三聖士の1人デノロス

???「即刻クツパ城に行って来い」

デノロス「お任せください、馬鹿に制裁を加えてあげますよ」

???の命令でクツパ城へ向かったデノロス

一方アチサム山の頂上ではマリオ達とクツパの戦いが始まった

クツパ「ぐおおおおおお！！！」

ボウウウウウ ピョン

口から激しい炎を出すクツパ

マリオとルイージはジャンプで難なくかわす

マリオ&ルイージ「ブラザースイングハンマー!!」

マリオが自分とルイージのハンマーを持ち、ルイージがマリオを持ち上げて大回転し始めた

ブンブンブンブン……

高速で大回転するルイージ

数十秒後、ルイージはマリオをクッパめがけて放り投げた

ドガガガガガガ

クッパ「ぬぬぬ……!!」

ブラザースイングハンマーでダメージを受けるクッパ

クッパ「今度はこっちから行くぞ」

そう言うクッパは顔と手足を甲羅の中に引っ込め、大回転して襲った

ドガアアア ギュルルルルル

回転するクッパを2人で受け止めたマリオとルイージ

マリオ「ぎ……ぎぎぎ……」

ルイージ「ぎい……」

ふんばりながらクッパを受け止めるマリオとルイージ

マリオ&ルイージ「だあああああ……！」

すごい力でクッパの攻撃を防いだマリオ達

リック「すごい……」

それを見てリックは啞然する

ルイージ「パワフルキノコ」

パワフルキノコを食べ、攻撃力を増加させるマリオ達

マリオ「でえい！」

クッパ「ぐあああつ」

ジャンプでクッパを攻撃するマリオ

エターナルスターほどではないが、かなりの威力だった

そしてこちらはクッパ城

廊下の掃除をするトゲノコ達

トゲノコA「何でこの城は廊下が多いんだ」

トゲノコB「クツパ様のセンスが理解できねえよ」

ぶつぶつと言いながらも掃除をするトゲノコ達

その頃デノロスはクツパ城目指して移動していた

デノロス「あれがクツパ城だな」

デノロスが近づいているとも知らずに、掃除や見張りをするクツパの部下達

そしてアチサム山の頂上ではマリオ達とクツパの戦いがまだ続いていたのだった

第57話終わり

第58話 大逆転！奇跡のミラクルハンマー

マリオ達とクッパの戦闘は続く

クッパ「ギガブレス！！！」

ゴアアアアア

大きく息を吸い込んで激しいブレスを吐き出すクッパ

マリオ&ルイーダ「わあああああ」

クッパのギガブレスをくらってしまうマリオとルイーダ

リイック「マリオさん！ルイーダさん！」

マリオ「かなりのダメージを受けたけど大丈夫だ」

ルイーダ「勝負はまだまだこれからだ」

クッパ「しぶとい奴らだ、次で終わりにしてやる」

そう言うクッパはさっきよりも大きく息を吸い込み始めた

一方こちらはクッパ城

トゲノコやカメック達がデノロスと戦っているが、全く歯が立たない

デノロス「ふー……手応えが無さ過ぎる」

トゲノコ達があまりにも弱すぎてため息をつくデノロス

カメック「クツパ様さえ来てくれればお前なんかアウトだ」

その頃カメックババは全速力でアチサム山向けて飛んでいた

カメックババ「はやくクツパ様に知らせないと」

そしてアチサム山の頂上ではマリオ達とクツパの戦いが続いていた

クツパ「これで最後だ!!!!ギガブレス!!!!!!」

ゴウウウウウ

渾身のギガブレスを吐き出すクツパ

ルイージ「うああああああ」

リィック「ルイージさん!!!!!!」

ギガブレスを受けてしまい、戦闘不能になるルイージ

クツパ「やった……マリオがいない!?!」

辺りを見渡してマリオを探すクツパ

マリオ「お前の負けだ!!!!!!」

クツパが上空を見るとマリオの姿があった

マリオ「ミラクルハンマー!!!!!!」

ドッカアアアアアン

クッパ「ぐあああああ」

ルイージ「やつ……た……」

ミラクルハンマーで勝利を収めたマリオ達

クッパ「またしても負けるとは……」

ちようどそこへカメックババが来た

カメックババ「クッパ様！クッパ城がデスタイムスに襲われています」

クッパ「おのれ……ワガハイの留守中に城を襲うとはいい度胸だ！そのオーブはくれてやる！」

クッパはタイマーオーブを残し、カメックババと共にクッパ城に帰っていった

マリオ「とにかくタイマーオーブゲットだ」

タイマーオーブをゲットし喜ぶマリオ達

残るオーブも5つになった

そしてクツパはクツパ城向けて全速力で飛んでいた
第58話終わり

第59話 クツパVSデノロス

ここはクツパ城

息子のクツパJrが必死に戦うが、圧倒的力の差に虫の息だ

クツパJr「僕は…クツパ大王の息子だ」

ハンマーブロス「クツパJr様…もうやめてください」

デノロス「まだやんのか、ガキのくせに大した根性だ、だが俺とお前では格が違いすぎる」

必死に戦うクツパ軍団

しかしデノロスにことごとくKOされ、全員戦闘不能になった

数秒後、クツパが到着した

クツパ「これは!？」

部下が全滅させられ驚くクツパ

デノロス「お前がクツパか」

クツパ「貴様……!!こんな事してただで済むと思うな」

クツパは怒りの表情でデノロスに攻撃を開始した

ドガガガガガガ

クツパの必死の連打パンチを余裕で片手で防御するデノロス

デノロス「どうした？さっさと本気を出したらどうだ」

クツパ「フン！ワガハイを本気にさせた事を後悔させてやる！！」

クツパは大きく息を吸い込み始めた

クツパ「ギガブレス！！！！」

ドオオオオオオオン

ギガブレスで攻撃するクツパ

デノロスに命中し、煙が巻き上がる

カメツクババ「やったー！！」

ギガブレスが命中し、喜ぶカメツクババ

デノロス「遊びは終わりだ、少しだけ本気を出そう」

ギガブレスをくらってもピンピンしているデノロス

しかも今まで本気を出してなかったという

デノロス「フン！」

クツパ「ぐわああああ」

ドンドンドオオオオオン

デノロスをパンチを受けて壁まで吹っ飛ぶクツパ

クツパ「この…」

クツパも必死に攻撃するが、全てかわされてしまう

デノロス「ジ・エンド…」

デノロスの攻撃でクツパは戦闘不能になった

カメツクババ「クツパ様……！！！！」

デノロス「そろそろ戻るとするか」

そう言うとデノロスはデスタイムスのアジトに戻って行った

その頃マリオ達はアチサム山を降りていた

数十分後、ふもとに着いたマリオ達

そこには黄色いブロックがあった

マリオ「さっきは無かったのに、一応叩いてみよう」

ブロックを叩くマリオ

一方こちらは影の国

ビビアン「黄色の壁が消えたわ」

ワリオ「これでようやく動けるぜ」

黄色の壁が消え、喜ぶワリオ達、彼らはタイマーオーブのある場所
目指して走り出した

第59話終わり

第60話 炸裂！ヘル・ミッションアタック

黄色の壁が消え、喜ぶワリオ達

ミント「これでやっとスカイパークに行けるわ」

次のタイマーオーブはスカイパークにあるらしい

一方こちらは敵のアジト

クツパ城を襲撃したデノロスが戻って来た

デノロス「……様、ただいま戻りました」

???「ごくろう、ではクレス。お前はオーブを奪いに行つてこい」

クレス「分かりました」

傷が完治したクレスはタイマーオーブを奪いに影の国に向かっていった

そして別の部屋ではギルジンとゾルビアがドラクエ9でプレイしていた

ちなみに相手はレベル99のエスタークだ

数ターンが経ち、エスタークを倒した

ちょうどそこへデノロスが入って来た

デノロス「ドラクエ9か、俺も入れてくれ」

ギルジン「ああ、いいぜ」

デノロスも加わり、三聖士の3人は別の大魔王を討伐しにいった

ゾルビア「次はオルゴ・デミールにしない？」

ギルジン「オルゴ・デミールはまだレベル1だったな」

ギルジン達はオルゴ・デミールのレベルを上げるため、集中的に討伐していった

その頃ワリオ達はスカイパーク目指して進んでた

少し進むとジゴクリボーが現れた

ドゴオオオ

ワルイージ「ぐ……」

ジゴクリボーの頭突きをもろにくらってしまふワルイージ

威力はチャージしたハイパークリボー以上だ

ワルイージ「すげー威力だ」

ビビアン「カゲぬけパンチ……!!」

パコン

カゲぬけパンチでジゴクリボーを火傷状態にするビビアン

ビビアン「今よ!!」

ワリオ&ワルイージ「ヘル・ミッションアタック!!」

地獄のような関節技でジゴクリボーを攻撃するワリオ達

ジゴクリボーを倒し、先に進むワリオ達

一方こちらは城の入り口

一瞬たりとも隙を見せず、見張りをする影兵士

そこへ1人の女性が来た

影兵士A「何者だ？」

影兵士B「無断で入っちゃだめだ！」

女「ルリナちゃんはいますか？」

影兵士A「貴様！ルリナ様に何の用だ？」

怒りの表情で女に問い詰める影兵士、そこへ国王がやって来た

カゲの国王「何のさわぎだ」

影兵士B「国王様」

女「ルリナちゃんいますか？」

カゲの国王「ルリナは妻と一緒に買い物に行ってる」

ルリナはカゲの女王と一緒に買い物に行ってるらしい

カゲの国王「ここでは冷静に喋れないだろう、それにお主には邪悪の欠片も感じられん、こちらへ来なさい」

女が悪人でない事を見抜いた国王は城の中へ入れてあげるのだった
第60話終わり

第61話 謎の女性ナリル

女を城の中に入れるカゲの国王

数分後、部屋に着いた女と国王は話を始めた

カゲの国王「名はなんというのだ？」

女「ナリルといいます」

カゲの国王「それにしても不思議だ、初めて会ったのに知っている気がする」

国王はナリルと会うのは初めてなのに知っている気がするという

話をしている最中にルリナとカゲの女王が帰って来た

ルリナ「パパ、その女の人誰？」

カゲの国王「ルリナ、この人がお前と話をしたいそうだ」

ルリナ「あたしと？」

カゲの女王「あなた、ちょっと手伝ってくれる」

国王は女王の手伝いをし、ルリナはナリルと一緒に自分の部屋に入っていた

ナリル「ルリナちゃん、最近強い奴と戦った事ある」

ルリナ「あるわ、あの女、本気を出していなかったもの」

ルリナはゾルビアが本気を出していなかったことを見抜いていたらしい

ナリル「これから辛いことや苦いこともあるけど、あなたはそれに負けてはだめ」

ルリナの両肩に手を置き、微笑んで喋るナリル

話をしている最中にデスタイムスのユージとヴィアーデ、軍団員数百人が襲って来た

ヴィアーデ「オーブはどこにある?」

ルリナ「逃げてください!」

ナリル「心配ないわ、ここは私に任せて」

ルリナはナリルに逃げるように言うが、ナリルは1人で相手をするつもりだ

ユージ「女1人に何ができるんだ? かかれー!」

軍団員数百人「うおおおおお!!」

一斉に攻撃するデスタイムスの軍団員達

ピカ……

一瞬ナリルの指先が蒼く光った

ルリナ「ええ〜〜〜!？」

ナリルの圧倒的な実力を見て驚くルリナ

ユージ&ヴィアーデ「退却〜〜〜」

ユージとヴィアーデと軍団員達は泣いて逃げていった

ナリル「そろそろ行くわ、みんなも心配しているし」

ナリルは自分の国に戻るため、城をあとにしていた

その頃ワリオ達はスカイパーク目指して進んでた

少し進むと回転する足場があった

ワリオ達はタイミングよく足場に飛び移る

飛び移り、向こう側に渡るワリオ達

進んでいくと道が茨で塞がれてた

ビビアン「魔法の炎」

ボオオオオオオ

魔法の炎で茨を燃やすビビアン

スカイパークを目指して進むワリオ達

突如現れた謎の女性のナリル、彼女は一体何者なのだろうか？
第61話終わり

第62話 連鎖爆破！チェーン・ワルイージボム

スカイパークを目指し、進むワリオ達

少し進むと5キロ先スカイパークという看板があった

ワリオ「あと5キロか」

ワリオ達はさらに進んでいく

今度は2匹のジュゲムが襲って来た

ポイポイ

パイポを落とし、トゲゾーを出現させるジュゲム

ワルイージ「ワルイージボム！！！」

ワリオ「ブル・タツクル！！！」

ビビアン「フレイム・ウェーブ！！！」

必殺技で集中的にジュゲムを攻撃するワリオ達

一方こちらはワリオ達から少し離れた場所

クレス「……様の情報によれば、タイマーオーブはスカイパークにあるらしい」

クレスもスカイパーク目指して進んでた

そしてこちらはクッパ城

クッパや部下達が手当てを受けていた

クッパ「あの野郎！！今度会ったらギタギタにしてやる」

今度こそデノロスを倒すと闘志を燃やすクッパ

カメックババ「しかしクッパ様、あいつの戦闘力は異常じゃ、例の力を使ったマリオでも勝てるかどうか……」

その頃ワリオ達はジュゲムとトゲゾーを倒して先に進んでた

進むと今度はジゴクリボー2匹とトゲゾー3匹に遭遇した

ピョン バコン

ジゴクリボー達の攻撃をカウンターで防御するワリオ達

トゲゾーもジャンプして攻撃するが、返り討ちにあってしまっ

ワルイージ「チェーン・ワルイージボム！！！」

ドカンドカンドカン

連鎖の爆発で攻撃するワルイージ

チェーン・ワルイージボムで敵を倒したワルイージ

スカイパークを目指し、進んでいくワリオ達

数十分後、上へと続く雲の足場の下に着いたワリオ達

しかも先が見えないくらい続いてた

ワリオは近くにあつた看板を読んだ

ワリオ「この上スカイパーク」

ミント「あの上にタイマーオーブがあるのね！」

スカイパークを目指し、ワリオ達は雲を登り始めた

登っていくとスカイジュゲムが現れた

ワルイージ「ワルイージボム！！！」

スッ ドオオオオオン

ワルイージボムでスカイジュゲムに攻撃するワルイージだが、避けられてしまう

ワリオ「ブル・タツクル！！！」

ビビアン「カゲぬけパンチ！！！」

シュツシュツ

ワリオとビビアンの同時攻撃もかわすスカイジュゲム

ポイクルン

パイポを落とし、 テンクウトゲゾーを出現させるスカイジュゲム

果たしてワリオ達はスカイジュゲムを倒し、 先に進めるのだろうか？

第62話終わり

第63話 空の上を目指して

雲の上でスカイジュゲムとの戦闘を繰り広げるワリオ達

ビビアン「魔法の炎！！！」

ボボボボボボ

魔法の炎でスカイジュゲムの動きを封じたビビアン

ビビアン「今よ！」

ワルイージ「ワルイージボム！！」

ドオオオオオオン

ワルイージボムでスカイジュゲムを倒したワルイージ

ワリオも残ったテックウトゲゾーを倒す

スカイジュゲムを倒し、上に上っていくワリオ達

進むと今度は強風が吹いてきた

ゴオオオオオオオオ

ミント「すごい風だわ」

ワリオ達は吹き飛ばされないよう、壁に密着して風が治まるのを待つ

数十秒後、風が治まるとワリオ達は次の突風が来ない内に一気に走り出した

上へ上へと進んでいくワリオ達

数十秒後、また突風が吹いてきた

ワリオ達「わあああああ!？」

突風で飛ばされてしまうワリオ達

しかし運よく近くにあった壁にしがみつく

ビビアン「くううう」

ワリオ&ワルイージ「ぬおおおお」

吹き飛ばされまいと必死にしがみつくワリオ達

強風も治まり、ワリオ達はさらに進んでいった

数十分後、強風を避けながら突風地帯を突破したワリオ達

一方こちらはワリオ達から少し離れた場所

クレスがスカイパークを目指して進んでた

クレス「これ以上タイマーオーブを渡すわけには行かない、こうなったらアレしかない」

いつも以上にキツとした表情で進んでいくクレス

彼が言うアレとは？切り札である事には間違いなさそうだ

そしてワリオ達はスカイパーク目指して進んでた

進んでいくと2つに並ぶ雲の足場が3つ続いてた

ワリオ「……とお!!」

右の足場に飛び移るワリオ

ズボ

ワリオ「おわあああああ!!?」

すり抜けてしまい、落っこちてしまうワリオ

ワルイージ「今度は左だ」

左の足場に飛び移るワルイージ

今度はちゃんと乗っかっている

ミント「どちらか1つは罠なのね」

数十分後、ワリオが戻って来た

ワリオ「ま……待たせたな」

慎重に2択の雲の足場を選ぶワリオ達

そして3つめの2択の雲の足場も突破して行った

敵やトラップを突破して次々と進むワリオ達。目指すスカイパーク
まであと少しだ!!

第63話終わり

第64話 到着！雲の上のスカイパーク

スカイパークを目指し、上へと進んでくワリオ達

少し進むと道が途切れていた

ビビアン「道がないわ」

ワルイージ「くそ……、ん？」

ワルイージがふと右の方を見るとWと「のブロックがあつた

ミント「……ワリオさんはW、ワルイージさんの「を叩いてください」

ミントに言われ、それぞれのブロックの下に着くワリオとワルイージ

ピョン クルッ

同時にジャンプしてブロックを叩くワリオとワルイージ

するとブロックが回転し始めた

ワリオとワルイージはタイミングよく自分のブロックを相手と同時に叩く

数十秒後、10回叩いたワリオとワルイージ

2つのブロックが消え、雲の足場が出現した

出現した雲の足場を利用して上っていくワリオ達

少し進むと今度はスカイジュゲムが2匹現れた

ワルイージ「ビビアン頼むぜ」

ビビアン「魔法の炎!!」

ゴオオオオオ

魔法の炎でスカイジュゲムの動きを封じるビビアン

ワリオ「アイアンパンチ!!」

ワルイージ「ワルイージ・ボム!!」

魔法の炎で動きを封じられているスカイジュゲムに攻撃をくらわす
ワリオ達

一方こちらは影の国

しかし何だか少し違うようだ

見張りをする影兵士、そこへナリルがやって来た

影兵士「……様、今までどこに?」

ナリル「ちょっとね、そっちはどうだった?」

影兵士「はあ……、王子の悪戯に手を焼いてます」

ナリル「またですか、全くあの子と来たら……」

王子の悪戯にため息をつくナリル

そしてワリオ達はスカイパーク目指して進んでいた

敵を倒し、次々と進んでいく

数分後、ワリオ達はスカイパークに到着した

ワリオ「やったぞオイ」

ワルイージ「ここがスカイパークか」

そしてこちらはワリオ達から少し離れた場所

クレスもスカイパークに到着していた

クレス「このどこかにタイマーオーブがあるな」

そしてこちらは影の国の地上

ルリナがスカイパーク目指して進んでた

ワリオ達もタイマーオーブを探し始めた

タイマーオーブを探し始めたクレスとワリオ達

果たしてオーブはどちらの手に！？
第64話 終わり

第65話 スカイパークの激闘

タイマーオーブを探し始めたワリオ達

ワリオ「さて、オーブはどこにあるんだ？」

ミント「あっちにオーブの反応があるわ」

ワルイージ「よし行こう」

ワリオ達はミントが指を指した方向へ走っていった

そして離れた場所でもクレスが同じ場所目指していた

クレス「間違いない！あれはタイマーオーブの輝きだ」

タイマーオーブを目指し、走るワリオ達とクレス

数分後、ワリオとクレスの手が同時に触れた

ワリオ&クレス「ん？ああーーーーー！！」

ワリオ「お前は保育園の時の」

クレス「これ以上オーブを奪われたらボスに会わせる顔も無いんだよ」

カブトムシのような怪人態に変身し、いつも以上に気合満々のクレス

ビビアン「あんた達みたいな人たちに渡すわけにはいかないわ！」

ミント「それにデスタイムスのボスって、一体誰なの！？」

怒りの表情でクレスに問いかけるビビアンとミントだが、クレスは
（教えられん）と答える

クレス「貴様らを倒したら次は別の世界にいる2人も始末してやる」

クレスはワリオ達を倒したら、キノコワールドにいるマリオとルイ
ージも倒すつもりらしい

ワリオ「いくぜー!!」

ワルイージ「おう！」

ビビアン「ええっ」

ワリオ達とクレスの戦闘が始まった

ワリオ「ブル・タツクル」

ゴオ スッ

ワリオのブル・タツクルを避けるクレス

ビビアン「魔法の炎!!」

ボオオオオ

魔法の炎でクレスを攻撃するビビアン

かすりはしたが、避けられてしまう

ワルイージ「チェーン・ワルイージボム！！！」

クレス「！？」

ドカドカドカ

一瞬の隙を逃さず、チェーン・ワルイージボムで攻撃するワルイージ

煙が晴れ、中からクレスが出て来た

クレス「おのれ……であああああ」

凄まじい形相でワリオ達に襲い掛かるクレス

しかしワリオ達の連携により、フルボッコにされてしまう

ワリオ達に叩きのめされて戦闘不能寸前のクレス

ビビアン「いい加減諦めなさい」

クレス「言ったはずだ、これ以上オーブを渡すわけにはいかない。
こうなったら超魔化してぶっ潰してやる！！！」

ワリオ&ワルイージ&ビビアン「超魔化！？」

クレス「超魔化は自らの戦闘力を大幅に上げる能力だ、ダークスぺ

ーシアで例えるならブラックパワースターを使うとこだな」

シュツ ザク

ワリオ達「！？」

なんと！自らの左胸に手を突き刺すクレス

クレス「おおおおおおおお」

断末魔のような叫び声を上げるクレス、超魔化とは一体なんなのか
！？

第65話終わり

果敢にクレスに攻撃するワリオ達

クレス「バカめ」

ドオオオオオオオ

ワリオ「おあああああ!？」

ワルイージ「うおお」

ビビアン「あああああ」

クレスの一撃で叩きのめされてしまう

ビビアン「せめてルリナがいたら……」

クレス「この前俺をフルボッコにしたあいつか……!?!」

研究所でルリナにフルボッコにされたのを思い出し、イラだつクレス

その頃ルリナはスカイパーク目指して進んでた

ルリナ「久しぶりだわ、スカイパークに行くのは」

ワリオ達が大変な目にあつてるとも知らずにスカイパークに向かう
ルリナ

スカイパークではワリオ達とクレスの戦闘が続いてた

ビビアン「魔法の炎!?!?!」

ドゴオオオオオオオ

渾身の魔法の炎をクレスにくらわすビビアン

クレス「あちー……、マッチの火が燃え移ったかと思っただぜ……！！」

ドゴオオオオオオオ

ビビアン「わああああ」

ワリオ&ワルイージ「ビビアン！」

渾身の魔法の炎を放ったビビアンだが、超魔化したクレスにとってはマッチの火程度しかなかった

ワリオ「うおおおおお！！！」

ワルイージ「だだだだだ！！！」

ワリオとワルイージの必死の超連打攻撃も片手で防御してしまうクレス

クレス「ハアアアアア！！！」

ドゴオオオオオオオ

クレスの攻撃を受けて、ボロボロのワリオ達

ミント「っ、っよい……」

クレス「さっさとオーブを渡せばいいものを……」

超魔化したクレスに悪戦苦闘のワリオ達、果たして彼を倒し、タイマーオーブをゲットできるのだろうか!?

第66話終わり

第67話 大逆転！ルリナ到着

ここはスカイパークへ続く雲の上

ルリナが軽がると敵を倒しながら進んでた

一方こちらはデスタイムスのアジト

ルリナがスカイパークへ近づいているのを感じたボス

???「あの影族の女が近づいている、超魔化したクレスではあの女の相手はきつい。スィーブお前も行って来い」

スィーブ「かしこまりました」

ボスの命令でスィーブもスカイパークへ向かっていった

スカイパークではワリオ達とクレスの戦闘が続いてた

クレス「おおおおおお」

ドゴオオオオ

ワリオ達3人を吹き飛ばすクレス

ビビアン「魔法の炎!!!」

ワルイージ「チェーン・ワルイージボム!!!!」

ワリオ「ニンニクプレス！！！」

必殺技で同時攻撃を仕掛けるワリオ達

ニンニクプレスで火力と爆発力が上っている

シュウウウウウ……

ワルイージ「ど……どうだ……」

全力を出し切り、息を切らすワリオ達

数秒後、煙が晴れて中からクレスが出て来た

ビビアン「そんな……！」

クレス「今度はこっちからいくぞ」

クレスは巨大な角でワルイージを高く放り投げた

ヒュウウウウウ

ミント「ワルイージさん！！！」

ドゴオオオオオオ

クレスの攻撃を受けてワルイージが戦闘不能になった

クレス「次は……お前だ」

ワリオ「!!!うおおおお」

指摘されたワリオはクレスに渾身の体当たりを仕掛けた

クレス「ふん！」

クレスはワリオを地面に叩きこんだ

ビビアン「ワリオ!!!」

ワリオも戦闘不能になり、残るはビビアンだけ

クレス「さあ、ファイナレだ」

ビビアン「……………」

どうしようもないような絶望に涙が止まらないビビアン

クレス「くたばれ————!!!」

魔法の炎!!!

ゴオオオオオオオオオ

クレス「あちゃちゃちゃ」

突然燃え出して苦しむクレス

振り向くとそこにはルリナがいた

ビビアン「ああ……」

ルリナ「後はあたしに任せて」

クレス「お前はあの時の……！だが超魔化した俺に勝てるわけないのだ……！」

ガッ

クレス「何！？」

超魔化したクレスの攻撃を片手で受け止めるルリナ、彼女はもう片方の手をクレスの体につけ、そして……

ルリナ「魔法の炎……！」

ゴオオオオオオオオ

超魔化したクレスを赤子の手をひねるように攻撃するルリナ、このまま一気に奴を倒すのだ
第67話終わり

第68話 絶体絶命！スィーブ再び！！

スカイパークの戦いは続く

圧倒的強さでクレスを追い詰めるルリナ

ドオオオオ ゴシャアアア

ルリナ「これで決めるわ、デス……！！？」

サッ ドカアアン

デス・エンド・フレイムを放とうとしたルリナだったが、攻撃が来るのを感じて避けた

ルリナ「誰！？」

スィーブ「何をしているのですか！？クレスさん！！」

戦いの最中にスィーブが現れた

ビビアン「ルリナ気をつけて！あいつエターナルスターのマリオと互角の実力よ！！」

ルリナ「なんですって！？」

スィーブ「彼女は私が引き受けます、クレスさんはもう1人をお願いします」

スィーブがルリナの相手をし、クレスはビビアンのもとへ行った
クレス「かなりダメージを負わされたが、ためーごときなら片付け
られるくらいのは残っておるぞ」

ブン

ビビアン「うわああっ」

クレスの攻撃を避けるビビアン

ルリナ「ビビアン！」

スィーブ「貴女の相手は私です」

一瞬の隙を逃さず、ルリナに攻撃するスィーブ

ルリナ「ファイア・ウィップ！！」

バシィィィ

ファイア・ウィップでスィーブの攻撃を相殺させるルリナ

そしてビビアンはクレスの攻撃を避けていた

ビビアン「ハア……ハア………」

動き続けていたのでビビアンの体力は限界に近づいてた

ルリナ「この！」

ルリナも何とか援護に回りたいが、スィーブの攻撃を防ぐのに精一杯だ

クレス「おらああああ」

ビビアン「あああああ」

クレスの攻撃に叩きのめされるビビアン

ルリナの攻撃でクレスの戦闘力は多少落ちてるものの、それでも圧倒的だ

クレス「大人しくタイマーオーブを渡せ」

ビビアン「あんたなんかに絶対渡さない!!」

クレス「ならば死ね!!!!!!」

ビビアン「!!!!!!」

ヒュッ ドオオオオオン

クレスの攻撃を避け続けるビビアン

そしてルリナはスィーブとの激闘を展開していた

スィーブ「ライティング・デスサイズ!!!!!!」

ルリナ「ファイア流星群!!!!!!」

ブオオオン ヒュルルル…… ドオオオオオン

ライトニング・デスサイズとファイア流星群がぶつかり合い相殺

必死になって戦うルリナとビビアン、タイマーオーブはデスタイム
スの手に渡ってしまうのか!?

第68話終わり

第69話 クレスの最期……必殺デルタマジック炸裂!!!

スカイパークの死闘は続く

スィーブとの激しい戦いを展開するルリナ

ルリナ「魔法の炎!!!」

スィーブ「リゴル・シャイバー!!!」

ドオオオオオン

魔法の炎とリゴル・シャイバーがぶつかり合い相殺

ビビアンはクレスの圧倒的な強さに圧されていた

ビビアン「ぐううう」

クレス「終わりだーーーー!!!」

ドゴオオオオオン

クレス「何!？」

後ろを振り向くとワリオとワルイージが立っていた

ワリオ「俺様達もいるのを忘れちゃ困るぜ」

クレス「このくたばりぞこないがー!!!」

怒り狂ってワリオとワルイージに攻撃するクレス

ワリオ達は自分の技を最大限に使い、ダメージを最小限に抑える

ビビアン「カゲぬけパンチ!!」

ワルイージ「ワルイージ・ボム!!」

ドカ ドオオオオン

クレス「ぐあっ!ぐおおおお」

翻弄されて僅かずつだがダメージを受けるクレス

クレス「なめるな!!!!!!!」

ドシャアアアアアア

ワリオ「ぐっ」

ワルイージ「ぐおおお」

クレスの攻撃で再び戦闘不能になるワリオ達

クレス「今度こそ終わりにしてやる」

ビビアンに攻撃しようとするクレスだが、ビビアンはもう恐怖しなかった

ビビアン「終わりはあんたの方よ」

スィーブ「ん!？」

ルリナ「あれは!？」

ビビアンは見たことも無い構えを取り、クレスに突進して来た

クレス「血迷ったか!! ならば望みどおり」

ビビアン「デルタマジック!!!」

ドゴオオオオオオオオオ

クレス「ギアアアアアアア」

必殺のデルタマジックをクレスにくらわすビビアン

その威力はルリナの魔法の炎とほぼ互角だ

クレス「ばかな……!! 超魔化したこのオレがあんな小娘に……!!」

ビビアン「デルタマジック!!!」

さらにビビアンはデルタマジックをもう1発くらわせた

クレス「オオオオオオオオオ……」

断末魔と共にクレスは消滅した

苦戦の末ついにクレスを倒したビビアン達

ルリナ「どうやらここまでのようね」

スリーブ「くっ」

不利と判断したスリーブは撤退していった

ワリオ「タイマーオーブ……ゲット……だぜ……」

タイマーオーブを持ったまま倒れるワリオ

苦戦はしたが、何とかタイマーオーブを手に入れたワリオ達

その後ワリオ達は影の看護婦に手当てもらったのだった

第69話終わり

第70話 影の国の休日

ここはデスタイムスのアジト

スীবが戻って来た

スীব「申し訳ありません、デルタマジックは想定外でした」

???「我が下部の1人を消しおったか」

ゾルビア「あんた達も二の舞にならないように気をつけてね」

ユージ&ヴィアーデ「……………」

ゾルビアの言葉を聞き、動揺を隠し切れないユージとヴィアーデ

一方こちらは影の国

手当てをしてもらったワリオ達が椅子に座ってた

そこヘルリナとマジヨリンが来た

マジヨリン「ほんと驚いたよ、まさかビビアンがこんな凄い技持ってたなんてね」

ルリナ「傷が治るまでゆっくりしていくといいよ」

ワルイージ「そうも行かねエんだ、デスタイムスの奴らがまた」

話をしている最中にカゲの国王が来た

カゲの国王「だったらこの城自慢の大浴場を使うといい、あそこのお湯はあらゆる傷を癒してくれる」

ワリオ「本当か！？だったら早速」

ルリナ「あたしもママを誘ってみる」

ルリナはカゲの女王に大浴場に行ってみないかと聞いてみた

カゲの女王「ここん所忙しくてろくに入ってなかったな」

数分後、ワリオ達は大浴場の男湯に立っていた

カゲの国王「自慢の大浴場だ、ゆっくり傷を癒していきなさい」

ワリオ「いくら男同士といっても、お前がいると違和感感じるぜ」

ビビアン「そう？」

ワルイージ「細かいことは気にするな、お湯に飛び込もうぜ」

ダダダダ ザバアアアアン

勢いよくお湯に飛び込むワリオ達

お湯に浸かって傷を癒すワリオ達

数分後、ワルイージがベルロークの所に寄ってきた

ワルイージ「で、女湯はどっちだ!？」

ベルローク「アホか言えるわけないだろう!女王様やルリナ様もおるのだぞ!！」

カゲの国王「あの壁の向こうだ」

教えられないと怒るベルロークに対し、あっさりと教えてしまうカゲの国王

ベルローク「国王!このヤロー!！」

一方こちらは大浴場の女湯

カゲの女王の背中を流しながらルリナが喋ってた

ルリナ「ママ、ビビアンったら凄いんだよ、デスタイムスの1人をやっつけたんだから」

カゲの女王「へえ、それは凄いのう、大したもんじゃ。ルリナ交代じゃ」

ルリナ「ありがとう」

ルリナと場所を入れ替えるカゲの女王、背中を流そうとした途端、壁の天辺にいるワリオとワルイージを目撃する

カゲの女王「お主ら!そんなとこで何やっとなじゃ!？」

ルリナ「あいつら……、ファイア・ウィップ……！」

怒ってファイア・ウィップでワリオとワルイージを落とすルリナ

そしてこちらはキノコワールド

マリオ達が次なるタイマーオーブを求めて動き出したのだった

第70話終わり

第71話 キラキラシティへ！マリオとルイージ出発

次なるタイマーオーブを求めて動き出したマリオ達

ルイージ「タイマーオーブをゲットしに行こう」

マリオ「次のタイマーオーブはどこにあるんだ？」

リィック「キラキラシティにあります」

ルイージ「キラキラシティって、輝く街で有名なあの」

マリオ「そこにタイマーオーブがあるんだな」

キラキラシティに向けて出発したマリオ達

一方こちらはデスタイムスのアジト

スィープ「マリオ達がキラキラシティに向かったようです」

ユージ「オレがいく！！」

ヴィアーデ「私が行くわ！！」

ユージ&ヴィアーデ「やるか！！」

ギルジン「お前らキラキラシティが目当てじゃないだろうな……」

喧嘩するユージとヴィアーデを見て呆れかえるギルジン

???「やめんか!! ユージお前が行って来い」

ユージ「ありがとうございます!!」

出撃命令を出されて喜ぶユージ

その頃マリオ達はキラキラシティ目指して走ってた

少し進むとクリボーとノコノコと遭遇した

しかしマリオとルイージは軽々と倒して先に進む

クリボーとノコノコを倒し、先に進むマリオ達

進むと今度は大きな壁があった

マリオ「ルイージ!!」

キュルルルル

マリオとルイージは合体して地面に潜る

潜って地面の中を進むマリオとルイージ

数分後、壁の向こう側まで渡ったマリオ達

一方こちらはキラキラシティ

星型の帽子を被った子供が本を読んでいた

キラキラシティに向かってデスタイムスの軍団員達が迫って来ていた」

軍団員A「これ以上タイマーオーブを奪われたら、たまったもんじやない」

軍団員B「なんとしても手に入れて手柄を立てるんだ」

その頃マリオ達はキラキラシティ目指して進んでた

少し進むと上にMとLと書かれたブロックがあった

マリオ&ルイージ「えいつ」

同時にブロックを叩くマリオとルイージ

すると通路が出現した

出現した通路を進むマリオとルイージ

果たしてキラキラシティに着き、タイマーオーブをゲットできるのか！？

第71話終わり

第72話 脅威！？のスターモンスター

キラキラシティ目指して進むマリオ達

少し進むとスタークリボーとスターノコノコが現れた

ルイージ「グリーンサンダー！！！」

バチイイ

ルイージ「うわあああ」

グリーンサンダーで攻撃するルイージだが、跳ね返されてしまう

マリオ「ルイージ！ファイアボール！」

ボボボボボ パキイイ

ファイアボールで攻撃するも跳ね返ってしまう

マリオ「！？くっ」

跳ね返ってきたファイアボールを避けるマリオ

ルイージ「この！えーい！！」

やけになってジャンプで攻撃するルイージ

フギユ

何と以外にも攻撃が効いた

ルイーダ「兄さん！こいつらは直接攻撃の方が有効だよ」

マリオ「わかった」

スタークリボー達の弱点が分かったマリオとルイーダはジャンプやハンマーで攻撃する

スタークリボー達を倒し、先に進むマリオ達

一方こちらはキラキラシティ

星型の帽子を被った子供が部屋の片づけをしていた

「???」マリオ達、今頃どうしているんだろうな」

片づけをしながらマリオの事を思い出す子供

その様子をデスタイムスの軍団員が双眼鏡で見ていた

軍団員A「あいつマリオの仲間だったか」

軍団員B「あいつを人質にしてタイマーオーブを頂戴しようぜ」

デスタイムスの軍団員達は星型の帽子を被った子供人質にしようとその子供の家に向かった

その頃マリオ達はキラキラシティ目指して進んでいた

少し進むとスターブロスが現れた

スターブロス「ああああ」

星型の光弾をマリオ達に投げつけるスターブロス

ブウウウン ピョン

ジャンプでスターブロスの攻撃をかわすマリオ

マリオ「ジャンピングハンマー!!!!」

ドカアアアアン

ジャンピングハンマーでスターブロスを倒すマリオ

スターブロスを倒し、先に進むマリオ達

目指すキラキラシティまでもう少しだ!!

第72話終わり

第73話 到着！光る輝く大都市キラキラシティ

ここはキラキラシティ

星型の帽子を被った子供が本を見ていた

そこへデスタイムスの軍団員数十名が攻め入って来た

???「誰!？」

軍団員「痛い目に合いたくなければ大人しくしろ!」

???「君たちの方こそ早く帰った方が痛い目に合わなくて済むよ」

軍団員「なんだとこのガキイ!!!やっちまえ!!!」

子供に総攻撃をするデスタイムスの軍団員達

???「しょうがない、スターライトナビゲーション!!!」

スターライトナビゲーションで攻撃する子供

軍団員「なんて強いガキだ」

その頃マリオ達はキラキラシティ目指して進んでた

少し進むと星型のリフトがあった

マリオ&ルイージ「それっ」

リフトに乗るマリオとルイーダ、しかし何の変化も無い

マリオ「おかしいな、えい！」

ルイーダ「えいえいえい」

ジャンプしたり、ハンマーで叩いてみたが、何の変哲もなかった

マリオ&ルイーダ「一体どうなってるんだ……！」

クルルルルル

やけになつて合体して回転するマリオとルイーダ、するとリフトが動いた

リリック「マリオさん！ルイーダさん！今リフトが動きましたよ」

マリオ「本当か！？ルイーダもつとやるぞ」

ルイーダ「うん！」

リフトの動かし方が分かったマリオ達はさらに回転をし続ける

数分後、リフトで向こう側まで渡れたマリオ達

そしてついにキラキラシティに到着した

マリオ「このどこかにタイマーオーブが……」

ルイージ「兄さんあそこ」

マリオはルイージが指を指した方向を見た、すると家の前で倒れているデスタイムスの軍団員達の姿があった

マリオ「あれはデスタイムスの！！誰が戦ったんだ？」

マリオ達はその家に向かって走って行った

数十分後、家の前に着いたマリオ達

マリオ&????「ああー！！！」

マリオ「ネシスじゃないか！！」

デスタイムスと戦っていたのは元ダークスペーシアのネシスだった

ネシス「マリオさん！お久しぶりです。ところであいつらは何者？」

マリオ「奴らはデスタイムス！歴史を変えようとしている犯罪集団だ」

ネシス「一体何の目的で歴史を変えるつもり！？」

ルイージ「分からない、でも自分達の都合のいいようにするには間違いない」

ネシス「僕も戦うよ！力を合せてデスタイムスを倒そう！！」

マリオ&ルイージ&リック「うん！！」

ネシスが仲間に加わり、戦力が大幅アップしたマリオ達、この調子でタイマーオーブもゲットだ！！

第73話終わり

第73話 到着！光る輝く大都市キラキラシティ（後書き）

キャラ紹介

『ネシス』

かつてダークスペーシアの幹部だった少年
正義のために戦うマリオに心を打たれ改心した
エターナルスターのマリオと互角に戦えるほどの実力
を持っている

第74話 怪異！科学のクロッカー

ネシスを仲間に加えたマリオ達

ネシス「そのタイマーオーブってのを見つければいいんだね」

マリオ「早速探しに行こう」

ユージ「ちょーっと思った！！！」

オーブを探しに行こうとした途端、ユージが現れた

ルイーダ「お前はデスタイムスの！」

ユージ「この間の礼をたっぷりさせてもらっぞ」

ネシス「マリオさん、僕に任せてください」

ルイーダ「大丈夫なの？」

マリオ「平気、平気」

心配するルイーダだが、マリオはネシスの实力を知っているようだ

ユージ「うおおおおお」

バウウウウウウ

カマイタチのような怪人態に変身し、先制攻撃を仕掛けるユージ

ガキイイイイ

ネシスは小さな星を出現させ、ユージの攻撃を容易に防ぐ

ユージ「このクソガキアアアア!!!」

シュバババババババ

ブチ切れて猛攻を仕掛けるユージ

しかしネシスはユージの攻撃を片手だけで全て防御している

一方こちらはデスタイムスのアジト

顔が時計のような老人が何かを作ってた

クロツカー「完成したぞい」

ヴィアーデ「クロツカー博士、それは？」

クロツカー「これぞわしの科学の推移を結集させたロボ、その名もヘルリミッターだ!!!」

ロボットの自慢をするクロツカー、そこへボスが入って来た

???「オーブの場所が分かった、キラキラシティのトリプルタワービルだ」

クロツカー「分かりました、ついでにヘルリミッターで奴らをけち

よんけちゃんにして見せます」

オーブの場所が分かったクロッカーはキラキラシティに向かい、部下達にも無線で知らせた

一方こちらはキラキラシティ

街の中を歩くマリオ達、するとリックがタイマーオーブの気配を感じた

リック「感じる……、タイマーオーブはあそこにある」

リックが指を指した方向には真ん中だけ高くそびえ、左右には同じ高さのビルが繋がってた

マリオ「あのビルは一体……」

ネシス「あれはトリプルタワービル、この街で最も有名なビルなんだ」

ルイージ「きつとタイマーオーブはあのビルの最上階だよ兄さん」

マリオ「行こう」

ルイージ達「うん」

マリオ達はタイマーオーブをゲットするため、トリプルタワービルに入っていた

第74話終わり

第74話 怪異！科学のクロツカー（後書き）

キャラ紹介

『クロツカー』

デスタイムスの科学者

怪しい薬品で自軍を有利にしたり、かなりずる賢い
更にはヘルリミッターなどの巨大ロボも持っている

第75話 突入！トリプルタワービル

トリプルタワービルの中に入っていたマリオ達

マリオ達は早速エレベータに向かって行った

ルイージ「よし」

ポチン

エレベータのスイッチを押すルイージ、すると光が漏れそして……

マリオ「……ルイージ離れろ……！」

大声でルイージにエレベータから離れるように言うマリオ

すぐさまルイージはエレベータから離れて伏せた

ドオオオオオオオオン

リック「トラップだったのか」

マリオ「だったら階段で行こう」

エレベータを諦め、階段で最上階を目指そうとするマリオ達

しかし全ての階段にもレーザートラップが設置されてた

ネシス「やられた！デスタイムスの手が回っていたんだ」

マリオ「俺たちを最上階に行かせないつもりだな、だったら片っ端からぶっ壊していくまで」

マリオは階段に設置されたレーザートラップを破壊して2階に上った

2階に上るとデスタイムスの軍団員数十名と研究員数名がいた

軍団員「マリオ達が来やがった!!」

軍団員の1人は警報装置を押し、3階から最上階までの仲間にもマリオ達が侵入したのを知らせた

マリオ「いくぞファイアボール!!」

ルイージ「グリーンサンダー!!」

ネシス「プリズムスターチェーン!!」

ボボボボ バリバリバリ キラアアア

必殺技で軍団員や研究員をなぎ倒して進むマリオ達

一方こちらはデスタイムスのアジト

ネシスにボロボロにやられたユージが帰って来た

ユージ「ただいま……」

力尽きて倒れるユージ

デノロス「全く情けないぜ」

ゾルビア「あとはクロツカーがどれだけ出来るかね」

その頃マリオ達はビルの14階を進んでた

ネシス「スターライトナビゲーション!!!」

ドカアアアアン

スターライトナビゲーションで15階への階段のレーザートラップを破壊するネシス

トラップを破壊し、15階へ上るマリオ達

上るとバリヤーが現れた

ウィイイイイ

バリアを貼って身を守るバリヤー

ルイージ「えい!」

ネシス「やあ!」

ガシャアアアアン

しかしルイージとネシスの攻撃であっけなく破られてしまう

マリオ「回転ハンマー!!!」

ギュルルルル ドガアアアン

回転ハンマーでバリヤーを倒すマリオ

バリヤーを倒し、マリオ達はさらに先へ進むのだった
第75話終わり

第76話 トリプルタワーの激闘

最上階を目指し、トリプルタワーを目指すマリオ達

ここはタワーの最上階

クロッカーがオーブの入った金庫の前にいるが、プログラムの解除に苦戦していた

クロッカー「くそ、はやくしないと来てしまう」

何とかタイマーオーブを手に入れようとするクロッカーだが、プログラムが複雑すぎて苦戦中

その頃マリオ達はタワーの18階を進んでいた

ルイージが一步前に出た途端、赤い線のようなものが一瞬見えた

ネシス「ルイージさん危ない……!」

ビー……

ルイージ「うわっ!？」

飛んで来たレーザーをかわすルイージ

マリオ「赤外線レーザーか……」

警戒するマリオ達の背後に軍団員が数名現れた

軍団員「お前たちはここでゲームオーバーだ」

そう言うとき軍団員の1人はスイッチを押し、前方に自動防衛レーザーが作動した

ビッビッビッビッ

レーザーを次々とかわすMario達

Mario「このままじゃラチがあかん！みんな俺のここに集まれ」

ルイージ達はMarioの所に集まった

Mario「はあああああ！！！」

エターナルスターパワーを発動し、シールドを発生させるMario

パキン パキパキン

シールドのおかげでレーザーなど痛くもかゆくもない

そしてこちらはデスタイムスのアジト

三聖士の3人が古代西洋のイラストが入ったカードでゲームをしていた

ギルジン「こいつで行かせてもらおう」

死神のカードを出すギルジン

それに続きゾルビアは骸骨、デノロスはゾンビのカードを出す

数十分の心理戦と戦略の末、ゾルビアが勝利

その頃マリオ達はタワーの45階を進んでた

少し進むとエレベータがあった

マリオ「……………」

警戒しながらゆっくりエレベータに近づくマリオ

ポチン ウィーイ……

スイッチを押し、ドアがちゃんと開いた

ネシス「トラップは無いみたい」

エレベータに駆け寄るルイーダ達

エレベータに乗ったが、全く動かない

マリオ「どうなってんだ！？このポンコツー!!」

コンピュータ「コノエレベータハカギガ2ツナイトサドウシマセン」

リック「じゃあその鍵がないと」

ルイーダ「きつとタワーのどこかにあるはずだよ」

マリオ「俺とリィックは左側のタワーを探す、ルイーダとネシスは右側を探してくれ」

マリオ達は二手に分かれ、2つの鍵を探す事にした

果たして鍵はゲットできるのだろうか？

第76話終わり

第77話 2つの鍵を手に入れる

2つの鍵を手に入れるため、二手に分かれたマリオ達

ここは左側のタワー

鍵を探すマリオとリィック

少し進むと軍団員が3人いた

軍団員A「お前はマリオ！」

軍団員B「ここでとつちめてクロッカーさんに褒められてもらうんだ！！」

軍団員C「とつげきー！！！！」

3人の軍団員はマリオに襲い掛かった

ヒュン ドカアアアン

軍団員の攻撃をかわし、カウンターをくらわすマリオ

右側のタワーでもルイーヂとネシスがバリヤーと戦ってた

ネシス「ライティングカッター！！」

ガシャアアアアン

ライトニングカッターでバリアーのバリアを破壊するネシス

ルイージ「グリーンサンダー!!!!」

ドオオオオオオオオオ

グリーンサンダーでバリアーを倒すルイージ

その頃マリオとリィックはタワーの左側の42階を探してた

敵を倒しながらエレベータの鍵を探すマリオ達

そしてこちらは真ん中のタワーの最上階

クロッカー「くそ、思ったより難しいぞ」

プログラムを解こうとするクロッカーだが、未だに苦戦中

クロッカー「まあいい、あいつらが来ても私にはヘルリミッターがあるからな」

そしてこちらはタワーの右側の39階

鍵を探すルイージ達

少し進むと軍団員が100人ほどおった

軍団員「不審人物発見!!!!」

100人の軍団員はルイージとネシスに襲い掛かった

ルイージ「グリーンサンダー!!!」

ネシス「スターライトナビゲーション!!!」

ドオオオオオン　　パアアアアア

しかしあっけなく全員KOされてしまう

一方マリオはタワーの左側の37階を進んでた

少し進むと3体のバリヤーがいた

しかもその下には鍵が落ちていた

マリオ「あれがエレベータの鍵だな、あいつが3体だとちょっと本気出さんとな」

そう言うとマリオはエターナルスタパワーを発動させ、凄いスピードで接近していった

ビュン　ドガッ

バリヤー「!?!」

あまりにも速いスピードにバリヤーも対応仕切れずやられてしまう

マリオ「よし！エレベータの鍵を手に入れたぞ」

エレベータの鍵を手に入れたマリオとリックは真ん中のタワーの

45階に戻っていったのだった
第77話終わり

第78話 タワーの天辺へ…

鍵を手に入れ、真ん中のタワーの45階へ戻るマリオ

その頃ルイージとネシスは右側のタワーの34階を探してた

ルイージ「グリーンサンダー!!!」

ドオオオオオン

軍団員数人「ギャアアアア」

グリーンサンダーで軍団員数人を倒すルイージ

ネシス「見つけましたよ!」

エレベータの鍵を手に入れたネシス

鍵を手に入れたルイージ達は真ん中のタワーの45階へ戻っていった

その頃真ん中のタワーの最上階ではクロッカーがプログラムの解除を進めてた

クロッカー「成る程、だいぶ分かってきたぞ」

やっている内にプログラムの仕組みに気付き、少しずつ解除してしまっ
まうクロッカー

そして真ん中のタワーの45階ではルイージとネシスがマリオ達と

合流

ルイージ「兄さん、鍵は？」

マリオ「こつちもバツチりだ」

ネシス「行きましょ」

マリオ達はエレベータの中に入り、2つの鍵を使った

2つの鍵を使い、エレベータが動き出した

ウィイウィイ ガタン

最上階の50階に着くと、エレベータが止まり、ドアが開いた

エレベータから出るマリオ達

マリオ「この階にタイマーオーブがあるんだな」

マリオ達はタイマーオーブのある部屋を目指して歩き出した

一方クロッカーは金庫のプログラムの解除しようとしていた

クロッカー「いいぞ、あと少しだ」

徐々に解除していくクロッカー、既に90%以上解除されてる

マリオ達はタイマーオーブのある部屋を目指して走ってた

少し進むと軍団員数人とバリヤーがいた

マリオ&ルイージ「イエローファイアークラッシュ!!!」

ネシス「スターライトナビゲーション!!!」

必殺技で軍団員とバリヤーを倒すマリオ達

敵を倒しながら進んでいくマリオ達

そしてクロツカーはついにプログラムを解除してしまった

クロツカー「やったぞ!」

大喜びするクロツカー

ドン

オーブを持ち帰ろうとした瞬間、ドアが開く音が聞こえ振り向いた

クロツカー「あと少しの所で……」

ネシス「マリオさん!あいつが持つてる玉」

マリオ「間違いない!タイマーオーブだ!」

ついにタイマーオーブを発見したマリオ達、クロツカーを倒し、手に入れられるのだろうか!?

第78話終わり

第79話 クロッカーの切り札！ヘルリミッター

最上階に到着し、クロッカーと対峙するマリオ達

クロッカー「ならば先に貴女方を始末します」

そう言うクロッカーはマリオ達に攻撃を仕掛けた

ガガッ

ネシス「プリズムスターチェーン!!!!」

クロッカーの攻撃をガードし、プリズムスターチェーンで反撃する
ネシス

マリオ「回転ハンマー!!!!」

ギュルルルルル

クロッカー「ぐああああ」

回転ハンマーでダメージを受けるクロッカー

クロッカー「おのれ!!はあああ!!」

ブン スカッ

パンチで攻撃するクロッカーだが、かわされてしまう

ドカズドボコドム

マリオ達にフルボッコにされるクロツカー

マリオ「諦めて降参しろ!!」

クロツカー「そうは行きません、我らデスタイムスの名に賭けて始末せねばなりません!」

そう言うクロツカーはリモコンのボタンを押した

ドオオオオオオオオ

何とクロツカーの後ろに巨大な口ボが出現した

ルイージ「あれは!?!」

クロツカー「貴様ら全員このヘルリミッターの餌食にしてやる」

ウィィィ ガシャン

ヘルリミッターに乗り込むクロツカー

クロツカー「くらえ!!」

砲弾を発射するクロツカー

マリオ「ぐぎぎぎぎぎ……ああああ」

ルイージ「兄さん!」

砲弾を受け止めるマリオだが、強すぎて吹っ飛ばされてしまう

ネシス「スターライトナビゲーション!!!」

クロッカー「フン」

キイイイイイ

スターライトナビゲーションで攻撃するネシスだが、特殊バリアで掻き消されてしまう

クロッカー「マシンガンアタック!!!」

ドガガガガガガ

マリオ&ルイージ&ネシス「うわあああああ」

リック「マリオさん!みんな!!」

マシンガンアタックでダメージを受けてしまうマリオ達

ヘルリミッターでマリオ達を圧倒するクロッカー、このまま敗れてしまうのか!?

第79話終わり

第80話 ルイージ戦闘不能！恐怖の粒子砲

マリオ達とクロッকারの戦闘は続く

一方こちらはデスタイムスのアジト

スィープが大量の書類を書き上げてた

そこへボスが入って来た

スィープ「……様」

???「三聖士はどうしてるのだ？」

スィープ「ギルジンさんなら部屋でデノロスさんとゲームで対戦、ゾルビアさんは映画を観ていられると思います」

???「すぐに全員呼んで来い！私は先に行つて来る」

スィープ「はい！」

スィープに三聖士を全員呼んでくるように命令するボス

一方トリプルタワービルの最上階ではマリオ達とクロッকারの戦闘が続いてた

マリオ「ファイアボール」

ルイージ「アイスボール」

マリオ&ルイージ「乱れ打ち!!!!!!」

炎と氷の連携攻撃でヘルリミッターを攻撃するマリオ

ネシス「プリズムスパーク!!!!」

さらにネシスがプリズムスパークで攻撃する

ドオオオオオオン

マリオ達の攻撃でダメージを受けるヘルリミッター

クロツカー「これでもくらえ!!!!」

ポチン ビイイイイ

スイッチを押し、レーザーで攻撃するクロツカー

ルイージ「アイスシールド!!!!」

パアアアア ドカアアアアン

アイスシールドでダメージを減らすマリオ達

マリオ「ルイージ! スーパーブラザーキノコだ!!!!」

スーパーブラザーキノコで自分とルイージの体力を回復させる

クロツカー「くらえ!!!!」

砲弾を発射するクロツカー

ネシス「プリズムスターチェーン!!!!」

ガキイイイ

ネシス「ええーーーーーい!!!」

プリズムスターチェーンで砲弾をキャッチし、投げ返すネシス

クロツカー「粒子砲発射!!!!」

ゴオオオオオオオオ

粒子砲を発射するクロツカー

ルイージ「!?うわあああああ」

マリオ「ルイージ!!」

粒子砲で戦闘不能になってしまうルイージ

クロツカー「次はお前だ」

そう言うクロツカーは今度はマリオを攻撃するのだった

第80話終わり

第81話 ヘルリミッター大破！必殺ダブル流星群

マリオ達とクロツカーの戦闘は続く

粒子砲で戦闘不能になってしまったルイージ

クロツカー「次はお前だ！粒子砲発射！！」

ドオオオオオオ

マリオに向かって粒子砲を発射するクロツカー

マリオ「はああああああ！！！」

マリオはエターナルスターパワーを発動し、粒子砲をかき消す

クロツカー「何！？」

マリオ「ネシス、そろそろ遊びは終わりにしよう」

ネシス「そうですね」

マリオとネシスはヘルリミッターに向かっていった

一方こちらはデスタイムスのアジト

部屋に入るスィーブ

スィーブ「ギルジンさん、デノロスさん、……様が呼んでいます」

ギルジン「わかった、いくぞデノロス」

部屋を出てボスの所へ向かうギルジンとデノロス

スィープはゾルビアにも知らせに行った

その頃トリプルタワービルではマリオ達とクロッカーが戦ってた

マリオ「エターナルスターショット!!!」

ドカアアアア

エターナルスターショットでダメージを受けるヘルリミッター

クロッカー「ぐあっ!!!こいつめ!!!」

ネシス「スターライトナビゲーション!!!」

パアアアアアア

本気を出したマリオとネシスを前に一方的にやられるクロッカー

マリオ「フィニッシュだ!エターナルスター」

ネシス「レーザースター」

マリオ&ネシス「流星群!!!!」

クロッカー「ぐわあああああああ」

ドンドンドン ドオオオオオ……

ダブル流星群によってヘルリミッターは粉々になってクロッカーは床に叩きつけられた

クロッカー「この狩りは必ず返すからな！」

捨て台詞を残してクロッカーはデスタイムスのアジトへ戻っていった

マリオ「おいルイージ！起きろ」

ルイージ「兄さん、やったんだね」

クロッカーを撃退し、タイマーオーブをゲットしたマリオ達

ついに残すオーブも3つとなった

一方こちらはデスタイムスのボスの部屋

ボスの前にはギルジンとゾルビアとデノロスが立っていた

???「クロッカーもオーブ奪還に失敗した、これ以上あいつらだけに任せてはおけん！ゆけ！！三聖士よ！！！」

ギルジン&ゾルビア&デノロス「必ずやオーブを奪還してみせます」

残り3つとなったタイマーオーブ、だがついにデスタイムスの三聖士が動き出してしまったのだった

第81話終わり

第82話 動き出した三聖士

ついに動き出したデスタイムスの三聖士

ギルジン「俺はキノコワールドへ行く、お前らは？」

デノロス「俺は影の国に行くぜ！」

ゾルビア「私が行くわ、あんたはギルジンと一緒に行きな」

デノロス「何だとこのアマ！？」

怒ってゾルビアの服の首筋を握るデノロス

ゾルビア「五月蠅いわね、だったらこれで決めない？」

コインを取り出すゾルビア

デノロスはゾルビアが出したコインをトスした

デノロス「裏！」

ゾルビア「表」

コインから手を退けるデノロス、コインは表向きだった

ゾルビア「私の勝ちだね」

デノロス「ちっ、覚えてろよ」

コイントスに負けたデノロスは仕方なくギルジンと一緒にキノコワールドに向かっていった

一方こちらは影の国

ルリナ「あたしも一緒に行くわ」

ビビアン「一緒に行ってくれるの!!」

ルリナ「うん」

コクンと頷くルリナ

ワリオ「ルリナがいれば100人…いや1000人力だ」

ルリナも一緒に同行すると聞いて嬉しそうな顔をするワリオ

ワルイージ「次のオーブはどこにあるんだ？」

ミント「魔海大陸です」

ルリナ「魔海大陸…聞いた事があるわ、何十万年前に死んだ影族のうめき声が今も聞こえるって」

魔海大陸の事を思い出して冷や汗を流すルリナ

ビビアン「とにかくそこに行かないとタイマーオーブは手に入れない」

ルリナ「行くしかないわね」

タイマーオーブをゲットするため、魔海大陸へ向かう事になったワ
リオ達

影兵士「ルリナ様、どうかお氣をつけて」

敬礼でルリナの出発を見送る影兵士

魔海大陸を目指し進むワリオ達

少し進むとダークラゲが襲い掛かって来た

ルリナ「えい！」

ボウ

指先から炎を出してダークラゲをいとも簡単に倒すルリナ

倒すと今度は3匹のダークラゲが襲って来た

ビビアン「今度はアタイ達の番ね、魔法の炎！！！」

ワリオ「ブル・タツクル！！！」

ワルイージ「ワルイージボム！！！」

ゴオオオ ドオオオオン ドカン

ワリオ達も必殺技でダークラゲを撃退する

ワリ才達は敵を倒しながら魔海大陸目指して進むのだった
第82話終わり

第83話 魔海大陸を目指して

魔海大陸目指して進むワリオ達

進むとどす黒い色の川が見えてきた

ワルイージ「ひでえぜ、川にゴミを捨てるなんて」

ルリナ「いいえ、この川は元からこういう色なんです」

川が黒い事に怒るワルイージだが、元から黒かったらしい

ルリナ「黒いだけじゃないわ」

ポイ ポチャン

ルリナは近くにあった枝を川の中に投げ入れた

プカアアア……

枝が凄く腐食して出て来た

ルリナ「あの川はどんなものでも腐食させてしまっ」

ビビアン「気をつけなくちゃ……」

ワリオ達は川に落ちないよう、慎重に進んでいく

一方こちらはキノコワールドのムッシーバビーチ

ブロドッグとブリロックがギルジンと戦っていた

ブロドッグ「ガウウ……………」

ブリロック「ブロドッグちゃん……………」

ギルジン「その程度か…俺は本気出してないどころか、左手しか使っていないぞ」

ブロドッグとブリロックが全力で戦っているのに対し、ギルジンは左手だけで手加減して戦ってた

ムツシーバビーチ周辺の雑魚はデノロスが相手をしていた

デノロス「手ごたえが無さ過ぎるぜ」

その頃ワリオ達は魔海大陸を進んでた

ワリオ「ふう、やっと渡りきったぜ」

黒い川を渡りきったワリオ達

少し進んでいくとダークカニーが現れた

ビビアン＆ルリナ「魔法の炎……!!」

シュゴオオオオオオ……

ダブル魔法の炎でダークカニーを一掃するビビアンとルリナ

ワリオはやられたダークカニーをじーっと見た

ワリオ「今晚の飯はかに料理にしないか？」

ビビアン&ルリナ&ワルイージ&ミント「絶対おことわり……」

ダークカニーを見てかに料理しようかと言うワリオだが、ビビアン達は顔を青くして断る

ダークカニーを倒して先に進むワリオ達

進むと今度は壁の向こうにスイッチが2つあった

ルリナ「任せて！」

シュウウウン

影の中に入って壁の下を移動するルリナとビビアン

壁の向こう側まで移動すると影の中から出ていた

ビビアン「いいわよ」

ビビアン&ルリナ「1、2の……3！」

ポコン ゴゴゴゴゴゴゴ

同時にブロックを叩くビビアンとルリナ

すると壁が下がって来た

数十秒後、壁が下がりきりワリオ達も行った
第83話終わり

第84話 迫り来るゾルビアの魔手

魔海大陸を目指すワリオ達

少し進むとダークラゲとダークカニーが現れた

ワルイージ「チェーン・ワルイージボム!!!」

ワリオ「ブル・タツクル!!!」

ドカドカドカ ドゴオオオオオン

必殺技でダークラゲとダークカニーにダメージを与えるワリオ達

プププププ…… チョキチョキ……

ダークラゲ達の反撃もことごとくかわしていく

ビビアン「魔法の炎!!!」

ルリナ「ファイア・ウィップ!!!」

ビビアンとルリナが炎の攻撃でダークラゲとダークカニーを倒す

ダークラゲを倒し、先に進むワリオ達

その様子をゾルビアが上空から見ていた

ゾルビア「あの子は前に私と戦ってた子ね、今度は本気でやらして

もらっわ」

ゾルビアは今度は本気でルリナと戦うつもりらしい

一方こちらはキノコワールドのクッパ城

トゲノコやカメック達が傷の手当てをしていた

ハンマーブロス「あいつ強すぎるぜ」

カメック「エターナルスターのマリオでも勝てるかどうか……」

その頃ワリオ達は魔海大陸を目指して進んでた

少し進むと黒みがかった薄紫色の海が見えてきた

突然、不気味な喚き声が聞こえた

オオオオオオオオ……

ビビアン「何？今の声……」

喚き声に怯えるビビアン

ミント「ルリナさん、もしかしてここが」

ルリナ「この海の下が魔海大陸よ」

この海の下に魔海大陸があるらしい

ワリオ「この下にタイマーオーブがあるんだな」

ドボン

ワリオ達は魔海大陸目指して海の中に飛び込んだ

泳いで進むワリオ達、少し進むとダークラゲが現れた

ワリオ「また雑魚だぜ、ブル・タツクル!!!」

ドゴオオオオオオン

ブル・タツクルをお見舞いするワリオ

だがダークラゲにはほとんどダメージが無かった

ワリオ「俺様のブル・タツクルが効いてない!？」

ルリナ「気をつけて!あのモンスターは水中では強いわ、魔法の炎
!!!」

ゴオオオオオオ

魔法の炎でダークラゲを倒すルリナ

ビビアン「流石ルリナね、水中のダークラゲも1発で」

魔海大陸を目指してワリオ達は泳ぎ続けるのだった

第84話終わり

第85話 海中の戦い！巨大ダークラゲ出現

魔海大陸目指して泳ぎ続けるワリオ達

少し進むと巨大ダークラゲが現れた

巨大ダークラゲ「むおおおおお！！！」

ビビビビビビビ

巨大ダークラゲは触手に電気を纏い、攻撃して来た

ビビアン「カゲがくれ！！！」

シュウウウン バシィイ

カゲがくれで巨大ダークラゲの攻撃をかわすワリオ達

影の中から出てくるとワリオ達は反撃した

ワリオ「ブル・タックル！！！」

バリバリバリ……

ワリオ「ギャアアアア」

ブル・タックルで攻撃しようとしたワリオだが、巨大ダークラゲの攻撃に痺れてしまう

ルリナ「ファイア・ウィップ！！！」

巨大ダークラゲ「ぐおおおおお」

ファイア・ウィップで攻撃するルリナ

ダメージを受けた巨大ダークラゲは自らを覆ってた電気が消えた

ルリナ「今よ！」

ワリオ「ブル・タックル！！！」

ドガアアアアアン

再びブル・タックルで攻撃するワリオ、今度は巨大ダークラゲにダメージを与えられたようだ

ワルイージ「んじゃ、とどめはこのオレの新技で、ミラクル・クラッシュャー！！！！！」

スウウウウ…… ドオオオオオオン

巨大な虹色のエネルギーがどんどん小さくなり、大爆発した

ズウウウウウウン

巨大ダークラゲはついに倒れた

ワリオ「ワルイージお前凄いな、いつの間にそんな技覚えたんだ？」

巨大ダークラゲを倒したワリオ達は先へ進んでいった

進んでいくと普通のダークラゲが4匹現れたが、ルリナの魔法の炎
1発でKO

進んでいくと巨大な渦が近づいてきた

ワルイージ「ゲツ！巨大渦だ」

ミント「早く逃げて！！」

ワリオ達は全力で泳いで逃げていった

しかし渦のスピードの方が速く、追いつかれてしまった

ゴオオオオオオオオオオ

ワリオ達「わあああああああ」

渦に巻き込まれてしまったワリオ達、そして数十分がたった

ワリオ「ん……ここは？」

ようやく意識を取り戻したワリオ達

ミント「ねえ、ここは海の中の筈よね、なんで息ができるの？」

ビビアン「もしかしてここが魔海大陸」

渦に巻き込まれた事で魔海大陸に辿り着く事ができたワリオ達、――

体どんな敵が待ち受けているのか！？
第85話終わり

第86話 魔海大陸のタイマーオーブをゲットせよ!!

魔海大陸に辿り着いたワリオ達

ミント「ここにタイマーオーブが」

タイマーオーブ目指してワリオ達は歩き出した

その様子を三聖士の1人であるゾルビアがワリオ達の後ろの上空で見ている

ゾルビア「様子を見せてもらっわ」

タイマーオーブのある場所を目指し、進むワリオ達

進むとガードロボが襲って来た

ルリナ「ここを守っているガードロボだわ!、カゲぬけパンチ!!」

ビビアン「魔法の炎!!」

ワリオ「ワリオパンチ!!」

ワルイージ「ワルイージ・ボム!!!!」

技でガードロボを次々と破壊するワリオ達、しかしいくらやっつけても次々とやって来た

ガードロボ「シンニユウシャヲハイジヨセヨ」

100体以上のガードロボはワリオ達を排除しようと目からレーザーで攻撃して来た

ルリナ「カゲがくれ！！！」

シューウウン ビツビツビツビツ

影の中に入ってガードロボのレーザー攻撃を避けるワリオ達

ビツビツビツビツ

数十秒後、ガードロボ達は攻撃をやめて引き上げた

ルリナ「油断したわね、ファイア流星群！！！」

ヒュウウウウ ドゴンドゴンド

油断したガードロボに間髪いれずファイア流星群で攻撃するルリナ
ファイア流星群でほとんどのガードロボがやられ、3体になってしまった

ビビアン「カゲぬけパンチ！！！」

ワリオ「ブル・タックル！！！」

ワルイージ「ワルイージ・ボム！！！」

残った3体のガードロボもワリオ達が必殺技で破壊する

ガードロボを破壊し、先に進むワリオ達

少し進むと奥で何かが光ってた

ワルイージ「あれはもしかや……」

ワリオ達はその光の方へ走っていった

そこにあつたのはタイマーオーブであつた

ビビアン「タイマーオーブだわ!」

ワリオ「よっしゃ! やったぜ」

タイマーオーブを見つけ、喜ぶワリオ達

ワルイージ「じゃ、早速……」

ルリナ「ワルイージ伏せて!!!!!!」

大声でワルイージに伏せるように言うルリナ

ワルイージはルリナの言う通り伏せた、すると後ろから攻撃が飛んで来た

後ろを振り向くと三聖士の1人であるゾルビアがいた

ゾルビア「久しぶりね、保育園以来かしら」

ワリオ「あいつは……！！」

ゾルビアを見て戦慄するワリオ達

ビビアン「ルリナ気をつけて……」

ルリナ「分かってる、あたしも前にこいつと1度戦ってるわ」

戦闘体勢に入るワリオ達、果たしてゾルビアを倒せるのだろうか！？
第86話終わり

第87話 苦戦のワリオ一味

ゾルビアとの戦闘に入ったワリオ達

ワリオ「こいつは全力で行かないとヤバイぜ……ブル・タックル！
！！」

渾身のブル・タックルをゾルビアにかますワリオ

ガガッ

ワルイージ「何iiiiいつ！？」

ワリオのブル・タックルを片手で受け止めてしまふゾルビア

ゾルビア「フン」

ゾルビアはワリオを片手で放り投げて壁に叩きつける

ルリナ「この！ファイア・ウィップ！！！！」

ビビアン「カゲぬけパンチ！！！！」

ワルイージ「チェーン・ワルイージボム！！！！」

今度は3人で同時攻撃するワルイージ達

ゾルビア「はああああああ」

キュパパパパパ

ワルイージ達の同時攻撃もエネルギー波で掻き消されてしまう

ワリオ「なんて強さだ」

一方こちらはデスタイムスのアジト

???「私はちょっと出かけてくる、スィープ留守を頼んだぞ」

スィープ「お任せください!」

スィープに留守を任せ、???は出かけて行った

その頃ワリオ達はゾルビアと戦ってた

ワリオ&ワルイージ「うおおおおおおお!!」

ゾルビア「甘いわ!!」

ワリオとワルイージの同時攻撃を受け止めるゾルビア

そこヘルリナとビビアンが時間差で現れた

ルリナ&ビビアン「魔法の炎!!」

ダブル魔法の炎で攻撃するルリナとビビアン

ゾルビア「しまった!……、なんてね」

ポイ

ルリナ&ビビアン「!!!!!!!!!!」

ワリオとワルイージを放り投げて同士討ちさせるゾルビア

ゾルビア「惜しかったわね、今は中々よかったのに」

同士討ちによってワリオとワルイージが戦闘不能になってしまっ

ビビアン「許さない!!!!デルタマジック!!!!!!」

渾身の魔力を込めてデルタマジックで攻撃するビビアン

ドゴオオオオオオオオン

デルタマジックがゾルビアにクリーンヒット!!

ゾルビア「これでクレスを倒したのね、でも私には通用しないわ」

ビビアン程度のデルタマジックではゾルビアにほとんどダメージを
与えられなかった

ゾルビアの圧倒的な強さに苦戦するビビアン達、このままタイマー
オーブはデスタイムスの手に堕ちてしまうのか!?

第87話終わり

第88話 逃げるビビアン！戦え！ルリナ

ビビアン達とゾルビアの戦闘は続く

圧倒的なゾルビアの強さの前に戦闘不能になってしまうワリオとワルイージ

ルリナ「……………ビビアン、タイマーオーブを持ってワリオ達と逃げて！こいつはあたしが」

ビビアン「いくらルリナでも無茶だわ！…！」

ルリナ「早く！…！」

ビビアン「……………！…！うん……………」

躊躇うビビアンだが、ルリナは本気のようにだ

ビビアンはワリオ達を起こして一緒に逃げた

ゾルビア「逃がさないわ」

ワルイージ「おわああああ」

シュツシュ ガシツ

逃げようとするワリオ達を捕まえようとしたが、ルリナに阻まれてしまう

ルリナ「あなたの相手はあたしよ」

ビビアン達はタイマーオーブを持って全力で逃げていた

ワリオ「あの野郎…1人であんな奴と戦うなんて無茶にも程がある」

ワルイージ「今はそれしかないんだ！！悔しいが俺たちではあいつに歯が立たん」

ミント「とにかくルリナさんが勝ってくれるよう祈るしかないわね」

その頃ルリナはゾルビアと対峙していた

ルリナ「本気で行くわよ……………！！」

オオオオオオオオ ヒュッ

気を高め、ゾルビアに向かっていくルリナ

ゾルビア「！！」

ルリナ「デスエンド・フレイム！！！！」

ドゴオオオオオオオ

至近距離からデスエンド・フレイムをくらわすルリナ

辺りに煙が巻き上がる

ルリナ「はああああああ！！」

すかさず次の攻撃に移るルリナ

煙の中からレーザーのようなものが飛んで来た

ルリナ「ファイア・ウィップ！！！」

レーザーをファイア・ウィップ相殺させてしまう

煙が晴れて中からゾルビアが出て来た

ゾルビア「今は少し効いたわ」

ルリナ「あんたに褒められても嬉しくないね、ファイア流星群！！！」

ヒュルルルルル

ファイア流星群で攻撃するルリナ

しかしゾルビアはファイア流星群を次々と避けてしまう

ルリナのすぐ近くまで近づき、そして……

ゾルビア「ナイトメア・クロス斬り！！！」

シュバッ

漆黒の黒い刃で攻撃するゾルビア

数秒後、ゾルビアの影からルリナが出て来てカゲぬけパンチをくらわせた

ザザザ

カゲぬけパンチで10メートル先まで飛ばされるゾルビア

ゾルビア「やるじゃない、じゃあ私もそろそろ遊びはやめにしておくわ」

ルリナは本気だしていたのに対し、ゾルビアは今まで遊んでおつたにすぎなかったという

本気を出したゾルビアの実力はどれ程のものなのだろうか

第88話終わり

第89話 奪われたタイマーオーブ

ルリナとゾルビアの戦闘は続く

ついに本気になったゾルビア

ゆっくりとルリナに近づいていく

ルリナ「ファイア・ウィップ！！魔法の炎！！！」

ビュッ　ゴオオオオオ

だがゾルビアはルリナの攻撃を次々とかわしていく

間合いを詰めていき、ルリナの顔に指をつけた

ゾルビア「悪魔の指」

ボオオオオオオン

ルリナ「ああああああ……！！！！」

悪魔の指で大ダメージを受けてしまうルリナ

ゾルビア「デビルズ・アイ！！！」

ピカアアアア

ゾルビアの目が一瞬怪しく光る

ルリナ「!？」

サッ ジュ……………

かすったものの、それでもかなりのダメージを受けていた

その頃ワリオ達はタイマーオーブを持って逃げていた

ワルイージ「ルリナがいなかった今頃タイマーオーブはあいつの手に渡っていたかもな」

ビビアン「立ち止まってる時間はないわ!少しでも遠くへ逃げるの!」

ミント「せめてどこかに隠れるのに最適な場所でもあればいいんですが……………」

そしてルリナはゾルビアと戦ってた

ルリナ「ええい!はあああ!」

必死に攻撃するルリナだが、全部避けられてしまっ

ゾルビア「そろそろ終わりにしましょう、サイコショック!」

バババババババ

ゾルビアのサイコショックをもろにくらってしまっルリナ

サイコショックを受けてルリナが戦闘不能になってしまった

ゾルビア「さて、追いかけるとするか」

ルリナを片付けたゾルビアはワリオ達を追っていった

その頃ワリオ達は全力で逃げていた

ビビアン「もう少しで安全な場所につける」

ワリオ「とにかくそこまで全力で走るんだ!!」

必死になって全力疾走するワリオ達

数分後、建物が見えてきた

ビビアン「あそこよ!あそこに逃げ込めば」

ヒュッ ドオオオオオオン

突然上から攻撃が飛んで来て吹っ飛ぶビビアン達

ミント「ああ……………」

上空を見るミント、そこにはゾルビアの姿があった

ゾルビア「あの小娘は片付けたわ、観念しなさい」

ワリオ&ワルイージ「だれがするか……!!」

ビビアン「えええーいーいー!!!!」

ゾルビア「ふん！」

ゴシヤアアアアア

必死に抵抗するワリオ達だが、一瞬で倒されてしまう

ワリオ達も戦闘不能にし、ゆっくりとタイマーオーブに近づくゾルビア

ミント「渡さない!!」

ゾルビア「邪魔よ」

最後まで抵抗するミントを叩いてタイマーオーブを手に入れてしまう

ゾルビア「アジトに戻るとするか」

タイマーオーブを手に入れたゾルビアはアジトに戻っていった

ワリオ達の必死の抵抗も虚しく、タイマーオーブの1つがデスタイムスの手に堕ちてしまった

第89話終わり

第90話 次なるタイマーオーブは大学にあり!?

ゾルビアとの戦いに敗れ、タイマーオーブを1個奪われてしまうワリオ達

数日後、ワリオ達は城の医療室で治療を受けていた

ワリオ「あいつ……！今度会ったらただじゃおかねー！！」

ビビアン「無理よ……今のままじゃ勝てないわ……」

ルリナ「ビビアンの言う通りだわ」

ワルイージ「確かに……奴の強さは別次元だ」

一方こちらはデスタイムスのアジト

見張りをするエリート軍団員

エリート軍団員B「交代の時間だ」

エリート軍団員A「じゃあ、後頼むわ」

エリート軍団員Aと交代し、見張りをするB

Aがアジトの通路をあるくと突然ゾルビアが現れた

エリート軍団員A「ゾルビアさん！！」

ゾルビア「これが何だか分かる？」

エリート軍団員にタイマーオーブを見せるゾルビア

エリート軍団員A「これがタイマーオーブですか!？」

ゾルビア「そう、ところでボスは？」

エリート軍団員A「……様なら先ほど出かけられました。」

一方こちらはキノコワールド

マリオ「そろそろタイマーオーブを探しに行くか」

ルイージ「次のオーブはどこにあるの!？」

リイック「大学ですね、でもどの大学かまでは……」

マリオ&ルイージ「わかんねーのかよ!!!」

リイック「はい……」

マリオ「とにかく情報を集めに行こう」

マリオ達はタイマーオーブの行方を知るため、付近の人たちにいると話をした

話をするマリオ達だが、情報は全く得られなかった

マリオ「全く手がかり無しか……」

ルイージ「ん？おい」

大声で横切っていたクリボーに手を振るルイージ

クリボー「ん？何か用か？」

ルイージ「実はタイマーオーブを探してるんだけど」

クリボー「タイマーオーブ、なんだそれは？」

マリオ「これだよ」

タイマーオーブをクリボーに見せるマリオ

クリボー「それならこの前クリフォルニア大学に運ばれていったよ」

ついにタイマーオーブの行方を掴んだマリオ達

リック「やりましたねマリオさん！ん？」

マリオ「クリフォルニア大学……どこかで……」

クリフォルニア大学と聞いて何かを思い出すマリオ

一方こちらはクリフォルニア大学の歴史部門室

教師のクリエイティがタイマーオーブを磨いてた

クリエイティ「はああ……キュツキュツと。クリスチーヌくんが卒

業してからもこの学園は平和だ」

一方こちらはキノコワールドのとある小屋

クリスチーヌ「今誰かアタシの事呼んだような……気のせいかしら？」

振り向いたクリスチーヌだが、彼女は勉強を続行した

そしてマリオ達はクリフォルニア大学の場所を知ろうと情報を集めていた

第90話終わり

第91話 クリオとクリスチーナ

クリフォルニア大学の場所を知ろうと情報を集めるマリオ達

マリオ「……………ああっ！！」

突然何か思い出したマリオ

ルイージ「兄さん、どうしたっていつの？」

マリオ「思い出した！確かクリスチーナが通っていた大学だ」

思い出したマリオの所に1匹のクリボーが駆けつけた

クリボー「考古学のクリスチーナの家なら知ってるぜ」

マリオ「そう！それだよ！早く教えてくれ」

クリボー「まずこの先の……」

マリオ達にクリスチーナの家までの順路を教えるクリボー

しかしその様子を物陰に隠れていたギルジンとデノロスに見られてしまった

デノロス「聞いたかギルジン、あいつらを尾行していけばオーブに辿り着けるってわけだ」

ギルジン「待て、ネットや雑誌でクリフォルニア大学の場所を調べ

る方が効率的だ」

デノロス「なるほど、流石ギルジンだぜ」

マリオ達を尾行するよりクリフォルニア大学の場所を調べて先回りしようと企むギルジン

マリオ達はクリスチーナの家を目指して進んでた

少し進むとメタルクリボーが数匹現れた

マリオ&ルイージ「ブラザースパークルサンダー!!!!」

バババババババ

メタルクリボー数匹「ギャアアアアア」

ブラザースパークルサンダーでメタルクリボー数匹を倒すマリオ達

一方こちらはクリスチーナの家

お茶を飲みながら遺跡の勉強をするクリスチーナ

クリスチーナ「この遺跡は2000年以上前に朽ちてしまってるのね」

勉強をするクリスチーナ、邪悪な気配を感じ、後ろを振り向いた

クリスチーナ「誰!?!」

振り向くとそこにはデスタイムスの軍団員が10人ほどいた

軍団員A「貴様クリスチーヌだな!？」

クリスチーヌ「どうしてあたしの名前を？」

軍団員B「クリフォルニア大学がどこにあるか教えろ」

クリスチーヌ「悪いけどあんた達みたいな奴らに教えられないわ」

軍団員A「このアマ……!!殺っちまえ!!!」

一斉にクリスチーヌに攻撃する軍団員達

丁度そこへクリオも駆けつけた

クリスチーヌ「クリオ!?!どうしてあんたがここに!？」

クリオ「まずはあいつらをやっつけちまおう」

2人で協力してデスタイムスの軍団員と戦うクリオ達

軍団員「くそ……だが直にギルジンさんとデノロスさんが大学に来る」

軍団員達は捨て台詞を残して逃げていった

クリスチーヌ「ふう……、ところでクリオは何でこんな所に？」

クリオ「クリフォルニア大学に行きたいけど、どこにあるか分から

なくて」

クリスチーヌ「なんだそんな事か、クリフォルニア大学なら……」

クリオにクリフォルニア大学までの順路を教えるクリスチーヌ

クリフォルニア大学までの順路を教えてもらったクリオは大学目指して出発した

その頃マリオ達は敵を倒しながらクリスチーヌの家を目指していた
第91話終わり

第92話 再会クリスチーヌ

クリスチーヌの家を目指し、進むマリオ達

そこへダウスが来て、マリオとぶつかった

ネシス「大丈夫ですか!？」

ダウス「すいません、ちょっと急いでたもんで」

ルイージ「あんたは？」

ダウス「ああ、私はダウスという者です、ところでクリフォルニア大学はどこにあるんですか？」

マリオ達にクリフォルニア大学の場所を尋ねるダウス

マリオ「俺たちこれからその大学を場所を教えてもらいに、クリスチーヌの家に向かってるんだ」

ダウス「私も一緒に同行させてください」

マリオ達と一緒に同行したいと願うダウス

ルイージ「どうする？兄さん」

マリオ「いいぜ、敵が襲ったら俺たちが護ってやる」

ダウス「ありがとうございます」

マリオ達にお礼を言うダウス

一方こちらはデスタイムスのアジト

将棋をするスィーブとゾルビア

パチン

ゾルビア「王手」

スィーブ「そう来ましたか……」

10手以上先を読んで王様の逃げ道を考えるスィーブ

スィーブ「ではここに逃げます」

ゾルビア「その手で来たわね」

ゾルビアも先の先まで考え、相手の王を追い詰める手順や自分の王を護る方法を考える

3時間以上の対局が終わり、スィーブが勝利

スィーブ「今回は私の勝ちでしたね」

一方こちらはキノコタウンのある家

ネットや雑誌でクリフォルニア大学の場所を調べるギルジンとデノロス

ギルジン「分かったぞ」

クリフォルニア大学の場所や順路が分かり、にやりと笑うギルジン

デノロス「おお！じゃあ早速」

ギルジン「ああ」

ドヒュウウウウ

ギルジンとデノロスは凄いスピードでクリフォルニア大学目指していった

その頃マリオ達は列車に乗ってクリスチーヌの家を目指していた

アナウンス（まもなくクリーマス駅です左側のドアが開きます）

数十秒後、列車が止まり、マリオ達は列車から降りた

列車から降りたマリオ達はクリスチーヌの家を目指した

マリオ「あのお…クリスチーヌの家は？」

通りかかったクリボーの女の子にクリスチーヌの家を訪ねるマリオ

クリミィーユ「クリスチーヌの家ならあそこにあるわ、私もちようど行く所だったの」

マリオ達はクリミィーユと一緒にクリスチーヌの家に向かった

数分後、家に着き、チャイムを押した

ピンポン

クリスチーヌ「はい」

チャイムの音を聞いて家から出るクリスチーヌ

クリミューユ「久しぶりねクリスチーヌ」

クリスチーヌ「クリミューユ！会いに来てくれて嬉しいわ。マリオも」

マリオ「よっ、久しぶりだな、ところでそのクリボーの女の子はお前の親友か？」

クリスチーヌ「クリミューユって言って、あたしの大学時代の親友よ」

久しぶりにクリスチーヌと再会したマリオ達、しかしギルジンとデノロスは凄いスピードでクリフォルニア大学目指しているのだった
第92話終わり

第93話 急げマリオ！クリフォルニア大学目指して

久しぶりにクリスチーナと再会したマリオ達

マリオ「クリスチーナ、早速悪いけどクリフォルニア大学がどこにあるか教えてくれないか？」

クリスチーナ「いいけど、どうして？」

マリオはクリスチーナにタイマーオーブを見せた

クリスチーナ「これって最近うちの大学に運ばれたのと同じ宝玉だわ！色は違うけど」

ルイーダ「これはタイマーオーブって言って、時間を司るオーブなんだ」

ネシス「それをデスタイムスとかいう悪い奴らが狙ってるんだ」

クリスチーナ「さっきあたしの家に襲ったのはそのデスタイムスの連中ね！」

マリオ「頼む！クリフォルニア大学の場所を教えてくれ！」

必死にお願いするマリオ達

クリスチーナ「分かったわ、あたしも一緒に行くわ！デスタイムスの思い通りにはさせない！！」

クリスチー又はマリオ達と一緒にクリフォルニア大学に行く事になった

一方こちらはクリフォルニア大学のある教室

クリオ「始めまして！クリ村から来たクリオです」

校長に自己紹介するクリオ

クリポルタ「わざわざそんな遠い所から」

微笑ましい表情で返事をするクリポルタ校長

その頃マリオ達は駅で列車を待っていた

マリオ「クリスチー又はいつもこうやって大学に通ってたの？」

クリスチー又「そうよ」

クリスチー又は毎日列車で通勤していたらしい

数分後列車が到着し、マリオ達は乗った

ダウス「何としても我々が先にオーブを見つけましょ」

ルイージ「そうだ！デスタイムスの奴らに渡すもんか！！」

列車は次の駅目指して出発した

マリオ「どこの駅で降りるんだ？」

クリスチーヌ「フォルニア駅よ」

フォルニア駅の近くにあるからクリフォルニア大学って名前がついたらしい

数分後、アナウンスが鳴った

アナウンス「ベステイオ駅、右のドアが開きます、ご注意ください」

その頃ギルジンとデノロスはクリフォルニア大学目指していた

デノロス「例えあいつらが先についても俺たちに掛ければ赤子同然」

ギルジン「ああ、先に俺たちがついてさっさとタイマーオーブを持ち帰ってもつまらないからな」

そしてこちらはクリフォルニア大学

ドオオオオオオン

クリポルタ「何事だ!？」

突然もの凄い音がしてクリオと一緒に外に出るクリポルタ校長

そこには凄い人数のデスタイムスの軍団員がいた

クリオ「あいつらさっきの」

軍団員「タイマーオーブを渡してもらおうか」

クリポルタ「タイマーオーブ？何の事だ？」

デスタイムスの連中はクリフォルニア大学に運ばれたオーブがタイマーオーブと分かっているが

校長や先生方、生徒達は全く知らないのであった、唯一人を除いて

……

その頃マリオ達は列車に乗ってフォルニア駅を目指しているのだった
第93話終わり

第94話 マリオ到着！クリフォルニア大学の激闘

クリフォルニア大学目指して列車で移動中のマリオ達

一方その頃、クリフォルニア大学では1000人以上の軍団員が攻め懸けていた

クリオ「ツギツギ頭突き！！」

ドガ ゴン ドン

ツギツギ頭突きで軍団員を10人ほど倒すクリオ

軍団員達「うおおおおおお」

クリオ「うわああああ！？」

圧倒的な数の軍団員に劣勢のクリオ

その頃マリオ達の乗っている列車はフォルニア駅に着こうしていた

数十秒後、フォルニア駅に着き、マリオ達は降りた

ブルルルルル……

ダウス「ちよつと失礼……」

携帯が振動し、電話に出るダウス

ダウス「私だ……、そうか、じゃ……」

クリスチーヌ「マリオ！急ぎましょー！！」

マリオ達はクリフォルニア大学目指して一気に走り出した

そしてクリフォルニア大学ではクリオが軍団員の大群と戦ってた

クリオ「う……う……」

圧倒的な軍団員相手にもはや戦闘不能寸前のクリオ

軍団員「随分粘るな」

クリオ「お前たちの思い通りにさせてたまるか！！ツギツギ頭突き
！！！！」

力を振り絞り、ツギツギ頭突きで攻撃するクリオ

20人ほど倒せたが、ついに力尽きて倒れてしまう

軍団員「くたばったか、校内に突撃！！！！」

ドドドドドドドドドド

一斉に校内に入る軍団員達

突然空が一瞬だけ光った

軍団員達「なんだ？」

空を見上げる軍団員達

ネシス「スターライトナビゲーション!!!!」

ピカアアアアア

スターライトナビゲーションで軍団員を100人ほど倒すネシス

クリオ「マリオ……クリ……ス……」

クリスチーナ「クリオよく頑張ったわ」

ルイーダ「あとは僕達に任せて!!」

マリオ「いくぞ!!」

マリオ達は一斉に軍団員に攻撃を開始した

マリオ「ファイアボール」

ルイーダ「アイスボール」

マリオ&ルイーダ「乱れ打ち!!!!」

ネシス「スタープリズムチェーン!!!!」

マリオ達が到着し、一気に形勢逆転

軍団員A「くそ、ギルジンさん達の到着は!?!」

軍団員B「あと少しだそうです」

軍団員C「ギルジンさん達が到着するまで持ち堪えろ!!!」

ギルジンとデノロスが到着するまで持ち堪えようとする軍団員達

そしてギルジンとデノロスはクリフォルニア大学目指して移動中だ
第94話終わり

第95話 マリオ奮闘！タイマーオーブを守れ！！

タイマーオーブを巡ってデスタイムスとの戦闘が開始した

軍団員数十人「うおおおおおお」

マリオ「ヒップドロップ！！」

ルイーダ「グリーンタイフーン！！」

ネシス「ムーンサルト・ブレード！！」

必殺技で一気に200人近くの軍団員を倒すマリオ達

その頃クリスチーナはダウスと一緒にタイマーオーブをある部屋にいた

ダウス「クリスチーナくん、外はマリオくん達に任せて、我々はここを護ろう」

クリスチーナ「ええ、あいつらの狙いはあの宝玉だからね」

そしてこちらはデスタイムスのアジト

ユージとヴィアーデが退屈そうに本を読んでいた

ユージ「暇だなあ……………」

ヴィアーデ「ええ、ギルジンさんとデノロスさんも出かけちゃった

し」

スィープ「今の私達の仕事はここを護るのですから」

冷静に答えるスィープ、そこへゾルビアも来た

ゾルビア「スィープの言う通りよ、それにオーブの1つは既にこっちにある」

ユージ「そうでしたね」

ゾルビアの言葉を聞いてホツとした顔になるユージとヴィアーデ

そしてクリフォルニア大学の校舎内ではダウスとクリスチーナが軍団員達と戦ってた

クリスチーナ「頭突き!!」

ダウス「ふううう……はっ!!」

軍団員数十人「ぐあああああ」

軍団員「くそ、たかが2人なのに」

校庭ではマリオ達と軍団員の戦闘が続いていた

マリオ「スイングハンマー!!!」

ルイージ「ロケットトルネード!!!」

ネシス「スターライト・スパークル!!!」

ズゴオオオオオオオ……

必殺技で軍団員を全員倒したマリオ達

マリオ「ふう……何とか全員倒したな」

ルイージ「僕達も校内に入ろう」

一斉に校内に入るマリオ達

3階に着くと倒れている軍団員が数十人いた

目の前にはクリスチーナとダウスの姿があった

ダウス「マリオくん、こっちも何とか片付いたよ」

クリスチーナ「マリオ!」

マリオにタイマーオーブを手渡しするクリスチーナ

ヒュッ

マリオ「……伏せる……!」

気配を感じ、大声で伏せろと言うマリオ

ドオオオオオオオオン

突然攻撃が飛んで来て校舎の壁が破壊される

目の前にはギルジンとデノロスの姿が

クリスチーヌ「ちょっと！どうしてくれるのよ！？弁償してよね！
」

ギルジンとデノロスに激しく激怒するクリスチーヌ

ギルジン「……うるさい」

パツ
トン

クリスチーヌ「う……………」

瞬間移動し、クリスチーヌを気絶させるギルジン

軍団員を全員倒したマリオ達、しかしあと一歩という所でギルジンとデノロスが到着してしまったのだった

第95話終わり

第96話 マリオ一味VSギルジン&デノロス

軍団員を倒したが、オーブを手に入れる寸前でギルジンとデノロスが到着してしまう

デノロス「ほお……お前がマリオか、随分人気者だな」

ギルジン「さつさとオーブを渡して貰おうか」

リイック「渡すもんか！ベーー」

ギルジンに向かってあっかんべーをするリイック

ギルジン「仕方ない……少し痛い目にあってもらうしかない」

力をちよつとだけ解放し、近づくギルジン

マリオ「気をつけろ！！こいつ強い」

ダウス「私はオーブを持って逃げる、きみ達は何とかここを食い止めてくれ」

ルイージ「わかった」

デノロス「逃がさねえよ」

シュツ ドゴオオオオオオ

ダウスを追いかけようとしたデノロスだが、ネシスに阻まれる

ネシス「お前らの相手は僕達だ」

デノロス「ほお……でかいだけのあの亀よりはマシなようだな」

ネシス「じゃあクツパ城を襲ったのはお前か!!」

デノロス「ああ、俺達に齒向かうんで、ちょっとお仕置きをしただけだ」

マリオ「ビッグファイアボール!!」

ドオオオオオオン

ビッグファイアボールがデノロスに直撃!!

しかしデノロスは全くダメージを受けていない

ギルジン「シザーカッター!!」

ネシス「ムーンサルト・ブレード!!」

バシユウウウウ

シザーカッターとムーンサルト・ブレードがぶつかり合い相殺

ギルジン「……………」

ギルジンは自分の周りに小さく光るような物を無数に出現させる

デノロス「ちっ」

とっさにバリアで防御を取るデノロス

ギルジン「針千吹雪」

千本以上の針が吹雪のようになってマリオ達に襲い掛かる

マリオ&ルイージ「ああああああ」

ネシス「くっ……」

針千吹雪でダメージを受けるマリオ達

デノロスはバリアで防御しているので全くダメージを受けない

キキキキキキキキ……

数十秒後、攻撃が止んだ

マリオ&ネシス「ハア……ハア……」

マリオとネシスは耐えたが、ルイージは戦闘不能になってしまう

ギルジン「……ふん」

マリオ「ルイージ！ネシス全力でいかないとこいつらには勝てない」

ネシス「ええ！」

マリオはエターナルスターパワーを発動し、ネシスもついに本気になった

果たしてマリオのエターナルスターパワーはギルジンとデノロスに通用するのか！？

第96話終わり

第97話 真の力解放！脅威の憎魔開放

マリオ達とギルジン&デノロスの戦闘は続く

ついに本気になったマリオ達

マリオ「いくぞネシス」

ネシス「はい」

凄い力を纏ってギルジンとデノロスに向かうマリオ達

ガガッ

だがギルジン達はマリオ達の攻撃を容易に受け止めてしまう

マリオ「何！？」

ギルジン「ジャック・スパイラル！！！」

スパパパパパパ

無数の刃でマリオを切り裂くギルジン

ネシス「マリオさん！！」

デノロス「よそ見してる余裕などないぜ！？」

ネシスの一瞬の隙を突き、攻撃を仕掛けるデノロス

ドゴオオオオオオ

デノロスの攻撃で壁まで吹っ飛ぶネシス

マリオ「エターナルスターサンシャイン！！！」

ギルジン「フッフ」

マリオもギルジン相手にエターナルスター技で応戦するが、苦戦させられている

数分間の激闘が続き、マリオとネシスに息が上がり始めた

マリオ「まさかこれほどとは……」

デノロス「どうせこいつらは負けるんだ、最後にあれを見せてやろうぜ」

ギルジン「好きにしろ」

上着を脱ぎ、上半身裸になるデノロス

マリオ&ネシス「！！！」

デノロスの左胸には悪魔の紋章が刻まれていた

デノロス「今のままでも十分倒せるが、サービスとして憎魔開放を見せてやるっ」

マリオ&ネシス「憎魔開放？」

デノロス「憎魔開放はこの悪魔の紋章に自らのエネルギーを注ぎ込むことで発動する」

キュウウウウウ

左胸の悪魔の紋章にエネルギーを注ぎ込むデノロス

一方こちらはデスタイムスのアジト

シャワールームから出て、バスタオルで身体を拭くゾルビア

その左胸には悪魔の紋章が刻まれていた

クリフォルニア大学ではマリオ達とギルジン&デノロスの戦闘が続いていた

デノロスの周りを巨大なオーラが包む

マリオ「気をつける！何が来るか分からないぞ」

オーラが消え、デノロスの方を向くマリオ達

そこにはサイと一体化したようなデノロスの姿があった

デノロス「いくぞ」

トトトトトトト

猛烈な勢いで突進してくるデノロス

マリオ「エターナルスターシールド……！」

ネシス「プリズムスターシールド……！」

パアアアア　ズガアアアアア

マリオ&ネシス「うわあああああ」

ダブルスターシールドで防御するマリオ達だが、デノロスの力が強すぎて破壊されてしまう

憎魔解放したデノロス相手にマリオ達はどうか戦うのか！？

第97話終わり

第98話 エターナルスター敗れる！？

憎魔解放し、その圧倒的な力でマリオ達を追い詰めるデノロス

マリオ「エターナルスター流星群！！！」

ネシス「スターライトナビゲーション！！！」

シュバアアアア

必死に抵抗するマリオ達だが、デノロスとの距離が徐々に縮んでいく

デノロス「そろそろ諦めたらどうだ」

マリオ「諦めるもんか！！」

ネシス「お前たちの思い通りになんかさせない！」

デノロス「ほう、だが努力と根性だけではおれ達には勝てないぜ」

一方こちらはフォルニア駅のステーション

クリスチーナとダウスがタイマーオーブを持ってベンチに座ってた

ダウス「私たちはここで彼らの勝利を祈りましょ」

クリスチーナ「マリオ……………頑張つて」

マリオの勝利を祈るクリスチーナ、しかしそのマリオは一方的にや

られていた

デノロスの攻撃でダメージを受け続け、マリオ達はもう立っている
ので精一杯だ

マリオ「ち……く……………しょ……………」

デノロス「おわりだ、デス・ホーン！！！」

巨大な角でマリオ達を空高く放り投げるデノロス

ヒュウウウウウ ドオオオオオオン

デノロスのデス・ホーンでマリオとネシスも戦闘不能になった

マリオ達を倒すとデノロスは憎魔開放を解除して元に戻る

ギルジン「いくぞデノロス」

ギルジンとデノロスはクリスチーヌ達を追っていった

フォルニア駅ではクリスチーヌとダウスが休息を取っていた

数分後、ギルジンとデノロスがやって来た

クリスチーヌ「あんた達は！？」

ギルジン「いい加減観念しろ」

クリスチーヌ「いやよ！！！！」

オーブを持って必死に逃げるクリスチーナ

しかしあつと言う間にオーブはギルジン達の手に移ってしまう

ギルジン「引き上げるぞデノロス」

タイマーオーブを奪ったギルジンとデノロスはデスタイムスのアジトに戻っていった

数時間後、マリオ達は意識を取り戻し、教室に集まっていた

ルイージ「くそっ！」

悔しそうに床を叩くルイージ

ダウス「お役に立てなくて申し訳ない」

マリオ「気にするな、ダウスさんが悪いわけじゃない」

マリオに謝罪するダウスだが、マリオはダウスに罪はないという

ピピピピ……

話の最中に誰かの携帯電話が鳴った

ネシス「誰の携帯ですか？」

ダウス「私のだ」

携帯に出て電話をするダウス

数秒後、ダウスは携帯電話をポケットに閉まった

ダウス「申し訳ないけど、そろそろ時間ですので失礼させていただきます」

一足先に帰っていくダウス

ルイージ「兄さん、これからどうするの？」

マリオ「分からない、影の国にはまだオーブが1個あるはずだ」

一方こちらは影の国

傷も完治し、タイマーオーブを探しに行く準備をするワリオ達

ワリオ「オーブは1つ奪われたが、まだこの国のどこかにオーブが1個残っている筈だ」

ワリオ達は最後のタイマーオーブを求めて出発するのだった
第98話終わり

第99話 クロッカーの妖しき薬品

ここはデスタイムスのアジト

三聖士の前にボスが現れた

???「よくやったぞ！三聖士」

ギルジン&ゾルビア&デノロス「はっ」

デノロス「この調子で残りもかっぱらってやるぜ！」

???「待てデノロス、オーブは2つもこちらにある、こいつに」

デスタイムスのボスは2つのオーブに邪悪な力を注ぎ込んだ

???「これでよし、三聖士はしばしの休息を取るがいい」

ギルジン達はボスに言われた通り、休息を取った

???「ヴィアーデ、クロッカー、今回のオーブ奪還はお前達に任せよう」

ヴィアーデ「次こそ必ず奪ってみせます！」

クロッカー「あの小娘は厄介だが、私の薬で……イヒヒヒヒ」

怪しい薬品を持って不気味に笑うクロッカー

一方こちらは影の国

ワリオ達が最後のタイマーオーブのある場所へ行く準備をしていた

ワリオ「タイマーオーブはどこにあるんだ」

ミント「あっちの方に反応があるわ」

ワリオ達はミントが指を指した方向へ進んだ

タイマーオーブのある場所を目指し、進むワリオ達

少し進むとポイズンマミーが現れた

ポイズンマミー「シャアアアアア」

猛毒の染みた包帯で攻撃するポイズンマミー

ルリナ「ファイア・ウィップ！」

ポオオオオオオオ

しかしルリナのファイア・ウィップで包帯は燃やされ、あっけなく倒されてしまう

ポイズンマミーを倒し、先を進むワリオ達

今度はブラッドブロスとリビンググリボーが現れた

ブラッドブロス「おおおおお」

ワルイージ「うわああああ」

血が染まった手でワルイージを攻撃するブラッドブロス

その攻撃力は半端じゃなく、かなりのダメージだ

ビビアン「ワルイージ、スーパーキノコよ」

スーパーキノコでワルイージの体力を回復させるビビアン

ワリオ「ブル・タツクル!!!!」

ドゴオオオオオオン

ブル・タツクルでブラッドブロスを倒すワリオ

リビンググリボーもルリナが魔法の炎でKO

そしてこちらはワリオ達から少し離れた場所

クロツカーのヴィアーデが木の下に立っていた

ヴィアーデ「本当にこんな薬で勝てるの」

クロツカー「天才的な私の頭脳をなめてもらっては困る」

自信満々に言うクロツカー、一体どんな薬なのだろうか？

果たしてワリオ達はタイマーオーブを手に行けるのか!？

第100話 ビビアンとルリナの冒険

タイマーオーブのある場所を目指し、前に進むワリオ達

少し進むと看板があつた

ワリオは看板を読み始めた

ワリオ「えーと…ここより先、聖地であるため一族以外の立ち入りを禁ずる」

ワルイージ「ここから先は影族以外の者は入っちゃいけないのか」

考える内に影兵士の1人が来た

ルリナ「ミネル！その怪我はどうしたの！？」

ミネル「ルリナ様、怪しい奴らが黄泉の塔の鍵を奪って行きました」

ビビアン「その怪しい奴らはどこ行つたの？」

ミネル「あそこです……」

ミネルは怪しい奴らが聖地に向かったと言つてゐる

ミネル「それとオーブラしきものも黄泉の塔の最上階にありましたよ」

ミント「それってタイマーオーブの事よ……」

最後のタイマーオーブは黄泉の塔の最上階にあるらしい

数十分後、ミネルはロズーに運ばれていった

ワリオ「さて、どうするか……」

ワルイージ「オレとワリオとミントでは行けない」

数分後、200人以上のデスタイムスの軍団員が攻めて来た

ミント「凄い数だわ……!」

ワルイージ「くそおお!! ビビアン!! ルリナ!! ここはオレ達に任せて、お前らは鍵を奪い返して来い!!」

ルリナ「わかったわ!! ビビアン行くわよ」

ビビアン「はい!!」

ビビアンとルリナは聖地に入っていた

ワリオ達はビビアン達が黄泉の塔の鍵を奪還するまでの間、軍団員を足止めする事になった

ワリオ「こっから先へは進ませねえぜ」

軍団員「やっつけろ……!!」

軍団員数百人「おおおおおお」

一斉に攻めかかる軍団員達

ワリオ「ブル・タックル!!!」

ワルイージ「ワルイージ・ボム!!!」

ドゴオオオオオ ボボン

ブル・タックルとワルイージ・ボムで軍団員を数十人倒すワリオ達
その頃ビビアン達は聖地を進んでた

少し進むとリビンググリボーとブラッドブロスが現れた

ビビアン「魔法の炎!!!」

ルリナ「カゲぬけパンチ!!!」

ゴオオオオオ ドゴッ

リビンググリボーとブラッドブロスを倒し、先に進むビビアン達

少し進むと今度はデカカロンが現れた

デカカロン「シャッ」

巨大な骨をブーメランのように投げつけるデカカロン

ルリナ「ドラゴンフレイム!!!」

ズゴオオオオオオ……

ドラゴンフレイムで容赦なくデカカロンを灰1つ残さず倒すルリナ

ビビアン達は黄泉の塔の鍵奪還を目指し、さらに先へ進むのだった
第100話終わり

第100話 ビビアンとルリナの冒険（後書き）

キャラ紹介

『ビビアン』

カゲ三人組の末っ子でマジヨリンとマリリンの弟
炎を使った攻撃が得意でワリオ達をサポートする
帽子の色は白とピンクのしましま模様

第101話 取り返せ！黄泉の塔の鍵

鍵奪還を目指し、聖地を進むビビアンとルリナ

その頃聖地の外ではワリオ達がデスタイムスの軍団員と戦ってた

ワリオ「ヒップドロップ！！！」

ワルイージ「チェーンワルイージボム！！！」

ズシン ボボボボボボ

必殺技で次々と軍団員をなぎ倒すワリオ達

そしてビビアン達は聖地を進んでた

進むと今度はリビンググクリボーが現れた

ルリナ「ファイア・ウィップ！！！」

バシイイイイ

ファイア・ウィップでリビンググクリボーを倒すルリナ

一方こちらはお城の中

影の看護師に手当てしてもらったミネルが椅子に座ってた

そこにブラックロードとベルロークが来た

ブラックロード「ミネル、怪我の具合はどうだ？」

ミネル「おかげで大分楽になりました」

ブラックロード「デスタイムス、想像以上の組織のようですね」

ベルローク「ああ、ルリナ様もゾルビアとかいう女にやられちゃった、ジュランでも勝てるかどうか……」

別の部屋ではチロルとゴモマンとワノールとロズーがババ抜きをしていた

チロル「……………これだ！！あーー……………」

ワノールのカードを取ったチロルだが、ババだった

ロズーとワノールはババを取っても取られても表情を変えなかった

その頃ビビアン達は聖地を進んでた

少し進むとエリート軍団員が2人いた

その軍団員の手には鍵が握られていた

ルリナ「怪我しなくなったら今すぐ鍵を渡しなさい！！！」

エリート軍団員A「小娘ごときが笑わせる」

エリート軍団員B「くらえ！」

バコオオオン

ビビアン「ああっ」

ビビアンに攻撃するエリート軍団員B

ビビアン「あいつ結構強いわ」

エリート軍団員B「次はお前だ！」

さっきと同じようにルリナにパンチをくらわせようとするエリート
軍団員B

ルリナ「カゲぬけパンチ……！」

ドゴオオオオオ

しかしカゲぬけパンチで返り討ちにあってしまっ

残ったエリート軍団員Aもファイア・ウィップで倒されてしまっ

エリート軍団員といえど、ルリナが相手では赤子同然であつた

ビビアンとルリナは鍵を取り戻し、ワリオ達に合流しにいった

聖地と外ではワリオ達が軍団員達と戦つてた

ワリオ「ブル・タックル……！」

ブル・タツクルで最後の1人を倒したワリオ

ちょうどそこへビビアンとルリナが来た

ビビアン「ワリオーーーー！！」

ルリナ「鍵を取ってきたわ」

ワルイージ「オウ！俺達もちょうどこいつらを片付けたぜ」

ミント「それじゃ黄泉の塔に行きましょう」

鍵を手に入れたワリオ達は黄泉の塔を目指すのだった

第101話終わり

第101話 取り返せ！黄泉の塔の鍵（後書き）

キャラ紹介

『ルリナ』

ビビアンと瓜二つの影族の子供で、カゲの女王の娘
エターナルスターのマリオと同等の実力を持っており
炎の威力はビビアンとは比べ物にならないほど強力
帽子の色は白と薄紫のしましま模様

第102話 黄泉の塔を目指して

鍵を手に入れ、黄泉の塔へと出発したワリオ達

少し進むとホネワンワンが襲って来た

ホネワンワン「バウバウバウ」

ルリナ「カゲぬけパンチ！！！」

バコオオオオオ

ホネワンワン「キャインキャイン」

ルリナのカゲぬけパンチで返り討ちにされて逃げていった

一方こちらはデスタイムスのアジト

ギルジン達、三聖士が黒ひげ危機一髪をしていた

プス ポン

デノロス「くそっ」

ゾルビア「はい、これでデノロスの2連敗」

ギルジン「次はイタイワニでもしないか？」

デノロス「よし！さっきの挽回をしてやる！！！」

黒ひげ危機一髪に続き、今度はイタイワニで遊ぶ三聖士

そしてこちらはスィーブの部屋

忙しそうに書類を書き上げるスィーブ

その最中に誰かがノックした

コンコン

スィーブ「どうぞ」

ユージ「失礼します」

入って来たのはユージだった

スィーブ「何か用ですか？ユージさん」

ユージ「ヴィアーデとクロッカーさんはどこに？」

スィーブ「クロッカーさん達ならオーブ奪還に出かけられています」

ユージ「失礼しました」

静かにドアを閉じるユージ

その頃ワリオ達は黄泉の塔目指して進んでた

ワリオ「ブル・タックル！！」

ワルイージ「チェーン・ワルイージボム！！！」

技を使って次々と敵をなぎ倒すワリオ達

一方こちらは黄泉の塔の入り口手前

クロッカーとヴィアーデがワリオ達の到着を待っていた

クロッカー「あいつらが来たら尾行して、タイマーオーブを奪う」

ヴィアーデ「あんたの薬にかかっているんですからね」

そしてワリオ達は黄泉の塔を目指していた

進むと何十本の蔓が道を塞いでた

ルリナ「えい」

ゴオオオオオオオオ

指先から炎を出して蔓を一掃するルリナ

蔓を焼き払い、先を進むワリオ達

シュルルルルン

ワルイージ「うおっ！？」

ワリオ「なんだ！？」

突然地下から蔓が出てきてワリオの手とワルイージの足を縛ったの
だった

第102話終わり

第103話 幻惑の黄泉の塔

黄泉の塔を目指し、進んでいくワリオ達

少し進むと看板があつた

ワルイージは看板を読み始めた

ワルイージ「この先黄泉の塔、目に見える物は真実であり、偽りでもある」

ルリナ「これは何かのヒントみたいね」

ワリオ達は看板に書いてあつたことを頭に入れ、黄泉の塔を目指した
数分後、黄泉の塔に到着したワリオ達

一方こちらは黄泉の塔の5階

クロツカーとヴィアーデが塔の仕掛けに苦戦していた

ヴィアーデ「1階じゃ迷路に苦戦したし、ここじゃ見えない床の上を歩かなきゃならないし、それに見えてる床は本物と幻覚が混ざってるし」

クロツカー「さっきの4階でも2択で、道を間違えたら1階まで落ちてしまったぞ」

塔の仕掛けに苦戦しながらも最上階を目指すクロツカーとヴィアーデ

その頃ワリオ達は塔の1階を進んでた

ビビアン「魔法の炎!!!」

軍団員数名「ギャアアア」

次々と襲ってくる軍団員を倒しながら進むワリオ達

少し進むと2階への階段があった

ワルイージ「やーーーーー!!!」

一気に階段へ突っ走るワルイージ

ドドドドドド ガンッ!!

突然見えない壁にぶつかったワルイージ

ビビアン「ワルイージ大丈夫!？」

ワルイージ「いってー……」

手探りで辺りを調べるルリナ

ルリナ「ここは見えない迷路になっているわ」

壁にぶつからないよう、手探りで進むワリオ達

数十分後、見えない迷路を突破し、2階へ進むワリオ達

2階へ上がると今度は巨大な火の壁が迫ってきた

ワリオ「ギャアアアア」

ワルイージ「早く影の中に非難だ」

ビビアンとルリナはワリオ達をしっかりと押さえた影の中に入ろうとした

しかし何の変化も無かった

ワリオ「何やってんだよ!？」

ルリナ&ビビアン「カゲがくれ!カゲがくれ!!カゲがくれ!!!」

何度もカゲがくれを行うビビアン達だが、全く入らない

ワルイージ「ふざけてるのか!?!てめえ!!!」

ルリナ「ふざけてなんかないわ!!!」

ビビアン「この床が特殊なのよ」

そう、2階の床はカゲがくれができない特殊な床なのだ

そうしてる間に火の壁はすぐ近くまで来ていた

4人「うわあああああ」

絶対絶命のピンチ！果たしてワリオ達の運命は！？
第103話終わり

第104話 黄泉の塔を上れ

最上階を目指し、黄泉の塔を上るワリオ達

カゲがくれない状況で火の壁が迫り絶対絶命

火の壁がワリオ達に激突

ルリナ「……………ん？、この火熱くないわ」

ワリオ「何！？じゃあこれは幻か」

ワルイージ「そうと分かれれば怖いもんなしだぜ！！！」

火の壁が幻覚だと分かったワリオ達は一気に突っ走る

ワルイージ「あちゃちゃちゃ、なんちゃって」

余裕で火の壁を通り抜けるワリオ達

そして13個目の火の壁が迫ってきた

ワルイージ「へっ、どうせまた幻だろ」

ワリオ「でもなんだか暑くなってるないか？」

ビビアン「そうね、暑く……………」

徐々に迫っていく火の壁

ルリナ「違う！あれは本物よ！！！」

本物の火の壁から必死に逃げるワリオ達

ルリナ「あそこへ飛び込もう！！」

窪みを見つけたルリナ達は一斉に窪みへ飛び込んだ

火の壁が通り過ぎるとワリオ達は窪みから出て、再び進んだ

一方クロツカーとヴィアーデは唐の5階を進んだ

ヴィアーデ&クロツカー「……………」

ゆっくり慎重に6階への階段を目指すクロツカー達

そしてワリオ達は3階を進んだ

3階の床は氷でできた床と、それに似せて作った普通の床があった

ワリオ達は滑らないよう、ゆっくりと進んでく

そしてこちらはデスタイムスのアジト

デスタイムスのボスが基地内の全ての軍団員を集めていた

「???」ここにいる軍団員および、エリートのは基地内の警備、残りはあそこに向かう準備だ」

デスタイムスの連中はある場所へ向かう準備をするらしい、そのある場所はどこなのか？

ゾルビア「……様、スィーブや我々三聖士以外の幹部は誰を連れて行きますか？」

???「それは後ほど決める」

どうやらデスタイムスの恐るべき計画が動き出そうとしてるみたいだ

その頃ワリオ達は黄泉の塔の4階を進んでた

少し進むと2択の道が現れた

ワリオ「これはどっちかが罠のパターンだな」

真剣に正解のルートを見極めようとするワリオ

ワリオ「右だ！……！」

右の道を進むワリオ達

スポン

4人「あああああああ」

ミント「みんな……！！！！」

ルートを間違え、3階に落ちたワリオ達

数分後、ワリオ達は再び4階へ上がった

今度は左のルートを進んだ、しかし……

スポン

またも3階に落ちてしまうワリオ達

ビビアン「もう！ムカツク！！！」

ルリナ「どうやら正解のルートがランダムで変わるみたいね」

4階の2択ルートはランダムで正解が変わり、3つ連続ある

1つめで間違えば3階、2つめで間違えば2階、3つめで間違えば1階まで落ちてしまうという過酷なものだった

再び4階へ上がり、慎重にルートを選んだ

左、右、右と選び、運よくクリアしたワリオ達

4階をクリアし、5階へ上がるワリオ達

果たして5階にはどんな罠が仕掛けてあるのか！？

第104話終わり

第105話 見えない道を突破せよ

最上階を目指し、黄泉の塔を上るワリオ達

5階に着くと階段までの間に大きな穴があり、足場は少ししか無かった

ワルイージ「こんなのどう渡れてんだよ!!」

ヒュウウウウ コン

やけになって石を投げるワルイージ

何かに当たった音になり、石はそのまま4階に落ちた

ビビアン「……………」

しゃがんで辺りをコンコンと叩くビビアン

ビビアン「見えない床があるわ」

ルリナ「あたしが先頭になるわ、ファイア・ウィップ!!」

ルリナが先頭になり、ファイア・ウィップを出しながら進んだ

ファイア・ウィップを頼りに見えない床の上を進むワリオ達

少し進むとファイア・ウィップが下に垂れた

ルリナ「こっちは落とし穴か、じゃあこっちな」

前進と後退をしながら少しずつ6階への階段を目指す

一方こちらは塔の6階

クロツカーとヴィアーデが扉の謎に苦戦していた

クロツカー「全然分からん……、影族しか読めない字だからな」

ヴィアーデ「早くしないとあいつら来ちゃうじゃない!!」

その頃ワリオ達は塔の5階を進んでた

数分後、階段に辿り着いたワリオ達

クロツカー「どっかに隠れて様子を見よう」

ワリオ達が上がってくるとクロツカーとヴィアーデは隠れてワリオ達がドアを開けるのを待った

6階についたワリオ達、6階には何の仕掛けも無く、階段の前に魔法の扉があるだけだった

魔法の扉へ向かって走るワリオ達

ワルイージ「読めるか？」

ルリナ「えーと……若きプリンスス及びプリンスよ、扉の前に立ち現女王の名を言え」

ビビアン「なんだ簡単じゃん」

ルリナ「……………!!」

女王の名を叫ぶルリナ、女王の名前は秘密です

すると扉が反応して開いた

7階に駆け上がるワリオ

ついに最上階の7階に着いたワリオ達

ミント「あれ!」

ミントが指を指した方向にタイマーオーブがあった

ビビアン「やったー! ゲット……………」

スカッ ドテン

オーブに触れようとした途端、突然オーブが消えてビビアンは床にこけてしまう

ルリナ「……………」

気配に感じたルリナは後ろを振り向いた、するとタイマーオーブを持ったクロッカーとヴィアーデの姿があった

ワリオ「てめえはあの時の……………」

ヴィアーデ「今度こそおしまいだよ、クロツカー例の薬を」

クロツカー「分かっているよ、それっ」

ルリナ「キャッ!？」

妖しい薬をルリナに投げつけるクロツカー、一体どんな効果があるのか!？

第105話終わり

第106話 大ピンチ！ルリナが弱くなっちゃった

クロツカーとヴィアーデの戦闘になったワリオ達

妖しい薬品をルリナに投げつけるクロツカー

クロツカー「やったぞ」

ルリナ「やったわね！！魔法の炎！！！」

全力で魔法の炎で攻撃するルリナ、しかし炎は火の粉ほどの大きさしか無かった

ルリナ「あれ！？それならカゲぬけパンチ！！」

ポム

カゲぬけパンチでヴィアーデを攻撃するも、幼稚園児以下の威力だった

ワリオ「一体何がどうなってんだ？」

ビビアン「さっきあいつが投げた薬のせいよ」

クロツカー「その通り、こいつは相手を弱くしてしまう薬なのだよ」

ヴィアーデ「解毒剤でも飲まない限り勝ち目はないわ」

ワリオ「ビビアン！ドペル博士の所に行って解毒剤を作ってもらえ

「!!」

ビビアン「わかったわ」

クロツカー「そうはせん!」

違う薬品をビビアンに投げつけるクロツカー

薬にあたったビビアンは動きが止まってしまった

ワルイージ「今度は動きを止める薬か」

クロツカー「違うな、ちゃんと動いているよ、ただし1ミリ進むのに100年かかるがな」

ワルイージ「これじゃ何百万年かかるかわからねえ!!!」

ルリナは超弱体化、ビビアンは超鈍足にされピンチのワリオ達

ワルイージ「ここは俺様とワリオで食い止める、ミントは解毒剤をもらって来い」

ヴィアーデ「ただだよ、クロツカーさっきの薬を」

クロツカー「ふっふふふ………」

またもや動きを遅くする薬を投げつけるクロツカー

ワルイージ「させるか!!」

ドオオオオオン

ワルイージボムで薬を爆発させるワルイージ

その隙にミントが塔の窓から外に出た

ワリオ「ワルイージ、こいつらを足止めだ」

ワルイージ「オウ!!」

ワリオ達はミントがドペルから解毒剤をもらっまでの間、クロツカ
ーとヴィアーデを足止めする

ワリオ「ブル・タツクル!!!」

ヴィアーデ「うああああああ」

ブル・タツクルでヴィアーデを攻撃するワリオ

一方塔の外ではミントがドペルの研究所目指していた

ミント「待ってて、みんな」

全速力でドペルの研究所を進むミント

一方こちらはドペルの研究所

新しい薬の開発に励むドペル

ドペル「やった!! 完成だ」

ブラックロード「で、今度は何の薬だ？」

ドペル「これは風や病気はもちろん、どんな状態異常をも治してしまうのだ」

一方塔の最上階ではワリオ達がクロッカー達と戦ってた

クロッカーの妖しい薬品に苦戦しながらも何とか足止めするワリオ達

そしてミントはドペルの研究所目指して進むのだった

第106話終わり

第107話 急げミント！みんなのために

ドペルの研究所を目指し、全力疾走のミント

ミント「待つてて、みんな……！！」

その頃ワリオ達はドペルとヴィアーデと戦ってた

ドペル「ほれ」

ガシャアアア シュウウウウ

薬品をワルイージに投げつけるドペル

ルリナ「今度は何の薬なの！？」

ワルイージ「あはははははは」

薬が当たったワルイージは狂ったように笑いながらワリオ達を攻撃して来た

ワリオ「混乱させる薬か！！」

ルリナ「まずいわ、カゲがくれ」

シュウウウウン

カゲがくれでワリオ達と一緒に一旦身を潜めるルリナ

クロツカー「出てきた所をこの特性薬品と」

ヴィアーデ「私の必殺技で狙い撃ちだ」

クロツカー達はルリナ達が影から出るのを待つて狙い撃ちするつもりらしい

ルリナ達が影から出るのを待つクロツカーとヴィアーデ

ルリナ「狙い撃ちにするみたいだね、それなら」

影の中で自分そっくりの真つ黒い分身を作り出すルリナ

分身が影の中から飛び出した

クロツカー＆ヴィアーデ「くらえ!!!」

分身に同時攻撃するクロツカーとヴィアーデ

ヴィアーデ「何!?ニセモノだと?」

ワリオ「本物はこっちだ!!!ニクブレス!!!」

ルリナ「魔法の炎!!!」

魔法の炎とニクブレスが混ざり合い、凄い火力を發してた

クロツカー「味な真似を」

怒ったクロツカーはまた違う薬品を懷から取り出した

クロツカー「ヴィアーデ、あのニンニク野郎を抑えろ」

ヴィアーデ「了解だよ」

ワリオ「何をする！？」

全力でワリオを取り押さえるヴィアーデ

クロツカー「貴様にはこいつをくれてやる」

ボワアアアアア

薬品をワリオにぶつけるクロツカー

その頃ミントはドペルの研究所を目指してた

数分後、ドペルの研究所に着いたミント

ドペル「何じゃ、君はいつかの」

ミント「急いで解毒剤を作ってほしいんです！！！！」

ミントはドペルに事情を話した

ドペル「なるほど、だが安心せい！薬は既に完成してる！！これを病気や怪我はもちろん、どんなに弱くさせられても遅くなくても元に戻る」

ミント「ありがとうございます！！」

ドペルから薬をもらったミントは再び黄泉の塔を目指した

そして黄泉の塔ではルリナが1人頑張って戦ってた

ルリナ「ああああ」

クロツカー「往生際の悪い」

ヴィアーデ「いい加減観念しなさい」

ルリナ「絶対負けるもんですか!!!!」

どんなに不利と分かっているにも必死に戦うルリナ

ミントはドペルから貰った薬を持って黄泉の塔を目指してた

第107話終わり

第108話 ルリナ怒りの大反撃

ドペルから貰った薬を持って黄泉の塔へ急ぐミント

その頃黄泉の塔では薬によって弱体化させられたルリナが1人戦ってた

ルリナ「あああ」

ドシャアアアア

ワルイージとぶつかり、ダメージを受けるルリナ

ワルイージ「あれ？俺様は何やってんだ？」

ぶつかったショックで混乱が解けたワルイージ

ヴィアーデ「ち、正気に戻ったか、クロツカー薬はあといくつある？」

クロツカー「まだ2つ残ってるよ」

ニヤツとした顔で2種類の薬を取り出すクロツカー

クロツカーは取り出した2種類の薬をルリナとワルイージにぶつけた

ルリナ「何これ？ワルイージは？」

振り向くルリナだが、ワルイージは爆睡してた

クロッカー「そいつはこれから3日間起きる事はない、お前の全ての能力を封じた」

窮地に立たされ、絶体絶命のピンチ

一方ミントは黄泉の塔のすぐ近くまで来ていた

ミント「見えた！待っててすぐ行くから」

一気に上昇して最上階目指すミント

塔の最上階ではルリナが痛めつけられてた

クロッカー「元に戻らん限り、君に勝ち目はないよ」

ヴィアーデ「簡単に殺したら楽しみが無くなるからね、じっくり罠
らせてもらうよ」

ルリナ「卑怯……………者……………」

クロッカー「褒め言葉として受け取ろう」

クロッカーとヴィアーデを卑怯者呼ばわりするルリナ

しかしクロッカーは褒め言葉として受け取るのだった

ミント「ワリオさ……………ん！！！！！！」

その時ミントが薬を持って来たのだった

ワリオ「まに……あつた……みたいだな」

ミント「これを飲めば元に戻れます」

ワリオ「早く……ルリ……ナ……に……」

体が麻痺してる状態でルリナに飲ませるように言うワリオ

ヴィアーデ「させるか……!!」

当然のごとく、クロッカーとヴィアーデはルリナに薬を飲ませまいと必死になって襲い掛かる

ワリオ「うおおおおお!!!!」

力を振り絞り、クロッカーとヴィアーデを足止めするワリオ

ワリオ「早く……!!」

ミント「うん」

薬を持ってルリナの所へ走るミント

ヴィアーデ「……この」

ビッ

ガシャアアアアア

ヴィアーデの攻撃でピンが割れてしまい、液体が飛び散って煙が巻き上がった

ワリオ「ち……く……しょ………」

クロツカー「今度こそジ・エンド」

勝利を確信した笑いを浮かべるクロツカーとヴィアーデ

ルリナ「……………」

凄い怒りのオーラを纏いながらクロツカー達に近づくルリナ

ヴィアーデ「まだやられ足りないようだね」

ルリナ「……魔法の炎………」

ゴオオオオオオオ

クロツカー＆ヴィアーデ「ギャアアアアアア」

凄い威力の魔法の炎を繰り出すルリナ

ピンが割れた時に飛び散った液体の1滴がルリナの口の中に入っていたのだ

ルリナ「さんざん好き放題してくれたわね……、覚悟はできてんでしょうね？」

怒りの表情で手をポキポキ鳴らすルリナ

クロッカー「もう逃げるしかない」

ルリナの強さが元に戻ってしまい、薬を全部使い果たしたクロッカー達には逃げるしか打つ手が無かった

ヴィアーデ「退くしか無さそうだね」

ルリナ「逃がすか！！！！」

逃げようとするクロッカーとヴィアーデを捕まえ、攻撃するルリナ

ゴオオオオ ブオオオオオ トトトトトトト

ルリナの猛攻によって戦闘不能寸前のクロッカー達

ルリナ「とどめよ！ファイア……きゃっ！？」

とどめの指そうとした途端、何者かがルリナを攻撃した

スィーブ「何をやってるのですか？」

ヴィアーデ&クロッカー「スィーブさん」

ルリナ「あんたはあの時の！」

スィーブ「久しぶりですね、私は戦いに来たものではありませんよ、戻りますよ」

ヴィアーデとクロッカーを連れてスィーブはアジトに戻っていった

第109話 再び時の国へ

クロッカー達を連れてアジトに戻ったスイープ

スイープ達が去るとルリナとミントは床に落ちてる薬を手で掬って
ワリオ達に飲ませた

ビビアン「動ける！早く動ける！！」

ワルイージ「よく寝てしまったぜ」

ワリオ「大分体が楽になった」

薬で元に戻り、大喜びのワリオ達

タイマーオーブも無事手に入れた

一方こちらはキノコワールド

リイック「久しぶりに時の国に行きませんか？」

マリオ「そうだな……、行くか」

そして影の国でもミントが時の国に行く相談してた

ミント「オーブも大分集まったし、時の国に戻って見ましょう」

ワリオ「こんなに持ってたなら荷物になっちまうからな、行こうぜ時の国に」

パシュン

同時にテレポートするリックとミント

ルリナ「ここが時の国」

マリオ「ルリナ！久しぶりやな」

ルイージ「オーブはいくつ集まった？」

ビビアン「2個よ」

ルイージ「僕達も2個集めたよ」

ネシス「1個デスタイムスに取られたんだ、ギルジンとデノロスつてのが強くて」

ワリオ「俺たちも1個取られた、ルリナがゾルビアと戦ったが、奴の強さは想像以上だ」

マリオ「とにかくこの4個のタイマーオーブだけでも収めとこつ」

マリオ達は4個のタイマーオーブを持って時の宮殿に向かった

一方こちらはデスタイムスのアジト

???「これから時の国に向かう、ヴィアーデと団員の10%は基地内と警備だ」

ヴィアーデ「はい！必ずや倒して見せます」

いつも以上にキツとした表情で返事をするヴィアーデ、彼女にとってはこれが最後のチャンスだった

ギルジン「期待しているぞ」

ヴィアーデ「……………！！！！」

冷酷な視線でヴィアーデの方を向くギルジン

スリーブ「そろそろ行きましょ」

デスタイムスのボスはスリーブとクロツカーと三聖士とユージ、軍団員の90%を率いて時の国に向かっていった

その頃マリオ達は時の国の宮殿に来ていた

長老「そのオーブを収めるのじゃ」

指定された場所にオーブを収めるマリオ達

これで合計10個のタイマーオーブが収められ、時の流れもかなり戻った

ビビアン「あとの2つはデスタイムスのアジトにあるはずよ」

ルリナ「その可能性は大ね」

ネシス「でも場所が分からないのにどうやって？」

デスタタイムスのアジトの場所が分からず悩むマリオ達

長老「わしなら場所を知っているぞ、すぐに送ってやろう」

ルイーダ「本当ですか！？お願いします」

長老「よし！では全員無心になるのじゃ」

マリオ達は長老に言われた通り、静かに目を閉じて無心になった

長老「アーヤハヤハヤホンジャラホンゲノガツショガショアームナムテレポーノカーー！！！」

呪文を唱えてマリオ達を一瞬で瞬間移動させた長老

数十秒後、マリオ達は目を開けた

マリオ「う……、あれがデスタタイムスのアジトか」

ビビアン「趣味が悪いわね」

ルリナ「奪われた2個のタイマーオーブはあそこにあるはずよ」

マリオ「みんな、いくぞ」

全員「おおー！！！！！」

マリオ達は奪われた2個のタイマーオーブを取り返すべく、デスタタイムスのアジトに入っていた

しかしマリオ達はデスタイムスのボスや三聖士達が既にアジトにいない事を知らなかった

第109話終わり

第110話 潜入！デスタイムスアジト

ついにデスタイムスのアジトに入っていたマリオ達

周りに気をつけながらゆっくり進むマリオ達

少し進むと2人組みのエリート軍団員と遭遇した

エリート軍団員A「誰だ！？」

エリート軍団員B「お前はマリオ！！てことは」

2人のエリート軍団員は一斉に襲ってきた

ネシス「ライティングサンシャイン！！！」

ビビアン「カゲぬけパンチ！！！」

ルイーダ「ルイーダサイクロン！！！」

ピカアアアア パコン ゴオオオオオ

エリート軍団員2人「ひひひひひひ！！！」

ネシス達の攻撃で逃げ出すエリート軍団員

マリオ「やっぱりここがデスタイムスのアジトだな」

リック「このどこかにタイマーオーブがあるはずだ」

マリオ達はタイマーオーブを探しにアジトの更に奥へ入っていった

一方こちらは時の国へ続く通路

スィーブ「……………様、ヴィアーデなんかに任せて平気でしょうか？」

「???」心配無用だ、あいつらが勝とうが負けようがこちらには好都合だ」

ゾルビア「そういう事」

ギルジン「あの女は要らなく捨てられる」

デスタイムスのボスはある計画のためにヴィアーデを捨て駒にするらしい

その頃マリオ達はデスタイムスのアジトを進んでた

ルリナ「ファイア・ウィップ!!」

ワリオ「ブル・タックル!!」

マリオ「ファイアボール乱れ打ち!!!!」

軍団員数十名「ギャアアアア」

必殺技で軍団員を次々と倒しながら進むマリオ達

進むと今度は防衛レーザーが作動した

ビッビッビッビッビッ

集中的にマリオ達を狙い撃ちする防衛レーザー

ルリナ&ビビアン「カゲがくれ!!」

シュウウウン

全員一緒に影の中に入って防衛レーザーをかわすビビアンとルリナ

ビッビッビッビッ……

しかし防衛レーザーは攻撃をやめなかった

ルリナは影の中で移動しながら防衛レーザーに近づく

ルリナ「魔法の炎!!!!!!」

ボオオオオオ ドオオオオオン

魔法の炎で防衛レーザーを使用不可にしたルリナ

一方こちらはアジトのある部屋

軍団員「2階の防衛レーザーがやられました!!!!!!」

ヴィアーデ「早く次の手を用意だ!!!!!!」

タイマーオーブを渡すまいと必死になるヴィアーデ

そしてマリオ達はアジトの3階に上がっていった
第110話終わり

第111話 襲撃された時の国

タイマーオーブを取り返すべく、デスタイムスのアジトを進むマリ
才達

3階につくと今度はプレス機が正面から迫ってきた

ルリナ「ドラゴンフレイム!!!!!!」

ドゴオオオオオオ

ドラゴンフレイムでプレス機を破壊するルリナ

一方こちらは時の国

時の国を住人が紅茶を飲みながら静かにしていた

時の国の住人「ふう……静かだね」

リミータ「だがマリオくん達は敵のアジトで戦ってる」

マリオの無事を祈りながらのんびり待つリミータ

ピカアアアアア

突然向こう側が光出す

ユージ「手ごたえ無いですね、俺でも簡単に倒しちまうんだから」

数分後、時の国の兵士が凄い数で攻めてきた

スィーブ「応援のようですね、しかしそれも無駄、ヒールスラッシュ
ユ！！！！」

ボオオオオン

時の国の兵士数百人「うあああああ」

ヒールスラッシュで数百人の兵士をなぎ倒すスィーブ

ゾルビア「悪魔の指」

ギルジン「ダーク・ブレード」

デノロス「アイアン・アッパー」

エリート兵数十人「ギャアアアア」

数十人のエリート兵も三聖士に挑むが、やはり歯が立たない

その頃マリオ達は時の国が襲われても知らずにアジトの中を進んでた

マリオ「鍵を手に入れたぞ」

鍵を手に入れたマリオ達はエレベータに向かっていった

鍵を使い、一気に地下1階に下りたマリオ達

地下1階に下りるとリックとミントがタイマーオーブの気配を感じ

じた

リック「感じる……タイマーオーブ」

ミント「あっちの方向にあるわ2つとも」

マリオ達はリック達が指を指した方向へ走っていった

進むと数人のエリート軍団員が攻撃して来た

ワルイージ「チェーン・ワルイージボム……！」

ビビアン「魔法の炎……！」

必殺技でエリート軍団員を返り討ちにするビビアンとワルイージ

エリート軍団員を倒し、さらに奥へ進むマリオ達

ドアを開けるとそこにはヴィアーデの姿があった

しかもその後ろには2つのタイマーオーブがあった

ヴィアーデ「やはり来たわね」

ルイージ「そのオーブを渡すんだ」

ヴィアーデにオーブを渡すように要求するルイージ

ヴィアーデ「こいつは我々のために必要だ」

しかしヴィアーデはオーブの手渡しを拒否してしまう

ヴィアーデ「ボスの計画を邪魔するものは徹底的に始末する……！！
はああああ」

そう言うヴィアーデは力を全解放した

ヴィアーデ「はあああああああ」

ルイージ「凄いパワーだ」

ワリオ「これってあの時と同じだ」

クレスとの戦いを思い出すワリオ

力を解放し、ヴィアーデはいきなり超魔化したのだった
第111話終わり

タイムス

その頃マリオ達はデスタイムスのアジトで超魔化したヴィアーデとの戦闘中だ

ヴィアーデ「はああああああ」

ドドドドドドドドドドド

間髪いれず、パンチの猛ラッシュを仕掛けるヴィアーデ

マリオ「ファイアボール乱れ打ち！！！！」

ボボボボボボ

ファイアボールを打ちまくるマリオ

ヴィアーデ「そんなもんきくか！！！！！」

しかしヴィアーデはファイアボールを気合でかき消してしまう

ヴィアーデ「さあ！遊びは終わりだ」

ルリナ「そうね、そろそろ本気出させてもらうつとするわ」

ヴィアーデが最初から本気なのに対し、マリオとルリナとネシスは手を抜いていた

マリオ「はあああああ！！！！！」

本気を出し、エターナルスターパワーを発動させるマリオ

ヴィアーデ「!!!!!!!!!!」

本気を出したマリオ達の気迫にヴィアーデの顔が恐怖に染まっていく

マリオ「エターナルスターフレア!!!!!!」

ルリナ「魔法の炎!!!!!!」

ボオオオオオオン

ヴィアーデ「ウギャアアアア」

ワルイージ「チェーン・ワルイージボム!!!!!!」

ビビアン「デルタ・マジック!!!!!!」

ルイージ「ルイージサイクロン」

ボボボボボ ドゴオオオオオ

マリオ達の猛攻で大ダメージを受けるヴィアーデ

ヴィアーデ「ボスのため……………に!!!!!!」

瀕死になりながらもボスに忠誠するヴィアーデ

ワリオ「ブル・タックル!!!!!!」

ネシス「スターライトナビゲーション！！！」

ドゴン ビカアアアアア

ヴィアーデ「ウギイイイイイ……」

次の瞬間、ワリオとネシスの攻撃でヴィアーデは消滅した

ルイージ「ちよつと遊びすぎたね」

マリオ「そんな事よりオーブ、オーブ」

ルンルン気分でタイマーオーブに近づくマリオ

ネシス「やりましたね！」

ワルイージ「これでタイマーオーブは12個」

タイマーオーブが12個全部揃い、大喜びのマリオ達

リック「本当にありがとうございます！！」

ミント「これを収めれば時の流れは完全に戻ります」

ビビアン「じゃあ早速時の国に行きましょう」

タイマーオーブを手に入れたマリオ達はデスタイムスのアジトを跡にし、時の国を目指していった

第112話終わり

第113話 動き出す闇の歴史

デスタイムスのアジトを跡にし、時の国に向かっていったマリオ達

数十秒後、時の国に着いたが、人っ子1人いなかった

ネシス「誰もいませんね？」

ミント「おかしいわね？」

時の国の様子がおかしい事に戸惑うマリオ達

ワリオ「とにかくこの2個のオーブを収めちまおう」

リック「うん」

マリオ達は時の流れを元に戻すため、時の国の宮殿に向かっていった

一方こちらは時の国の宮殿

マリオ達が近づくのを感じたボス

???「どうやらヴィアーデは敗れたようだな」

ゾルビア「ふふ、オーブを収めた時の顔が見物だわ」

デノロス「さあ……！！早く来い」

ギルジン「早く姿と気配を隠せ」

デスタイムスの連中はマリオ達がオーブを治めるまでの間、姿と気配を隠した

その頃マリオ達は時の国の宮殿目指して進んでた

数十分後、時の国の宮殿に辿り着いたマリオ達

しかし宮殿の中にも誰もいなかった

ルイージ「ここもない……」

マリオ「これをどこどこに収めればいいんだ？」

ミント「これはここ、それはそこです」

マリオはミントが教えた通りにタイマーオーブを収めた

全てのオーブが収まり、喜ぶマリオ達、しかし……

オオオオオオオ……

突然12個のオーブは黒い禍々しい光を放った

マリオ「何だ!?!」

12個のオーブが黒く光り、驚くマリオ達、そこへスィープが姿を現した

スィープ「我々のために働いてくれて本当にありがとう」

ワルイージ「貴様は！！！」

邪悪な微笑でマリオ達に礼を言うスィーブ、それに続き三聖士とユージとクロツカーも現れた

ギルジン「お前達の働き、ご苦勞であつた」

ゾルビア「あいつが負けることくらい計算済みよ」

デノロス「おら達の計画を動き出すのだ！！！」

ネシス「お前達は大学の時の！！」

ギルジンとデノロスに闘志を向けるネシス

ギルジン「誰かと思えばあの時のガキか」

ゾルビア「また会えたようね」

ルリナとの再会を喜ぶゾルビア

ルリナ「今度こそあなたを倒すわ」

ゾルビア「うふふ、できるかしら？」

数分後、奥から足音が聞こえ、スィーブや三聖士、クロツカーとユージは片ひざを地についた

奥からデスタイムスのボスがゆっくりと近づいてきた

???「久しぶりだねマリオくん」

マリオ達の前に姿を現したデスタイムスのボス

マリオ「あ……………あんたは!!」

ついに明かされるデスタイムスのボスの正体、果たしてそいつは何者なのだろうか!?

第113話終わり

第114話 時の国の大激闘

マリオ達の前に姿を現したデスタイムスのボス

マリオ「あんたは……」

ネシス「ダウスさん!？」

ダウス「久しぶりだねマリオくん、大学の時以来だ」

以前あった時とは全く違う雰囲気のだウス

ワルイージ「こいつがデスタイムスのボスだと？」

ネシス「大学からタイマーオーブを奪ったのはダウスさんだったのか!？」

ルイージ「そして部下にやられたのは単なる芝居」

ダウス「正解だよ」

邪悪そうにマリオたちを褒めるダウス

スィープ「それはさておき、これから始まりますよ」

ルリナ「何が始まるっていうのよ!？」

怒りの表情でスィープに問いかけるルリナ

スィーブ「今まで歴史は終わり、新たな歴史が始まる」

ダウス「そう、我々デスタイムスにより新しい歴史がな……！」

マリオ「そうはさせるか……！エターナルスター流星群……！」

エターナルスター流星群をダウスに放つマリオ

キュオオオオオオ……

ワリオ「何っ!？」

ビビアン「そんな……」

しかしダウスは不思議な力でマリオの攻撃を無効化してしまう

ダウス「お前達、こいつらの相手をしてやれ」

三聖士&スィーブ&クロツカー&ユージ「はい」

ユージ「うおおおおおおお……！」

いきなり全開にして超魔化したユージ

マリオ「くそつたれ!ルイージ達はあの化け物たちの相手を頼む、三聖士は俺たちが」

ルイージ「わかった」

マリオとルリナとネシスが三聖士の相手をし、ルイージとワリオと

ワルイージとビビアンがスィーブ、クロッカー、ユージの相手をする

マリオ「エターナルスターカッター!!」

ギルジン「ナイトメアクロー!!」

ドオオオオオオン

エターナルスターカッターとナイトメアクローがぶつかり合い相殺

ビビアン「デルタマジ……」

スィーブ「そうはさせません!」

デルタマジックをユージにくらわせようとしたビビアンだが、スィーブに阻まれてしまう

ユージ「オラアアアアアア!!」

シュバーーーーーン

ワリオ&ワルイージ「ぐあああああ」

ユージは超巨大な鎌でワリオとワルイージを切り裂く

ルイージ「ワリオ!ワルイージ!」

クロッカー「余所見してる場合かい?」

ドガッ

ルイージ「ぐっ……………」

一瞬の隙を逃さず、ルイージに攻撃するクロツカー

そしてマリオ達も三聖士相手に奮闘するが、苦戦していた

ゾルビア「ウイングスパイル！！！」

ルリナ&ネシス「く…………くう……………」

ゾルビアのウイングスパイルに何とか耐えるルリナとネシス

マリオ「うああああ」

マリオもギルジンとデノロスの攻撃に吹っ飛ばされてしまう

デノロス「とどめだー！！！！」

ザンツ

止めを刺そうとした途端、何者かがデノロスを攻撃した

デノロス「だれだ！？」

振り向くとそこにはジュランと長老の姿があった

ジュラン「ルリナ様、お怪我は？」

長老「時の国が襲撃された際、わしは影の国に強い男がいると知っ

て連れてきたのじゃ」

ジュラン「後ろで見物してる貴様がボスだな」

ダウス「ふっ……………」

ジュランの問いに余裕の笑いで答えるダウス

ジュラン「ネシス交代だ！お前はあいつらの援護に行つてやれ」

ネシス「はい」

ジュランはネシスと交代し、ネシスはルイージ達の援護に回った

ゾルビア「選手交代しても同じよ」

ジュランが到着し、僅かだが運が向いてきたマリオ達、果たしてマリオ達はデスタイムスを倒せるのか！？

第114話終わり

第115話 飛翔！スィープ大变身

マリオ達とデスタイムスの戦闘は続く

ネシスがルイーザ達の援護に回り、マリオ、ルリナ、ジュランの3人が三聖士の相手をする

デノロス「おらららららら」

ジュラン「おおおおおお」

ドドドドドドドド……

超高速連続パンチを繰り出すジュランとデノロス

ゾルビア「悪魔の指」

ルリナ「影の守り」

バシイイイイ

影の守りで悪魔の指を防ぐルリナ

ルリナ「ファイアウィップ……！」

すかさずファイアウィップで反撃し、ゾルビアに直撃

マリオ「エターナルスターシャワー」

シャアアアアア

エターナルスターのエネルギーがシャワーのようになってギルジンに襲い掛かる

ギルジン「ファントム・ドーム……！」

カカカカカカ……

だがギルジンはファントム・ドームでエターナルスターシャワーを防いでしまう

そしてネシス達はスィーブ、クロツカー、ユージとの戦闘中だ

スィーブ「悪いけどあまり長い時間遊んではいけないの、本気で行くわよ」

オオオオオオオオオ

黒い禍々しい光がスィーブを包み、変身し始めた

数十秒後、鳥のような怪人に変身したスィーブ

スィーブ「フェザースパイラル……！」

ネシス「スターライトナビゲーション……！」

バアアアアアア

フェザースパイラルとスターライトナビゲーションがぶつかり相殺

ビビアンとワリオとワルイージもクロツカーとユージの相手をして
いた

クロツカー「これをくらいな!!」

ビビアン「な、なにっ!？」

新品の薬品をビビアンにぶるけるクロツカー

ワルイージ「ビビアン! デルタマジックでお返した」

ビビアン「ええ、デルタマジック!!」

ドオオオオオオン

デルタマジックがクロツカーに直撃

しかしクロツカーには全くダメージが無かった

クロツカー「残念だったね、あの薬は相手の技を1つ封じるのさ」

ワリオ「てことはデルタマジックを封じられたのか」

ユージ「おおおおお」

ドゴオオオオオオ

ワリオ&ワルイージ「うああああああ」

ビビアン「あああああ」

強力な攻撃でワリオ達に大ダメージを与えるユージ

リック「ああっ……マリオさん！みんな」

ミント「がんばって」

一方的に圧されるマリオ達を見て涙目になるリックとミント

マリオとルリナとジュランは三聖士と戦闘中だ

激しい攻防戦を繰り広げるマリオ達と三聖士

ゾルビア「遊びは飽きたわ、そろそろお終いにしましょう」

大胆にも服を上上げるゾルビア

マリオ「！！あれは」

彼女の左胸には悪魔の紋章があった

マリオ「あれは憎魔開放だ」

ルリナ&ジュラン「憎魔開放？」

マリオ「あの悪魔の紋章にエネルギーを注いで変化するんだ」

クリフォルニア大学での戦いを思い出すマリオ

数秒後、ゾルビアは悪魔の紋章にエネルギーを注ぎ込むのだった
第115話終わり

第116話 大敗北！時空に消えたマリオ達

ついに憎魔開放したゾルビア

マリオ「来るぞ！」

憎魔開放したゾルビアを見て気を引き締めるマリオ達

数秒後、煙が晴れてゾルビアが現れた

その姿は両手の中指がかなり長く鋭く毒液が滴り、上半身は茶色と黄色の体毛で覆われ、下半身は黄色と黒の体色

そして背中に薄い大きな羽が生えてた

ジユラン「あの姿はまるで蜂だな」

ゾルビア「そう、私の憎魔開放は蜂がモチーフ」

デノロス「そして俺はサイだ」

マリオ「そう言えば前にこいつも憎魔開放していた」

対峙するマリオ達と三聖士

ルリナ「だとしたらあのギルジンって奴も憎魔開放できるわね」

デノロス「確かにギルジンも憎魔開放できる、だがあいつはめったにしないからな」

ゾルビア「お喋りはここまでにしでしょ」

ブウウウウウウ

超高速で飛んで襲い掛かるゾルビア

ルリナ「速い!?!」

グサッ

マリオ「!?!」

ジュラン「マリオーーーー!?!?!」

猛毒の中指の爪でマリオを串刺しにするゾルビア

ルリナ「この!?!?!」

ギルジン「スパイラルサーベル!?!」

ルリナ「あああああ」

ジュラン「ルリナ様!?!?!?!」

マリオの援護に入ろうとしたルリナもギルジンに切り裂かれてしまう

そしてジュランもデノロスに戦闘不能にされてしまう

ルイーザ達も立ち上がれなくなってしまった

スリープ「ここまでのようですね」

変身を解き、人間の姿に戻るスリープ

そしてユージも超魔化を解いて元に戻る

ダウス「時空の果てで朽ちるがいい」

超巨大な渦を作り出すダウス

ギョオオオオオオオオオ……

マリオ達を吸い込むと渦は消えていった

ダウス「さて、始めるとするか」

一方こちらは影の国

だが何だか少し違っていた

数時間後意識を取り戻したマリオとネシスとワルイージ

ネシス「う……うん」

マリオ「ここは影の国なのか？」

ワルイージ「おい！あれを見る」

ワルイージが指を指した方向には小さな赤いドラゴンと一緒に遊ぶ

影族の少女の姿があった

影族の少女「くすぐったいじゃない」

影族の少女の顔をなめる小さな赤いドラゴン

少女のところへ近づくマリオ達

影族の少女「なんじゃ？わらわに何の用じゃ」

どこかで聞いたような口調で喋る影族の少女、そしてルイーージ達は
どこに行ってしまったのか？

第116話終わり

第117話 目覚めたルイーダ達、ナリル再び

時の国での戦いに敗れたマリオ達

影族の少女「なんじゃ？わらわに何の用か？」

どこかで聞いたような口調で話す影族の少女

マリオ「今の喋り方……誰かに似てるような……」

影族の少女「用が無いなら呼ばないでくれる？ゴンババ行こう」

ゴンババ「ギャウ」

影族の少女と一緒にいて行く小さな赤いドラゴンのゴンババ

影族の少女は幼少時代のカゲの女王なのだ

ワルイーダ「ゴ、ゴンババって？」

マリオ「じゃああつちの女の子はカゲの女王」

ネシス「どうやら僕達は過去に来てしまったみたいですね」

一方こちらは現代の影の国

影兵士「女王様、どうなさいましたか？」

カゲの女王「なんでもない、誰かにあったような気がしたんじゃ」

一方過去の影の国ではマリオ達が城の中に入ってた

城の中で先代国王がマリオ達と話してた

先代国王「するとお主達は未来からやって来たのだな？」

マリオ「はい、弟も一緒だったんですが逸れてしまって」

先代国王「渦に巻き込まれてここに来てしまった……、お主の弟は別の時代にいるかもしれん」

ワルイージ「いったいどこに行っただワリオは？」

そしてその頃、別の時代の影の国でもルイーダ達が意識を取り戻した

ルイーダ「ここ……は？」

ナリル「気がついたみたいですね」

ルリナ「あなたはナリルさん」

ジュラン「あんたが運んでくれたのか？」

ナリル「いえ、あなた達を運んだのはこの2人の兵士です」

話をするルイーダ達とナリル、その最中影兵士の1人がびしょ濡れで駆けつけた

影兵士「女王様……」

ナリル「全く、また王子の悪戯ね」

別の部屋ではカゲの王子が悪戯しまくってた

影兵士「おやめください！王子様」

カゲの王子「へっへーん、捕まるもんか」

悪戯しながら逃げまくるカゲの王子、数分後ナリルと遭遇した

ナリル「ルーチェー!!」

逃げようとするルーチェを捕まえるナリル

ルーチェ「ごめんなさーい!!」

泣いて謝るルーチェ

ナリル「ごめんなさい、王子が騒ぎを起こしてしまって」

ワリオ「いや、俺たちは何にもされてないし」

ルリナ「またこうして会えるなんて」

再会を喜ぶルリナ

ナリル「そうですね、あなたと初めてあったのは過去ですから」

ルリナ「過去………、はっ!!」

ナリルと初めてあった時の事を思い出すルリナ

ルリナ「もしかしてナリルは未来から来たの!？」

ジュラン「先程は失礼しました、あなたはこの時代の女王様のようですが、一体？」

ナリルに問いかけるジュラン

ナリル「もう隠す必要はないでしょう、ナリルというのは仮の名、私の本当の名は」

未来に来てしまったルイーザ達、次回ナリルの正体が明らかに!!
第117話終わり

第118話 驚き！ナリルの正体

デスタイムスのボス、ダウスによって過去と未来に飛ばされたマリ
才達

未来ではルイージ達がナリルと話してた

ナリル「ナリルというのは仮の名、私の本当の名はルリナ」

ルリナ「ルリナって……、それじゃ」

大人ルリナ「私は未来のあなたです」

ナリルは未来から来たルリナであり、その息子がルーチェである

ルリナ「どうりで強いはずだよ」

別の部屋ではルーチェが影大臣から説教を受けてた

影大臣「ルーチェ様！悪戯がすぎますぞ」

ルーチェ「うう……」

一方過去ではマリオ達が食事をしてた

ネシス「デスタイムスの連中、僕達がオーブを収めるのを知ってて
先手を打ってたんだ」

マリオ「奪った2つのオーブに悪の力を入れて、俺たちがアジトに

行つてゐる間に残りの10個にも同じエネルギーを注ぎこんだに違いない」

ワルイージ「ダウスめ！今度あつたらギタギタにしてやる」

そしてこちらは現代

時の国がデスタイムスに完全に占領されてた

スィーブ「おめでとうございますダウス様」

ダウス「まさかここまで上手く行くとはな」

作戦が成功し、嬉しそうな顔を浮かべるダウス

そして別の部屋ではクロッカーとユージと三聖士がソファアに座つてた

デノロス「うおおおおお」

ドンドンドン

ゾルビア「暑苦しいからやめてくれる？」

喜んで腹太鼓をするデノロスだが、ゾルビアは暑苦しいのでやめてと言つ

ドンドンドンドン

しかしデノロスは全くやめなかった

ゾルビア「いい加減にしなさい」

怒って憎魔開放しようとするゾルビア

デノロス「やる気か？」

それに対し、デノロスも憎魔開放しようとしていた

ドオオオオン

ギルジン「やめんかバカ共が」

ゾルビアとデノロスのケンカを止めるギルジン

クロツカー「そうです、いま新型のヘルリミッターを作ってるんですから」

ユージ「前のとどう違うんだ？」

クロツカー「それは完成してからのお楽しみじゃ」

新型ヘルリミッターの開発に取り掛かるクロツカー

過去の影の国ではマリオ達が再戦に向けて修行をしていた

マリオ「エターナルスターサンシャイン！！！」

ネシス「プリズム・イリユージョン！！！」

ズゴオオオオオオオ

組み手をするマリオとネシス

ワルイージも鋼鉄のサンドバックに打ち込みをしていた

ドンドン ババババババ キラアアアア

激しい修行をするマリオ達、そこへ先代国王が来た

先代国王「修行か、どうじゃ驚とやってみないか？1対3で」

マリオ&ワルイージ&ネシス「1対3!？」

何と大胆にも1対3の勝負を挑んできた先代国王、果たして彼の實力はいかほどに？

第118話終わり

第118話 驚き！ナリルの正体（後書き）

キャラ紹介

『ルーチエ』

未来世界の影族の王子で、ルリナの息子
悪戯好きで、城の兵士たちを困らせている

第119話 先代国王脅威の実力!!

大胆にも3対1の勝負を挑んできた先代国王

マリオ「3対1で!?!」

自分達が有利に見える条件に驚くマリオ達

先代国王「うむ、本気でやっても構わん」

ネシス「い、いいんですね……」

マリオ達は戸惑いながらも全力になった

マリオ「エターナルスターショット!!」

ネシス「スタープリズムフラッシュ!!」

ワルイージ「チェーン・ワルイージボム!!」

先代国王に同時攻撃をするマリオ達

ヒュヒュヒュヒュ

ワルイージ「何!?!」

あれだけの攻撃を避けてマリオ達に接近する先代国王

先代国王「シャドーラリアート」

ドゴオオオオオ

シャドーラリアートでマリオ達を攻撃する先代国王

その後もマリオ達は全力で攻撃するが、先代国王は完璧に避けてはガードしてしまう

そして未来の影の国でもルイージ達が特訓していた

相手は大人ルリナ

ルイージ達が全力でやってるのに対し、大人ルリナはルイージ達や過去の自分が死なないうような手を抜いていた

ルリナ「だあああああ」

未来の自分に凄い猛ラッシュを仕掛けるルリナ

しかし大人ルリナはこれを全て避けてしまう

大人ルリナ「動きが遅いよ」

ジュラン「もらったー！！！！」

僅かなチャンス突き、背後から攻撃するジュラン

大人ルリナ「ウッフ」

パシュン

大人ルリナは瞬間移動で移動してしまう

ジュラン「!!!!」

目の前に子供のルリナがいてとっさに攻撃をやめたジュラン

そしてここは現代

時の国を居城にするため、魔力を蓄えるダウス

ダウス「フー……フー……」

莫大な魔力を要するため精神集中させる

そして別の部屋ではスィーブとユージが紅茶を飲んでいた

スィーブ「あいつらも始末したし、これで我々の邪魔はできない」

ユージ「ええ、流石三聖士です、時の国の住人を捕まえてしまいうんだから」

スィーブとユージの後ろには巨大な特殊な檻があった

檻の中にはほとんどの時の国の住人が捕まっていた

リック「こんな事になるなんて」

長老「いいや、お前さん達はようやった。悪いのはオーブに悪しき力を注ぎ込んだダウスじゃ」

落ち込むリックとミントを励ます長老

ミント「それにあいっすら気づいてないわ、私達時の国の住人がまだ1人残ってるのに」

長老「そうじゃったな、まだあいつがいたんじゃ」

そしてこちらはキノコワールド

時の国の住人「マリオさん……どこです……か………」

デスタイムスが襲撃してきた際に唯一逃れた時の国の住人がマリオ達を探してた

そして過去と未来ではマリオ達がデスタイムスとの決戦に向けて特訓していたのだった

第119話終わり

第119話 先代国王脅威の実力！！（後書き）

キャラ紹介

『ナリル』

どこからともなくやって来た、謎の影族の女性
実はその正体は未来から来たルリナである
ちなみナリルというのは正体を隠すための仮の名

第120話 圧倒的強さ！ルリナとジュラン

デスタイムスとの決戦に向け、特訓をするマリオ達

過去の影の国ではマリオとワルイージとネシスが先代国王と組み手をしていた

マリオ「はあああああ」

ネシス「やあああああ」

ワルイージ「うおおおおおお」

凄まじい気合で先代国王に攻撃をするマリオ達

先代国王「はあああああ！！！」

先代国王はその圧倒的なパワーでマリオ達を凌駕する

そして未来の世界でもルイージ達が大人ルリナ相手に組み手をして
いた

大人ルリナ「はっ！！！」

ドオオオオ ボン ブアアアアア

巨大な火の玉を出して、無数に分裂させて攻撃する大人ルリナ

ルイージ「ルイージ・サイクロン！！！」

ルリナ「ファイア流星群！！！」

ジュラン「ブレイク・スパーク！！！」

ワリオ「ニンニクブレス！！！」

ドオオオオオオオオ

必殺技で大人ルリナの攻撃をかき消すルイージ達

大爆発が起こり、辺りに煙が巻き上がる

煙の中から互いの位置を探すルイージ達

煙の中から子供の自分がニヤッと笑った大人ルリナは何かを感じた

さっき放ったファイア流星群の1発が大人ルリナの背後にあったのだ

ドゴン

大人ルリナ「ぐっ……」

ファイア流星群の1発が大人ルリナに命中！しかしダメージはほとんど無かった

大人ルリナ「やるわね」

その後も特訓を続けるルイージ達、その最中に影兵士の1人が入ってきた

影兵士「女王様、そろそろ次のお仕事が」

大人ルリナ「そう、悪いけど仕事ができたら代わりを呼ぶわ、ジユランを呼んできて」

影兵士「はい」

ジユラン「この時代の俺が相手をしてくれるのか!？」

数分後、未来のジユランが来た

大人ルリナ「ジユラン、あとはお願いね」

未来ジユラン「わかりました」

大人ルリナは仕事をしに部屋を出て行った

未来ジユラン「懐かしい……なんて懐かしいんだ……」

過去の自分や子供の頃のルリナを見て微笑む未来ジユラン

ワリオ「御託はいい、続きを初めてくれ」

未来ジユラン「では……」

ブオオオオオオオ

ルイージ達「!!!!!!!!!!!!!!」

今まで抑えていたパワーを開放する未来ジュラン

大人ルリナほどではないが、それでも圧倒的だった

ルイーザ「流石に未来のルリナとジュランは桁が違いすぎる」

未来ジュラン「さて、始めようか」

ルイーザ達は4方向から一斉に未来ジュランに攻撃を仕掛けた

ジュバババババ

だが未来ジュランはルイーザ達の渾身の攻撃を次々とガードしてしまっ

そして現代のキノコワールドでは時の国の住人の1人がマリオ達を探しているのだった

第120話終わり

第120話 圧倒的強さ！ルリナとジュラン（後書き）

キャラ紹介

『先代国王』

先代の影族の国王であり、カゲの女王の父親
未来の危機を救うため、マリオ達の修行の手伝いをする

第121話 クッパ軍団VSダウス

打倒デスタイムスに向け、過去と未来で特訓するマリオ達

そしてこちらは時の国

ユージがクロツカーの手伝いをしていた

クロツカー「ユージくん、その荷物を運んでくれ」

ユージ「はい」

荷物を運ぶユージ

クロツカーは新型ヘルリミッターの開発に没頭していた

クロツカー「トリプルタワーの時は失敗に終わったが、今度は完璧だ」

そして別の部屋では三聖士の三人がソファに座ってた

ゾルビア「地上の邪魔な奴らが消えるのも時間の問題ね」

ギルジン「彼らはそういう運命の下に生まれたのだ」

デノロス「最初に消えるのはどいつか楽しみだ」

そしてこちらは現代のキノコワールド

クツパが誰かを探してた

クツパ「どこだ！どこにいやがる！？隠れてないで姿を見せたらどうだ！！！」

前回の雪辱を晴らすべく、デノロスを探すクツパ

クツパ「フン、ワガハイに恐れをなして逃げたか」

ダウス「口だけではかいようだな」

クツパの目の前にデスタイムスのボス、ダウスが現れた

ダウス「私はダウス、デスタイムスのボスだ」

クツパ「貴様などこの大王クツパ様が成敗してやる！！！」

ダウスに宣戦布告をするクツパ

ダウス「いいだろう、ハンデとして私は5分間何もしないでおこう」

クツパ「なめやがって！全員総攻撃！！！」

クツパ軍団全員「おおおおおお！！！！！」

クツパの合図と共にクツパ軍団の全ての兵がダウスに総攻撃を開始した

クツパ「ギガクツパプレス！！！」

ズドオオオオオオオ

ハンマーブロス「おりやりやりりゃ」

カメツク「えーい」

トゲノコ「おりゃー！ー！ー！ー！」

ドカドカドカ ピロロロン ボカン

ダウスに総攻撃をし続けるクツパ軍団

そして4分55秒が経過した

クツパ「とどめだ！！フルパワーギガクツパプレス！！！」

ブオオオオオオオオ

最大最強の技でとどめを指すクツパ

攻撃を止め、息をきらすクツパ軍団

クツパ「ど、どうだ……！！」

煙が晴れて中からダウスが現れた

ハンマーブロス「なんて奴だ」

カメツク「バ、バケモノだ」

あれだけの攻撃を受けていたにも関わらずダウスにはほとんどダメージがなかった

ダウス「さて5分がすぎた、そろそろこっちからも攻撃させてもらうぞ」

クツパ「逃げるーーーー！！！！」

ズオオオオオオ

全員に逃げるよう命令するクツパだが、ダウスは瞬く間にクツパ軍団を全員戦闘不能にした

ダウス「たまには遊びに付き合うのもいいもんだ」

その後ダウスは時の国に戻っていった

そして過去と未来ではマリオ達が小休止しているのだった

第121話終わり

第122話 修行の休日

修行を休め、休憩するマリオ達

マリオ「結構強かったな先代国王」

ネシス「ルリナと同等か、それ以上でした」

ワルイージ「今のお前なら三聖士とも渡り合えるかもしれないぜ」

マリオ「だが三聖士の強さは想像以上だ！」

話をしている最中に幼少のカゲの女王が来た

幼少カゲの女王「待てー！ゴンババ」

飛び回るゴンババを追いかける幼少カゲの女王

マリオ「あの子ども俺たちの時代には立派な母親になっていたな」

そして未来の影の国でもルイージ達が身体を休めていた

ジュラン「あなたの力は俺の想像を遥かに越えている」

ルリナ「それ今のあたしじゃなくて未来の」

ルイージ「未来じゃルリナは女王様になってたんだね、しかも子供まで生まれて」

ワリオ「カゲの女王の子供だしな、当然といえば当然だな」

話をするルイーダ達、そこへルーチェが来た

ルーチェ「いけええええ!!」

バシユッ バシユッ

ルリナ「うわっ!？」

子供の頃の自分の母親に悪戯するルーチェ、しかしその後大人ルリナが来てしまった

大人ルリナ「待ちなさい!!」

ルーチェを捕まえようとする大人ルリナだが、逃げられてしまう

大人ルリナ「ルーチェの悪戯には困ったわ」

ルーチェの悪戯ぶりのため息をつく大人ルリナ

ジユラン「でもあそこまで元気に成長したのは貴方のおかげです」

ルリナ「ところでマ……じゃなくて、前の女王様は今どうしてるの？」

大人ルリナ「お母様でしたら多分書斎にいると思います」

ルイーダ達は城の書斎へ走っていった

そこには歳をとって少しふやけたカゲの女王の姿があった

カゲの女王「お前さんは！なんて懐かしいんじゃ、また会えるとは」

ルリナ「あの……」

老カゲの女王「おお！懐かしい、まるで昔を思い出すようじゃ」

ジュラン「実は俺たち過去から来ました」

老カゲの女王「わかっておるよ」

老カゲの女王はルイーダ達が過去から来たことを知ってたらしい

老カゲの女王「ルリナや、未来のあんたが来た事を覚えているかい？」

ルリナ「はい」

老カゲの女王「あれはわしがやったんじゃよ」

ジュラン「女王様が！？」

大人ルリナが前に過去に来たのは老カゲの女王のおかげらしい

老カゲの女王「じゃがこれだけの人数を戻すには相当なエネルギーが必要じゃ」

大人ルリナの時は1人だからすぐにできたが、複数の人数を送るにはかなりのエネルギーが必要

老力ゲの女王「お前さんを過去に戻すエネルギーも大分溜まってる、もうしばらくしたら帰れる」

ルイーザ達を過去に戻すエネルギーを溜める老力ゲの女王

ルリナ「じゃああたし達帰れるんだ!!」

ワリオ「帰ったらデスタイムスの連中をギタギタにしてやる」

やる気満々のワリオ

過去の影の国でもマリオ達が身体を休めてるのだった

第122話終わり

第123話 最終修行

現代に戻る日を信じ、過去と未来で修行するマリオ達

数時間後、休憩が終わり再び修行を始めるマリオ達

そこへ先代国王が現れた

先代国王「わしから最後の試練を与えよう」

マリオたちに最後の試練を与える先代国王

ワルイージ「その試練は何なんだ？」

先代国王「簡単じゃ、己に打ち勝つ事じゃ、ムオオオオオ」

ネシス「これは！？」

先代国王は魔力を集中させてマリオたちそっくりの影を作り出した

先代国王「見ての通りこれはお前達の影だ」

マリオ「おれ達の影……」

先代国王「ただし影はオリジナルであるお前達より体力も攻撃も防御もスピードも全て上回っておる」

マリオ「並みでは勝てないな」

先代国王「打ち勝ちたかつたら全てを能力を出し切って限界以上の力を出すのだ」

そして未来の影の国でも最後の修行が始まろうとしていた

大人ルリナ「出でよ恐怖神!!!」

膨大な魔力を使い、恐怖神を呼び出す大人ルリナ

ルイージ達「……………」

恐怖神を見ただけで身震いするルイージ達

恐怖神「私を呼んだのはお前か？何の用だ？」

大人ルリナ「この者たちが真の恐怖に立ち向かえるかどうか試してほしいの」

恐怖神「たやすい事だ」

大人ルリナの要求に応える恐怖神

カッ……

突然恐怖神の目が怪しく光った

ジュラン「やめろー！ー！！！」

ワリオ「ジュランの奴どうしちまったんだ？」

大人ルリナ「今、彼には全ての記憶と経験の中で最も恐怖していた時の光景が写っているのです」

その後恐怖神にはルイーダ達にも同じ術をかけた

ルイーダ「巨大ベイクツパ、こわいよー！ー！ー！ー！ー！」

ルリナ「いやー！ー！ー！ー！ー！」

ビビアン「やめてー！ー！ー！ー！ー！」

それぞれの目の前に最も恐怖した時の光景が移ってる

そしてさらに悪魔のような囁きが聞こえてきた

ソレガオマエノホンライノスガタ サイショカラナンノチカラモナイ

ツヨイノハチカラダケ チカライガイノスベテハナニモカモヨワイ

ルイーダ達は必死に両耳を塞ぐが、悪魔の囁きはルイーダ達の心に囁いているので、どんなに強く耳を塞いでも聞こえてしまう

大人ルリナ「……………」

恐怖に打ち勝とうとするルイーダ達や過去の自分を見守る大人ルリナ

過去の影の国でもマリオ達がそれぞれ自分の影と戦ってた

マリオ「エターナル……………」

影マリオ「襲い!!」

ドガアアアア

エターナルスターの技を使う前にマリオを攻撃する影マリオ

ネシスとワルイージも自分の影相手に悪戦苦闘

影ネシス「その程度じゃ勝ち目はないよ」

ネシス「ギャラクシー・ノヴァ!!!」

ギャラクシー・ノヴァで影の自分に攻撃するネシス

数秒後、煙が晴れて影ネシスが出てきた

影ネシス「言ったはずだよ?その程度じゃ勝てないって」

影ワルイージ「マツハ・ワルイージボム!!!」

ポオオオオン

超音速の爆弾攻撃をする影ワルイージ

過去と未来で最後の修行をするマリオ達、果たしてマリオ達は最後の修行を乗り越えられるのか!?

第123話終わり

第124話 己を越えて

過去の影の国で自分達の影相手に最後の修行をするマリオとワルイージとネシス

マリオ「エターナルスターショット!!」

エターナルスターショットを影マリオに放つマリオ

影マリオ「エターナルスターショット!!」

それに対し、影マリオも同じ技を放つ

ズギャアアアア

エターナルスターショット同士が激突

マリオ「うああああああ」

影マリオの方が遥かに強く、マリオのエターナルスターショットを突き破って直撃

そして未来の影の国でもルイーダ達が精神の修行に苦戦中

オウル……スベテオウル

悪魔の囁きに同様するも何とか精神を維持させようとするルイーダ達
ルイーダ「僕たちはお前の声なんか聞こえないぞ」

ワリオ「あんなのはただの空耳だ」

悪魔の囁きなど全く聞こえないと強がるルイージ達

ツヨガツテモムダダ、セイシンノオクソコガフルエテイル

恐怖神「ほつといていいのか？」

大人ルリナ「乗り越えなくちゃいけないのよ」

恐怖するルイージ達を心配する恐怖神だが、大人ルリナはデスタイムスを倒すためにも乗り越えなくてもらわなくてはならない

大人ルリナ「それにデスタイムスのあの女を倒すのは私ではないわ」

大人ルリナはデスタイムスのゾルビアを倒すのは自分ではないと言う

一方こちらは現代

グレープジュースを飲みながら映画鑑賞するゾルビア

そこへ軍団員の1人が入って来た

軍団員「ゾルビアさん、ダウス様はどちらへ？」

ゾルビア「知らないわ、それよりボスに何の用？」

軍団員「時の国の住人は捕まえました、1人だけ残っていました」

ギルジン「だったらお前達で探して来い」

デノロス「とりあえず100人くらい送ろう」

ギルジン達は唯一逃れた時の国の住人を捕まえるため、キノコワールドに100人ほどの軍団員を送り込む

そして過去の影の国ではマリオ達が自分達の影の戦ってた

影の圧倒的な強さに一方敵にやられるマリオ達

影マリオ「そんなんじゃ世界を守るところか、自分の身すら守れないぞ」

マリオ「世界……、そうだ俺たちは」

ワルイージ「ダウスを倒して世界を救うんだ」

世界という言葉聞き、再び立ち上がるマリオ達

影ネシス「そろそろ終わらせよう、プリズムスターフラッシュ！！」
「！」

プリズムスターフラッシュで攻撃する影ネシス

マリオたちはこれを避け、自分の影に攻撃

影ワルイージ「！！なんだ！？」

影マリオ「こいつらさっきとは動きは全然違う」

さっきまでとは段違いのスピードとパワーに動揺する影マリオ達

マリオ「いくぞ！エターナルスター流星群！！！」

ワルイージ「チェーン・ワルイージボム！！！」

ネシス「スターライト・ナビゲーション！！！」

必殺技で自分達の影にとどめを指すマリオ達

先代国王「うむ、よくやった」

最後の修行を乗り越えたマリオ達を褒める先代国王

先代国王「今日の所は疲れた身体を休めるといい」

ネシス「そうですね、こんな状態じゃ雑魚はともかくダウスや三聖士とはまとも戦えませんですね」

マリオ「今日はもう寝よう、決戦は明日だ」

最後の修行を終えたマリオ達、あとはルイージ達の修行のみだ
第124話終わり

第125話 帰還！現代に戻ったマリオ達

ここは未来の影の国

精神の修行をするルイー・ジ達

悪魔の囁きによりルイー・ジ達は肉体的にも精神的にも恐怖に包まれていく

数分後、完全に恐怖に包まれたルイー・ジ達

深い絶望の闇が眼前に広がり、悪魔の囁きが聞こえてくる

ピカ…………

ビビアン「あれは……………」

闇の中に浮かぶ一粒の光を見つけるビビアン

ジュラン「みつともねえな、俺とした事が」

ルリナ「どんなに深い闇の中にも必ず光はある」

ルイー・ジ「全て絶望に包まれても希望が一欠けらでもあれば乗り越えられる」

悪魔たちは再び恐怖に陥れようと囁きだす

しかしどんなに囁いてもルイー・ジ達の動きには何の迷いも無い

囁きが聞かぬと悟った悪魔は今度は幻覚の巨大刃物を出現させる

何が襲って来ようと、ルイージ達は表情1つ変えず、ただ真っ直ぐに進んだ

数分後、ルイージ達は恐怖神の作り出した恐怖を打ち破った

恐怖神「ほー」

自分の作り出した恐怖を打ち破ったルイージ達を関心する恐怖神

大人ルリナ「よくやったわ……」

修行を終えたルイージ達を褒める大人ルリナ

大人ルリナ「今はぐっすり眠るといいわ、あなた達の本当の戦いは目が覚めた時よ」

数分後、ルイージ達は影兵士達によってベッドに運ばれた

そして夜が明けた

先代国王「用意はいいな？」

マリオ「はい」

先代国王「では、Ⅱ B D全A？」

古の呪文を唱える先代国王

シュパアアアアン

先代国王によってマリオ達は現代に送られた

同じ頃未来の影の国でもルイーダ達が現代に送られようとしていた

ルイーダ「絶対にデスタイムスを倒そう」

ワリオ「今度こそダウスに目にものを見せてやる」

数秒後、ルイーダ達は老カゲの女王によって現代へ送り込まれた

一方こちらは現代

マリオ「やった！！俺たち戻って来れたんだ」

ルイーダ「兄さん！！」

マリオ「ルイーダ！ルリナ達も無事だったみたいだな」

ワリオ「それより見るよあれ」

指を指すワリオ、その方向にはデスタイムスの軍団員に襲われてる時の国の住人がいた

ビビアン「助けてあげましょ」

ルリナ「あたしがいくわ」

ルリナは時の国の住人を助けるため、軍団員に向かっていく

軍団員「なんだ？邪魔すると貴様も……」

ルリナ「ハッ」

瞬く間に軍団員を全員倒したルリナ

時の国の住人「助けてくれてありがとうございます、私ペリッタと
います」

ジュラン「ペリッタ、時の国は今どうなってる？」

ペリッタ「はい、デスタイムスに完全に占領されてます」

ジュラン「やはり……」

ルイージ「デスタイムスめ……」

デスタイムスに怒りを向けるマリオ達

マリオ「俺たちを時の国に連れてってくれ!!」

ついに現代に戻ってきたマリオ達、そしてデスタイムスを倒すため、
ペリッタに時の国に連れてもらうよう頼むのだった

第125話終わり

第126話 飛べ時の箱舟！時の国めざして

ここは時の国

ゆつくりと赤ワインを飲みながら寛ぐダウス

そこへ新しい幹部が2人はいつてきた

ダウス「カムルにシューリか」

新しい幹部は巨漢の男のカムルと可愛らしい女のシューリ

三聖士ほどではないが、かなりの実力者だ

カムル「俺も久々に暴れたくてウズウズする」

シューリ「クレスもヴィアーデもやられたけど、あいつらはただのゴミ」

ダウス「ふふ、所詮あいつらに私の真の姿を見ることなどできんと思うがな」

人間の姿のダウスは仮の姿らしい

そしてこちらはキノコワールド

ペリッタに時の国に連れてもらうよう頼むマリオ達

ペリッタ「私も逃げる際、力を使い果たしてしまっただです」

ペリッタはデスタイムスの襲撃から逃れる際に力を使ったらしい

ワルイージ「くそっ」

ペリッタ「その代わり、いい物があります」

ペリッタは大きな箱舟をマリオ達に見せた

マリオ「これは？」

ペリッタ「リミータが作った時の箱舟です、これなら時の国の住人でなくても自由に時の国に行くことができます」

マリオ「さっそく乗り込もうぜ」

クッパ「ちよつと待った！！！」

マリオが乗り込もうとした途端、クッパが呼び止めた

ルイージ「なんだクッパか、悪いけどお前の相手をしてる暇はないんだ」

クッパ「ふん！我輩がぶちのめしたいのはデスなんとかっていうやつらだ！！」

ルリナ「デスタイムスのこと？」

クッパ「ああ、我輩にあいつらに2度もやられたからな、今度はクッパ様が成敗してやる」

マリオ「お前、あいつらがどれだけ強いか知ってんのか!？」

クッパ「知ってる、他の幹部の誰かは我輩がやるが、三聖士やボスは貴様らにくれてやるよ」

クッパも一緒に打倒デスタイムスに協力するようだ

ビビアン「とにかく話は決まったみたいね」

ルイーダ「三聖士なんか怖くないぞ、こっちにはルリナやジュラン、兄さんがいるんだ」

ルリナ「いよいよ決戦ね……………」

ワリオ「ダウスめ、首を洗って待っている」

ビビアン「アタイたちみんなのために」

ネシス「必ずデスタイムスを倒す……………!!」

数十秒後、マリオたちは時の箱舟に乗り込んだ

ペリッタ「必ず生きて戻ってください」

マリオ「必ず、いくぞ!みんな!……」

ルイーダ達はコクンと頷いた

時の箱舟は時の国目指して発進した

時の国目指して動き出した時の箱舟、いよいよデスタイムスとの最
後の戦いが始まる
第126話終わり

第126話 飛べ時の箱舟！時の国めざして（後書き）

キャラ紹介

『カムル』

デスタイムスの刺客

普段は巨漢な男性だが、戦闘時には鰐のような怪人になる

第127話 復讐と憎悪の宮殿

時の国目指して発進した時の箱舟

数分後、空間を抜け、時の国の前まで来た

ビビアン「な、なんなの!？」

巨大な禍々しいエネルギーが時の国を変えていった

ルイージ「なんなんだあれは!？」

とてつもなく大きく邪悪なエネルギーが時の国を変えていく

数十秒後、時の国は復讐と憎悪の宮殿に完全に変貌した

そしてこちらは復讐と憎悪の宮殿のとある部屋

リイック「時の国が……」

ミント「あんなに綺麗な場所だったのに……」

時の国が邪悪な姿に変わってしまい、悲しむ時の国の住人たち

そしてマリオ達が乗った時の箱舟は復讐と憎悪の宮殿に着いた

時の箱舟から降りるマリオ達

時の箱舟から降りて進んでいくマリオ達

少し進むと30人近くのエリート軍団員がいた

エリート軍団員「お前らは！？ダウス様が葬ったはず」

ルイージ「ルイージサイクロン！！！」

間髪要れず、ルイージサイクロンで25人以上のエリート軍団員を倒すルイージ

エリート軍団員「はやくダウス様に知らせるんだ！！！」

残ったエリート軍団員はダウスに報告しようと逃げていった

マリオ達は次々と襲う敵をなぎ倒しながら進んでいく

ルリナ「魔法の炎！！！」

ネシス「スターフラッシュエボリューション！！！」

ワルイージ「チェーン・ワルイージボム！！！」

ゴオオオ ビカアアアア ボボボボン

軍団員数百名「ぎええええええええ」

エリート軍団員数名「うひひひひひひひひ」

エリート軍団員2人「覚悟！！！」

ジュラン「ふん」

ドゴオオオ

背後から攻撃してきたエリート軍団員2人をパンチで吹っ飛ばすジュラン

一方こちらは絶望と復讐のとある一室

三聖士の三人がカードゲームをしていた

そこへエリート軍団員の1人が入ってきた

スィーブ「何事ですか？」

エリート軍団員「マリオ達が攻め込んで来ました!!」

デノロス「あいつら生きてたのか!!」

ゾルビア「しぶといわね」

ギルジン「どうやら俺もこの力を使うときが来ているみたいだな」

その頃マリオ達は軍団員を次々と倒して進んでいた

ルリナ「伏せて!!」

攻撃が飛んでくる気配を感じ、大声で伏せてというルリナ

ビュッ ドオオオオオン

狙撃手「ちっ……」

攻撃をよけられ、イラつく狙撃手

マリオはみんなと分担された

マリオ「ルイージ！みんな！！」

ルイージ「僕たちのことはいい、兄さんは先に進んで」

クッパ「我輩たちもこいつらを片付けたらすぐに追う」

マリオ「必ず来いよ」

マリオはみんなを信じ、1人先へ進むのだった

第127話終わり

第127話 復讐と憎悪の宮殿（後書き）

キャラ紹介

『シュリー』

デスタイムスの刺客

普段は可愛い女の子だが

変身すると両手が蛇に変形し、肌の色も白っぽくなる

第128話 進めマリオ！怒濤の快進撃

ルイーダ達を信じ、1人先へ進むマリオ

一方こちらは復讐と憎悪の宮殿のある部屋

スィープと三聖士、カムルとシューリがソファアに座ってた

スィープ「期待してますからね、三聖士のみなさん」

ギルジン「ふん」

スィープ「カムルさんとシューリさんもお願いします、もちろん私も出向きます」

カムル「どいつを獲物しようかな？」

シューリ「ところでユージは？」

ゾルビア「待ちきれなくて、先に行つたわ」

その頃マリオは軍団員達との戦闘を繰り広げていた

マリオ「ファイア・サイクロン！！！！」

ボボボボボボボボ

軍団員数十人「ギャアアアアア」

ファイア・サイクロンで数十人の軍団員を倒すマリオ

マリオ「サイバーブレード！！！」

エリート軍団員数人「うああああああ」

エリート軍団員もサイバーブレードでなぎ倒していく

敵を次々と倒しながら進むマリオ

その頃ルイー・ジ達は軍団員の大群との戦闘中だ

ルリナ「魔法の炎！！」

ワリオ「ブル・タツクル！！」

ルイー・ジ「ルイー・ジ・サイクロン！！！！」

ゴオオオオ ドゴオオオオ ビュウウウウウ

軍団員を次々と倒すルイー・ジ達

ネシス「キリがない！」

ジュラン「何人いるんだ？こいつら」

次々と軍団員を倒すルイー・ジ達だが、数が多すぎてキリがない

そしてこちらはダウスのいる部屋

軍団員の1人がダウスに報告しに来た

軍団員「侵入者が9名、我々軍団員を倒しながら進んでいます」

ダウス「生きてたか、まあいい、お前たちは侵入者の排除を続ける」

軍団員に侵入者の排除を続けるよう、命令するダウス

そしてマリオは1人先へ進んでた

鉄砲部隊「撃て!!!」

パパパパパパパパパ

マリオを狙って一斉砲撃する鉄砲部隊

マリオ「うわあっ!?!」

鉄砲の弾を避け、ジャンプで飛び越すマリオ

鉄砲部隊「逃がすな!!!」

パンパンパンパン

集中的にマリオを狙う鉄砲部隊

マリオ「ヒートフラッシュ!!!」

ボアアアアアア

ヒートフラッシュで鉄砲部隊を倒すマリオ

そしてルイージ達をマリオの所へ追いつこうと、圧倒的な数の軍団員と戦うのであった

第128話終わり

第129話 援軍到着

マリオの下へ追いつこうと、軍団員と戦うルイーダ達

ルイーダ「グリーンファイア……！」

ビビアン「魔法の炎……！」

ボゴオオオオオ

次々と軍団員を倒すルイーダ

だが数が多すぎて倒しても倒しても次々と来てしまう

ネシス「キリがない……！」

ルリナ「何としてもマリオに追いつくのよ……！」

その頃ルイーダ達から数百メートル離れた場所ではマリオが数百人の軍団員、エリート軍団員と戦ってた

マリオ「ファイアボール乱れ打ち……！」

ボボボボボボボ

軍団員＆エリート軍団員「グギヤアアアア」

ファイアボール乱れ打ちで数十人の軍団員とエリート軍団員を倒す
マリオ

軍団員を次々と倒しながら進むマリオ

ついに宮殿の前まで来た

マリオ「待つてろよ、リック、ミント……」

ユージ「それはかなわん」

マリオが中に入ろうとした途端、ユージが現れた

マリオ「何だ、お前か」

ユージ「お前たちはどこまで我々の邪魔をすれば……」

いつもいつもマリオやワリオにことごとく邪魔され、歯を食い縛り、怒りをあらわにするユージ

マリオ「お前たちを1人残らず倒すまで」

ユージ「そうかい、もう遊びに付き合うのもこれで最後だ！……オオオオオオ」

そう言うときユージは力を全開にして再び超魔化した

そしてその力は数百メートル離れてるルイージ達も感じた

ジュラン「感じたか！？」

ワリオ「間違いない、これはデスタイムスのだ」

ワルイージ「早速、化け物になったか」

ビビアン「急ぎましょー!!」

ネシス「でもどうやって……………」

いくら倒してもキリがない圧倒的な軍団員の数、しかしその時……

ブラックロード「スパイラル・リッパー!!!」

軍団員数十人「ぐわああああ」

スパイラル・リッパーで数十人の軍団員を倒すブラックロード

それに続き、ピーチ、デイジー、ロズーやベルローク、百人のキノ
ピオ兵と影兵士が現れた

ジュラン「お前ら!？」

ベルローク「全部でめえの手柄にしようたってそうは行くか」

ロズー「ルリナ様、我々も全力で戦います」

デイジー「ここは私達に任せて、マリオのところへ!」

ビビアン「ありがとう!」

軍団員達の相手をピーチ達に任し、ルイージ達は先に進んだ

クッパ「ピーチちゃん、お互い無事でいような」

ピーチ「……………」

ピーチは何も言わず、微笑んでコクンと頷いた

そしてマリオは宮殿の入り口で超魔化したユージと対峙していた
第129話終わり

第130話 ユージ最期の戦い

ここは復讐と憎悪の宮殿のとある部屋

ユージが超魔化したのを感じた三聖士とスィープ

スィープ「早速力を解放しましたね、ユージさん」

ゾルビア「その解放が無駄に終わらない事を祈るわ」

ギルジン「ここで負けるようなら貴様はその程度の男だという事だ」

そして宮殿の入り口ではユージとマリオの戦闘が開始した

ユージ「ブアアアア」

超巨大な鎌を振り下ろすユージ

ドオオオオオオン

マリオはユージの攻撃を避け、反撃に転じる

マリオ「レッドファイアナックル!!!」

バウウウウン

炎を纏った拳でユージを殴るマリオ

ユージ「がっ!?!?ばかな」

レッドファイアナックルでダメージを受けるユージ

エターナルスターパワーを使ってもないのに、超魔化したユージを
圧倒するマリオ

その頃ルイーダ達は軍団員や鉄砲部隊を倒しながらマリオの下目指
して進んでく

クッパ「ギガブレス！！！」

ジュラン「マダラ雷拳！！！」

ネシス「スターライトナビゲーション！！！」

次々と軍団員や鉄砲部隊を倒すルイーダ達

そして離れた場所でピーチ達も軍団員と戦ってた

キノピオ兵「えい！」

ヤリでエリート軍団員を攻撃するキノピオ兵

エリート軍団員「こしやくな！」

パンチでお返しするエリート軍団員

キノピオ兵「わああ」

影兵士「助太刀するぞ」

キノピオ兵の援護に入る影兵士

ピーチ「ピンクピーチハリケーン!!!」

ロズー「アクア・ドーム!!!」

200人ほどの軍団員を水のドームに閉じ込め、ハリケーンで攻撃するピーチとロズー

ベルローク「やるじゃねーか」

ブラックロード「こっちも行くぞ、一瞬たりとも遅れるな」

ベルローク「それはこっちのセリフだ」

ブラックロードとベルロークも連携技で軍団員を数百人倒す

その頃マリオは超魔化ユージとの戦闘中だ

ユージ「お……おのれ……」

マリオ「フンフン♪」

ユージが全力でやってるのに対し、マリオは遊んでた

ユージ「うああああああ」

怒り狂い、マリオに猛攻撃を仕掛けるユージ

ササササササ

マリオはユージの攻撃を次々と避ける

ドゴン

ユージの攻撃の1発が顔面にヒット!!

しかしダメージは全く無かった

マリオ「じゃあ、今度は俺の番だ」

ドゴーーーーン

ユージ「ぐあああああ」

マリオのパンチ1発で自分の攻撃1000発分のダメージを受ける
ユージ

そして離れた場所でもピーチ達とルイージ達も奮闘していた
第130話終わり

第131話 完成！ヘルリミッターV2

邪悪に染まった時の国を元に戻すべく戦うマリオ達

一方こちらはダウスのいる部屋

軍団員の1人がダウスに報告しに来た

軍団員「申し上げます！さらに100人以上の侵入者です」

ダウス「ねずみがうじゃうじゃと、他の連中は？」

軍団員「ユージさんは現在マリオと戦闘中です」

そしてこちらはクロッカーのいる部屋

新型ヘルリミッターの開発に励むクロッカー

クロッカー「もうすぐで完成するぞ」

熱心に新型ヘルリミッターを製作するクロッカー、そこへカムルとシューリが来た

カムル「こいつがなくても俺が噛み砕くぜ」

クロッカー「頼もしいですが、こいつで倒さないと旧型を壊された私のプライドが許されません」

シューリ「リベンジがんばってね」

クロッカー「言われなくてもそのつもりじゃ、両手へび女」

その頃ピーチ達とルイーダ達は離れた場所で戦ってた

ブラックロード「スパイラルリッパー!!!」

ロズー「ガトリング・アイスランス」

ルイーダ「グリーントルネイド!!」

ルリナ「ファイア・ウィップ!!!」

ワルイーダ「チェーン・ワルイーダボム」

そしてマリオも超魔化したユーダとの戦闘中だ

ユーダ「うおおおお」

必死に猛攻を仕掛けるユーダ

しかしマリオはユーダの必死の攻撃を次々と避ける

そしてその頃、クロッカーは新型ヘルリミッターを開発中だ

クロッカー「ついにできたぞ！ヘルリミッターV2だ」

新型ヘルリミッターが完成し、歓喜に満ちるクロッカー

クロッカー「こいつであの時のかりを返してやる」

シューリ「前のとどう違うの？」

クロッカー「レーザー砲にソード、その他いろいろな機能を追加し、攻撃力を大幅アップ」

そしてマリオはユージとの戦闘だ

マリオ「遊びは終わりだ」

ユージ「何！？」

そう言うマリオは力を少し解放し、ユージを攻撃した

ズゴオオオオオオ

ユージ「！？」

マリオの攻撃で瀕死に近いダメージを受けるユージ

ユージ「ばかな……超魔化した俺が簡単に」

マリオ「ハッ」

バアアアアアン

ユージ「ダ……ダウス様アアアアアアア……！！！！」

断末魔をあげてユージは消滅した

その様子を2人の軍団員が見ていた

軍団員A「超魔化したユージさんが簡単に」

軍団員B「早くダウス様に報告せねば」

2人の軍団員はユージが倒された事をダウスに報告しに言った
第131話終わり

第132話 激昂ダウス！集結幹部連中

激闘の末、ユージを倒したマリオ

その頃ルイーダ達はマリオのもと目指して敵を倒しながら進んでた

エリート軍団員「こいつ！」

ビビアン「カゲ抜けパンチ！！！」

カゲ抜けパンチでエリート軍団員を倒すビビアン

ルリナ「ファイア流星群！！！」

ネシス「スターライトナビゲーション！！！」

ゴゴゴゴゴゴ ビカアアアアア

軍団員&エリート軍団員数百人「ぐわああああ」

ルリナとネシスも数百人の軍団員とエリート軍団員を倒す

そしてピーチ達も離れた場所で軍団員と戦ってた

ピーチ「ピンクフラワーサンシャイン！！！」

ベルローク「ドリルシューティング」

ロズー「アイスレイン」

パアアアア ドウルルルルル キラララララ

軍団員数百人「ギャアアアア」

必殺技を駆使し、軍団員を次々と倒すピーチ達

一方こちらは復讐と憎悪の宮殿のとある部屋

マリオがユージを倒したのを感じたリックとミント

リック「お姉ちゃん！」

ミント「ええ、マリオがデスタイムスの幹部をやっつけたのよ」

時の国の住人達「オオオオオオ」

マリオの勝利に喜ぶ時の国の住人達

時の国の長老「頼むぞみんな、その調子で三聖士たちも倒してくれ」

一方こちらはダウスのいる部屋

軍団員の1人がかなり慌てた顔で入って来た

ダウス「何事だ？」

軍団員「報告します！超魔化のユージさんがマリオにあっけなく倒されました！！」

ダウス「三聖士とスィーブ達を集める！！！」

軍団員「は、はい！！」

ユージが倒され、激昂するダウスは残ってる幹部を集めるようにと命令する

軍団員の1人は三聖士やスィーブ達に報告しに行った

数分後、マリオの目の前にデスタイムスの幹部が集結した

スィーブ「敵って、マリオ1人？」

シューリ「結構いい男じゃない」

デノロス「もう1回コテンパンにできるぜ」

ギルジン「予想はしたが、やはりな」

ゾルビア「ユージじゃしょうがないわね」

カムル「噛み砕いてやる」

マリオの前に集結したデスタイムスの幹部連中、この圧倒的な戦力にどう対抗するのか！？

第132話終わり

第133話 決戦の時

マリオの前に集結したデスタイムスの幹部連中

そこへクロッカーも遅れて登場した

シューリ「おそーい！」

クロッカー「いやー、すまんすまん」

ダウス「よく集まった！だがもう少し待て、その内あいつの仲間も来る、全員痛めつける」

三聖士やスィーブ達はルイージ達が到着するまで待つ事にした

その頃ルイージ達は宮殿を目指して進んでた

クッパ「スピンシエル！！！」

ビビアン「魔法の炎！！！」

ルイージ「ルイージサイクロン！！！」

敵を次々と倒しながら進むルイージ達

そしてマリオはデスタイムスの幹部連中と対峙していた

スィーブ「うふふふ」

パチン

スリープが指パッチンすると囚われている時の国の住人の立体映像が映し出された

マリオ「今すぐリィック達を解放しろ!!!」

ゾルビア「あなた1人で私達に挑む気？」

マリオ「……たしかに……」

パワーアップしたとはいえ、三聖士の強さは半端ではない

カムル「噛み砕きてえぜ」

ギルジン「あいつや、あの力ゲ族は俺達がやる」

デノロス「おめえじゃ、かなわねえよ」

そしてその頃ピーチ達は軍団員の大半を倒していた

ピーチ「ピーチブロッサム!!!」

ブラックロード「エアースード!!!」

バキュウウウウ

ベルローク「やっと片付いたな」

ようやく全ての軍団員を倒したピーチ達

同じ頃、ルイージ達も軍団員を全員倒してた

クッパ「意外とあっけなかったな」

ジュラン「油断するな、本当の相手はこんな雑魚じゃない」

ルリナ「ジュランの言うとおりよクッパ」

ワリオ「俺達が倒すべき最大の敵はダウスだ」

全ての軍団員を倒したルイージ達は一気に宮殿へ走っていった

数分後、ルイージ達が宮殿の入り口に次々と集まった

ルリナ「一番乗り」

ルイージ「兄さん」

マリオ「ルイージ！ルリナ！」

クッパ「よお、マリオ」

マリオ「クッパまで！？」

宮殿の入り口に次々と集まる仲間達

ゾルビア「次から次へと」

数十秒後、ジュラン、ネシス、ワリオ、ワルイージも到着した

ギルジン「出揃ったか」

数秒後、マリオ達は前に進み、ゆっくり上を向いた

マリオ「あとはおれ達に任せろ！！！」

ついにデスタイムスとの最後の戦いが始まる！！果たしてマリオ達は勝利し、みんなの未来を救う事ができるのか！？

第133話終わり

第133話 決戦の時（後書き）

マリオサイド

マリオ ルイー ジ ワリオ ワルイー ジ ビビアン

ルリナ ジュラン ネシス クツパ

デスタイムスサイド

ダウス スイー ブ ギルジン ゾルビア デノロス

クロツカー カムル シューリ

第134話 鍵を奪え！宮殿突入

デスタイムスの幹部連中と対峙しあうマリオ達

デノロス「前におらにやられた亀もいるではないか」

クツパ「ヌウウウウウ……！！！」

デノロスに闘争心を向けるクツパ

ゾルビア「どうやってここまで来たか知らないけど、前より雰囲気
が違うわね」

ダウス「これを見る！！！」

ルイージ「あれは！？」

マリオ達に鍵を見せるダウス

ダウス「時の国の住人が入ってる檻の鍵だ」

ルリナ「ジュラン、あの鍵を奪って」

ヒュン パッ

超高速移動し、ダウスから鍵を奪ったジュラン

ボン

しかし鍵は破裂し、ハズレと書かれた紙が出てきた

ダウス「私はこれが本物とは一言もいつてない」

ギルジン「本物は俺とダウス様以外の誰かが持つてる」

本物の鍵はダウスとギルジン以外の誰かが持つてるらしい

ビビアン「一体誰が!？」

カムル「俺たちを倒して奪ってみるんだな」

ダウス「ではお前達、あいつらを惨殺して来い!!ギルジン!お前は私と一緒に来い」

ギルジンを除く三聖士やスイーブ、クロツカー、カムル、シューリはダウスの命令を受けて宮殿の中へ散り散りになった

そしてギルジンはダウスと共にある場所へ向かっていった

ワリオ「ダウスは三聖士の1人とどこへ行くようだな」

ワルイージ「とにかくマリオだけでも行かせよう」

ジュラン「マリオ!お前はまずあいつをぶちのめしてこい」

ルイージ「兄さんを除いて僕たちは8人、本物の鍵は6人の内、誰かが持つてる」

マリオ「みんな!何があっても負けるな!!!」

数秒後、マリオ達は宮殿の中へ入っていった

宮殿に入り、デスタイムスの幹部を探すルイーダ達

クッパ「どこにいる!？」

ドオオオオオン

クッパ「なんだ？」

クロッカー「貴方の相手は私です」

クッパの前にクロッカーがヘルリミッターV2に搭乗して現れた

クッパ「そのポンコツごとギッタギタにしてやるわ!!！」

ワリオとルイーダの前にはカムルが現れた

カムル「どっちが嚙んでやろうか？」

ルイーダ&ワリオ「……………」

カムルの言葉に気を引き締めるルイーダとワリオ

そしてここはゾルビアのいる部屋

ルリナが炎を出しながら入ってきた

ゾルビア「もう炎を出してんの」

ルリナ「あんたを焼きたいって、疼くのよ」

ついに始めるデスタイムスとの決戦、ルイージ達は本物の鍵を奪う
事ができるのか！？

第134話終わり

第135話 宮殿の大激戦

ついに始まったデスタイムスとの決戦

ある部屋でゾルビアと対峙するルリナ

ゾルビア「影の国で私に敗れ、時の国でも敗れた」

ルリナ「御託はいいわ、さっさと倒させてもらっわよ」

そう言うところルリナは炎をゾルビアに向けて放った

バシイイイ

技を使い、ルリナの炎を弾くゾルビア

ゾルビア「できるかしら？」

そして今度は手を凄い速さで動かして攻撃して来た

ガガガガガガガ

ゾルビアの攻撃を次々と受け止めるルリナ

そしてクッパはクロッカーとの戦闘に入ってた

クロッカー「レーザーブレード……！」

ボタンを押し、ヘルリミッターV2の右手がレーザーの剣になった

クロッカー「いくぞ」

レーザーブレードでクツパを攻撃するクロッカー

クツパ「ぬっっっっっ」

クロッカー「何!？」

しかしクツパはヘルリミッターV2のレーザーブレードを真剣白刃取りで受け止める

クツパ「くらえ!!!」

至近距離で火炎放射をくらわすクツパ

クロッカー「あまいよ!」

防御システムを発動し、ヘルリミッターV2のダメージを減少させるクロッカー

一方ビビアンはシューリ&デノロスと戦ってた

ビビアン「魔法の炎!!!」

ゴオオオオオオオ

魔法の炎で攻撃するビビアン

シューリには効いているが、デノロスにはほとんどダメージを与え

られない

デノロス「おらあああああ」

ビビアン「きゃあああああ」

デノロスの攻撃でダメージを受けるビビアン

デノロス「これでゲームオーバーだ」

ビビアンを戦闘不能にしようともう1発パンチをおみまいするデノロス

ドゴオオオオオ

シューリ「デノロスさん!!!!」

突然デノロスが吹っ飛んで驚くシューリ

ビビアンが振り向くとジュランがいた

ジュラン「あいつは俺の獲物だ」

ジュランはデノロスが吹っ飛んだ方へ向かった

ルイージとワリオはカムルとの戦闘中であつた

ルイージ「サイクロンアタック!!!」

ワリオ「ブルパンチ!!!!」

バッシュウウウ

カムル「やるな……！！！」

そう言うとかムルは鰐のような怪人に変身した

その頃ネシスはスィーブのいる部屋に来ていた

スィーブ「お茶でもいいかが？」

ネシス「遠慮します、それより鍵を」

スィーブの誘いを断り、鍵を渡すよう要求するネシス

スィーブ「あら残念、フェザースパイラル……！」

鋭い鋭利の無数の鳥の羽で攻撃するスィーブ

ネシス「スターライトスプラッシュ……！」

それに対し、ネシスはスターライトスプラッシュでフェザースパイラルを相殺させる

デスタイムスの幹部から鍵を奪おうと戦うルイージ達

しかしマリオとワルイージは宮殿の中をさまよっていた

第135話終わり

第136話 憎魔開放再び！

マリオ達とデスタイムスの決戦は続く

マリオ「ダウスウウウウウ！！！！どこにいるうううう！！！！」

大声で叫びながら宮殿の中を走りまわるマリオ

ワルイージも宮殿の中でさまよってた

ワルイージ「早くだれかの援護に行きたいのに」

その頃ルリナはゾルビアとの戦闘中だ

ルリナ「ファイア・ウィップ！！！」

ゾルビア「悪魔の指！！！」

ポオオオオン

ファイア・ウィップと悪魔の指がぶつかり相殺

修行を経てパワーアップしたルリナはゾルビアとも互角に戦ってた

ゾルビア「遊びは終わりよ」

そう言うとゾルビアは胸の悪魔の紋章にエネルギーを注ぎこんだ

憎魔開放し、蜂と一体化したような姿になるゾルビア

そしてジュランはデノロスとの戦いを繰り返していた

デノロス「さっきはよくもやってくれたな!!」

いきなり憎魔開放するデノロス

ジュラン「サンダーランス乱れ撃ち!!!」

シュシュシュシュ

凄いスピードの電撃の槍で攻撃してくるジュラン

デノロス「こんなもの!!」

それに対しデノロスは力でサンダーランスを次々と弾き返す

一方ビビアンは蝶のような怪人に変身したシューリと戦ってた

ビビアン「デルタマジック!!!」

シューリ「おそいわ」

デルタマジックをかますビビアンだが、かわされてしまう

変身したシューリはやたら強く、苦戦してしまうビビアン

相手を探そうと、宮殿をさまようマリオとワルイージ

数十秒後、マリオとワルイージが合流した

ワルイージ「マリオ！あいつらは？」

マリオ「今探してる所だ」

その頃ダウスはギルジンと一緒にある部屋に向かった

ダウス「あいつらにこの通路が見つかるものか」

ギルジン「万一看つかってもこの俺が」

そしてマリオとワルイージは宮殿の通路にいた

マリオ「どこに行ったんだあいつら」

ドン　ゴゴゴゴゴゴゴ

イラだって床を強く踏みつけるマリオ、すると何かが動く音がした

数十秒後、隠し階段が現れた

ワルイージ「隠し階段だ、ダウスたちはここから入ったんだ」

マリオ「おれはギロチンって奴をとっちめてくる、ワルイージは誰かの援護を頼む」

敵の名前を間違え、マリオ達はダウス達を追った

そしてワルイージはマリオの言うとおり誰かの援護へ向かっていった

その頃クツパはクロツカーとの戦闘中だ

クロツカー「ぐりぐりパンチ!!!」

左手を高速回転させて攻撃するクロツカー

クツパ「どりゃああああ」

ヘルリミッターV2の攻撃を受け止めるクツパ

クロツカー「レーザーブレード!!!」

しかしクロツカーは容赦なくヘルリミッターV2の右手をレーザーの剣に変形させ、攻撃してくる

クツパ「シエルガード!!!」

ガキイイイイ

シエルガードでヘルリミッターV2の攻撃を防御するクツパ

マリオ達とデスタイムスの決戦、勝敗の行方やいかに!?

第136話終わり

ジュラン「カゲがくれ」

シュウウウウン

影の中に入ってデノロスの攻撃をかわすジュラン

数秒後、デノロスの影から出てきてパンチをくらわす

デノロス「デスホーン！！！」

デスホーンでジュランに突進してくるデノロス

ジュラン「くく……うあああ」

デノロスの攻撃を受け止めるジュランだが、強すぎて吹っ飛ばされる

その頃ビビアンはシューリに苦戦してた

シューリ「ダウンパウダー」

能力を下げる粉をまくシューリ

ビビアン「これは？」

ダウンパウダーをくらってしまふビビアン

シューリ「じっくり楽しませてもらうわ」

ダウンパウダーをくらい、状況が悪化してしまう

そこへワルイージがかけつけた

ワルイージ「俺様も一緒に戦うぞ」

ビビアン「ワルイージ」

シューリ「まとめてあの世に送るわ」

そう言うとシューリは再びダウンパウダーで攻撃しようとして来た

ワルイージ「マツハワルイージボムー!!」

ボオオオン

シューリ「うあっ」

マツハワルイージボムでダメージを受けるシューリ

シューリ「やってくれたわね!!!」

攻撃を受けて怒ったシューリはワルイージに襲い掛かった

ビビアン「炎の守り」

パアアアア

シューリ「何!?!」

炎の守りでワルイージを援護するビビアン

そしてネシスはスィーブとの戦闘中だ

スィーブ「はあああああ」

鳥のような怪人へと変身したスィーブ

スィーブ「ウイングブレード!!!」

ドオオオオン

スィーブのウイングブレードを避けるネシス

ネシス「プリズムスター流星群!!」

スィーブ「はっ」

しかしスィーブもネシスの攻撃を次々と避けてしまう

マリオ「待ってるよ、絶対にぶっ飛ばしてやる」

マリオはダウスとギルジンを追って、秘密の通路をさらに進むのだ
った

第137話終わり

第138話 クッパ大ピンチ！ヘルリミッターV2の必殺技

ここは宮殿のとある部屋

リィック「マリオさん……みんな……」

ミント「がんばって………」

マリオ達の勝利を祈る時の国の住人達

ネシスはスィープとの戦闘中だ

ネシス「スターライトナビゲーション……！」

スィープ「ウイングシールド……！」

スターライトナビゲーションをウイングシールドで防ぐスィープ

スィープ「はあああああ」

スィープはネシスに接近して猛攻をしかける

ガキキキキガキン

しかしネシスはスィープの攻撃を次々と弾く

その頃マリオは秘密の通路を進んでた

マリオ「待ってるよダウス、必ず倒す……！」

そしてマリオから大分離れた場所ではダウスとギルジンが通路を歩いてた

ダウス「お前が憎魔開放するのは久しぶりだが、この目で見れないのが残念だ」

ギルジン「俺が憎魔開放するのは全力で葬るのに値する相手だけです」

その頃ビビアンとワルイージはシューリと戦ってた

ビビアン「炎の手刀！」

炎を帯びた手刀で攻撃するビビアン

シューリ「タイフーン！！！」

ビュゴオオオオオオオ

それに対しシューリはタイフーンでビビアンを吹き飛ばそうとする

ビビアン「くうううう……」

吹き飛ばされまいと踏ん張るビビアン

その隙にワルイージが背後から攻撃してきた

ワルイージ「チェーン・ワルイージボム！！」

シューリ「くっ」

ヒュン　ボボボボボボ

チエーン・ワルイージボムで攻撃するワルイージだが、かわされてしまう

その頃クツパはクロツカーとの戦闘中だ

クツパ「ギガクツパブレス！！！」

クロツカー「防御システムオン！！！」

ブオオオオオオオオ

ギガクツパブレスを防御システムでヘルリミッターV2のダメージを最小限にするクロツカー

クツパ「スピンシエル！！！」

ガガガガガガ

クロツカー「うおおおお」

スピンシエルを両手で受け止める

クロツカー「もらった」

クツパ「しまった！！」

クツパを捕らえ、ニヤリと笑うクロツカー

クロツカー「くらえ我が最高傑作ヘルリミッター・V2の最強の技だ」

クツパ「離しやがれ!!!」

ヘルリミッターV2の腕を振りほどこうと暴れるクツパだが、全然離れない

クロツカー「デストロイキャノン!!!!!!」

ドオオオオオオオ……

クツパ「うあああああ」

デストロイキャノンを至近距離で受けてしまうクツパ

クツパ「まだだ」

クロツカー「まだ立てるのですか、流石クツパ軍団の王だけの事はありますね」

デストロイキャノンを受けながらも立ち上がるクツパ

果たしたクツパはヘルリミッターV2を破壊し、クロツカーを倒せるか!?

第138話終わり

第139話 クッパ怒りの反撃

マリオ達とデスタイムスの決戦は続く

デストロイキャノンで大ダメージを受けるクッパ

クロツカー「シューティングミサイル！！！」

クッパ「クッパプレス！！！」

ゴオオオオ ボボボボン

クッパプレスでヘルリミッターV2のシューティングミサイルを次々と爆破するクッパ

一方ルリナはゾルビアと戦ってた

ゾルビア「デビルズ・アイ」

ルリナ「くっ」

ゾルビアのデビルズ・アイを体を反らせてかわすルリナ

ルリナ「魔法の炎！！！」

ゾルビア「ニードル・クロウ」

バシユウウウウウ

互いの技がぶつかりあい、相殺

ルリナ&ゾルビア「はああああああ」

今度は接近して肉弾戦を繰り広げるルリナとゾルビア

そしてルイージとワリオはカムルと戦ってた

カムル「デス・トウス」

デス・トウスで攻撃してくるカムル

ルイージ「グリーンサンダー!!!」

ワリオ「スーパーバイクアタック!!!」

ドオオオオン

カムル「ぐわあああ」

ルイージとワリオの攻撃を受け、吹き飛ばカムル

その頃マリオは秘密の通路を進んでた

少し進むと大きな扉があった

マリオ「エターナルスターショット」

ドゴオオオオオオン

エターナルスターショットで扉に大きな穴を開けるマリオ

穴から出るとマリオはエターナルスターパワーを解除してダウス達をさらに追っていった

そしてマリオから離れた場所にはダウスとギルジンが通路を進んでた

ダウス「ここから先は私1人でいく、お前はここにやって来る客の相手だ」

ギルジン「おまかせを」

ギルジンにマリオの相手を任せ、ダウスはさらに奥へ進んだ

そしてクッパはクロッカーとの戦闘中だ

クッパ「ぬおおおおお」

ドゴオオオオン

一本背負いでヘルリミッターV2を地面に叩きつけるクッパ

クロッカー「ダブルレーザーブレード」

ヘルリミッターV2の両手をレーザーの剣に変形させて攻撃するクロッカー

クッパ「クッパハンドクロー!!!」

それに対し、クッパはクッパハンドクローでダブルレーザーソード

を防御する

クロツカー「ミサイルボンバー！！！！」

ドドドドドドドド

ヘルリミッターV2の胸部が開き、ミサイルが発射

クツパ「シエルガード！！！！」

シエルガードでクロツカーの攻撃を防ぐクツパ

すかさずクロツカーはクツパに接近してきた

クロツカー「くらえ！！！！」

ヘルリミッターV2のパンチをクツパにくらわすクツパ

クロツカー「これでゲームオーバーだ」

クツパ「いや、ゲームオーバーは……貴様だああああ！！！！！！」

凄まじい気合と共にヘルリミッターの左手を握るクツパ

クロツカー「馬鹿な！？この亀のどこにこんなパワーが」

クツパの想像以上のパワーに驚くクロツカー

クツパ「うおおおりゃーーーー！！！！！！」

バキイイイイイ

凄い力でヘルリミッターV2の左手を破壊した

クロッカー「くそおおおお……」

ヘルリミッターV2の左手を失い、悔しがるクロッカー

いよいよクツパの反撃開始だ……!!

第139話終わり

第140話 クロッカー大爆死！ギガクツパバスター炸裂

渾身の力でヘルリミッターV2の左手を破壊したクツパ

クロツカー「おのれ……よくも」

左手を壊され、怒ったクロツカーは右手で攻撃を仕掛ける

ドオオオオオン

クツパ「ぐあああああ」

避けきれず、ヘルリミッターV2の攻撃を受けてしまうクツパ

クロツカー「もう避けられるほどのスピードはないようだな、この私を怒らせた事を後悔しろ」

凄まじいスピードで攻めまくるクロツカー

クツパ「く、くそっ」

クツパも懸命に防御するが、間に合わずヘルリミッターV2の攻撃を次々とくらってしまふ

その頃別の部屋ではネシスとスィープの戦闘が続いてた

スィープ「バード・オーケストラ」

美しい音色と共に激しい攻撃を仕掛けるスィープ

ネシス「プリズムスターシールド」

シュバババババ

プリズムスターシールドでバード・オーケストラを防ぐ

そしてマリオは秘密の通路を進んでた

少し進むと扉があつた

マリオ「今度のはでかくないな、おりゃああ」

ドギヤアアアア ギギギギギギ

ドアを蹴破って入ってくるマリオ

マリオに蹴破れたドアは地面を引きずってバラバラに

マリオ「ん？どこだ？ここ？ああっ！！お前は」

ギルジン「よく来た」

マリオの目の前にはギルジンがいた

その頃クッパはクロッカーと戦つてた

ヘルリミッターV2の攻撃を受け続けるクッパ

クロッカー「これで終わりだ！！！」

クツパ「……………！！！！調子にのんなー！！！！！！」

ズガアアアン

クロツカー「ゲッ！！」

怒りが爆発し、右手も破壊したクツパ

クロツカー「まずい……………」

両手を破壊され、焦った表情になるクロツカー

クツパ「さあ、フィニッシュだ」

クツパはヘルリミッターV2ごとクロツカーを抱えて大ジャンプした

クロツカー「は、離せ！離しやがれ！！」

ボン　ボボボボボ

ミサイルや爆弾で必死に抵抗するクロツカー

しかしその行為がクツパの火に油を注いでしまう

クツパ「往生際の悪い奴だ、大人しく自分の鎮魂歌に耳を傾けろ」

クロツカー「うわああああ……………いやだああああ！！！！！！」

クツパ「ギガクツパバスター……………！！！！！！！！」

ズガアアアアアア

クロツカー「ギャアアアアア………」

ギガクツパバスターによって、ついにクロツカーは倒された

パシッ パン

クツパ「ちつ、ニセモノか」

クロツカーから鍵を奪ったクツパだったが、奪った鍵は偽者だった

一方ルイージとワリオはカムルと戦ってた

カムル「なんてやつらだ」

ルイージ「グリーンサンダー……！」

シュッ ズバアアア

グリーンサンダーを避け、反撃にでるカムル

カムル「キラートウス……！」

ガブッ

ルイージ「うわあああ」

キラートウスで大ダメージを受けるルイージ

ワリオ「ルイージ、大丈夫か？」

ルイージ「平気だよ、このくらい」

カムル「フフフフフ………」

牙をギラギラさせて迫り来るカムル、ルイージとワリオは勝利できるのか！？

第140話終わり

第141話 絶体絶命！迫り来る恐怖の牙

ここは宮殿のとある部屋

時の国の住人「マリオさん達がデスタイムスの1人を倒したぞ」

時の国の住人達「オオー」

マリオ達がデスタイムスの幹部を1人倒したのを感じ、喜ぶ時の国の住人たち

そして別の部屋ではルイー・ジ&ワリオVSカムの戦闘が続いてた

ポキン

カム「トウス・ブーメラン！！！！」

自分の牙を抜き、ブーメランのように投げつけるカム

ワリオ「アイアンパンチ！！！！」

バキイイイ

アイアンパンチでトウス・ブーメランをホームランにするワリオ

カム「ふふふふ」

なんと！カムの牙がまた生えてきた

ルイージ「抜けた牙がまた生えた」

カムル「俺様の牙は鮫の歯のように何度でも生えるのさ」

そう言うとかムルは今度は牙を次々と抜いて、どんどん投げつけた

しかもいくら抜いても次々と生えるので弾切れがない

その頃ビアンとルイージはシューリと戦ってた

ルイージ「チェーン・ルイージボム！！！」

ビアン「魔法の炎！！！」

ヒュン ドオオオオン

ルイージ達の攻撃をかわすシューリ

シューリ「エナジードレイン」

ギユオオオオオ

エナジードレインで攻撃するシューリ

バツ

ルイージとビアンはシューリの攻撃をかわし、反撃に出る

その頃クロッカーを倒したクツパは宮殿の中をうろついてた

クッパ「まったくどこも騒がしいぜ」

そしてワリオとルイージはカムルとの戦闘中だ

ワリオ&ルイージ「はぁ……はぁ……」

トウース・ブーメランを連続で受けて、息切れのワリオとルイージ

カムル「クロス・トウース!!!」

ズバアアアア

ルイージ「がつ……」

クロス・トウースを受け、倒れるルイージ

ワリオ「ルイージ!!!」

カムル「次はお前だ、トウース・ダガー!!!」

ヒュッヒュヒュヒュ

自分の牙をナイフのように次々と突き出すカムル

ワリオ「くそっ、このままじゃ」

後ろへ下がりながらも、カムルの攻撃を避け続けるワリオ

だがついに、壁際まで追い込まれてしまった

カムル「ぐふふふ……、年貢の納め時だな」

じりじりとワリオに迫るカムル、このままワリオもやられてしまうのか！？

第141話 終わり

第142話 牙を打ち砕け！ワリオとルイージの合体技

牙をギラギラさせてワリオに近づくカムル

ワリオ「ブル・タツクル！！！」

ボゴオオオオ

カムル「うおおお！？」

ブル・タツクルを受け、後ろへ下がるカムル

カムル「往生際の悪いやつだ」

ワリオ「負けるわけにはいかねーんだよ」

カムル「2度と何もできんようにしてやる……、ぐわっ」

再度攻撃しようとワリオに襲い掛かるカムル、後ろからファイアボールが直撃した

ルイージ「まだ終わってないぞ！！！」

カムル「しぶといやつらだ、まとめて蹴散らしてやる！！！」

ルイージ「いくよ、ワリオ」

ワリオ「オウ！！！」

カムル「デス・トウス!!!!」

デス・トウスで攻撃を仕掛けるカムル

ワリオ「うおおおお」

それに対し、ワリオはひたすらカムルに突っ込んで来る

カムル「血迷ったか!? ならば望み通り」

バキン スカツ

攻撃したが、かわされて背後を取られた

カムル「なっ!?!」

ルイージ「グリーンサンダー!!!!!!」

ドオオオオオン

グリーンサンダーがワリオを直撃!!

グリーンサンダーの電撃を纏ってカムルに突進するワリオ

ワリオ「くらえ!!! サンダー・ブル・タツクル」

ドゴオオオオオオオン パリ パリ

カムル「ぐぎいいいい……」

サンダー・ブル・タツクルを受け、壁まで吹っ飛ぶカムル

ワリオ「よっしゃ！俺様たちの勝利だ」

ルイージ「さて、こいつの鍵を……」

カムルの懷に手を入れ、鍵を探すルイージ

数秒後、鍵を手に入れたが、偽者だった

ルイージ「本物じゃなかったみたい」

その最中にクッパが来た

クッパ「ワリオにルイージ」

ワリオ「クッパ、敵は？」

クッパ「科学者をやつつけたが、持ってた鍵は偽者だった」

ワリオ「てことは、鍵を持つてる奴はあと4人……」

その頃、秘密の通路の大広間ではワリオとギルジンが対峙していた

ギルジン「この向こうにダウス様がおられる」

ワリオ「おい、そこをどけよ」

ギルジンに（どけ）と言うワリオだが、ギルジンはワリオの言葉を無視し、喋り続ける

ギルジン「これまでの歴史が消え、我々デスタイムスによる新たな歴史が刻まれる」

マリオ「ぬおおおお」

ズドオオオオオ

強烈なキックでギルジンに攻撃を仕掛けるマリオ

しかしギルジンはマリオの蹴りを片手で防御する

ギルジン「だがここから先は通すわけにはいかん」

シュツシュツシュ

パンチやキックでマリオに攻撃するギルジン

マリオもギルジンの攻撃を避け、蹴りの体勢を取る

そしてギルジンも蹴りで攻撃を仕掛ける

ズガガガアアア

互いの蹴りがぶつかり、マリオとギルジンは衝撃で吹っ飛ぶのだった
第142話終わり

第143話 始動！パラレルワールド抹消計画

宮殿の中でデスタイムスとの戦闘を繰り広げるマリオ達

マリオ「ガトリング・ファイア！！！」

ボボボボボボボ

ファイアボールをマシンガンのように連発するマリオ

ビュビュビュビュ……

しかしギルジンはマリオの攻撃を次々と避けて近づく

ギルジン「その攻撃は通用せん」

バキ キイイイン ズガアアアン

攻撃を受け、壁まで吹っ飛ぶマリオ

マリオ「さすがに強いな」

そしてビビアンとワルイージはシューリと戦ってた

ビビアン「魔法の炎！！」

ワルイージ「マッハ・ワルイージボム！！！」

ボオオ ドカン

シューリ「この！ポイズンパウダー」

パサパサパサ……

ワルイージ達にポイズンパウダーをかけるシューリ

ワルイージ「うつつ…」

ビビアンは振り払ったが、ワルイージは浴びてしまった

その頃秘密の通路の奥ではダウスが何かを始めていた

ダウス「パラレルワールド抹消計画のスタートだ！！！」

パラレルワールドとはいろんな可能性の未来

例えばマリオが生きている未来もあれば、とつくの昔に死んでいた未来も存在する

ダウスはどのパラレルワールドを消滅させる気なのか！？

一方ジュランはデノロスとの戦闘中だ

ジュラン「ライトニング・スラッシュ！！！！」

デノロス「バーサク・アタック！！！！」

ズオオオオオオ……

互いの技がぶつかり、相殺

そしてルリナも別の部屋でゾルビアと戦ってた

ゾルビア「サウザンド・デビルズアイ」

ルリナ「ファイア・ウィップ」

ビビビビビビ…… ボウン

ファイア・ウィップでゾルビアのサウザンド・デビルズアイを全て防ぐルリナ

一方こちらはキノコワールド

突然、緑キノピオの動きが止まった

青キノピオ「おい！！！」

ゆさゆさゆさ……

大声で呼んだり、揺すったりしたが、全く返事が無い

そこへカゲの女王が来た

カゲの女王「うーむ……、これはこやつが時間の時間が停止されてるようじゃな」

青キノピオ「時間の停止……、そんなことが……」

時間の停止などこの世に存在するはずないような顔になる青キノピオ

カゲの女王「全てはデスタイムスの仕業……」

その頃、影の国ではカゲ族達が準備を進めていた

エリート影兵士「モタモタするな！間に合わなくなるぞ」

影兵士「はい！！」

デスタイムスとの戦いに備え、巨大兵器を作り上げる影兵士達

そしてマリリンとマジョリン、カゲの国王は全国民を非難させてた

カゲの国王「慌てずに、落ち着いていくんだ」

国民を落ち着かせながら安全な場所へ誘導するマジョリン達

その最中に国王の電話が振動した

ブルルルル… ピッ

電話に出るカゲの国王

カゲの国王「私だ、そっちはどうだ？」

カゲの女王「わらわ達もキノコ族たちを安全なところに移動中じゃ」

女王と国王は二手に分かれて全ての国民を安全なところに移動させてた

そして復讐と憎悪の魔宮ではデスタイムス幹部との戦闘が続いていたのだった

第143話終わり

第144話 ビビアン大苦戦！ワルイージのど根性

シューリとの戦闘中のワルイージ&ビビアン

シューリ「インセクト・カッター！！！」

ワルイージ「ワルイージ・ボム！！！！」

ドオオオオン

インセクト・カッターとワルイージボムがぶつかり相殺

ビビアン「デルタ・マジック！！！！」

シューリ「！！！！！！！！！！」

ズゴオオオオオオ

デルタ・マジックをくらい、大ダメージを受けるシューリ

ワルイージ「どんなもんだい！！」

ビビアン「これで終わりよ、デルタ・マジック」

とどめのデルタ・マジックをシューリに仕掛けるビビアン

シューリ「そうはいかないわ、マヒマヒパウダー」

マヒマヒパウダーをビビアンに浴びせるシューリ

ビビアン「何これ……から……だ………が……」

マヒマヒパウダーをくらい、体が思い通りに動けないビビアン

ワルイージ「くそ、もうちょっとだったのに」

ワルイージは毒状態、ビビアンは麻痺になってしまう

ワルイージ「チェーン・ワルイージボム……!!」

毒に耐えながら1人シューリと戦うワルイージ

シューリ「はあああ」

しかしシューリはワルイージの攻撃を次々と弾く

一方、別の部屋ではネシスがスィープと戦ってた

スィープ「トルネード・タイフーン……!!」

ネシス「スターライト・クラッシャー……!!」

バウウウウウ

互いの技がぶつかり、辺りに煙が巻き上がる

ネシス「だああああ」

接近し、スィープに攻撃するネシス

ガガッ サッ サッ

スィーブもネシスの攻撃を避けては防御する

スィーブ「バード・オーケストラ」

バード・オーケストラで攻撃するスィーブ

ネシス「！！！」

バシ………

紙一重でかわし、何とかダメージを最小限に抑えたネシス

その頃ビビアンとワルイージはシューリと戦ってた

ビビアンが痺れてしまい、1人で必死に戦うワルイージ

ワルイージ「てめえを潰すまでは死にたくても死ねねえんだよ！！」

相打ちにしてもシューリを倒そうとするワルイージ

シューリ「所詮、あんた達のやってる事など無駄なあがきにすぎないのよ！！！！」

怒りながらワルイージに猛攻を仕掛ける

シューリ「全ての歴史は我らデスタイムスに支配されてこそ真価が

ある」

ビビアン「それは……ちがう……」

ワルイージとシューリの交戦中に話しかけるビビアン

ビビアン「あんた達に支配された歴史なんて……何の価値もないわ」

シューリ「まだそんな減らず口を、いいわ、こいつを片付けたらあんたも同じ所へ送るわ」

ワルイージ「てめえは俺達がぶちのめす……!」

ズガン ババババ バキボキゴキドカ

凄まじい攻防戦を繰り広げるワルイージとシューリ、勝負の行方は!?

第144話終わり

第145話 決めるデルタマジック！ビビアン渾身の一撃

鍵を奪うべく、シューリと戦うワルイージとビビアン

ビビアン「カゲぬけパ……」

カゲぬけパンチをくらわそうとするビビアンだが、痺れて自由がきかない

シューリ「はあああ」

バキイイイイイ

自由に動けないビビアンを蹴るシューリ

ワルイージ「貴様の相手はこっちだろうが……!!」

それを見て怒ったワルイージが攻撃を仕掛ける

一方こちらは秘密の通路の広間

マリオがギルジンと戦ってた

マリオ「トルネードキック……!!」

ギルジン「ふん」

ビヨン ズガアアアン

トルネードキックで攻撃しようとしたマリオだが、ギルジンはジャンプし、上から叩きつける

ギルジン「あきらめろ、お前は……、いや、お前達はここを通ることはできない」

マリオ「いや、お前を倒してそこを通るんだ」

そしてこちらは秘密の通路の大広間

ダウス「ウハハハハ！やった！やったぞ！！」

パラレルワールドを1つ破壊し、歓喜に満ちた笑いをあげるダウス

ダウス「さて、次は……」

次のパラレルワールドを破壊すべく、作業を続けるダウス

その頃ルイージ、ワリオ、クッパの3人は宮殿の中を走ってた

ルイージ「時の国の住人はどこにいるんだ？」

ワリオ「早く本物の鍵を手に入れないと」

クッパ「ダウスを見つけたら、パワーアップしたワガハイのパンチを1発おみまいしてやる」

その頃ビビアンとワルイージはシューリと戦闘中であつた

ビビアン「魔法の炎！！！！」

ゴオオオオオ

シューリ「こしゃくな……」

魔法の炎で攻撃するビビアン

僅かではあるが、体の痺れが消え始めている

ワルイージ「チェーン・ワルイージボム……」

シューリ「ストーム・アタック……」

ドオオオオオオン

互いの技がぶつかり、相殺

ワルイージ「かかったな」

背後に回り、シューリを抑え付けるワルイージ

シューリ「は、離せ……」

ワルイージ「ビビアン！今だ……」

ビビアン「デルタ」

シューリ「ま……まで……」

ビビアン「マジック……」

ズゴオオオオオオ

シューリ「そ……………ん……………」

デルタマジックを受けて、ついにシューリは倒された

ビビアン「っ……………!!」

それと同時にビビアンの体にも激しい激痛が走る

ワルイージ「大丈夫か？」

ビビアン「平気よ、それより鍵を」

ワルイージ「おう、そうだった」

ゴソゴソ……………

シューリの懷に手をゴソゴソ入れるワルイージ

数秒後、鍵を奪ったがまたしても偽者だった

そして別の部屋ではネシスがスィープと戦ってた

ネシス「スターライトナビゲーション!!!!」

スィープ「ウイングシールド」

ガガガガガガ……………

ウイングシールドでスターライトナビゲーションを防ぐスィープ

激しい戦いをするネシスとスィープ、女神が最後に微笑むのはどっちだ！？

第145話終わり

第146話 ネシス絶体絶命！？羽ばたく絶望の翼

デスタイムスの幹部を次々と撃破していくマリオ達

部屋の一室ではネシスとスィープの戦闘が続いてた

スィープ「バード・アロー……！」

鳥型の弓矢を発射するスィープ

シュババババババ

それに対し、ネシスは高速移動でスィープの攻撃を次々とかわす

ネシス「スタープリズム・イリユージョン……！」

スタープリズム・イリユージョンで攻撃するネシス

しかしスィープは上昇してネシスの攻撃をかわす

そして別の部屋ではルリナVSゾルビアの戦いが展開中

ルリナ「ファイア流星群……！」

ゾルビア「サウザンド・デビルズ・アイ……！」

ファイア流星群とサウザンド・デビルズ・アイがぶつかり合い、相殺

ゾルビア「ロング・ポイズンニードル」

シュシュシュ……

長い毒針で高速の連続突き攻撃をするゾルビア

ルリナ「ファイア・ウィップ……！」

ビヨン バシィィィ

それに対し、ルリナは距離をとってファイア・ウィップで攻撃

ゾルビア「ふん」

だがゾルビアはロング・ポイズンニードルでファイア・ウィップを弾く

一方ジュランはデノロスと戦ってた

デノロス「ホーン・キャノン……！」

ホーン・キャノンで攻撃するデノロス

ジュラン「ぐ………」

デノロスのホーン・キャノンを受け止めるジュランだが、強すぎて数メートル先まで飛ばされる

秘密の通路の広間ではマリオがギルジンが戦ってた

ギルジン「指刀乱れ突き」

指で連続の突き攻撃をするギルジン、しかも切れ味は刃のように鋭かった

マリオ「うあああああ」

ギルジンの指刀乱れ突きをかわそうとするマリオだが、かわしきれず受けてしまう

マリオ「このままじゃラチがあかん、はあああああ！！！」

そう言うマリオはエターナルスターパワーを発動した

ギルジン「おもしろい」

エターナルスターパワーを発動したマリオに対し、不適な笑みを浮かべるギルジン

一方、別の部屋ではネシスがスィープと戦闘中だ

スィープ「はああああ」

真っ向からネシスに向っていくスィープ

ネシス「スターライト・ナビゲーション！！！」

それに対し、ネシスはスターライト・ナビゲーションで返り討ちにしようとする

モヤ~~~~~

ネシス「なに？」

攻撃は命中したのに、すり抜けてしまい、スィープの姿が消えていく

スィープ「はっ」

バキイイイ

間髪いれず、ネシスに強力な一撃をおみまい

さらにスィープは自分のペースへと持っていく

スィープの攻撃を次々と受けてしまうネシス

ネシス「スタープリズム・イリュージョン！！！！」

スィープ「ちっ」

スタープリズム・イリュージョンで何とか脱出するネシス

しかしダメージは大きかった

スィープ「バード・イリュージョン、敵を幻影か本物のどちらかが先に攻撃する」

バード・イリュージョンは幻影か本物のどちらかが先に攻撃し、迂闊に攻撃してしまえば本物の攻撃をくらってしまう

スィープ「バード・イリュージョン！！！！」

再び・バード・イリュージョンで攻撃するスリーブ

ネシス「どっちだ？」

本物が幻影の区別がつかず、攻撃を戸惑うネシス

ドン

スリーブ「今度は本物よ」

今度は本物のスリーブが先に攻撃し、ダメージを受けるネシス

果たしてスリーブのバード・イリュージョンを打ち崩す術はあるのか！？

第146話終わり

第147話 羽根をもぎ取れ！ネシスの悟り

マリオ達とデスタイムスの決戦は続く

敵を倒したルイーダ達は宮殿の中を走ってた

少し進むとデノロスと戦闘中のジュランと遭遇した

ジュラン「お前達が、鍵は手に入れたか？」

ビビアン「ううん、偽者だったわ」

ワリオ「俺たちも偽者だったぜ」

クッパ「ワガハイもだ」

ジュラン「鍵を持つてる奴はこいつを含めてあと3人か」

デノロス「仲間と会話などしてる場合か！？」

ドオオオオオオオン

デノロスの攻撃を受け止めるジュラン

ルイーダ&ワリオ&ワルイーダ&ビビアン&クッパ「……………」

凄まじい衝撃波が迸り、踏ん張るルイーダ達

ワリオ「近くにいただけでこの衝撃」

ワルイージ「俺達が戦った相手とは比べ物にならないぜ」

ビビアン「マリオとルリナも他の2人と戦ってる筈よ」

一方こちらは秘密の通路の最深部

ダウス「これでまた私の完全勝利に一步近づいた」

パラレルワールドをまた1つ破壊し、喜ぶダウス

それにしてもダウスはどのパラレルワールドを破壊してるのか？

別の部屋ではネシスがスィープと戦ってた

スィープ「バード・イリユージョン」

バード・イリユージョンで攻撃するスィープ

ネシス「スター・シールド……!!」

それに対し、ネシスはスター・シールドで出方を伺う

数秒後、スィープが攻撃してきたが、偽者だった

ネシス「こっちか!」

後ろに向って攻撃するネシス

スィープ「ウイング・シールド」

しかしスィーブはウィング・シールドで攻撃を防いでしまう

そしてルリナはゾルビアと戦ってた

ルリナ「プチ・サウザンドファイア」

ボボボボボボ……

1000発ほどの小さな火の玉がゾルビアに襲い掛かる

ゾルビア「はっ」

シュババババ……

猛毒の染みた長い中指の爪で次々とかき消していくゾルビア

ゾルビア「デビルズ・アイ」

サッ ビカアアアア

ルリナはゾルビアのデビルズ・アイをかわし、接近

ネシスはスィーブとの戦闘中だ

ネシス「……………」

スィーブ「ん？」

なんと！ネシスは静かに目蓋を閉ざした

スィーブ「どういづつもり？」

小さな羽根を飛ばして攻撃するスィーブ

ネシスは目を閉じたまま、スィーブの攻撃を弾く

スィーブ「はああああ！！！」

スィーブは接近してネシスに攻撃する

サッ

紙一重で攻撃をかわすネシス、そして……

スィーブ「ウイ……ああああっ」

ウイング・シールドで防ごうとしたが、間に合わずダメージを受けてしまう

その直後に、目を開くネシス

ネシス「お前を夜空の白鳥座にしてやる」

スィーブ「抜かしなさい！青二才……！」

スィーブを倒すことを宣言するネシス、どのようにして倒すというのか！？

第147話終わり

第148話 スイープ散る…輝く星々のシャワー

激闘続く、ネシスとスイープの戦闘

スイープ「はあああああ」

ネシス「だあああああ」

シュババババ ドオオオン

激しい攻防戦を繰り広げるネシスとスイープ

スイープ「お前ごときにこの私を倒せるものですか……！」

キュアアアア……

怒鳴りながら必殺技を放つスイープ

ネシス「スターフォース……！」

しかしネシスはスターフォースを使い、スイープの攻撃の軌道を変えてしまう

一方、秘密の通路の広間ではマリオとギルジンの戦闘が続いてた

マリオ「エターナルスターショット……！」

ギルジン「むん」

マリオのエターナルスターショットを容易に弾いてしまうギルジン

ギルジン「海竜波！！！」

竜の形をした水のエネルギー波を放つギルジン

マリオ「エターナルスタービッグバン！！」

それに対し、マリオもエターナルスタービッグバンで対抗する

ズオオオオオオ………

互いの技がぶつかり合い、大爆発が起こる

そして別々の部屋ではルリナとジュランがデノロス、ゾルビアとそれぞれ戦ってた

ジュラン「雷光石化！！！」

電光石火以上の凄いスピードで攻撃をしかけるジュラン

デノロス「ホーン・ソード！！！」

角を剣のように変化させて迎え撃つデノロス

ルリナ「デス・エンド・フレイム！！！！」

ゴオオオオオオオオオ

超巨大な火球を放つルリナ

ゾルビア「メテオ・ポイズン！！！」

メテオ・ポイズンでデス・エンド・フレイムをかき消すゾルビア

そしてルイーダ達は宮殿の中を走ってた

ルイーダ「みんな先に行つて、アタイはルリナの所へいくわ」

ルイーダ「僕たちは手分けして、時の国の住人が捕まってる檻を見つけよう、見つけたらみんなに場所を教えよう」

ルイーダ「よし、俺様は右の方を探す」

ワリオ「俺は上の階だ」

クッパ「ワガハイは左側だ」

ルイーダはルリナのところへ向かい、ルイーダ達は手分けして時の国の住人が捕まってる檻を探し始めた

そしてネシスはスィープとの戦闘中だ

ネシス「スターライト・ナビゲーション！！！」

スィープ「うあああああ」

スターライト・ナビゲーションをくらい、ダメージを受けるスィープ

スィープ「所詮、貴方達はデスタイムスの手の中で怯えていればいい

いのよ……！」

サツサツサ ガガ

怒鳴りながら激しい攻撃を繰り出すスィープだが、避けられては防がれてしまう

ネシス「誰かが支配した未来に、平和なんて永遠に来ないんだ……！！」

眩い光を放つネシス

スィープ「おだまり……！！我らデスタイムスのボス、ダウス様こそが全歴史の頂点に立つのに相応しいお方、お前達などクズの1人にすぎない……！！」

ネシス「スターサンシャイン・シャワー……！！」

シュアアアアアア……

星の力をシャワーのようにして攻撃するネシス

スィープ「ああああああ……、デス……タイムスに……栄光……あれ……」

捨て台詞を残して、スィープは消滅した

数秒後、ネシスは鍵を手に入れたが、またしても偽者だった

スィープも倒し、残る敵はダウスと三聖士の4人、既に憎魔開放し

てるデノロスとゾルビア、そしていまだ憎魔開放していないギルジ
ン、果たして勝負の行方やいか！？
第148話終わり

第149話 ジュラン死す！？デノロスの圧倒的パワー

スィープも倒し、残り4人となったデスタイムス

そしてここは復讐と憎悪の宮殿のとある部屋

ネシスがスィープを倒したのを感じたリック

ミント「どうしたの？」

リック「ネシスさんがスィープってやつをやっつけたよ!!」

時の国の住人達「オオオオオ」

それを聞き、喜ぶ時の国の住人達

長老「あとはダウスと三聖士だけじゃ」

リック「今のマリオさんなら三聖士にも勝てます」

別の部屋ではルリナとゾルビアが激しい戦いを展開

ルリナ「シューティング・ファイアー!!!」

ゾルビア「ニードル・スラッシャー!!!」

バアアアアン

互いの技がぶつかり、辺りに煙が巻き上がる

ルリナ「はああああああ」

ゾルビア「ぬああああああ」

シュバアア バシベキドカバキ

超高速移動の肉弾戦を繰り広げるルリナとゾルビア

ゾルビア「ニードル・スラッシャー」

ルリナ「カゲがくれ」

シュウウウウン ドオオオオン

カゲがくれでゾルビアのニードル・スラッシャーを回避するルリナ

一方ジュランはデノロスと戦ってた

デノロス「中々やるな、だが」

ドン

パンチでジュランを数メートル先まで飛ばすデノロス

ジュラン「ナックルサンダー!!!」

デノロス「ビースト・アタック!!!」

ドオオオオオ ゴゴゴゴ

互いの技のぶつかり合いによって小さな地響きになる

デノロス「ジャイアント・ホーン！！！」

ジュラン「雷豪衝撃波！！！」

雷豪衝撃波でデノロスのジャイアント・ホーンを迎え撃つジュラン

デノロス「ふうっん、はああああ」

ジュラン「！！！！」

ズウウウウウウ

デノロスの方が上回り、吹き飛ばされるジュラン

デノロス「そおおらああああ！！！！」

ドゴオオオオオ

ジュラン「がつ……………」

デノロスの強烈な蹴りをくらい、ダメージを受けるジュラン

デノロス「そろそろそろー……………！！！！」

容赦なく、猛ラッシュを仕掛けるデノロス

ジュラン「ぐはっ」

デノロスの攻撃をくらい、そのまま倒れるジュラン

デノロス「以外にもあつけなかったな、とどめといくか」

とどめを刺すべく、巨大なエネルギーの球体を作り上げるデノロス

デノロス「これでゲームオーバーだああ!!!!」

巨大なエネルギーをジュランに向けて放つデノロス

そして命中してしまった

デノロス「ふふふふ」

勝利の笑いを浮かべるデノロス、しかし……

デノロス「いない!?!どこへ行った」

ジュラン「サンダーナックル!!!」

バキイイイイ

サンダーナックルでデノロスを攻撃するジュラン

技が当たる直前にジュランは回避していたのだった

デノロス「貴様……!!」

ジュラン「ゲームオーバーにはまだ早いんじゃないか?」

互いに戦気を出し合うジュランとデノロス、勝利を手にするのはど
ちらなのか！？

第149話終わり

第150話 譲れぬ戦い！ジュランVSデノロス

息詰まる戦いをするジュランとデノロス

デノロス「アジな真似をしてくれやがって」

ジュラン「本当の勝負はここからだ」

ヒュウウウウ……

静かなそよ風が吹いてきた

一瞬の隙も見せず、対峙しあうジュランとデノロス

数十秒後、そよ風が止んだ

ジュラン「むんっ！」

デノロス「ぬおおお」

そよ風と止むと2人同時に攻撃を仕掛けた

デノロス「ブラストボンバー！！！」

ジュラン「ライティングスパークル！！！」

ドガアアアアア

互いの技がぶつかり、相殺

ジュラン「うおおおおお」

ドゴオオオオオ

ジュランの強烈なパンチがデノロスの顔面にヒット!!

しかし今度はデノロスがジュランの顔にパンチをする

お互い相手の顔や腹部にパンチを叩き込むジュランとデノロス

ジュラン「ふっ」

デノロス「ふふふふ」

ニヤリと笑うジュランとデノロス

そして秘密の通路の広間ではマリオとギルジンが戦ってた

マリオ「エターナルスター流星群!!!」

ギルジン「ジャック・スパイラル!!!」

激しい戦いを繰り広げるマリオとギルジン

そして奥の部屋ではダウスのパラレルワールド抹消計画が着々と進んでた

ダウス「あと少し……、あと少しで勝利の未来は消え失せる」

ダウスはマリオ達が自分に勝つ未来を全て消すつもりらしい

一方ルリナはゾルビアとの戦闘中だ

ゾルビア「デビルズ・ハンド！！！」

ルリナ「カゲぬけパンチ！！！」

デビルズ・ハンドをカゲぬけパンチでガードするルリナ

そしてジュランもデノロスと戦ってた

ズボツ ドカバキベシバシビシ

攻撃を受け続け、ジュランとデノロスの身体はボロボロだ

デノロス「おらは三聖士の1人デノロスだ、貴様に負けはせん」

三聖士の1人として意地でも負けるわけにはいかないデノロス

ジュラン「俺もだ、お前に勝たなければ未来はない」

そしてジュランも未来で会ったルリナやその子供、ルーチェのためにも負けられない

ジュラン「おおおおお」

デノロス「あああああ」

バウン ドゴバシユベキヤドギヤ

素早い攻防戦を繰り広げるジュランとデノロス

一瞬の油断が命取りとなるこの戦いを制するのはどっちだ！？
第150話終わり

第151話 決着！雷の審判

いよいよ大詰めを迎えたジュラン対デノロスの死闘

デノロス「貴様がどんな小細工をしようと、最後に笑うのはオラだ
—————！」

ジュラン「ぬうううう」

ドオオオオオオ

拳と拳を激しくぶつけるジュランとデノロス

しかも衝撃によって床に亀裂が入る

デノロス「ぬおあああああ——！」

ズドオオオオオオン

デノロスのパンチを受け止めるジュラン

そしてルイーダ達は時の国の住人が閉じ込められてる檻を探していた

ワルイーダ「ミント……どこにいるんだ」

ルイーダ「リックク待ってね、今いくから」

そしてここは宮殿のとある部屋

時の国の住人が閉じ込められてる檻の前にクッパとワリオが来た

ミント「ワリオさん！」

ワリオ「話は後だ、クッパこいつを俺たち2人でぶち壊すぞ」

クッパ「任せろ！ギガデストパーンチ！！！！！！」

ワリオ「ハイパーブルタックル！！！！！！」

ドギアアアアアアアン

大技で檻に同時攻撃を仕掛けるワリオとクッパ

しかし傷1つついてなかった

クッパ「なんて頑丈な檻だ」

時の国の長老「この檻は特殊素材で出来ておる、奴らの持つ鍵以外では開かないんじゃ」

時の国の住人を助けるにはやはり鍵が必要らしい

そして本物はデノロスかゾルビアのどっちかが持つてる

一方ワリオはギルジンとの戦闘中だ

ギルジン「レイン・スプラッシュ！！！！」

ワリオ「エターナルスターシールド！！！！」

シュババババババ

レイン・スプラッシュをエターナルスターシールドで防ぐマリオ
そしてジュランもデノロスと戦ってた

デノロス「チェックメイトだ、ギガントデスホーン!!!!!!」

ガドオオオオオオ

ジュラン「がはっ……」

僅かなチャンスを逃さず最大の大技で攻撃するデノロス

デノロス「終わったな」

ジュランを片付け、その場を去っていくデノロス、しかし……

ババババババ

デノロス「なんだ!？」

突然上から雷の矢が降ってきて動きを封じられるデノロス

ジュラン「チェックメイトされたのは、お前の方だ」

何と!上空にはジュランがいた

ジュラン「ライトニング……」

デノロス「ま……」

ジュラン「ジャッジメント!!!!!!」

ズバアアアアア

デノロス「ぐあああああああ」

ライティングジャッジメントによってついにデノロスは倒された

激闘の末、三聖士の1人デノロスを倒したジュラン

数十秒後、鍵を手に入れたジュランだったが、またしても鍵は偽者だった

ちょうどそこへネシスが来た

ネシス「ジュランさん、鍵は？」

ジュラン「さっき奪ったが、偽者だったようだ、クツパやルイージ、ビビアン達のもな」

ネシス「僕もスィーブって奴から奪ったけど、本物じゃなかったよ」

ジュラン「どうやら本物の鍵はあの女が持ってるようだな」

時の国の住人が閉じ込められてる本物の檻の鍵はゾルビアが持つてるようだ

そしてルリナはそのゾルビアとまだ戦っているのであった
第151話終わり

第152話 ルリナVSゾルビア

デノロスを倒し、残る三聖士はギルジンとゾルビアの2人

数十秒後、ルイージとワルイージが来た

ルイージ「いた！」

ワルイージ「ワリオとクツパが時の国の住人が閉じ込められてる檻を見つけたぞ」

ジュラン「こつちも本物の鍵は誰が持つてるか分かった」

ネシス「鍵は三聖士のゾルビアって奴が持つてる」

ワルイージ「あいつか………」

ルイージ「多分ルリナが戦ってる筈だよ」

ワルイージ「デルタマジックっていう技なんだけどな、タイミングと角度が合えば凄い威力だぜ」

デルタマジックの事をジュラン達に話すワルイージ

ルイージ「そんな凄い技なの？」

ワルイージ「ビビアンでさえルリナの魔法の炎に負けないくらいだった、ルリナ自身が使えばどれほどの威力になるか分かんけどな」

その頃ルリナはゾルビアとの戦闘中だ

ゾルビア「アイ・レーザー」

ビイイイイ

目から光線を出して攻撃するゾルビア

ヒュッ シュパ

それに対し、ルリナは素早い動きでアイ・レーザーをかわす

ゾルビア「今まで戦った時のあなたに比べたら少しは成長してるみたいね」

ルリナの事を少し褒めるゾルビア

ルリナ「あんたに褒められても嬉しくないわね、はあああ」

ガシッ

ゾルビア「ふふふふ」

パンチを左手で受け止め、右手で攻撃するゾルビア

ルリナ「カゲがくれ」

シュウウウン

しかしルリナはカゲがくれでゾルビアの攻撃をかわす

数秒後、ルリナは影から出て技を放った

ルリナ「デス・エンド・フレイム！！！」

デス・エンド・フレイムで攻撃するルリナ

ゾルビア「ギガ・ポイズンニードル・スラッシャー！！！」

それに対し、ゾルビアもギガ・ポイズンニードル・スラッシャーで
迎え撃つ

ドオオオオオオ

互いの技がぶつかり合い、相殺

激しい戦いをするルリナとゾルビア

その最中にビビアンが来た

ルリナ「ビビアン！？」

ゾルビア「あなたはこいつを始末した後で同じ所へ送ってあげるわ」

ビビアン「多分こいつが本物の鍵を持つてる筈よ」

ルリナ「ビビアン、前にあなたがやったあの技、あたしも使わせて
もらうわ」

ビビアン「まさかデルタマジックを！？」

ルリナはデルタマジックを使う気のようにだ

ルリナ「デルタマジック!!!」

デルタマジックをゾルビアにおみまいするルリナ

ゾルビア「……………何のまねかしら?」

あろうことが、ゾルビアに全くダメージを与えられなかった

デルタマジックはタイミングと角度が合えば凄い威力を発揮するが、逆に合わなければクリボーすら倒せないほど弱いのだ

ルリナ「もう1回よ!」

再びデルタマジックで攻撃するルリナ

しかしまたもやタイミング合わず、叩きのめされてしまう

果たしてルリナのデルタマジックは成功するのか!?

第152話終わり

第153話 超技炸裂！決めるデルタマジック

ここは秘密の通路の広間

マリオがギルジンと戦ってた

ギルジン「むん！」

マリオ「だあああ！」

ドオオオオオオン

互いの攻撃で吹き飛ぶマリオとギルジン

デノロスが倒されたのにまだ憎魔開放していないギルジン

マリオ「エターナルスターショット！！！」

バシィィィ

マリオのエターナルスターショットを容易に弾くギルジン

そして奥の部屋ではダウスが平行ワールドをまた破壊していた

ダウス「ウハハハハハ」

平行ワールドをまた1つ破壊し、歓喜に満ちた笑いを浮かべるダウス

ダウス「これであと3つだ」

マリオ達がダウスに勝てる未来はあと3つしかないらしい

そして宮殿のとある部屋ではルイーダ達が時の国の住人が閉じ込められてる檻の前に集まっていた

ネシス「ここに捕まってたんですね」

ワリオ「クッパと俺様で檻を破壊しようとしたんだが、相当頑丈な檻だ」

ルイーダ「大丈夫だよ！もうすぐルリナがあの子をやって鍵を持ってきてくれるよ」

その頃ルリナはゾルビアと戦っていた

ルリナ「だあああああ」

ゾルビア「ぬるすぎるんだよー！！」

ドシャアアアア

何度もデルタマジックを繰り返すが、タイミングと角度が合わず、ことごとく返り討ちにあってしまう

ゾルビア「諦めることね、あなたは私には勝てない」

ビビアン「そんな事ない！絶対に勝ってくれるもん」

ルリナの勝利を信じるビビアン

ビビアン「デルタマジック！――！」

デルタマジックでゾルビアに攻撃するビビアン

しかもタイミングと角度が完璧だ

ゾルビア「ふん」

ビビアン程度のデルタマジックではゾルビアにほとんどダメージを与えられない

ビビアン「アタイの力じゃ太刀打ちする事すらできない、今のアタイにできることはデルタマジックの切り込み隊になつてみせること」

ルリナ「ビビアン……、はああああああ――！」

ビビアンの想いに答えるように再びデルタマジックで攻撃するルリナ

ビビアン「く……来る！アタイのなんか目じゃない！ルリナあの魔力が何倍にも」

ルリナ「デルタマジック――！」

ドボオオオオオオオ

ゾルビア「――！！！！！！」

ついに決まったルリナのデルタマジック

当然ながらその威力はビビアンとは比べ物にならないほどだ

ゾルビア「おのれ………!!」

デルタマジックをくらい、怯むゾルビア

ルリナ「ファイア・ウィップ」

バシイイイイン

ゾルビア「うああっ」

たたみかけるように攻撃するルリナ、このまま一気にゾルビアを倒せるのか!?

第153話終わり

辺りに煙が巻き上がる

数秒後、煙が晴れてきたが、ゾルビアの姿がない

ルリナ「い、いない!？」

辺りを見渡してゾルビアを探すルリナ

ゾルビア「うしろよ」

ヒュッ　グサッ

背後から猛毒の爪でルリナの左腕を貫くゾルビア

ルリナの左腕から手を離すゾルビア

ルリナ「うつ……」

右手で負傷した左腕を押さえるルリナ

ゾルビア「さて、今度はどこに貫かれない」

ルリナ「ファイア・ウィップ!!!」

右手でファイア・ウィップを繰り出すルリナ

シュン

ゾルビア「サウザンド・ポイズン・ニードル」

ルリナ「あああああ」

しかしかわされてしまい、サウザンド・ポイズン・ニードルをくら
ってしまっ

ビビアン「ルリナ――！！！！アタイにはどうする事も……」

自分の力ではゾルビアに対抗する事ができず、悔し涙を流すビビアン

ビビアン「お願いルリナ！！絶対に勝って！！！」

ゾルビア「そんな神頼み無駄よ」

ルリナ「必ず！こいつを倒して、時の国の住人達を解放するのよ」

ゾルビア「くたばりぞこないめ、ポイズン・オーシャン！！！」

海のように広い猛毒がルリナに襲い掛かる

ザパアアアアア

ポイズン・オーシャンがルリナをのみこんだ

ゾルビア「今度こそ終わりね」

ルリナ「まだ終わりじゃないわ」

ゾルビア「なに！？」

中から猛毒塗れのルリナが出てきて驚くゾルビア

ルリナ「はあああああ」

ゾルビア「さっさとくたばっていれば楽になれたものを……！」

猛毒と左腕の痛みに耐えながらもゾルビアを倒そうと戦うルリナ

白熱するルリナとゾルビアの戦い！ついに決着の時が来ようとしていた

第154話終わり

第155話 舞い上がれ！灼熱の神龍

大詰めを迎えたルリナ対ゾルビアの死闘

ゾルビア「ギガ・ポイズン・スラッシャーー！！！！」

ルリナ「フレイム・ソード！！！！」

バシイイイイ

フレイムソードでゾルビアの攻撃を弾くルリナ

秘密の通路の広間ではマリオがギルジンと戦ってた

ギルジン「クロス・ショット！！！！」

マリオ「エターナルスターショット！！」

ボオオオオオン

互いの技のぶつかり合い、辺りに煙が巻き上がる

マリオ「うおおおおお」

突っ込んで高速の連続パンチを繰り出すマリオ

ガガガガガガ

しかしギルジンはそれをことごとく、防いでしまう

まだ憎魔開放してないのに、エターナルスター状態のマリオと互角に戦うギルジン

そして時の国の住人が捕まってる檻のある部屋ではルイーダ達がルリナが鍵を持ってくるのを待っていた

ワルイーダ「くそ、ちょっと様子を見てくる」

ジュラン「待て！今は少しでも体力を回復させる事に専念しろ、信じるのだ、ルリナ様の勝利を」

ルリナの様子を見に行こうとしたワルイーダだが、ジュランはダウスとの決戦に備えて少しでも体力を回復させようと、ワルイーダ達に言う

ルイーダ「ダウスは恐ろしいやつだよ、前に僕たちを過去と未来に飛ばしたし」

ワリオ「体力が全開したらぶっ飛ばしに行くからな、精々今の内に首を洗っておけダウス」

そしてその頃ルリナはゾルビアと戦ってた

ゾルビア「ギガント・メテオ・ポイズン……！」

最大級の大技で攻撃するゾルビア

ルリナ「うわあああ」

ビビアン「ルリナー……！！！」

ギガント・メテオ・ポイズンをくらい、倒れようとするルリナ

ゾルビア「そのまま楽におなり」

勝利を確信し、そのまま立ち去ろうとするゾルビア

ルリナ「う……うつ……！！！」

しかしルリナは倒れまいと、力を振り絞って立ち上がる

ゾルビア「ぬうつうつ……！！！」

ルリナ「これが最後の攻撃よ………」

なんと！ルリナは自分の全ての魔力を右手に集中させた

ゾルビア「返り討ちにしてくれる……！！！」

それに対し、ゾルビアも全力で迎え撃とうとする

ルリナ「シェンロン」

ゾルビア「ギガント・メテオ」

ルリナ「フレイム……！！！」

ゾルビア「ポイズン……！！！」

互いの最大の大技が激しくぶつかり合う

ルリナ「うううううう」

ゾルビア「いい加減、観念しなさい！！！！」

ルリナ「いやよ！あたしはどんな時でも諦めないわ！！ネバー・ギブアップ！！！」

ドシュウウウウウウ

ついにシェンロン・フレイムがゾルビアのギガント・メテオ・ポイズンを打ち消した

ゴオオオオオオオ

ゾルビア「あああああああ……………」

シェンロン・フレイムでついに勝利をもぎ取ったルリナ

数秒後、ルリナはそのまま倒れてしまう

ルリナ「ビビアン……………早く鍵を……………」

ゾルビアの懷から鍵を探すビビアン

数秒後、鍵を手に入れた、しかも本物の鍵だ

ビビアン「行きましょ」

ビビアンはルリナを背負いながら、鍵を時の国の住人が捕まってる
檻へ持っていくのだった

三聖土の内2人を倒したマリオたち、残る三聖土はギルジン1人だ
第155話終わり

第156話 戦慄！魚人ギルジン始動

ゾルビアも倒し、残る三聖士はギルジンのみとなった

ビビアンはゾルビアとの戦いで負傷したルリナを背負いながら鍵を持っていった

一方こちらは時の国の住人が捕まってる檻のある部屋

ルリナが鍵を持ってくるのを待つルイージ達

ワリオ「くそっ！鍵はまだか」

ジュラン「落ち着けワリオ」

ネシス「絶対に鍵を持ってきてくれますよ」

鍵を持ってくるのを待つルイージ達、数分後、ビビアンがルリナを背負いながらやって来た

ジュラン「ルリナ様！手当てを急げ、ああそれより鍵は？」

ビビアン「バッチリ！手に入れたよ、ルリナが勝ってくれたよ」

ワリオ&ワルイージ「おおっ！！」

ルリナの勝利に喜ぶワリオ達

数十秒後、ルイージは鍵を使い、時の国の住人を解放した

リック「ルイージさ……ん!!」

泣いてルイージの所へよって来るリック

ミント「ワリオさん、ありがとうございます」

ワリオ「礼なら俺様よりこいつに言ってくれ」

ワリオにお礼を言うミントだが、ワリオは自分よりルリナに礼を言うてほしいと言う

時の国の長老「これはひどいな……ヒーリン！」

ルリナの容態を見た長老はヒーリンを読んだ

ヒーリン「はぁ……い」

長老に呼ばれ、前に出てきたヒーリン

時の国の長老「この者を治してやるんじゃ」

ヒーリンは長老に頼まれ、ルリナに癒しの光を放った

癒しの光に包まれ、ルリナが少しずつ回復していく

ネシス「それよりワリオさんは？」

ルイージ「多分まだ戦ってるはずだよ、三聖士の最後の1人と」

その頃マリオはルイージの予想どおりギルジンと戦ってた

ギルジン「水銃!!」

ドパパパパパ

水滴を弾丸のように次々と発射するギルジン

マリオ「うおおおおお!!!」

バシユバシユバシユ

ギルジンの水銃を次々と弾くマリオ

ギルジン「レイン・スラッシュ!!!」

レイン・スラッシュで攻撃を仕掛けるギルジン

無数の斬撃が雨のごとく襲い掛かってくる

マリオ「エターナルスター流星群!!!」

それに対し、マリオもエターナルスター流星群で対抗する

ボボボボボボボボ

互いの技がぶつかり、相殺

辺りに煙が巻き上がる

ビュンッ

マリオ「とらえた！」

ギルジン「なに！？」

マリオ「エターナルスターショット！！！」

パアアアアン

至近距離からのエターナルスターショットをくらわすマリオ

しかも戦いを自分のペースへと持っていく

ドガアアアアン

マリオの攻撃をくらい、壁まで吹っ飛ぶギルジン

数秒後、ギルジンが立ち上がり、不気味な笑いを浮かべる

ギルジン「ふふふ……なるほど……確かに驚くべき成長だ、もう遊びは通用しないみたいだな」

そう言うとき、ギルジンは胸の悪魔の紋章にエネルギーを注ぎこんだ

マリオ「くっ……ようやくお出ましか」

ついに憎魔開放したギルジン、数秒後、煙が晴れて姿が見えてきた。憎魔開放したギルジンの姿は全身に鱗が生え、両腕と頭にヒレがあ

った

マリオ「お前の憎魔開放は魚のようだな」

ギルジン「そう言う事だ、レイン・スラッシュ!!!」

マリオ「エターナルスター流星群!!!」

再びレイン・スラッシュとエターナルスター流星群で撃ち合うマリ
オとギルジン

ドドドドドドドドドド

マリオ「わああああああ」

ギルジンの方が上回っており、マリオのエターナルスター流星群を
かき消して直撃させる

憎魔開放し、圧倒的な強さを見せつけるギルジン。マリオに勝機は
あるのか!?

第156話終わり

第157話 地を裂く超激戦！マリオVSギルジン

憎魔開放し、圧倒的な強さをみせつけるギルジン

ガラッ バッ

瓦礫の中からマリオが飛び出した

マリオ「エターナルスタースラッシュュ……！」

ギルジン「フィッシャーブレード……！」

バアアアアン

互いの技がぶつかり、相殺

ピシッ………

激しい攻防のため、天井と床に亀裂が入り始めた

ギルジン「はああああ！」

素早く移動し、背後から攻撃を仕掛けるギルジン

スカッ

しかし紙一重のところでは避けられてしまい、逆に背後をとらえられる

マリオ「エターナルスター………」

ヒュン バッ

ギルジンの背後に移動し、エターナルスターの技で攻撃しようとしたが、再び背後をとられる

お互い素早い動きで相手の背後を取り合うマリオとギルジン

そして数秒が経過した

バアアアアアン

マリオ「うあああああ」

ギルジンの攻撃で吹っ飛ぶマリオ

一方こちらは秘密の通路の奥の部屋

ダウス「少々手間取ったな、だがこれであと2つだ」

またもやパラレルワールドが破壊されてしまい、ダウスに勝てる未来はあと2つしかない

ダウス「あと2つ、それまでに頼むぞギルジン……」

一方こちらは宮殿のとある部屋

ヒーリンがルリナを回復させていた

ポアアアアアア

少しずつ回復してはいるが、まだ意識を取り戻さない

ジュラン「思った以上にダメージが大きいな」

ルイージ「それより、お前の方は大丈夫か？」

ジュラン「こんなの、ルリナ様に比べれば屁でもないさ」

ミント「それから私、こんなの見つけました」

1UPキノコとミラクルキノコを見せるミント

リイック「それを早速みなさんに」

ネシス「これはマリオさんに使いましょう、相手は三聖士の1人で
す、勝っても相当の痛手を追う筈」

ルイージ達にキノコを使うようにいうリイックだが、ネシスはマリオ
オに使うてほしいと言う

そしてその頃マリオはギルジンと戦ってた

マリオ「エターナルスターエキスプロージョン!!!!」

ギルジン「オーシャン・ドーム!!!!」

オーシャン・ドームでマリオのエターナルスターエキスプロージョン
を防ぐギルジン

マリオ「はあああああ!!!!」

バアアアアン

張り手でギルジンを数メートル先まで飛ばすマリオ

ギルジン「ふはははは……」

それに対し、ギルジンは余裕の笑いをみせつけるのだった

息を呑む暇さえない超激戦、勝利するのはどちらか!?

第157話終わり

第158話 マリオ倒れる！魚人パワーの驚異

マリオとギルジンの戦闘は続く

ギルジン「ランス・ニードル！！！」

マリオ「エターナルスターシールド！！」

キイイイン

ギルジンの攻撃を防ぐマリオ

そして今度はマリオが先制攻撃してきた

マリオ「エターナルスターブレード！！！」

サッ

ギルジン「フィッシャー・スラッシュ！！！」

バアアアアン

マリオの攻撃を避け、フィッシャー・スラッシュを直撃させるギルジン

一方こちらはキノコワールド

時の崩壊がかなり進んでおり、人や生き物、水もまったく流れてない

まだ動ける人々が動けない人たちを安全な場所に運んでた

カゲの女王「これでリップルタウンは終了、次へ急ぐぞ」

赤キノピオ「はい！」

そして影の国も時の崩壊が進んでた

マジヨリンとマリリンは時間が止まってしまい、全く動けなくなっていた

影族の兵士たちは巨大戦闘機を着々と造っていた

そこへドペルが入ってきた

ドペル「たった今、国王様から連絡があって、マジヨリンとマリリンの時間が止まったから誰か代わりに来てほしいって」

エリート影兵士「私達がいきましょう、いくぞ」

影兵士「はい」

2人の影兵士はマジヨリンとマリリンの代わりに国王のところへ向った

そしてこちらは宮殿の秘密の通路の一番奥の部屋

ダウスがパラレルワールドをまたもや破壊してしまった

ダウス「これで……ハハハハアアアアハハハ……！！！！」

パラレルワールドをまた1つ破壊し、喜びの声をあげるダウス
ダウス「これであと1つだ、お前達がどんな修行しようとして私を止めることなどできない」

ついにダウスに勝てる未来のパラレルワールドは残り1つになってしまった

その頃マリオはギルジンと戦ってた

マリオ「エターナルスターブレッド……！」

ドゴオオオ

ギルジン「ぐふおっ」

エターナルスターショットをくらわすマリオ

ギルジン「レイン・スラッシュ……！」

マリオ「エターナルスタースプラッシュ……！」

パアアアアン

互いの技がぶつかりあい、相殺

しかし次の瞬間、ギルジンがマリオのすぐ目の前まで近づいた

マリオ「……！」

ギルジン「フィッシャー・ブレード……！」

ズバアアアアン

マリオ「ぐはっ」

ギルジンのフィッシャーブレードでマリオは倒れてしまう

ギルジン「手こずらせたな」

そしてギルジンは次の侵入者を通さまいと扉の前に立った

マリオが倒れたのを感じるルイージ達

リイック「お姉ちゃん、今なんか嫌な予感が……」

ミント「私もよ、なんだか凄く嫌な感じがしたわ」

ワリオ「まさかあいつにやられたんじゃない?」

ジュラン「気をつけて行ってこい、ルリナ様が回復したら俺達もすぐ行く」

ワルイージ「とにかく急ごう……！」

ルイージ達は秘密の通路目指して走っていた

第158話終わり

第159話 みんなのために！立ち上がれ！！マリオ

秘密の通路目指して走り出したルイーダ達

ミント「秘密の通路って、どこにあるの？」

ワルイーダ「こっちだ」

秘密の通路の場所を案内するルイーダ達

そして宮殿のとある部屋ではネシス達がルリナの回復を待っていた

ビビアン「ルイーダ達が心配だわ」

ジュラン「とにかく今はルリナ様の回復が優先だ」

その頃ルイーダ達は秘密の通路の入り口まで来ていた

リック「こんなところにあつたなんて」

ルイーダ「いこう」

ルイーダ達は秘密の通路の中を走っていった

一方こちらは秘密の通路の広間

ギルジンが扉の前に立っていた

数分後、ルイーダ達がやって来た

ルイージ「兄さん!!」

ワリオ&ワルイージ「マリオー!!」

ギルジン「来たか、お前達の希望の男はこの通りだ」

リイック「よくもマリオさんを!!!!」

泣きながら怒ってギルジンに攻撃しようとするリイック

ルイージ「よせリイック!お前の勝てる相手じゃ」

ギルジン「うるさい」

パシッ

当然のごとく、リイックを一撃でなぎ倒すギルジン

ミント「リイック……、!!」

気絶してるリイックを抱きかかえ、殺気目でギルジンを睨むミント

ギルジン「もう間もなくダウス様のパラレルワールド抹消計画が終わる頃だ、そうなればお前達が生き残る確立は0になる」

ルイージ「そうは行くもんか!」

ワリオ「たとえばダウスが全てのパラレルワールドを消滅させたとしても、俺達のパワーで未来を変えて見せる」

ワルイージ「マリオ、お前はこんな所で終わる男じゃないはずだ」

ワリオ「マリオー!!」

ルイージ「兄さん!」

ミント「マリオさん!!」

必死にマリオに呼びかけるルイージ達

ギルジン「この俺がいる限り、ここを通ることはできん」

リイック「マリオさんはお前なんかには負けない!!」

意識を取り戻し、ギルジンに問いかけるリイック

ギルジン「やはり、念には念を……、むん!!」

バアアアア

ルイージ&ワリオ&ワルイージ&リイック&ミント「わああああ」

衝撃波でルイージ達を吹き飛ばすギルジン

ギルジン「邪魔を……」

マリオ「お前、今そいつらに何をした?」

ルイージ達の呼びかけにマリオが起き上がった

ギルジン「まだ息があつたのか」

マリオ「お前を倒すまで、おれは……倒れねえ」

力を振り絞り、再びエターナルスターパワーを発動させるマリオ

ギルジン「力を使い果たし、死に急ぐ気か」

マリオ「先のことは分らない」

ギルジン「ならば貴様の息の根を止めたら、そこにいる仲間もすぐに同じ場所に送ってやる」

マリオ「おおおおお」

ギルジン「ぬおああああ」

再び壮絶なバトルを繰り広げるマリオとギルジン、戦いはついに最終局面へ！

第159話終わり

第160話 死闘決着！マリオ渾身の光の流星群

最終局面を迎えたマリオとギルジンの戦い

マリオ「エターナルスター流星群！！！」

エターナルスター流星群でギルジンに攻撃するマリオ

ギルジン「フィッシャー・スプレイド！！！」

それに対し、ギルジンもフィッシャー・スプレイドで対抗する

ドオオオオオオン

互いの技がぶつかり合い、相殺

そして奥の部屋ではダウスが最後のパラレルワールドを着々と破壊していった

ダウス「思ったより手間取るなこのパラレルワールドは」

最後のパラレルワールドの破壊に手間取るダウス

マリオはギルジンとの戦闘中だ

その後ろではルイージ達が見守っていた

ギルジン「ギガフィッシャーガン！！！」

ドオオオオオン

マリオ「がつ」

ギルジンの最大の大技をくらい、ダメージを受けるマリオ

リリック「マリオさん……!!」

ルイージ「兄さん!!」

マリオ「う……うあああ……」

倒れまいと、力を振り絞り、踏ん張るマリオ

マリオ「エターナルスターショット!!」

ギルジン「フオントム・ドーム!!!!」

キュキュウウウウ

マリオのエターナルスターショットをフオントム・ドームで防御するギルジン

ギルジン「ムレ・フィッシャーブレード」

無数の斬撃で攻撃するギルジン

マリオ「おおおおおお」

トトトトトトトトトトトト

拳でギルジンのムレ・フィッシャーブレードを次々と粉碎するマリオ
次の瞬間、ギルジンがマリオのすぐ前まで近づいた

マリオ「二度とくらうか!!」

2度もギガフィッシャーガンはくらうまいと後ろへ下がるマリオ

ギルジン「サメイト」

シュルルルン

マリオ「ぐ」

サメイトでマリオの動きを封じるギルジン

ギルジン「フルパワー」

マリオ「!?!」

ギルジン「ギガフィッシャーガン!!!!」

2発目のギガフィッシャーガンをくらってしまうマリオ、しかも今度
はフルパワーだ

ワルイージ「マリオ!!!!」

ワリオ「来るぞ」

勝利を確信し、ルイーダ達の所へ近づくギルジン

背後から気配を感じたギルジンは立ち止まり、後ろを振り向いた

ドドドドドドド

最後の力を振り絞り、最後の攻撃を仕掛けるマリオ

マリオ「エターナル……」

ギルジン「ファントム・ドーム」

ドオオンドオオオン

ギルジン「うおおおおおおおおおっ」

ファントム・ドームでマリオの攻撃を防ごうとしたギルジンだが、
強力すぎて直撃してしまう

マリオ「スター……」

ギルジン「!!!?!」

マリオ「フラッシュ流星群!!!!!!」

バババババババババババ

エターナルスターフラッシュ流星群で攻撃するマリオ

マリオ「うあああああああ」

ズガアアアアアアアン

壁を突きぬけ、秘密の通路の入り口まで飛ばされ、ギルジンはついに倒れた

マリオとギルジンの対決はマリオの勝利に終わった

リック&ミント「やったああ！！！」

マリオの勝利に喜ぶリックとミント

ついに三聖士を3人とも倒したマリオたち

そしてこちらは一番奥の部屋

ダウス「これで全て終わりだ！！！！！」

マリオ達が自分に勝てるパラレルワールドを全て破壊し、喜びまくるダウス

ダウス「さあ、来い！私自らの手でひねり潰してやるう」

デスタイムス幹部を全員倒したマリオ達、残る敵はダウス1人だ！！
第160話終わり

第161話 決戦の場へ

デスタイムスもボス、ダウス1人を残すのみとなった

ワリオ「これで終わったな」

ルイーダ「いや、まだだ」

ワルイーダ「えー！？まだなのか？」

リック「この悲劇を生み出したダウスだね」

ルイーダ「それより兄さん、これを」

ミラクルキノコをマリオに食べさせるマリオ

マリオ「ありがとう」

ミラクルキノコでマリオの体力が全開した

マリオ「行こう、ダウスのところに」

ルイーダ＆ワリオ＆ワルイーダ＆リック＆ミント「うん」

マリオ達はダウスのところへ走っていった

そしてこちらは一番奥の部屋

椅子に座り、ワインを飲みながらマリオ達を待つダウス

ダウス「さあ来い、私に勝てる未来など1つも無い事を思い知らせ
てやる」

マリオ達が勝てるパラレルワールドを破壊し、余裕のダウス

数分後、マリオ達が部屋のドアのすぐ前まで来た

ワリオ「あの中にダウスがいるんだな」

ルイージ「いよいよ最後の戦いだね」

ワルイージ「絶対に倒してやるからな！！！！」

マリオ「行くぞ」

マリオ達は部屋に入っていった

ダウス「ようこそ、君達の墓場へ」

ワリオ「君達？自分の墓の間違いじゃないのか？」

君達の墓場と言うダウスに対し、ワリオは自分の墓と言う

ダウス「今より私は歴史支配の神となるのだ」

ミント「なにが歴史支配の神よ！ふざけないで！！！！」

歴史支配の神になろうとするダウスを怒鳴るミント

リック「お前があてにしていた三聖士は全滅したぞ」

ルイージ「あとはお前1人だけだ、ダウス」

ダウス「三聖士が負ける事など想定内にある」

ダウスは三聖士達が負ける事も計算済みだったという

マリオ「おれ達の未来をお前の思い通りにさせてたまるか!!」

ワリオ「そうだ!おれ達の未来はおれ達が決めるんだ!!!」

ダウス「さあ、始めようか、全ての未来をかけた戦いを!!!」

戦闘態勢に入り、力を解放するダウス

ワルイージ「絶対に負けるもんか」

ルイージ「お前を倒してみんなの未来を救うんだ」

マリオ「はあああああああ」

エターナルスターパワーを発動させるマリオ

ダウス「ふん」

ギョオオオオオオ

黒いエネルギー弾を放つダウス

マリオ「はああああ」

それに対し、マリオもエターナルスターのエネルギー弾を放つ

バアアアアアン

互いの技がぶつかり合い、相殺

ついにダウスとの最後の戦いが始まった、果たしてマリオ達はダウスを倒し、みんなの未来を救えるか！？

第161話終わり

第162話 決戦！マリオ一味VSダウス

ついにダウスとの決戦が始まった

ダウス「タイマー・スプレイド」

不思議な光の球を投げつけるダウス

ワリオ「ぐっ」

キュウウウウン

防御するワリオだが、当たる寸前に球は消滅してしまう

ルイーダ「残念、不発でしたー」

ダウス「……………」

不発でしたと言うルイーダだが、ダウスはニッと笑う

マリオ「ルイーダ！後ろだ！！！」

ルイーダの背後に先ほど消えた光の球が現れた

ダウス「タイマー・スプレイドは一旦消えた後、別の場所に現れて攻撃するのさ」

ワルイーダ「チェーン・ワルイーダボム！！」

マリオ「エターナルスターショット!!」

ドオオオオン

マリオとワルイージは同時攻撃を仕掛け、ダウスのタイマー・スプレイドをかき消す

ダウス「では次行くぞ、はああああ」

何と今度はダウスの周りに無数のタイマー・スプレイドが出現した
リック「なんて数なんだ!あれを全部合わせたらマリオさんのエターナルスター技と同じくらいだ」

ミント「いえ恐らくそれ以上よ」

ダウス「リオ・タイマー・スプレイド!!!!!!」

無数のタイマー・スプレイドが部屋中に飛び散って消えた

パツドン

ワリオ「うおおお!?!」

ルイージ「わあっ」

マリオ「くそ」

どこからか攻撃が来るのか分からず苦戦するマリオ達

そしてこちらは宮殿のとある部屋

ヒーリンがルリナを回復させ続けた

ビビアン「顔色が大分よくなってきたわ」

ジュラン「ああ、もう少しすれば完治できる」

時の国の長老「ジュランどのにネシスどの」

ネシス「ん？」

ジュラン「何だ？」

時の国の長老「2人でマリオさん達の応援に行ってくれ、もちろん
わしも行く」

時の国の住人「長老！まさかダウスと戦う気じゃ？」

時の国の長老「今まで黙ってたが、わたしにはパラレルワールドを誕生
させる力があるのじゃ、そいつを使ってマリオさん達が勝てる未
来を新しく作るのじゃ」

時の国の長老には新しいパラレルワールドを作れる能力があるらしい

ビビアン「じゃあ早速ここで」

時の国の長老「あの能力は秘密の通路の一番奥の部屋でしか使えない
んじゃない、この能力を使えばわしは……………」

パレルワールドを新しく作る能力は秘密の通路の一番奥の部屋でしか使えないらしい

しかもその秘密の通路の奥の部屋ではマリオ達がダウスと戦っているのだった

第162話終わり

第163話 苦戦のマリオ一味！ダウスの圧倒的力

マリオ達とダウスの決戦は続く

ダウス「デス・サーベル！！！」

紫色の大鎌型のエネルギーで攻撃するダウス

マリオ「エターナルスタービッグバン」

ドゴオオオオオオ

エターナルスタービッグバンで攻撃の軌道をわずかに変えてダメー
ジを抑える

一方こちらは宮殿のとある部屋

ネシス「つまり、長老の能力を使えばマリオさんが勝てる未来が生
まれるんですね」

時の国の長老「じゃがまずはもう一つの能力でダウスの能力を完全
に消し去らんと」

時の国の長老はもう一つの能力でダウスのパラレルワールド破壊能
力を消すつもりらしい

ネシス「行こう、マリオさんのところに」

ジュラン「ビビアン、ルリナ様を頼む」

ビビアン「わかったわ」

ルリナをビビアンに任せ、ジュランとネシスと長老はマリオ達の所へ走った

そしてこちらはキノコワールド

時の崩壊が進んでおり、風も全く吹かなくなった

影の国でも動けなくなった兵士や市民が続出していた

ロズー「みんな！こっちよ！」

ブラックロード「慌てず落ち着いて移動してください」

ベルローク「ジュランやルリナ様だって向こうで頑張ってたんだ、俺たちも自分にできる事は全部やるんだ！！」

ジュランを除くロイヤルシャドウのメンバーは総出で市民や動けなくなった兵を安全な場所に移動させていた

一方その頃マリオ達はダウスと戦ってた

マリオ「ルイージ！イエローファイアークラッシュだ」

ルイージ「OK！」

マリオ&ルイージ「エターナルスターイエローファイアークラッシュ
ユーーーー！！」

マリオがエターナルスターパワーを発動させている状態でイエロー
ファイアークラッシュを放つマリオとルイージ

当然その威力は普通のイエローファイアークラッシュとは段違いだ

ドドドドドドドドドド

エターナルスターイエローファイアークラッシュがダウスに直撃

リック「やった!!!」

マリオ達の攻撃が当たり、喜ぶリック

数秒後、煙が晴れてダウスが出てきた

ダウス「今度はこっちから行くぞ」

ギョオオオオオオ　ギョングョングョン……

ダウスは巨大なエネルギー弾を繰り出すと、それをどんどん縮ませ
ていく

ダウス「ブレイク・ボール」

ブレイク・ボールを投げつけるマリオ

ボオオオオオン

マリオ「ぐうう」

ルイーダ「兄さん!!」

ミント「マリオさん!!」

ブレイク・ボールがマリオに直撃

マリオ「ぐ……は……」

ブレイク・ボールで戦闘不能寸前のダメージを受けてしまうマリオ

マリオ「エターナルスターヒーリング」

エターナルスターヒーリングで自分の体力を回復させるマリオ

しかしダウスは回復させる間を与えないと、再びブレイク・ボールを作り出す

ワルイーダ「させるか! チェーン・ワルイーダボム!!」

ルイーダ「グリーンファイアー!!」

ワリオ「ハイパー・ブルタックル」

ルイーダ達もダウスにブレイク・ボールを打たせまいと3人で攻撃を仕掛ける

ルイーダ達はマリオが回復するまでの間、持ち堪えられるか?

第163話終わり

第164話 急げ！ジュラン走れ！ネシス

ここは秘密の通路の入り口

時の国の長老「この先にマリオさん達とダウスがいる」

ジュラン「マリオ、俺たちが行くまで持ち堪えろ」

ネシス「急ぎましょ」

ジュラン達はマリオのもとを目指して走り出した

一方こちらは宮殿のとある部屋

ビビアンがルリナの回復を見守っていた

数秒後、ルリナの両手がちょっとだけ動いた

ビビアン「わあああ」

それを見て喜ぶビビアン

ヒーリン「もうしばらくでルリナさんは完治するわ」

その頃マリオ達はダウスと戦ってた

ルイージ「ルイージ・サイクロン！！！」

ワルイージ「パープル・レイザー！！！」

ワリオ「スーパーヘビーパンチ!!!」

マリオが回復する間、3人がかりでダウスを抑えようとするルイージ達

シュバババババ

しかしダウスは余裕の表情でルイージ達の攻撃を片手で全部防御してしまう

ダウス「デビル・シャワー!!!!」

シャアアアアア

デビル・シャワーで攻撃するダウス

ワリオ「何だこれは？」

ワルイージ「力が……」

ルイージ「抜けていく……」

デビル・シャワーで戦意を奪われるルイージ達

ダウス「終わりだ、ブレイク・ボール!!!!」

ブレイク・ボールをルイージ達に放つダウス

ワリオ「ちくしょう」

マリオ「エターナルスターショット!!!」

ドオオオオオオン

エターナルスターショットでブレイク・ボールをかき消すマリオ
体力が回復したマリオは戦闘に復帰した

そしてこちらは秘密の通路

ネシス達がマリオの所を目指して走っていた

ジュラン「一番奥の部屋まであとどのくらいだ？」

時の国の長老「あと3分くらいじゃ」

ネシス「マリオさん…頑張って」

ネシスはマリオ達の無事を祈りながらひたすら走り続けるのだった

そしてマリオ達はダウスと戦ってた

ダウス「中々やるな、では少しだけ本気を出そう」

あれだけの強さだというのにダウスはまだ本気ではなかった

気を集中させて高めるダウス

マリオ「来るぞ」

気を高めるダウスを見て気を引き締めるマリオ達

ダウス「はあああああ」

ドオオオオオオ

凄まじい気合と共にダウスの周りが爆発した

第164話終わり

第165話 出現！魔人ダウス

ダウスとの決戦は続く

ダウスの周りが爆発し、辺りに煙が巻き上がる

数秒後、煙が晴れて中からダウスが出てきた

そこには人間ではなく、魔人の姿のダウスだった

マリオ「それがお前の正体か!？」

ダウス「言っておくが、これも私の真の姿ではない」

魔人の姿のダウスも真の姿ではないらしい

ではダウスの真の姿はどんなものなのか？

ダウス「むおおおおお」

ドッ ゴシャアアア

レポートでもしたかのような素早い動きでマリオ達を圧倒するダウス

マリオ「エターナルスター流星群!!!!!!」

キララララ ドドドドド

エターナルスター流星群がダウスに直撃

ダウス「何だ？蚊が刺したようなぬるい攻撃だな」

魔人の姿に変身したダウスはマリオのエターナルスター技も通用しない

ワリオ「くそつたれ！！ハイパーブル・タックル！！！」

ワルイージ「チェーン・ワルイージボム！！！」

ルイージ「ルイージ・サイクロン！！！」

ドゴオオオ ドオオオオン ギュルルルル

ルイージ達も3人がかりでフルパワーで攻撃する

ダウス「貴様らに勝てる未来など一欠けらもないのだよ！！！！」

しかし返り討ちにあってしまい、3人ともあつという間に戦闘不能にされてしまう

リック「ルイージさん！」

ミント「ワリオさん！ワルイージさん！」

ルイージ達があつという間に倒れてしまい、叫ぶリックとミント

マリオ「くらいやがれ！！エターナルスターコスモビッグバン！！！！」

渾身の力でエターナルスターコスモビッグバンでダウスを攻撃する
マリオ

次の瞬間、マリオは力尽きて倒れてしまう

ダウス「少しは効いたぞ」

渾身のエターナルスターでもダウスにほとんどダメージを与えられ
なかった

数十秒後、長老たちが辿り着いた

時の国の長老「これは……」

ダウス「カスがまた来たか……」

ネシス「ダウス！もうお前の好きにはさせない！！」

ダウス「ふははは！何をしようが未来は変えられないのさ」

ジュラン「ダウス、俺たちは前に一度お前の技で過去と未来に飛ば
された、俺が行って来た未来にお前は存在してない、今日ここで倒
されてしまうからだ！！！」

ダウス「中々面白い冗談だ、だが私が私に勝てる全ての未来を消し
去った今、その未来も消えている」

時の国の長老「むん！！！」

時の国の長老は不思議な力をダウスに向けて放った

時の国の長老「ダウス、これでお前はパラレルワールドを破壊することができない」

ダウス「ふん、気休めにもならんな」

パラレルワールド破壊能力を封じた長老だが、ダウスは余裕だった
第165話終わり

第166話 ルリナ復活！みんなのもとへ走れ！！

ダウスのパラレルワールド破壊能力を消し去った時の国の長老

ダウス「だが既にパラレルワールドは消している」

時の国の長老「それはどうかな？わしにはパラレルワールドを新しく作れる能力があるのじゃ」

ミント「長老にそんな力が！？」

長老にパラレルワールドを作れる能力があると知り、驚くミント

時の国の長老「じゃがこれを使えばわしの命は消え失せてしまう」

パラレルワールドを新しく作ってしまえばその代償として、長老の命が消えてしまう

リック「いやだー！！長老が死ぬなんてそんなのいやだよ！！」

泣いて長老に抱き着くリック

長老は泣くリックの頭に手を優しく置いた

時の国の長老「お前達には大切な物をたくさんもらった、返しても返しきれないほどの大切な宝物を山ほどもらった」

最後のお別れのような言葉を言う時の国の長老

時の国の長老「だから今度はわしの番じゃ、わしの命と引き換えにマリオさんが勝てる未来を作り出すのじゃ」

ミント「長老……………」

リック「うわああああ」

長老の言葉を聞き、リックとミントは涙が止まらなかった

ダウス「ならば貴様から消してやる！！ブレイク・ボール」

長老に向けてブレイク・ボールを投げつけるダウス

ジュラン「ライトニング・ジャッジメント！！！」

ドオオオオン

ライトニング・ジャッジメントでブレイク・ボールをかき消すジュラン

時の国の長老「この能力には時間がかかる、その間ダウスを抑えつけてくれ」

ネシス「はい」

ジュランとネシスは長老がパラレルワールドを作るまでの間、ダウスを抑えつける

一方こちらは宮殿のとある部屋

ルリナ「ん？あれっ！？」

ビビアン「気がついたみたいね」

ルリナが完全に回復し、喜ぶビビアン

ルリナ「ジュラン達は？」

ビビアン「長老達と一緒に秘密の通路へ走っていったわ」

ルリナ「あたし達も急ぎましょ！みんなの未来のためにも」

ルリナとビビアンも秘密の通路の一番奥の部屋目指して走り出した
そして秘密の通路の一番奥の部屋ではジュランとネシスがダウスと
戦ってた

長老が新しいパラレルワールドを作り出すまでの間、ダウスを足止
めするジュランとネシス

ネシス「スターライトナビゲーション！！！！」

ジュラン「サンダーサーベル！！！！」

ダウス「デビル・シャワー！！！！」

キララララ バババババ シャアアアア

互いのぶつかり合い相殺、辺りに凄まじい爆発が起こる

ダウス「ヘル・ナツクル」

ネシス「プリズムスターシールド」

パアアア ガシャアアアア

ダウスのヘル・ナツクルをプリズムスターシールドで防ごうとした
ネシスだが、強力すぎてダメージを受けてしまう

そしてビビアンとルリナは秘密の通路の一番奥の部屋目指してひた
すら走り続けていた

第166話終わり

第167話 長老の最期！ダウス非情の一撃

長老が新しいパラレルワールドを作るまでの間、ダウスを抑えるネシスとジュラン

ネシス「スターライトナビゲーション」

パアアアアアア

スターライトナビゲーションでダウスを攻撃するネシス

ダウス「ブラックホール」

しかしダウスはブラックホールでネシスのスターライトナビゲーションを吸い込む

そこへジュランが間髪入れず、強烈なパンチを叩き込みに行く

ジュラン「スパークナックル」

ドゴオオオオオ

ダウスはジュランのスパークナックルを受け止める

激しい戦いの最中、マリオ達が目を覚ました

ワリオ「お前達！どうしてここへ？」

ジュラン「話は後だ！！手伝うんだ！！」

マリオ達も加わり、6人でダウスに攻撃をする

その頃ビビアンとルリナは秘密の通路を走ってた

ビビアン「ダウス、今のうちにせいぜい笑ってなさい」

ルリナ「あんたの死はもう目前よ」

ダウスに宣戦布告しながら一番奥の部屋を目指すビビアンとルリナ

そして一番奥の部屋ではマリオ達が戦ってた

時の国の長老「む〜〜〜」

新しいパラレルワールドを作るべく、精神を集中させる長老

そしてマリオ達はダウスを足止めしていた

マリオ「エターナルスター流星群!!!」

ルイーダ「グリーンファイアー!!!」

ワリオ「ハイパー・ブルタックル!!!」

ワルイーダ「チェーン・ワルイーダボム!!!」

4方向からダウスに攻撃するマリオ達

ダウス「……ふ」

余裕の笑みでマリオ達の攻撃を避けるダウス

ジュランとネシスはダウスに一瞬の余裕も与えまいと攻撃して来た

ドドドド ギュガガガガ ボゴオオオ

6人がかりの攻撃をも次々と受け止めるダウス

数十秒の攻防が続き、長老の平行ワールド完成が近づいてた

ダウス「はあああああ!!!!!!」

オオオオオオオオオ

マリオ&ルイージ&ワリオ「うわああああ」

ワルイージ&ネシス「があっ」

ジュラン「くはっ」

激しい衝撃波でマリオ達を吹き飛ばすダウス

ダウスは長老の前に近づき、手を近づける

時の国の長老「くうううう……………!!!!!!」

ダウス「じゃあな」

ズギュウウウウ

あと一步で無残にも長老を殺したダウス

ミント「長老おおおー！！！」

リック「わあああああー！！！」

長老が目の前で殺されてしまい、悲しむリックとミント

そこへビビアンとルリナも到着する

ビビアン「長老……………」

ダウス「今度こそゲームオーバーだ」

ルリナ「まだゲームオーバーじゃないわ！まだあたし達がいるもの
！」

マリオ「そうだ！！ルリナお前の言う通りだ」

長老が亡くなってしまう新しいパラレルワールドが作れなくなって
しまっても諦めず、ダウスに立ち向かうマリオ達

果たしてマリオ達に勝機は訪れるのか！？

第167話終わり

第168話 ミント決死の覚悟！！

マリオ達とダウスの決戦は続く

長老を失ってしまい、新しいパラレルワールドを作る術を失ったマリオ達

しかしそれでも彼らは諦めずにダウスに立ち向かう

ビビアン＆ルリナ「カゲぬけパンチ！！！」

左右から同時にカゲぬけパンチを繰り出すビビアンとルリナ

バシ ドゴ

ビビアンとルリナのカゲぬけパンチを受け止めるダウス

ルイーザ「うああああルイーザサイクロン！！！」

今度は正面からルイーザがルイーザサイクロンで攻撃

ギュギュギュギュ

ダウスはルイーザサイクロンを尻尾で受け止める

マリオ「エターナルスタービッグバン！！！」

ズドオオオオン

ダウス「むおおっ!？」

エターナルスタービッグバンがダウスに直撃

8人がかりの総攻撃に流石のダウスも少々手こずる

それをミントがある決意をした

ミント「今度は私が彼らを助ける番」

リイック「姉ちゃん、何をするつもり？」

ミント「私の全ての力を使い、新たな未来を作る!!!」

全員「!!!!!!」

ネシス「なんだって!？」

ワリオ「まさか……」

ミントは自分の命と引き換えに新しいパラレルワールドを誕生させる気だ

ミント「ふう……………」

精神を集中させ、パラレルワールドを作り始めたミント

ダウス「おのれ!!!」

当然、ダウスは新しいパラレルワールドを作らせまいとミントに攻

撃する

ジュラン「ライトニングジャックメント……！」

ルリナ「ファイア流星群……！」

バアアアアアン

ルリナとジュランに攻撃を阻止されてしまう

ジュラン「今度は止めてみせる」

殺気立った勢いでダウスに飛び掛かるジュラン

新しいパラレルワールドを作っているミントを見てためらうマリオ達

ワルイージ「やめるんだミント！そんな事したらお前は」

止めるように必死にミントを呼びかけるワルイージ

そこヘルリナが来てワルイージをはたいた

ルリナ「ミントは覚悟を決めてあんな事してるのよ……！あんな達
がこんな所で躊躇ってたらあたし達の、みんなの未来は消えてしま
うのよ……！」

マリオ達に活を入れるルリナ

ワルイージ「ありがとう、さっきのヒントと言葉で目が覚めたぜ」

ワリオ「ミントだって覚悟を決めてるんだ、俺達もしっかりしないとな」

マリオ「やろう、みんなの未来のために」

ルイーダ「待つて！ミントの様子が」

再びダウスに挑もうとしたマリオ達だが、ルイーダに止められ、ミントの方を見る

ミント「はあ……………はあ……………」

ダウス「その様子だと、パラレルワールドはまだできてないようだな」

全身全霊のエネルギーを使っているのに、新しいパラレルワールドを作ることができないミント

リック「お姉ちゃん……………」

それを見て涙目になるリック

もう本当に新しいパラレルワールドは誕生できないのか！？

第168話終わり

第169話 消えゆく2つの命！新たなパラレルワールドの誕生！！

新しいパラレルワールドを作ることができず、息を切らすミント

ミント「どうして……、どうして何も起きないの！？」

パラレルワールドを作ることができず、自分を責めるミント

ダウス「ふはははは、どうやら新しいパラレルワールドを作れるのはお前たちの長老のだけだったようだな」

それを見たダウスは侮辱して大笑いする

リイック「姉ちゃんを馬鹿にするな—————！！！！」

ダウス「雑魚が」

ネシス「あぶない！！！！」

パアアアアア

リイックに攻撃しようとしたダウスだが、ネシスがシールドでリイックを守る

一方こちらは影の国

カゲの国王「これより時の国目指して出発！排除すべき標的はただ1体」

準備が終えたカゲ族達は1機の巨大戦闘機と無数の小型戦闘機に乗った

巨大戦闘機の中にカゲの女王も入って来た

カゲの女王「あなた……………」

カゲの国王「分かっている、これは我々の未来だけじゃない、全ての生きとし生ける者たち全ての未来のためだ」

カゲ兵士A「発射10秒前！9、8、7、6」

カウントダウンをするカゲ兵士

カゲ兵士B「5、4、3」

カゲ兵士C「2、1……………発射————！！！！！！」

無数の戦闘機は時の国目指して出発した

その頃、時の国ではマリオ達がダウスと戦ってた

ルリナ「ファイア」

ネシス「プリズム」

マリオ「エターナルスター」

マリオ&ルリナ&ネシス「流星群！！！！」

キララララララララ

トリプル流星群でダウスに攻撃するマリオ達

平行ワールドを作ろうとし、ミントはもうほとんど力が残っていない

そこへリックが来た

ミント「リック……………」

リック「姉ちゃんは1人じゃない！僕がそばにいてあげる」

ミント「……………」

リックの言葉を聞き、笑顔で感動するミント

暖かい光に包まれ、優しく抱き合うリックとミント

ダウス「やめろー！ー！ー！ー！ー！」

ジュラン「ダウス！ー！ー！ー！ー！」

平行ワールド誕生を阻止するダウスだが、ジュランに止められる

数秒後、リックとミントは光と共に消えていった

そして新しい平行ワールドが誕生した

リックとミントが死んでしまい悲しむマリオ達

それに対し、ダウスは怒りが頂点に達してた

ダウス「よくも私の苦勞を台無しにしてくれたな！！お前たちに
絶望の未来を見せてやろう」

怒り心頭のダウス、奴は一体何をするつもりなのか！？

第169話終わり

第170話 絶望への始まり！ダウスの真の姿

リリックとミントが命を賭して新しいパラレルワールドを誕生させた
ジュラン「悲しむのは後だ！今は目の前にいるこいつを倒すのみ」

マリオ「お前達2人の思い、無駄にはしない！！」

マリオ達はリリック達の犠牲を無駄にしないためにもダウスに立ち
向かう

ルリナ「ファイア・ウィップ！！！！」

ビビアン「魔法の炎！！！！」

ブボオオオオオオオ

ファイア・ウィップにビビアンの魔法の炎が合体し、パワーアップ

ダウス「ぐああっ」

ルイージ「グリーン・ファイアー！！！！」

ワリオ「メテオ・ヒップドロップ！！！！」

ワルイージ「ホーミング・ワルイージボム」

ボボボボボボ ドゴオオオオン ドオオン

ダウス「うがあああ」

徐々に押されていくダウス

ネシス「プリズム流星群！！！！」

ジュラン「ヘブンス・スパーク！！！！」

マリオ「エターナルスターメテオスコール！！！！」

ズオオオオオオオオオオ……

マリオ達の猛攻にあい、大ダメージを受けるダウス

マリオ「お前はもう今更降参しても赦さない」

ダウス「誰が降参すると言った？言っただぞ、お前たちに絶望の未来を見せてやると、今その未来を見せてやろう！むん！！！！」

ゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴ

時の国全体に地響きになり、ダウスの周りに凄い力が集中してくる

マリオ「逃げろ！！！！」

大急ぎで宮殿にいる時の国の住人たちと一緒に外へ逃げるマリオ達

数分後、マリオ達は宮殿の外に出た

ワリオ「大丈夫か？」

ワルイージ「ダウスは？」

ダウスを探すマリオ達

ダウス「どこを探してる？私なら目の前にいるぞ」

ビビアン「あ……………ああ……………」

目の前には全長6000kmほどの超巨大な魔物だ

それを見たマリオ達は恐怖と旋律が走る

ダウス「これが私の真の姿だ！！！！」

ついに真の姿を現したダウス、口元からエネルギーを発射する

ドオオオオオオオ

エネルギーを受け、戦闘不能寸前のマリオ達

ダウス「何者をも凌駕し、全てを破壊する私の真の姿！」

時の国の住人「あれがダウスの真の姿」

ダウス「消えろ！」

時の国そのものを消し去ろうとするダウス

ガキイイイイ

突然攻撃が防がれる

後ろを見てみると無数の戦闘機があった

それにキノコ族や影族が乗っていたのだった

ダウス「来るがいい！愚か者どもよ！！」

真の姿を現し、超巨大な魔物となったダウス、果たしてこの化け物を倒す術はあるのか！？

第170話終わり

第171話 最終決戦！未来をかけた総力戦

真の姿を現したダウスとの最終決戦

そこへ無数の戦闘機が来た

ピーチ「マリオ！大丈夫！？」

マリオ「ピーチ姫？」

エリート影兵士「ルリナ様、ご無事ですか？」

ルリナ「みんな！パパとママまで」

国王がマイクを取ると、兵士全員に命令した

カゲの国王「総員に告ぐ！これは全ての生きとし生ける者たちの全ての未来をかけた重大な一戦だ！我らの持てる全ての力を発揮し必ず勝たねばならない！」

気を引き締めて命令するカゲの国王

カゲの国王「各自その事を肝に銘じ、限界まで力を発揮してほしい！我らに許されるのは勝利のみ！！」

影兵士「しかし…、あんなデカブツとやりあうのか？」

女影兵士「何言ってるの？ようやくあいつらをここまで追い詰めたじゃない」

カゲの女王「総攻撃開始じゃー！！！！」

カゲの女王の合図で全ての戦闘機がダウスに総攻撃した

ジュラン「ルリナ様！俺たちも！ライティングジャッジメント！！」

ルリナ「デス・エンド・フレイム！！」

ビビアン「魔法の炎！！！！」

それに続き、ビビアンとルリナとジュランもダウスに攻撃する

ワリオ「メテオ・ヒップドロップ！！！！」

ワルイージ「チェーン・ワルイージボム！！！！」

ルイージ「グリーンファイアー！！！！」

ルイージ達も全力でダウスを攻撃

ネシス「スターライトナビゲーション！！！！」

マリオ「エターナルスター流星群！！！！」

全力で総攻撃をするマリオたち

しかしダウスは全く余裕だった

ダウス「愚か者どもの必死の抵抗か、だが……」

凄まじいエネルギーを左手に集中させるダウス

兵士キノピオ「前方より高濃度エネルギーを感知！」

次の瞬間、ダウスの左手から巨大な破壊光線が放たれた

ドオオオオオオオ

ダウスの破壊光線で300機近くの戦闘機が墜落する

エリート影兵士「総員退避！総員退避！」

ダウス「おそるるにたらんわ」

カゲの国王「怯むな！体制を立て直せ！！」

国王の命令で体勢を立て直し、再びダウスに攻撃する影兵士達

カゲの女王はブラックデストレイザーの充電中だ

影兵士「ブラックデストレイザーのエネルギーは？」

カゲの女王「いま60%だ」

兵士キノピオ「これでもくらえ！」

ドカアアン ビビビビビビビ

ミサイルやレーザー砲で攻撃する兵士キノピオ

ビビアン＆ルリナ「魔法の炎！！！」

ポオオオオオ

ダブル魔法の炎で攻撃するビビアンとルリナ

ダウスの周りに凄まじい炎が燃え盛る

ピーチ「今よ！ダウスに万遍なくオイルをかけまくって」

ピーチの合図でダウスにオイルをかけまくる兵士キノピオ

炎が引火し、ダウスが激しく燃え上がる

それを追い討ちするかのように影兵士たちも砲弾などで攻撃しまくる

嵐のような猛攻撃でダウスに攻撃しまくるマリオ達

果たしてこのままダウスを倒せるのか！？

第171話終わり

第172話 歴史の崩壊！？同時攻撃を受けた過去と未来

果てしなく続くマリオ達とダウスの最終決戦

ダウス「これでもくらえ！！」

ギュギュギュギュ……………

全身から光弾を発射するダウス

マリオ達はそれを避けながらダウスに近づく

巨大戦艦の内部ではブラックデストレイザーのエネルギー充電が進んでた

影兵士「エネルギー充電100%突破！！」

カゲの女王「まだじゃ、限界まで貯めるんじゃ」

ブラックデストレイザーのエネルギーは100%を超えたが、カゲの女王はまだ貯めるようにいう

ドカン

光弾の一発が一機の戦闘機に命中

影兵士「上部損傷！ダメージ大です！！」

エリート影兵士「まだまだ！かまわないからこのまま攻撃し続ける」

ダウス「粘りやがるな、だがお前たちがどれほど力を合わせようと私を倒すことはできない」

あれだけ大勢の人数を相手にしているのに余裕たっぷりのダウス

ダウス「次はこいつをおみまいだ」

ボオオオオオ……

両手に妖しい光の玉を出現させるダウス

パ　ポボン

拡散した途端、怪しい光の玉は消えてしまう

カゲの国王「どういうことだ？」

ダウス「別の時代に攻撃したのさ」

ルリナ「別の時代？まさか！？」

ダウス「そうだ！！過去と未来にだ！！！」

ダウスは過去と未来に同時攻撃していた

一方こちらは過去の影の国

現代からダウスの放った攻撃が襲っていた

先代国王「なぜ空から突然攻撃が!？」

影兵士「落ち着いて速やかに避難してください!!!!」

ダウスの攻撃から必死に守る先代国王

そして影兵士達は国民を安全な場所へ誘導する

未来の影の国でもダウスの攻撃が襲う

大人ルリナ「ううううう」

全力で国全体に強固なバリアを張る大人ルリナ

地下ではルーチェが怯えていた

ドオオオオオオン

ルーチェ「わあああ」

凄まじい衝撃に泣いて老影兵士に抱き着くルーチェ

老影兵士は怯えるルーチェを優しく励ます

老影兵士「大丈夫ですルーチェ様、あなたのお母さんは子供の頃からいろんな冒険をしたのですから」

そして現代ではマリオ達がダウスと戦ってた

ブラックデストレイザーのエネルギー充電をし続ける影兵士

影兵士「エネルギー充電200%！オーバーヒート寸前です……！」

カゲの女王「よし！ブラックデストレイザー放て……！」

キュキュキュキュ ドオオオオオオオオ

カゲの女王の合図でブラックデストレイザーを放つ

ズドオオオオオオオオオオ

クツパ「やったか……！」

ブラックデストレイザーがダウスに命中……！ダウスを倒せたのだからか……？

第172話終わり

第173話 絶望への一直線！

ダウスとの最終決戦は続く

ブラックデストレイザーをダウスに命中！！

ドオオオオオオオオ　ゴゴゴゴゴゴゴ

辺りに激しい衝撃と地響きが鳴り響く

クツパ「やったか？」

煙が晴れて中から無傷のダウスが出てきた

クツパ「なに！？」

影兵士「我が軍の化学の推移を集めたブラックデストレイザーが効かないだと！？」

女影兵士「そんな……」

ダウス「今度はこっちからいくぞ、愚か者どもよ！覚悟しろおお
！！！！」

ドオオオオオオオン

口から光線を出して1000機の戦闘機を墜落させるダウス

ブラックロード「ポッドで脱出したものは地上へ降りるようー！」

ベルローク「あとはご武運を祈ってくれ……」

チロル「まずい！まずい！」

ワノール「確かにこのままじゃ負ける」

ダウスの圧倒的な力に焦る影族たち

その時、マリオが何か閃いた

マリオ「みんな！みんなの力を俺にくれ！！そいつでダウスを倒す」

ルイージ「わかった！うううう」

ワリオ「うおおおお」

ワルイージ「はあああああ」

マリオに力を送るルイージ達

ルリナやジュラン、ネシスもマリオに力を送り続ける

カゲの国王「みななもの！わしらもマリオどのに力を送るんだ！！」

国王の命令で影族のみんなもマリオに力を送る

世界中の全ての種族がマリオに力を送る

ダウス「ふははははは」

それに対しダウスは焦りを見せないどころか、余裕の笑いを浮かべる
マリオ「ダウス！これで最後だ！！エターナルスターギャラクシー
スパークル！！！！」

世界中のみんなの力を集めたエターナルスターギャラクシースパ
ークルをダウスに放つマリオ

ドオオオオン

エターナルスターギャラクシースパークルを両手で受け止めるダウス

マリオ「はああああああ！！！！」

ルイージ「兄さん！がんばれ！！」

ピーチ「マリオ！！」

クッパ「ふんばらんかい！！」

大声でマリオを応援するルイージ達

ダウス「そろそろ遊びは終わりにしよう、むん！！」

ジュラン「なんだと！？」

エターナルスターギャラクシースパークルをいとも簡単に返してし
まうダウス

ルイージ&ワリオ&ワルイージ」……………」

みんなの力を集めたエターナルスターギャラクシースパークルさえもダウスには効かず、ひざまづいてしまうルイージ達

ワリオ「もう…おしまいだ……」

挫折してしまい、戦う気も失ってしまうワリオ達

ルリナ「何言ってるの！まだあたし達がいるじゃない！！！」

戦う気を失ってしまったワリオ達を必死に呼びかけるルリナ

エターナルスターギャラクシースパークルをも容易に返してしまつたダウス、もはやマリオ達には滅びの未来しか残されていないのか！？

第173話終わり

第174話 時を越えて！集まれみんなの力！！

壮絶な戦いを繰り広げるマリオ達とダウス

みんなの力を集めたエターナルスターギャラクシースパークルもダウスには通用しなかったが、それでもマリオ達はあきらめずに挑む

ダウス「終わりだ」

オオオオオオオオ

大気をも揺るがす激しい咆哮を放つダウス

ズドドドドドドド

カゲの女王「機体が！！」

カゲの国王「総員！至急本艦より脱出！！！」

ダウスの咆哮で全ての戦闘機が全滅！！

兵士キノピオA「とても勝てっこないよ……」

兵士キノピオB「あきらめるな！マリオさん達はまだ戦ってるんだ」

マリオ「エターナルスターショット！！！」

ルリナ「シェンロン・フレイム！！！」

ジュラン「ライトニング・ジャッジメント……!!」

パアアアアン　ゴオオオオオ　バババババ

全力でダウスに攻撃するマリオ達

ダウス「こざかしいハエが」

ギョオオオオオオオ……

ダウスの一撃で全員戦闘不能寸前に追い込まれてしまう

ワルイージ「ちく………しょ………」

ダウス「わかったか？これが未来だ！お前たちの未来は我を選んだのだ……ハハハ」

マリオ達に必死の抵抗を踏みにじるかのように嘲笑うダウス

ネシス「笑うな………」

ダウス「ハ……ハッハッハッハ……!!」

ネシス「笑うな………!!」

ピカッ

ダウス「ん？」

ネシスが大声で叫んだ途端、空に無数の光が出現した

過去と未来、現代のみんなの力がマリオに集まり、激昂するダウス

マリオ「感じる……みんなの力……みんなの暖かさ……」

ダウス「くだらん！！我が支配した未来のみ絶対！！個人の優しさや暖かさなどただの無意味な感情の一つにすぎん！！！」

断ち切るように最後の一撃を放とうとするダウス

マリオ「みんな！いくぞーーーー！！！」

それに対しマリオも過去と未来、現代のみんなの力を合わせた最後の一撃を放とうとする

ついに大詰めを迎えたダウスとの最終決戦！次回いよいよ最終回
第174話終わり

第175話（最終話） 新しい未来

終局を迎えたダウスとの最終決戦

マリオは過去と未来、現代のみんなの力を合わせた最後の一撃を放とうとする

ダウス「時の流れと共に崩れ去れ！！！デボン・パラザイザー！！！！」

デボン・パラザイザーを放つダウス

マリオ「エターナルスタードリームスプラッシュ！！！！」

それに対しマリオもエターナルスタードリームスプラッシュで対抗する

ドオオオオオオオン

互いの最強の技が激しくぶつかり合う

ダウス「貴様らがいくら力を合わせようと私の足元にも及ばん！！！！」

ルリナ「ダウスあなたには分かんないでしょうね、楽しかった思い出、悲しい思い出、苦い思い出」

ビビアン「その思い出の1秒1秒がアタイ達の大切な時間なの」

ルイージ「でも時間は1秒も戻せない、だからこそ前に進むんだ！
！！」

ダウス「くっくっくっ……」

ルイージ達の言葉に徐々に圧されていくダウス

ジユラン「人は前に進むことで強くなる！振り向いていては強くなれない」

ネシス「たとえ1人や2人ではできないことでも、みんなで力を合わせればできる」

マリオ「みんなと一緒に生きていくことに意味がある！！ダウスみんなの未来、返してもらっぞ、はあああああ！！！！！！」

ダウス「ぐああああああ」

ズガアアアアアアン

凄まじい力でダウスのデボン・パラザイザーを打ち消してダウスに直撃！！

エターナルスタードリームスプラッシュがついにダウスを包み込む

ダウス「おのれえええええ……うがあああああ………」

ピカアアアアア キュウウウウウ……

光に包まれてダウスは跡形もなく完全に消滅した

ダウスの消滅と同時にタイマーオーブに注ぎ込まれていた邪悪な力も消え、時の流れが元に戻った

時の国は元通りの美しい姿へと戻っていく

マリオ達の活躍でデスタイムスは滅び、再び平和が戻った

マリオ「終わったんだな……」

ビビアン「うん、でも……」

ルリナ&ビビアン「うあああああん」

泣いてカゲの女王に抱きつくルリナとビビアン

ビビアン「リックとミントがアタイ達のために」

ルリナ「命を張ったんだよ」

カゲの女王「……………」

励ましの言葉も思いつかないカゲの女王は泣くビビアンと娘を優しく抱きしめることしかできない

突然2つの光が現れた

ワルイージ「なんだ？あれは」

数十秒後、光は地上に降りて、中から男の子と女の子と赤ちゃんが

出てきた

ルリナ「これは……………」

時の国の住人「リックとミントの生まれ変わりです、2人は新しい未来で新しい人生を歩みます」

リックとミントが生まれ変わってマリオ達の顔にも微笑みが戻る

時の国の住人「私たちを救ってくれてありがとうございます、この2人は私たちが面倒みます」

ルイージ「じゃ、バイバイ」

赤ちゃん2人「ばーばー」

ルリナ「元気に育つのよ」

ビビアン「遊びにもいくからね」

マリオ「それじゃみんな、キノコワールドへ帰ろう」

マリオ達は時の国をあとにし、キノコワールドへと帰っていった

そこには元気に動き回る人々の姿があった

平和が戻ったキノコワールドで楽しく過ごすマリオ達

キノコワールド中のみんなは楽しい日々笑顔が満ち溢れていたのだった

おわり

第175話（最終話） 新しい未来（後書き）

次回予告

マリオ「誰なんだ？お前は？」

ルリナ「ドリームジュエル？なんなのそれって？」

マリオ「次回、新番組…じゃなくて新小説ミラクルスーパーペーパーマリオ」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2520i/>

マリオ&ルイージRPG4

2011年5月5日13時51分発行